

## 第3章 調査結果の分析

---

# 第3章 調査結果の分析

## 1. 東南海・南海地震等について

### 1-(1)

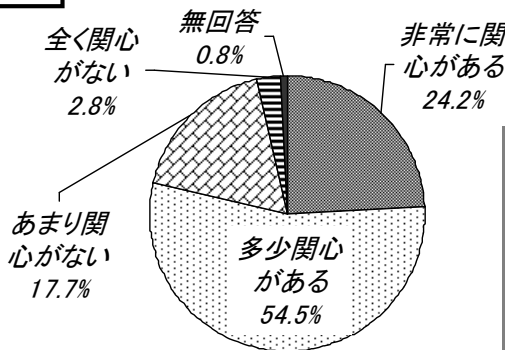
#### 【問1】

#### ◎東南海・南海地震への関心について

あなたは、南海トラフを震源域とする東南海・南海地震に関心がありますか？（〇はひとつ）

1. 非常に関心がある 2. 多少関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

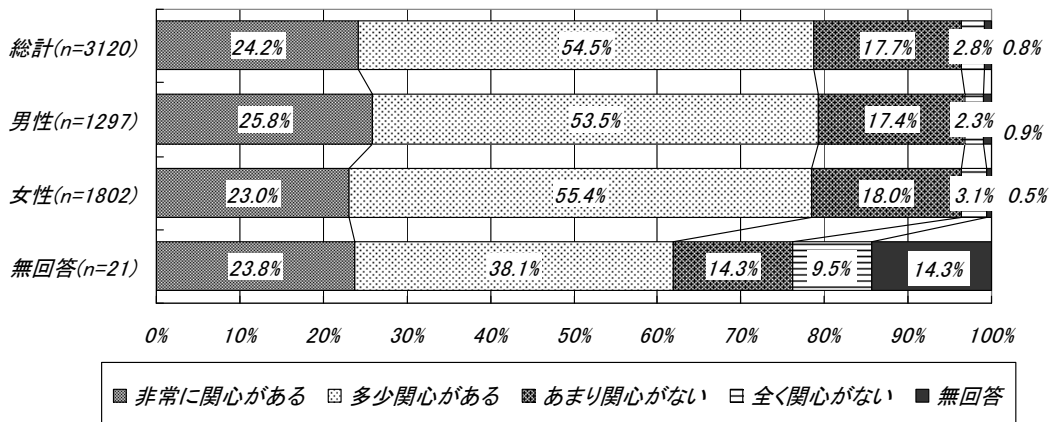
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 非常に関心がある	755	24.2%
(2) 多少関心がある	1,700	54.5%
(3) あまり関心がない	553	17.7%
(4) 全く関心がない	88	2.8%
無回答	24	0.8%
計	3,120	100.0%

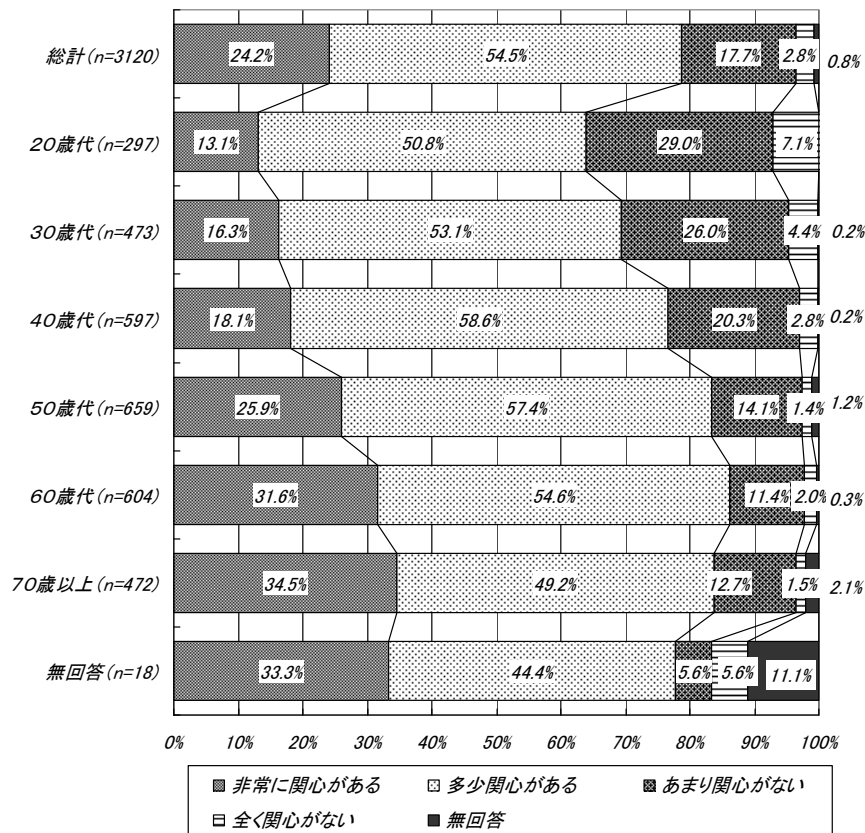
東海・東南海地震に「多少関心がある」が54.5%と最も多く、次いで「非常に関心がある」が24.2%と多くなっており、両者を合わせて『関心がある』が78.7%と多数を占めている。

#### 男女別集計



男女別に見ると、回答の傾向について大きな違いはないが、男性のほうが女性よりも「非常に関心がある」という回答率が2.8%高くなっている。

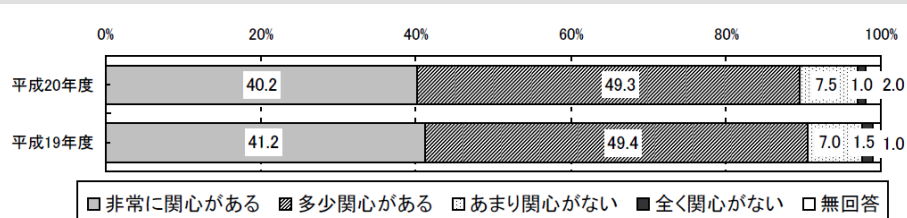
## 年代別集計



年代別に見ると、年齢が高くなるほど「非常に興味がある」人の割合が高くなる傾向にある。70歳以上で34.5%が「非常に興味がある」と回答。20歳代では「非常に興味がある」と回答した方は13.1%である。

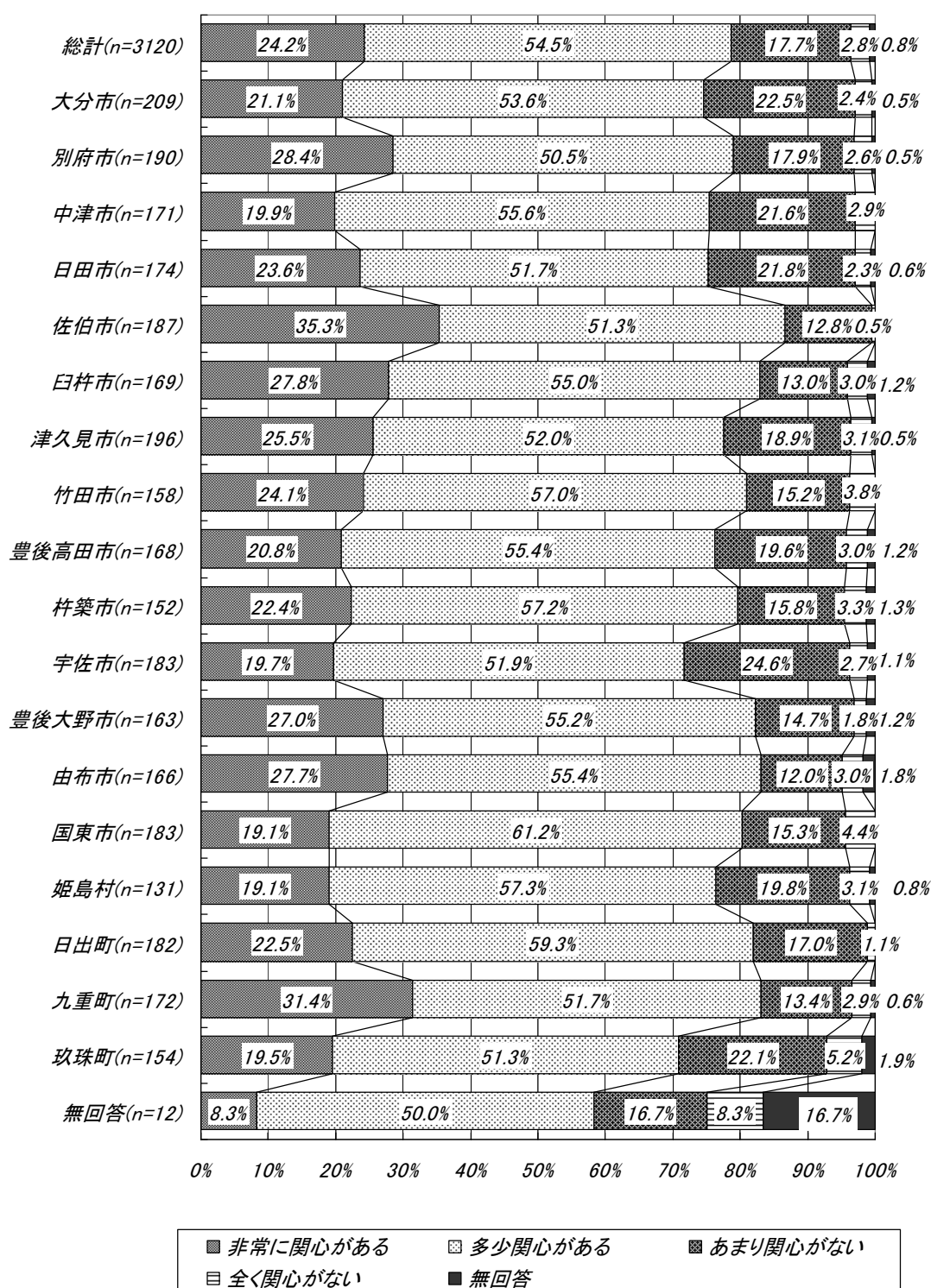
## ◆ 参考データ（三重県「平成20年度防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、駿河トラフ、南海トラフを震源とする東南海地震・南海地震のような海溝型地震に関心がありますか。



三重県調査では「非常に興味がある」が40.2%（H20年度）と大分県よりも高い結果となっている。

## 市町村別集計



市町村別の回答状況を見ると、別府市・佐伯市・九重町などで「非常に興味がある」という回答が多くなっている。「非常に興味がある」のトップは佐伯市で35.3%。一方で、宇佐市・玖珠町などでは「あまり興味がない」「全く興味がない」が相対的に多くなっている。

1 - (2)

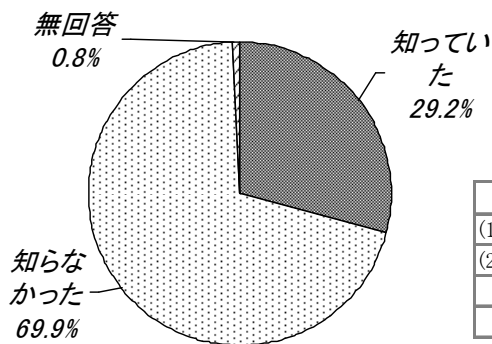
【問2】

◎東南海・南海地震防災対策推進地域の指定について

大分県沿岸部の12市町村は、地震防災対策を推進する必要がある地域と指定されています。指定をご存じでしたか？（〇はひとつ）

1. 知っていた                      2. 知らなかった

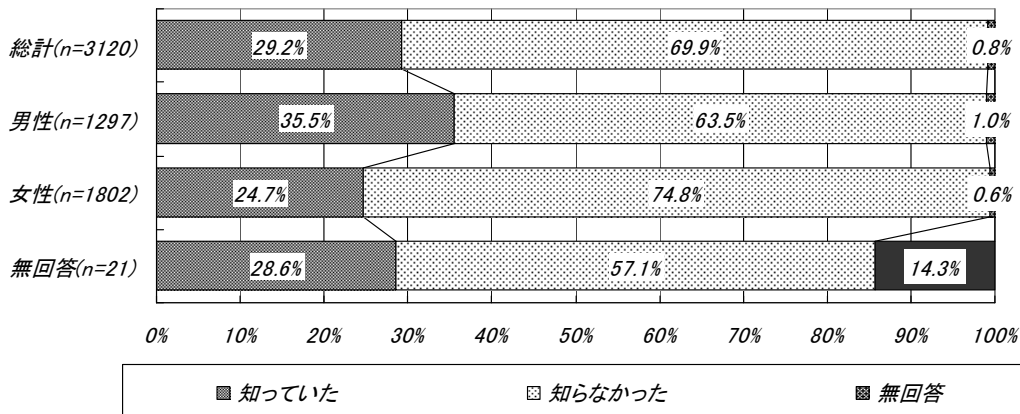
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 知っていた	912	29.2%
(2) 知らなかった	2,182	69.9%
無回答	26	0.8%
計	3,120	100.0%

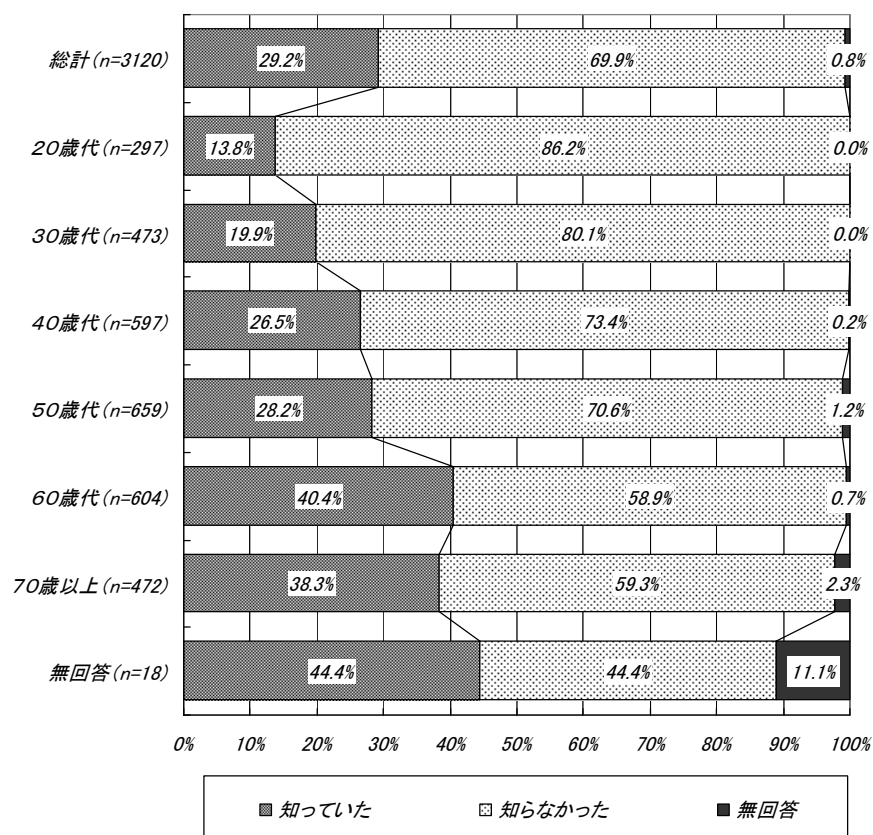
東南海・南海地震防災対策推進地域の指定地域について「知っていた」が29.2%。「知らなかった」が69.9%と約7割が「知らなかった」と回答している。

男女別集計



男女別に見ると、男性のほうが女性よりも「知っていた」という回答が多く35.5%が回答している。女性については24.7%が「知っていた」と回答している。

## 年代別集計

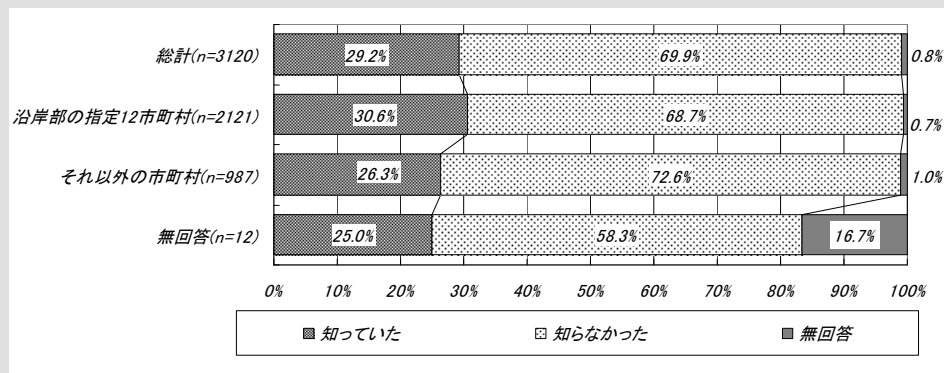


年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるほど「知っていた」人の割合が高くなる傾向にある。60代、70代以上では約4割前後が「知っていた」と回答している。20代では13.8%が「知っていた」と回答している。

## ◆ 参考データ（東南海・南海地震防災対策推進地域とそれ以外の市町村の結果比較）

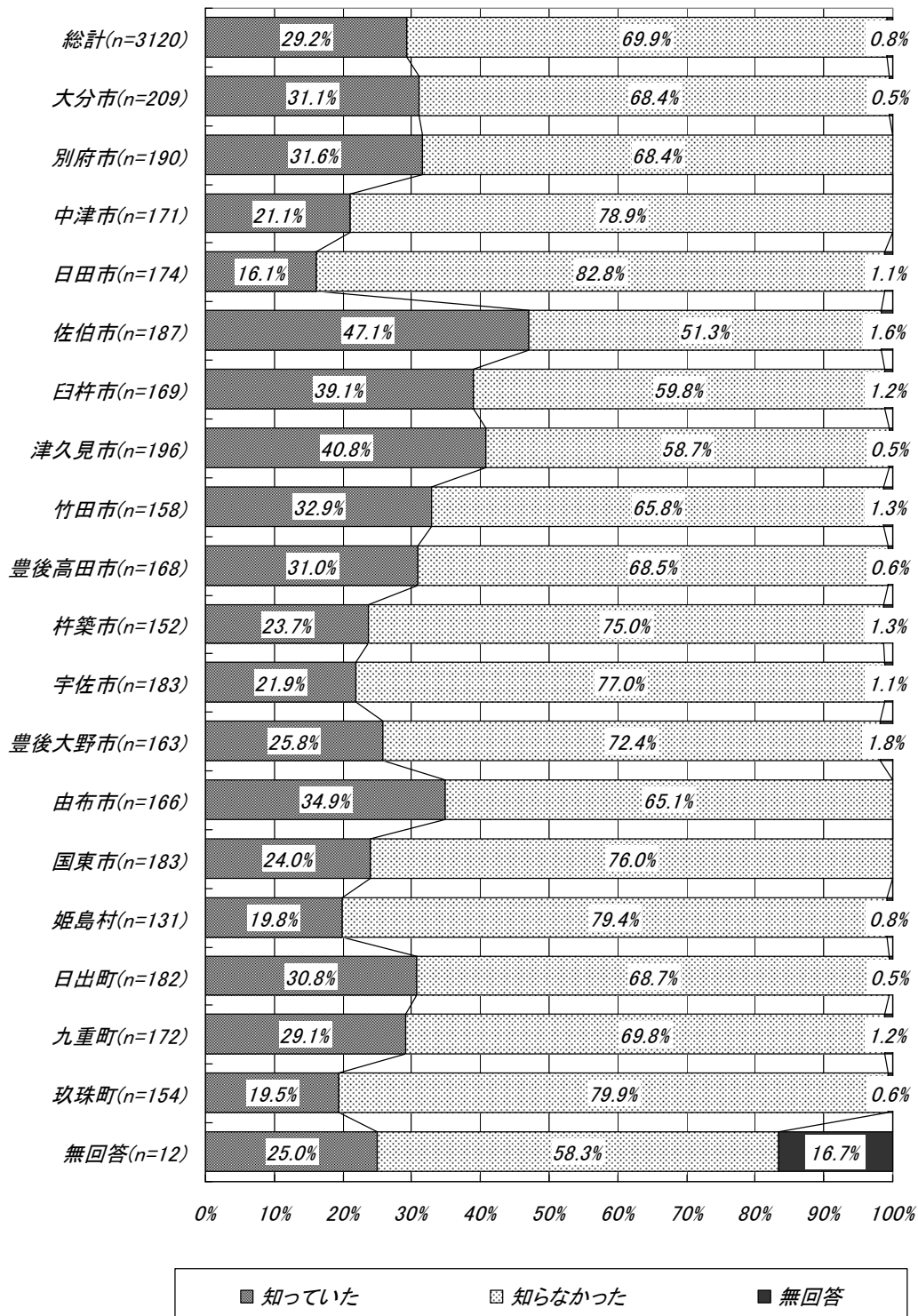
沿岸部の東南海・南海地震防災対策推進地域

大分市、別府市、中津市、佐伯市、臼杵市、津久見市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、姫島村、日出町



沿岸部の指定12市町村とそれ以外の市町村の結果を比較すると、沿岸部の指定12市町村のほうが「知っていた」という回答が30.6%とそれ以外の市町村よりも4.3%高くなっている。

### 市町村別集計



市町村別の回答状況を見ると、佐伯市・津久見市・臼杵市・由布市などで「知っていた」という回答が多くなっている。一方で、中津市・日田市・姫島村・玖珠町などで「知らなかった」という回答が多くなっている。

1 - (3)

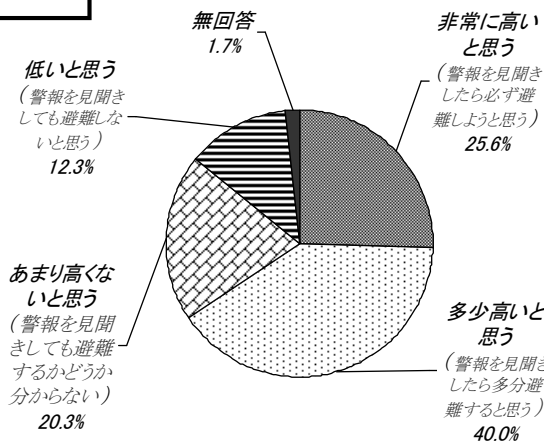
【問3】

◎津波避難意識について

東南海・南海地震が発生した場合、大分県では津波による被害が最も大きいと考えられています。津波警報が発表されたときには、一刻も早く高台に避難することが重要ですが、あなたの避難意識はどれにあたりますか？（○はひとつ）

1. 非常に高いと思う（警報を見聞きしたら必ず避難しようと思う）
2. 多少高いと思う（警報を見聞きしたら多分避難すると思う）
3. あまり高くないと思う（警報を見聞きしても避難するかどうか分からない）
4. 低いと思う（警報を見聞きしても避難しないと思う）

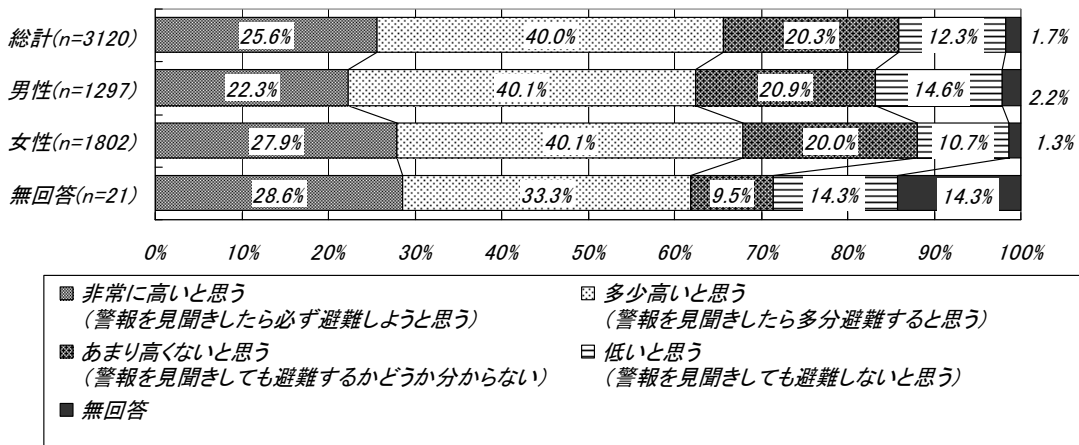
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 非常に高いと思う (警報を見聞きしたら必ず避難しようと思う)	798	25.6%
(2) 多少高いと思う (警報を見聞きしたら多分避難すると思う)	1,249	40.0%
(3) あまり高くないと思う (警報を見聞きしても避難するかどうか分からない)	634	20.3%
(4) 低いと思う (警報を見聞きしても避難しないと思う)	385	12.3%
無回答	54	1.7%
計	3,120	100.0%

最も回答が多いのは「多少高いと思う」であり、40.0%が回答。次いで「非常に高いと思う」が25.6%となっており、両者を合わせて65.6%が『津波による避難意識が高い』という回答となった。

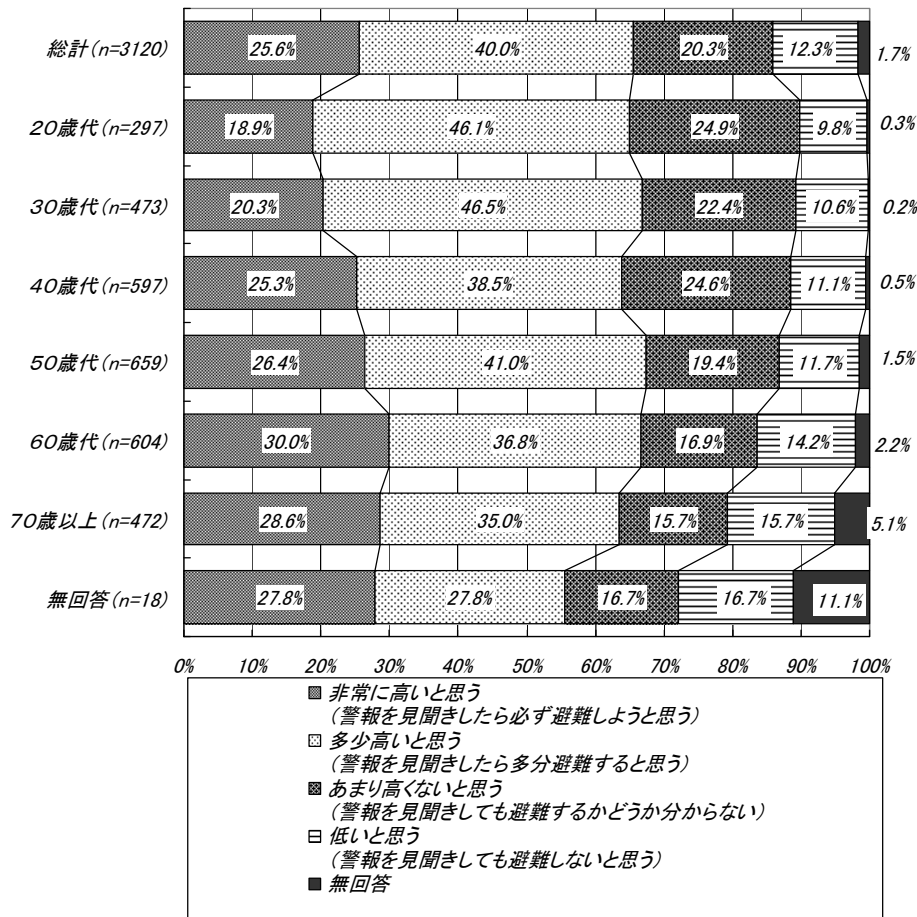
男女別集計



男女別では女性のほうが男性よりも関心が高く「非常に高いと思う」が27.9%。「多少高いと思う」が40.1%と両者合わせて68.0%が『津波による避難意識が高い』という回答となった。



## 年代別集計

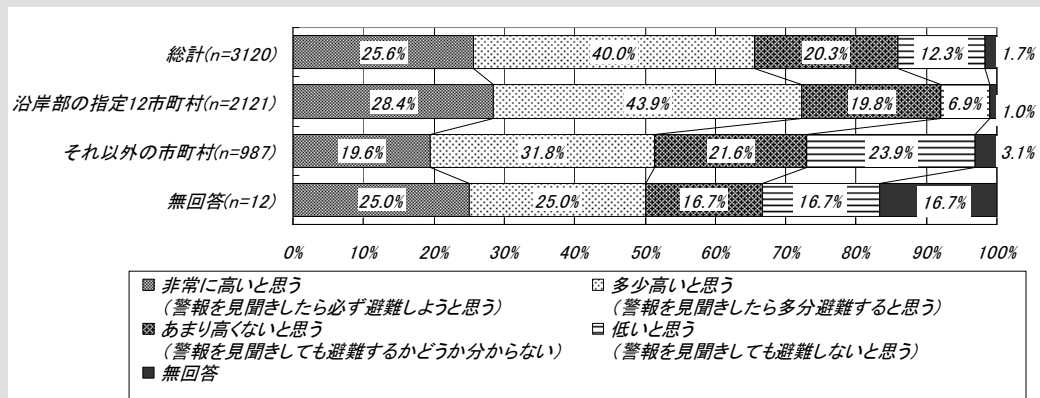


年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「非常に高いと思う」という回答が多くなっている一方で、「低いと思う」という回答についても、年齢が高くなるほど多くなっている。また、「非常に高いと思う」「多少高いと思う」を合わせた『津波による避難意識が高い』という点では年齢による大きな違いはない。

## ◆ 参考データ (東南海・南海地震防災対策推進地域とそれ以外の市町村の結果比較)

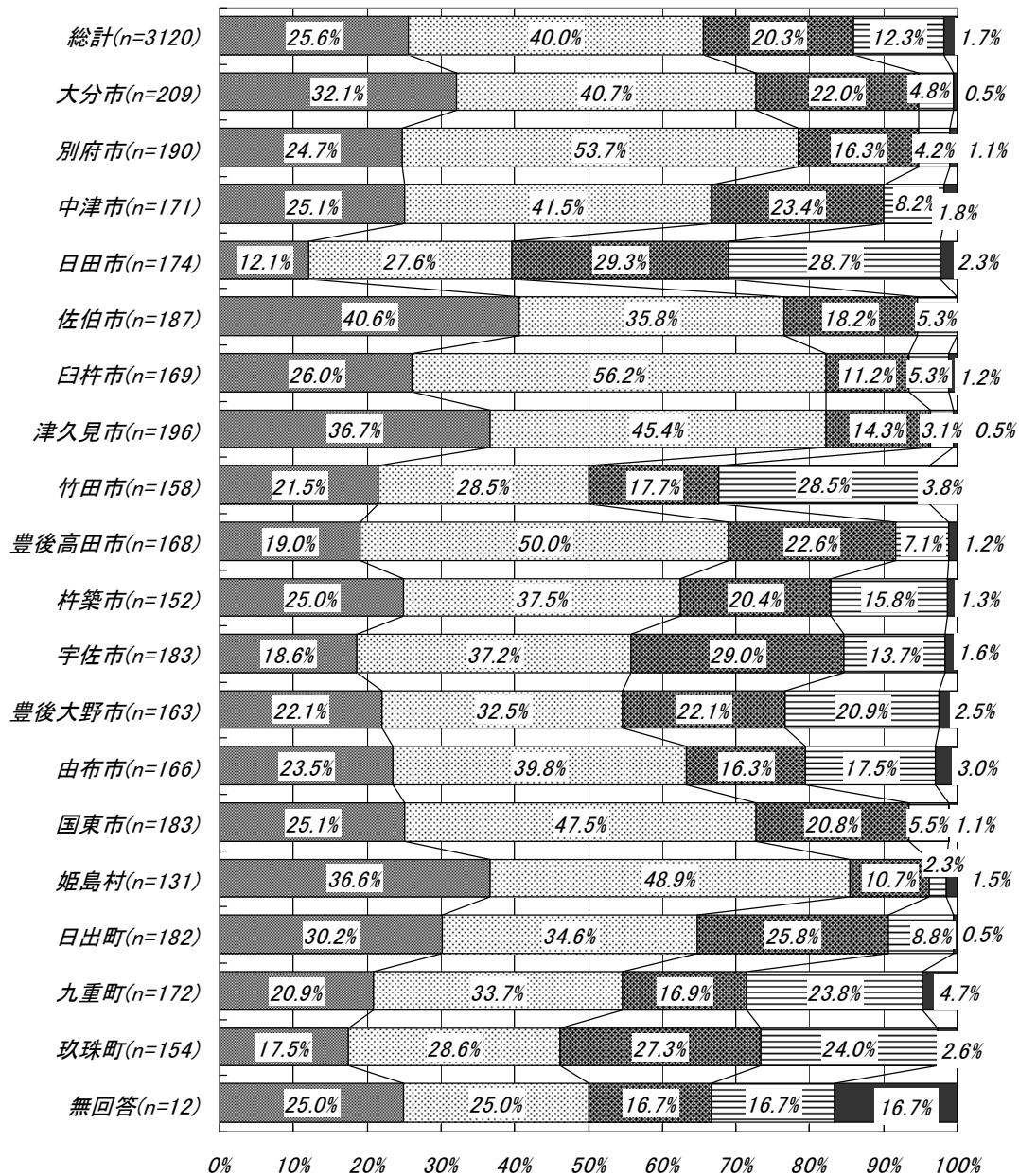
沿岸部の東南海・南海地震防災対策推進地域

大分市、別府市、中津市、佐伯市、臼杵市、津久見市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、国東市、姫島村、日出町



沿岸部の指定12市町村とそれ以外の市町村の結果を比較すると、沿岸部の指定12市町村のほうが「非常に高いと思う」「多少高いと思う」という回答がそれ以外の市町村よりも高くなっている。

## 市町村別集計



- 非常に高いと思う  
(警報を見聞きしたら必ず避難しようと思う)
- ▣ 多少高いと思う  
(警報を見聞きしたら多分避難すると思う)
- ▤ あまり高くないと思う  
(警報を見聞きしても避難するかどうか分からない)
- ▥ 低いと思う  
(警報を見聞きしても避難しないと思う)
- 無回答

市町村別にみると、佐伯市・津久見市・姫島村など沿岸部の地域が「非常に高いと思う」という回答が多くなっている。一方で日田市・竹田市・豊後大野市・玖珠町などの山間部の地域では「低いと思う」「あまり高くないと思う」という回答が多くなっている。

1 - (4)

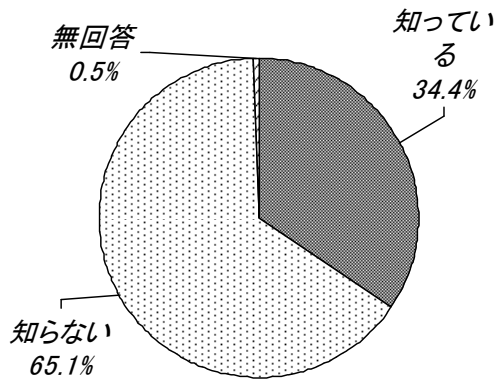
**【問4】**

**◎地震発生確率について**

国の「地震調査研究推進本部」から、各地震の発生確率が毎年発表されています。  
 ちなみに、南海地震の発生確率は、今後 30 年以内は 50%~60%、50 年以内は 80%~90%  
 と非常に高くなっています。ご存じですか？（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 知らない

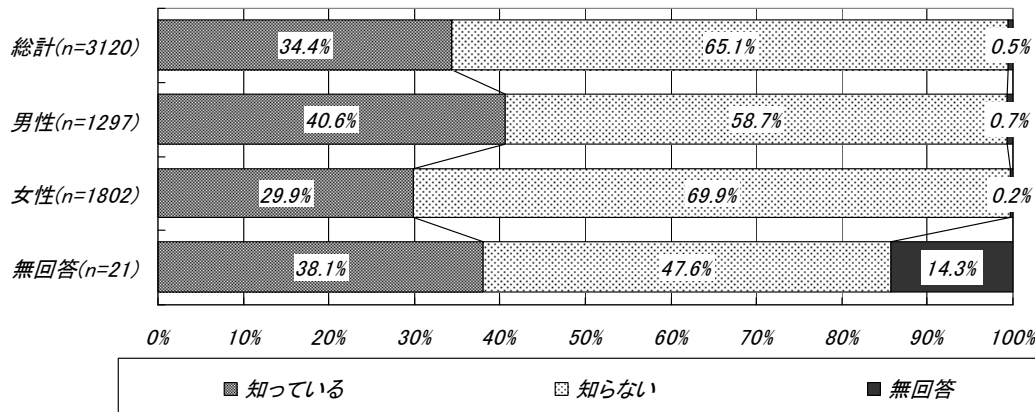
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	1,073	34.4%
(2) 知らない	2,031	65.1%
無回答	16	0.5%
計	3,120	100.0%

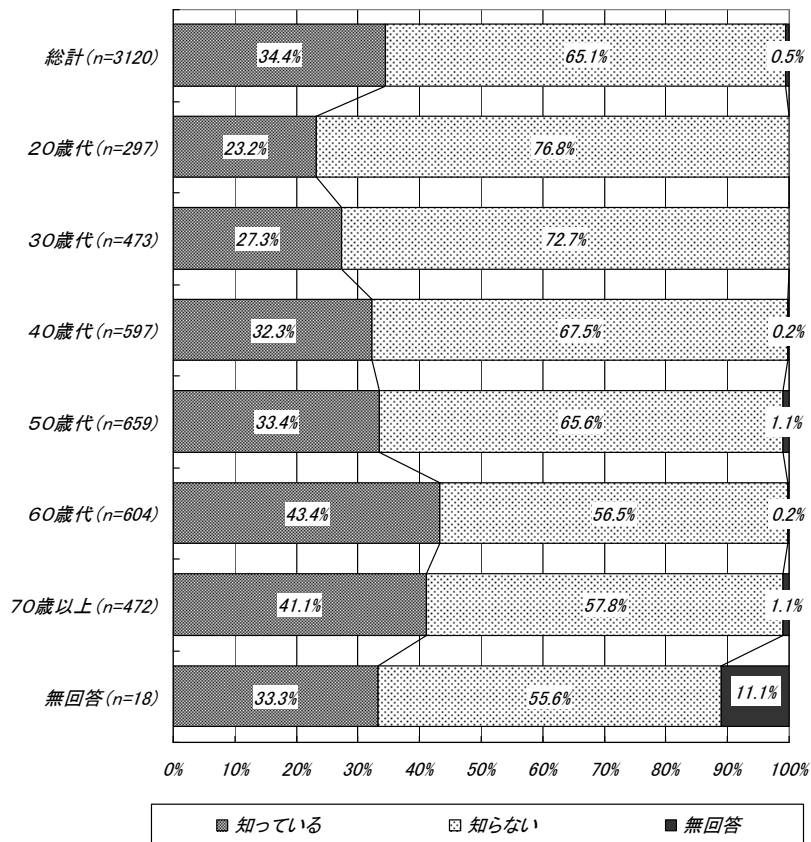
全体では「知っている」が 34.4%。「知らない」が 65.1%と「知らない」が多い結果となった。

**男女別集計**



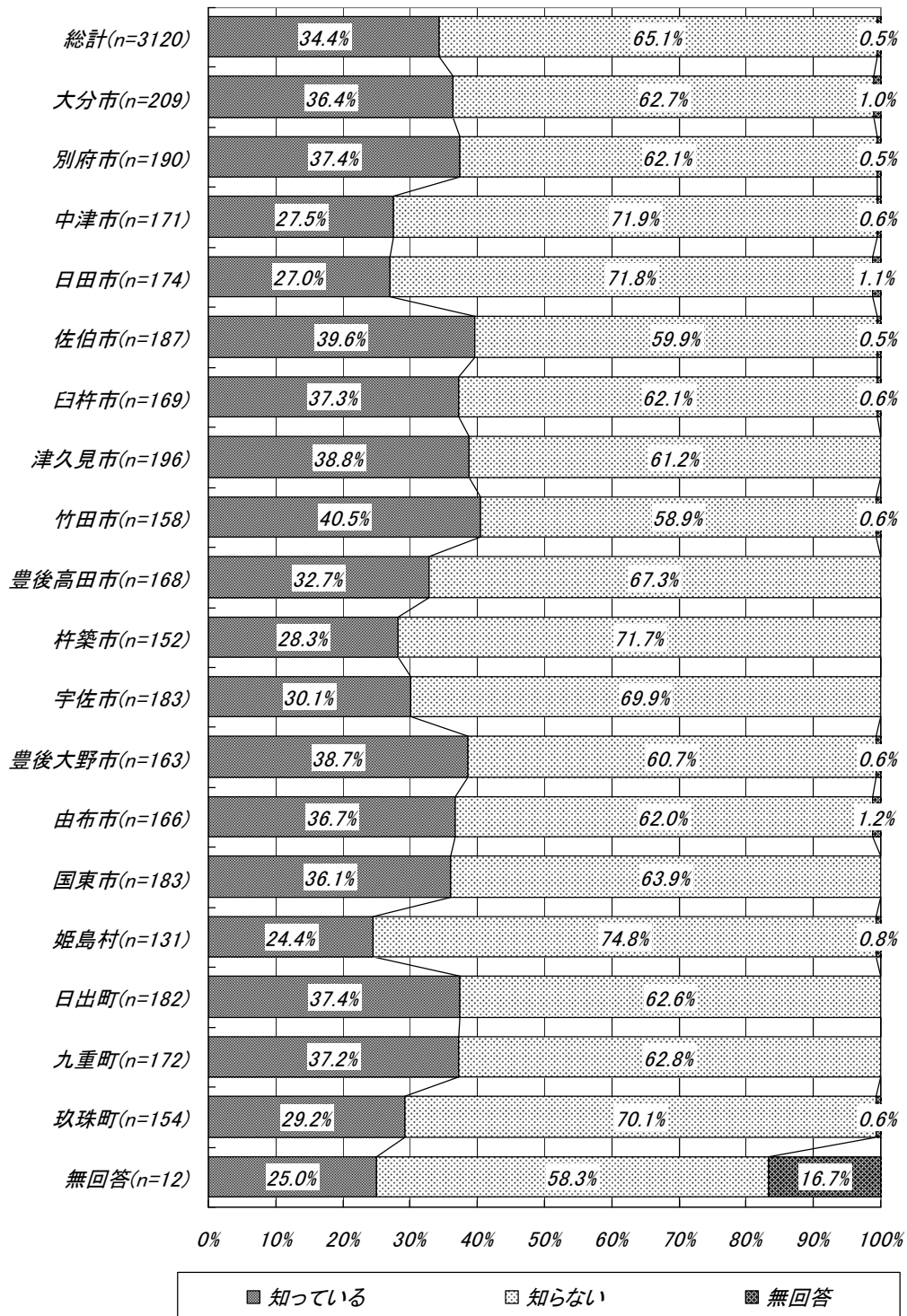
男女別では、男性が 40.6%が「知っている」と回答。一方で女性は 29.9%が「知っている」と回答しており男性のほうが認知度が高くなっている。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「知っている」という回答が多くなっており 60 歳代、70 歳以上では 4 割程度が「知っている」と回答している。20～30 歳代では 3 割以下の認知度となっている。

## 市町村別集計



市町村別の回答状況を見ると、突出して「知っている」という回答が多い市町村はないが、佐伯市・竹田市・豊後大野市・津久見市などは高い回答率。一方で「知らない」という回答が多いは中津市・日田市・姫島村などとなっている。

1 - (5)

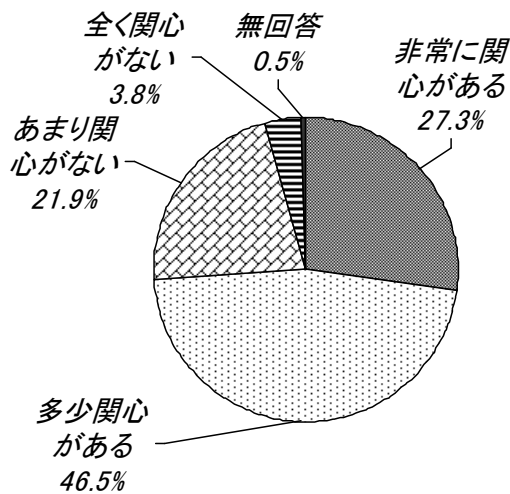
【問5】

◎別府－万年山(はねやま)断層帯への関心について

大分県には、国の主要断層帯のひとつである「別府－万年山断層帯（別府湾～県西部）」があります。この断層帯を震源とする直下型地震に関心がありますか？（〇はひとつ）

1. 非常に関心がある 2. 多少関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

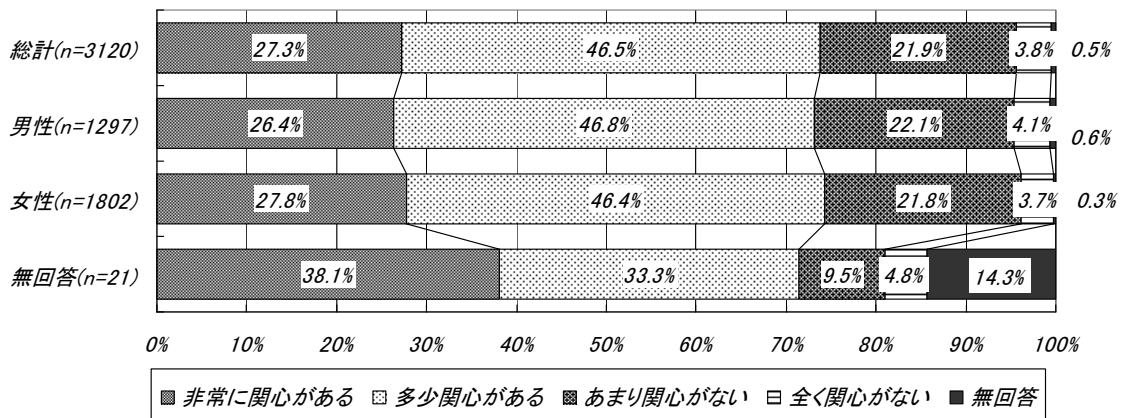
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 非常に関心がある	851	27.3%
(2) 多少関心がある	1,451	46.5%
(3) あまり関心がない	682	21.9%
(4) 全く関心がない	120	3.8%
無回答	16	0.5%
計	3,120	100.0%

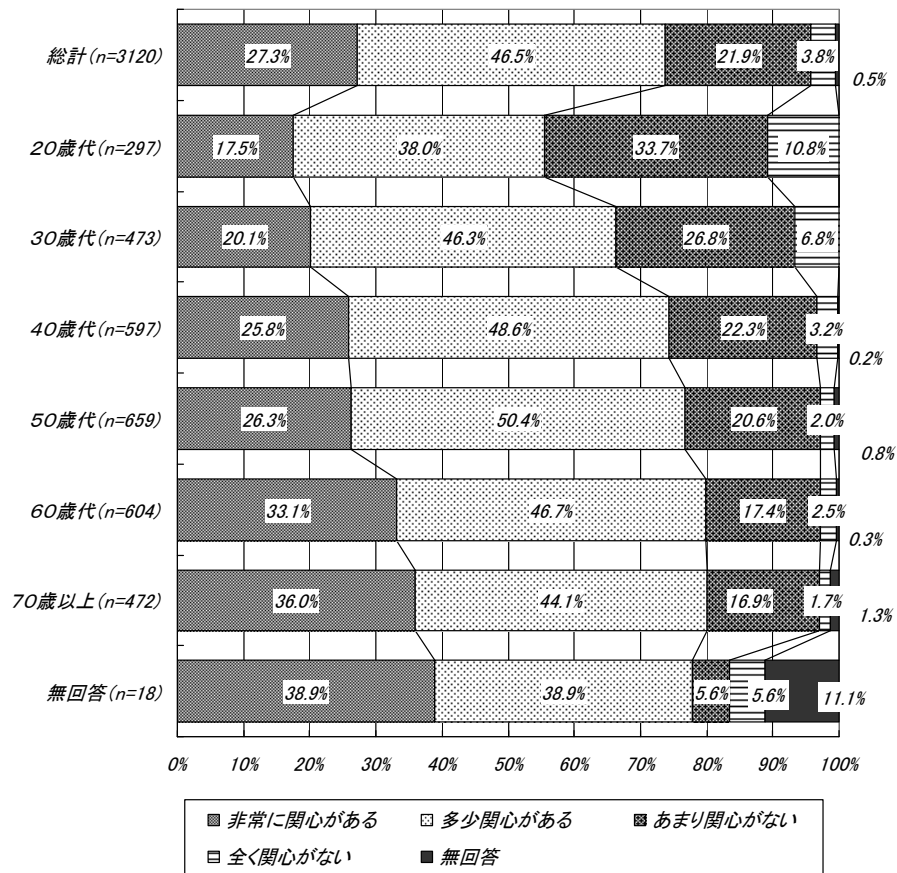
最も回答が高かったのは「多少関心がある」で46.5%。次いで「非常に関心がある」で27.3%。両者合わせて73.8%が『関心がある』と回答している。

男女別集計



男女別の回答状況を見ると、男女別で回答の大きな違いはない。約27%前後が「非常に関心がある」、約46%が「多少関心がある」と回答している。

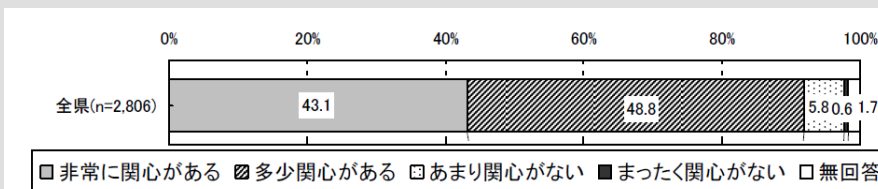
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「非常に興味がある」という回答が多くなっている。一方で、年齢が低くなるにつれて「あまり興味がない」「全く興味がない」という回答が多くなっている。

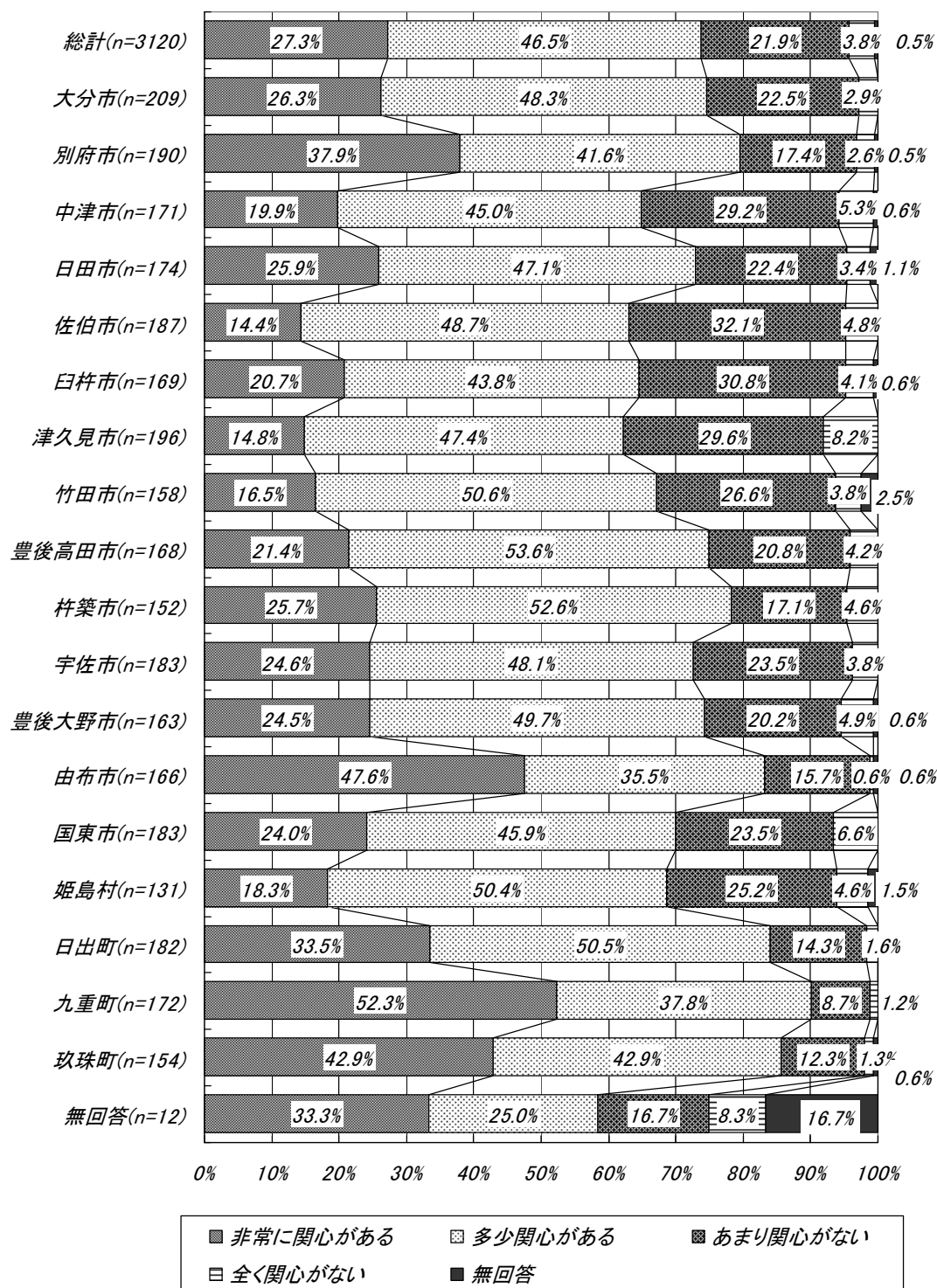
### ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震のような活断層を震源とする内陸直下型地震に関心がありますか。



三重県調査では、「非常に興味がある」が43.1%、また、「多少興味がある」についても48.8%となっており大分県よりも関心度が高い結果となっている。

## 市町村別集計



市町村別の回答状況を見ると、別府市・由布市・九重町・玖珠町などで「非常に興味がある」という回答が多い。一方で、中津市・佐伯市・臼杵市・津久見市・姫島村などでは「あまり興味がない」「全く興味がない」の回答が多くなっている。



1 - (6)

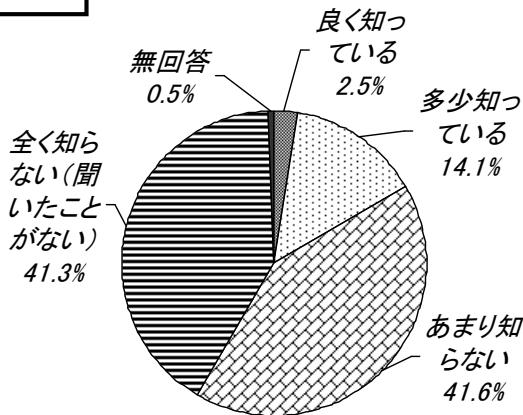
【問6】

◎大分県地震被害想定調査の結果について

大分県では、「東南海・南海地震」や「別府一万年山断層帯」の一部である「別府地溝南縁断層帯（大分市～別府市～由布市）」を震源とする地震等の被害想定を平成 20 年5月に公表しています。（5つの地震で6ケース） 調査結果をご存じですか？（〇はひとつ）

- 1. 良く知っている
- 2. 多少知っている
- 3. あまり知らない
- 4. 全く知らない（聞いたことがない）

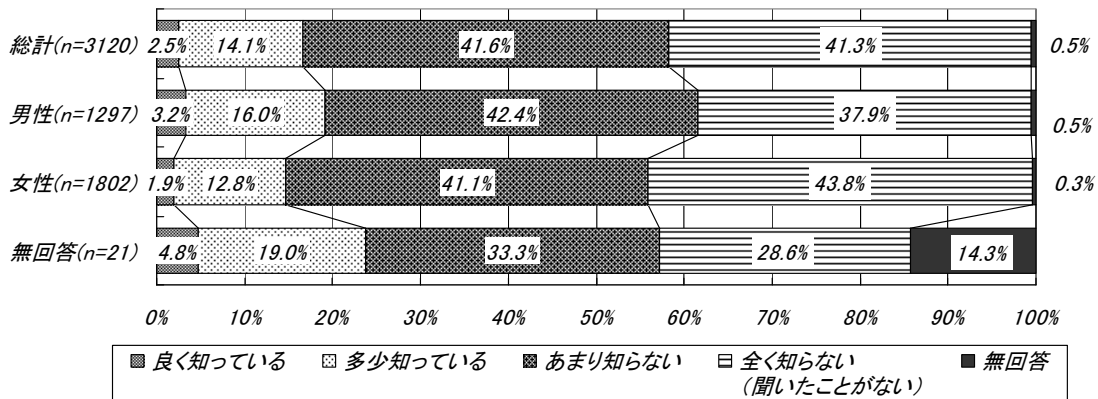
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 良く知っている	78	2.5%
(2) 多少知っている	441	14.1%
(3) あまり知らない	1,298	41.6%
(4) 全く知らない(聞いたことがない)	1,287	41.3%
無回答	16	0.5%
計	3,120	100.0%

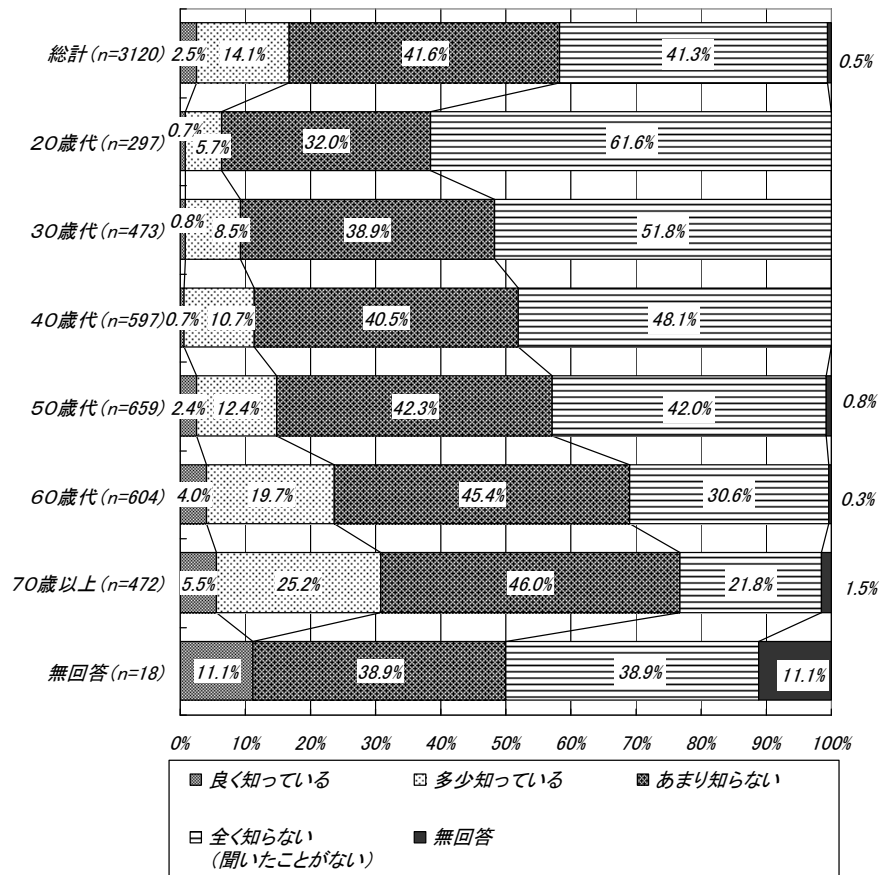
全体では「あまり知らない」が 41.6%、「全く知らない」が 41.3%となっており、この 2 つで 82.9%を占めている。一方で「よく知っている」「多少知っている」は両者合わせて 16.6%となっている。

男女別集計



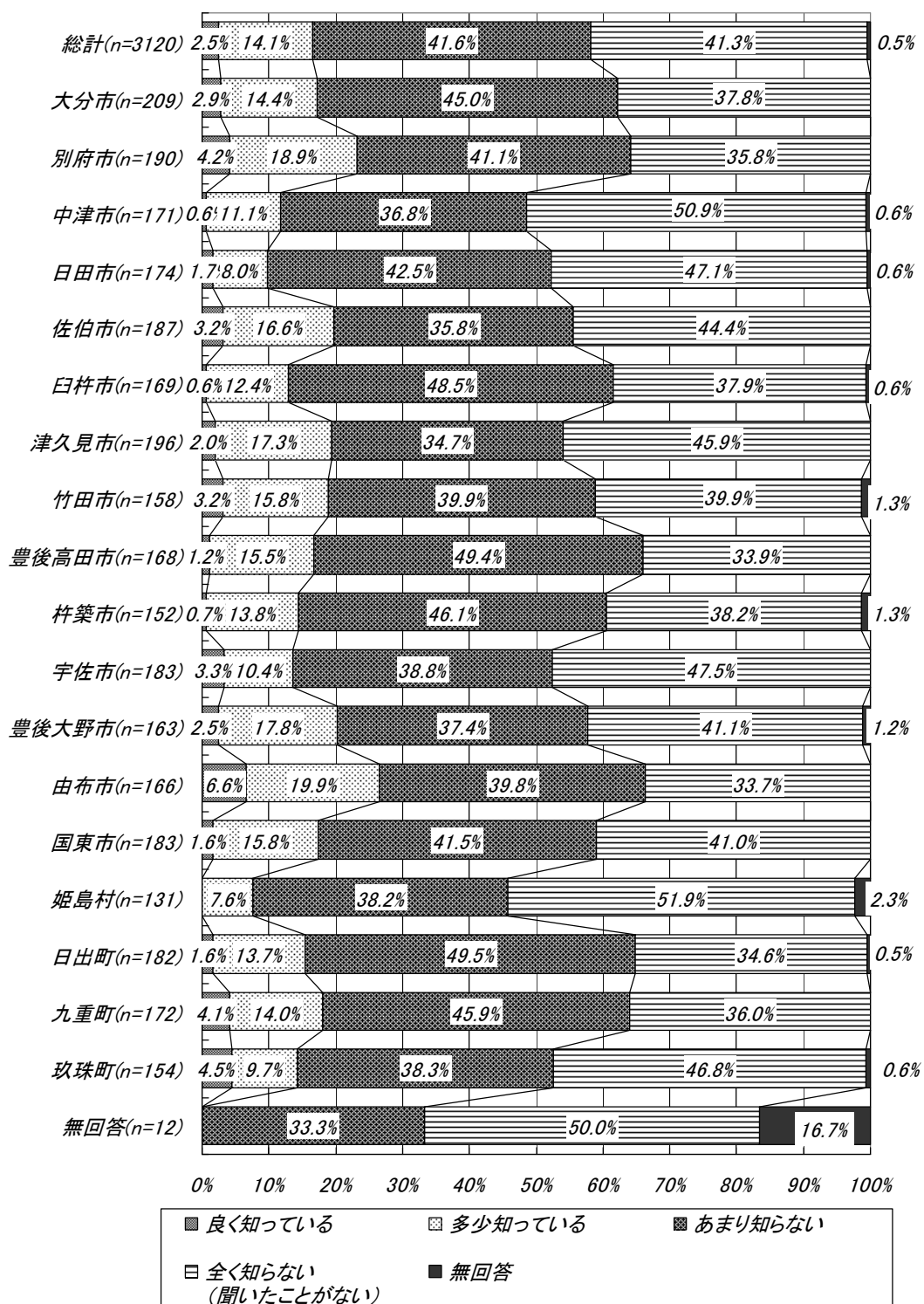
男女別でみると、男性のほうが女性よりも「よく知っている」「多少知っている」の回答が多く、男性では「よく知っている」が 3.2%、「多少知っている」が 16.0%となっている。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「よく知っている」「多少知っている」の回答が多くなっている。一方で20歳代では61.6%が「全く知らない」、30歳代では51.8%が「全く知らない」と回答している。

## 市町村別集計



市町村別の状況では、全体的には「あまり知らない」「まったく知らない」という回答が多くなっているが、その中で別府市・豊後大野市・由布市などが「よく知っている」「多少知っている」を合わせた回答が多くなっている。一方で、中津市・日田市・姫島村などで「あまり知らない」「まったく知らない」の回答が多くなっている。

1-(7)

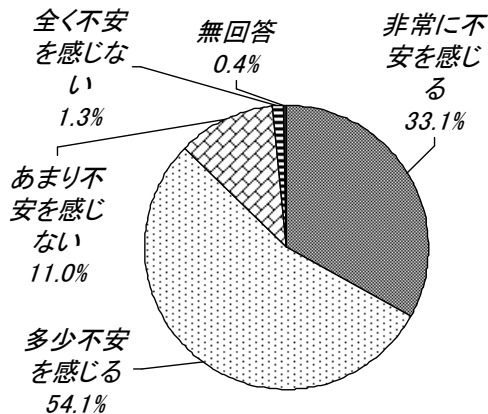
【問7】

◎大地震への不安について

あなたは、大地震が発生するかもしれないという不安を感じることがありますか？  
(○はひとつ)

- 1. 非常に不安を感じる
- 2. 多少不安を感じる
- 3. あまり不安を感じない
- 4. 全く不安を感じない

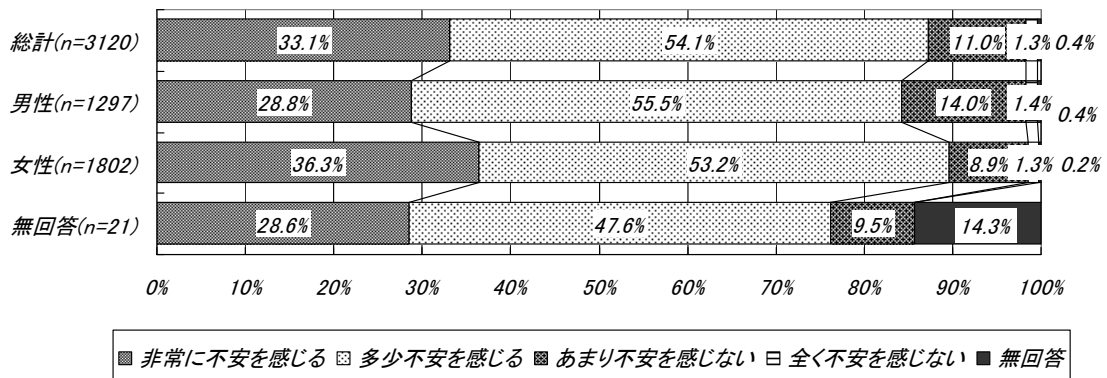
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 非常に不安を感じる	1,034	33.1%
(2) 多少不安を感じる	1,689	54.1%
(3) あまり不安を感じない	344	11.0%
(4) 全く不安を感じない	41	1.3%
無回答	12	0.4%
計	3,120	100.0%

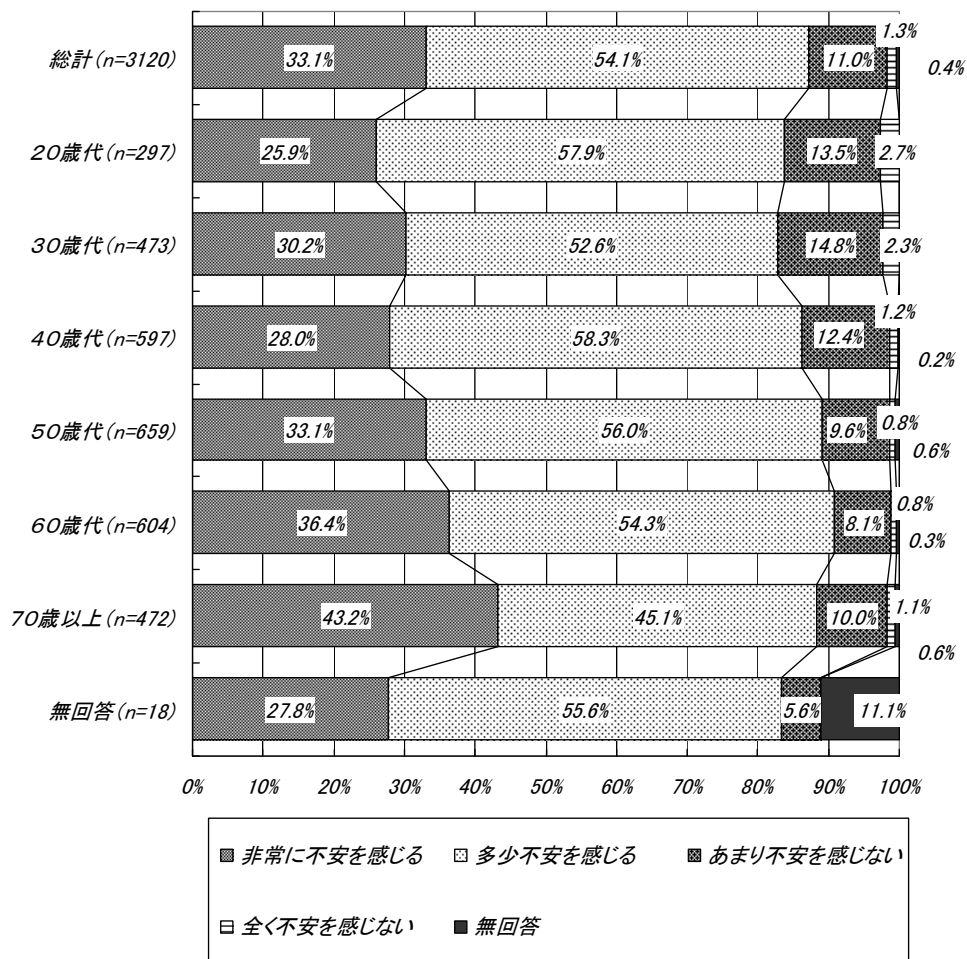
全体では「非常に不安を感じる」が 33.1%、「多少不安を感じる」が 54.1%と両者合わせて 87.2%が何かしら『不安を感じている』という結果となった。

男女別集計



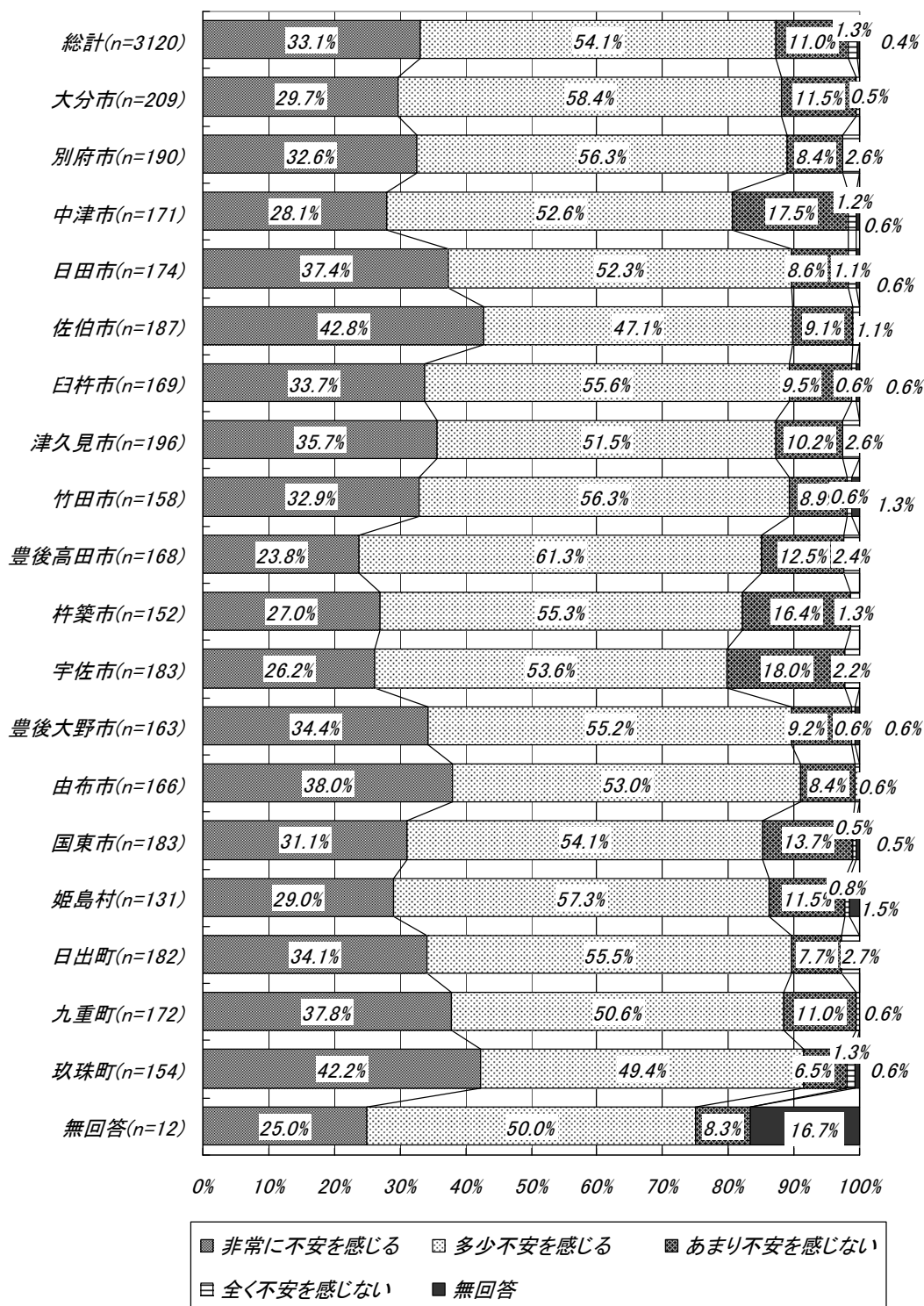
男女別にみると、男性よりも女性のほうが「非常に不安を感じている」と回答した割合が高くなっており、36.3%が回答。男性よりも約10%程度回答率が高い。また、「多少不安を感じる」と合わせると女性では 89.5%が『不安を感じている』と回答している。なお男性では両者合わせて 84.3%が『不安を感じている』と回答している。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、全体的に『不安を感じている』との回答が多いが、その中でも50歳代以上において「非常に不安を感じる」の回答率が高くなっている。一方で、20歳代から40歳代においては「非常に不安を感じる」の回答率は相対的に低く、「あまり不安を感じない」「全く不安を感じない」の割合がやや高くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況では、どの市町村でも『不安を感じている』との回答が多くなっているが、その中でも「非常に不安を感じる」とした回答が多いのは、佐伯市・由布市・九重町・玖珠町などとなっている。一方で「あまり不安を感じない」とした回答が高くなっているのは中津市・宇佐市・杵築市などとなっている。

1 - (8)

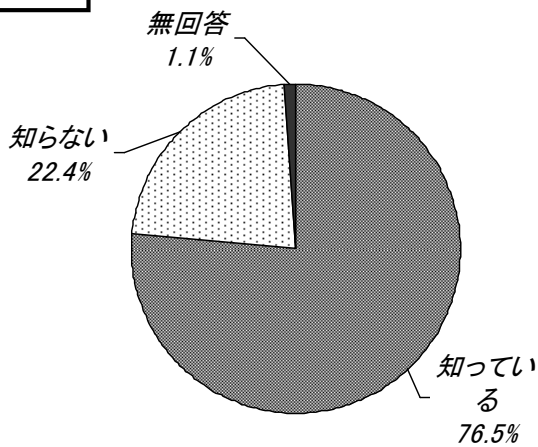
**【問 8】**

**◎緊急地震速報について**

最大震度が5弱以上と予測された場合、気象庁が平成 19 年 10 月から発表している「緊急地震速報」をご存じですか？（〇はひとつ）

1. 知っている→別途質問へ                      2. 知らない

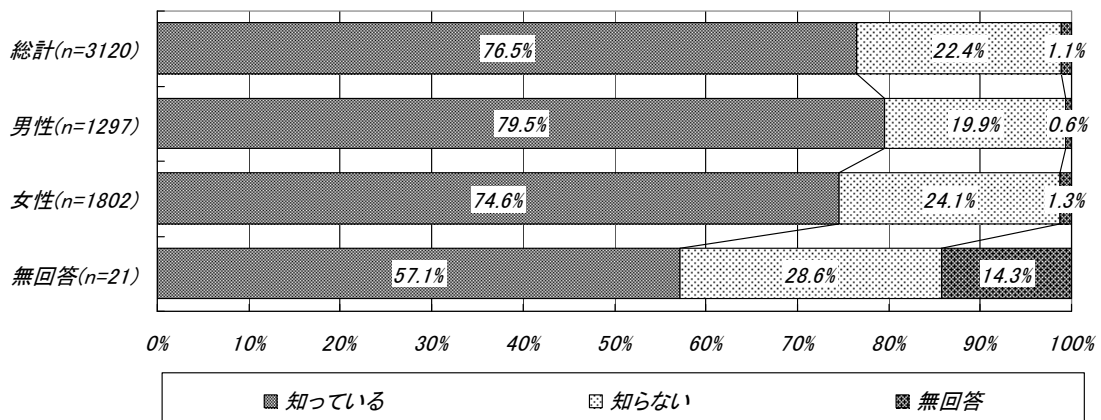
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	2,387	76.5%
(2) 知らない	698	22.4%
無回答	35	1.1%
計	3,120	100.0%

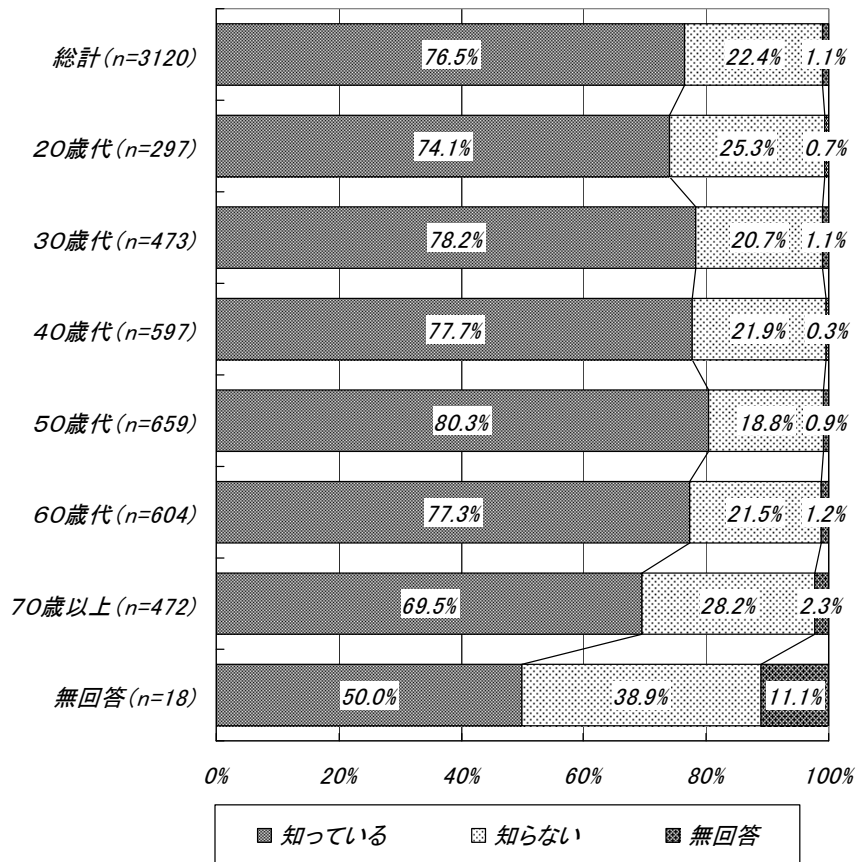
全体で見ると、「知っている」との回答が 76.5%。一方で「知らない」とした回答は 22.4% となっている。

**男女別集計**



男女別の状況をみると、男性のほうが女性よりも「知っている」と回答した割合が高くなっており、79.5%が「知っている」と回答している。女性では 74.6%が「知っている」と回答している。

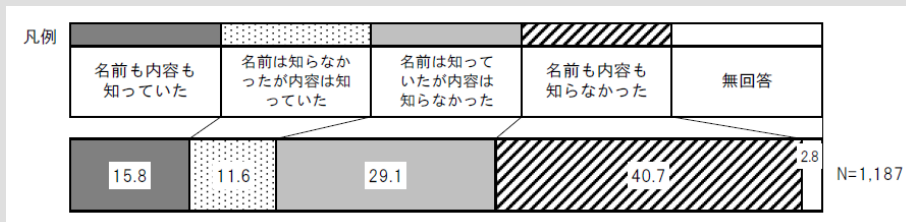
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、70歳以上でやや低くなっているものの年代による大きな違いは見られず、どの年代でも約7割以上が「知っている」と回答している。

## ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

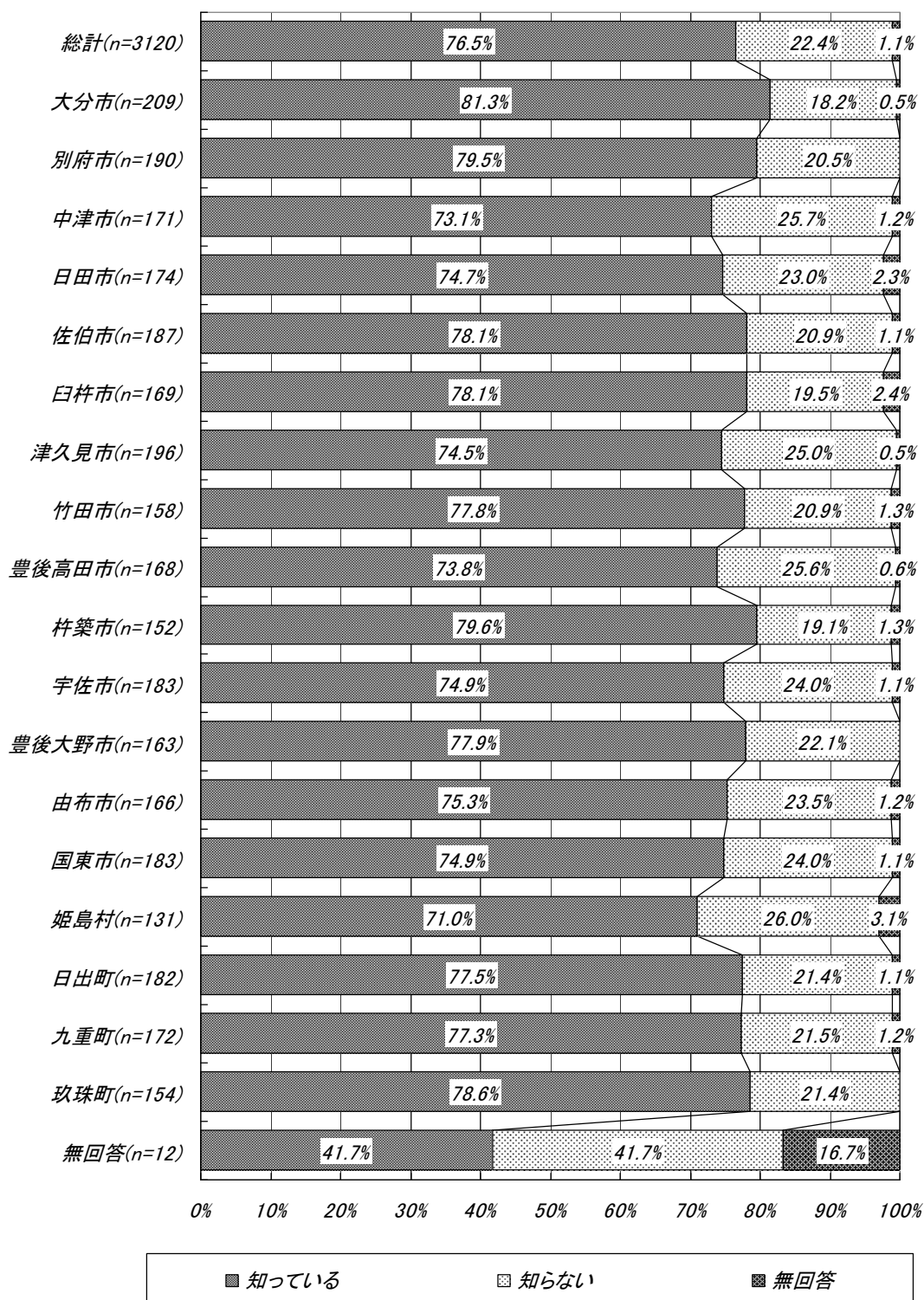
問 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。



静岡県調査では、大分県の調査と選択項目が異なるものの、選択肢の「名前も内容も知っていた」から「名前は知っていたが内容は知らなかった」までを合わせると56.5%が「知っていた」と回答している。



### 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、どの市町村でも「知っている」という回答が多くなっており市町村別で大きな違いは見られないが、中津市・豊後高田市・姫島村などではやや「知らない」という回答が多くなっている。

**【問8】**で<1. 知っている>方にお聞きします。

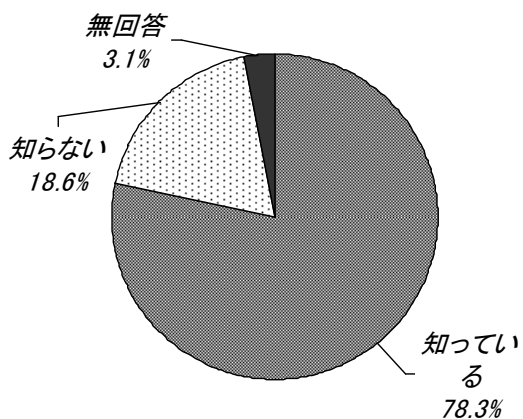
速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は、数秒から数十秒しかなく、震源に近い地域では速報が間に合わないことがあります。

このこともご存じですか。（〇はひとつ）

1. 知っている

2. 知らない

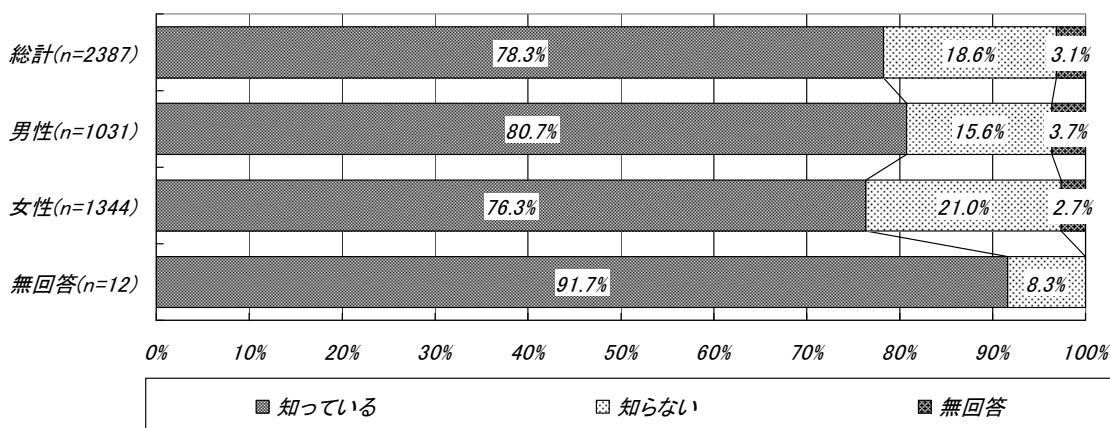
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	1,869	78.3%
(2) 知らない	444	18.6%
無回答	74	3.1%
計	2,387	100.0%

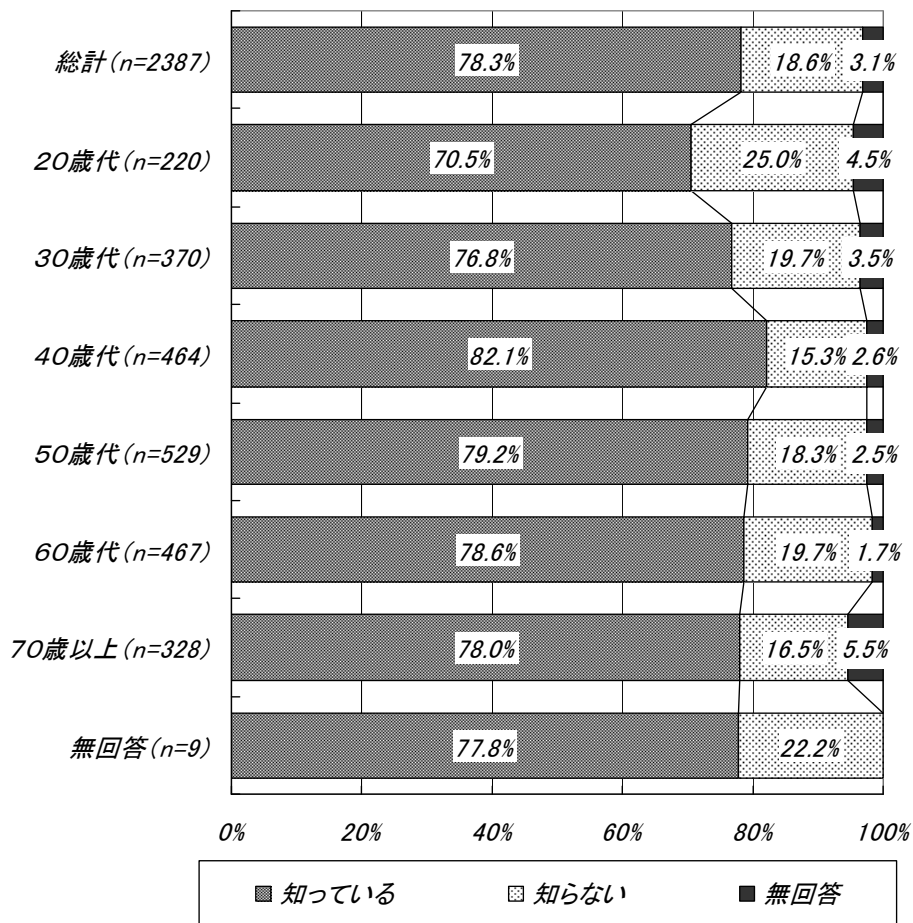
全体では「知っている」という回答が78.3%となっている。一方で「知らない」は18.6%。問8の緊急地震速報について「知っている」と回答した割合が76.5%であり、このうち78.3%が「知っている」という回答となっている。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男性のほうが女性よりも「知っている」という回答が高くなっており、80.7%が回答。女性では76.3%が「知っている」と回答。

### 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、20歳代が他の年代と比較して「知っている」という回答割合が低くなっている。30歳代以上では約8割前後が「知っている」と回答している。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、中津市・竹田市・九重町などで「知っている」という回答が多くなっている。一方で、日出町・玖珠町・津久見市などで「知らない」という回答が多くなっている。

## 2. 住まいの地震対策について

### 2 - (1)

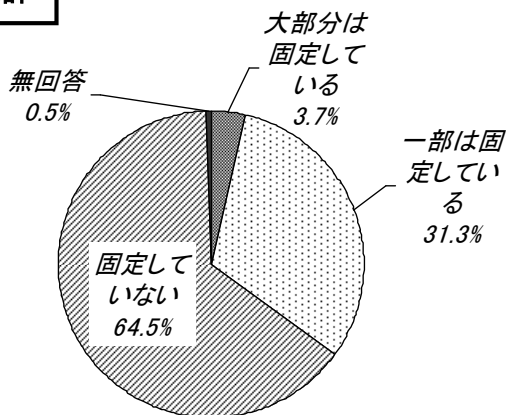
#### 【問9】

#### ◎家具類の固定について

ご家庭では、地震に備えてタンス、本棚、食器棚などの家具類が転倒しないよう固定（造り付けの固定を含む。）を行っていますか？（〇はひとつ）

1. 大部分は固定している    2. 一部は固定している    3. 固定していない→別途質問へ

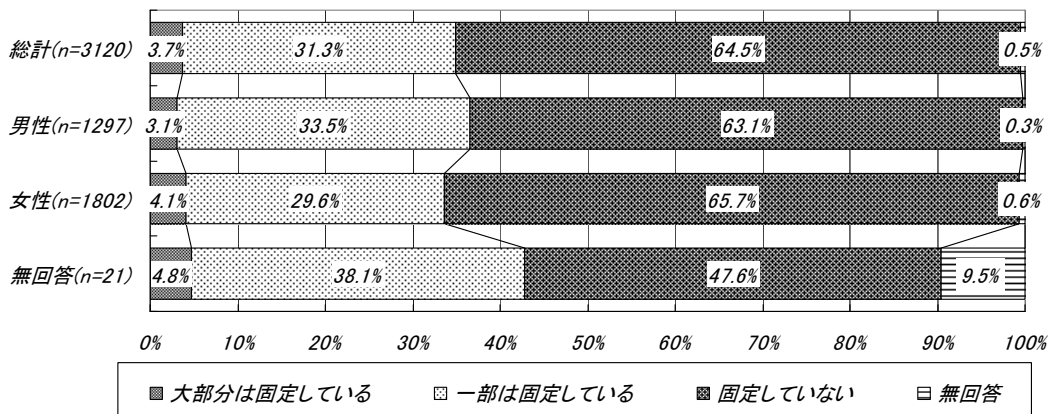
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 大部分は固定している	114	3.7%
(2) 一部は固定している	977	31.3%
(3) 固定していない	2,012	64.5%
無回答	17	0.5%
計	3,120	100.0%

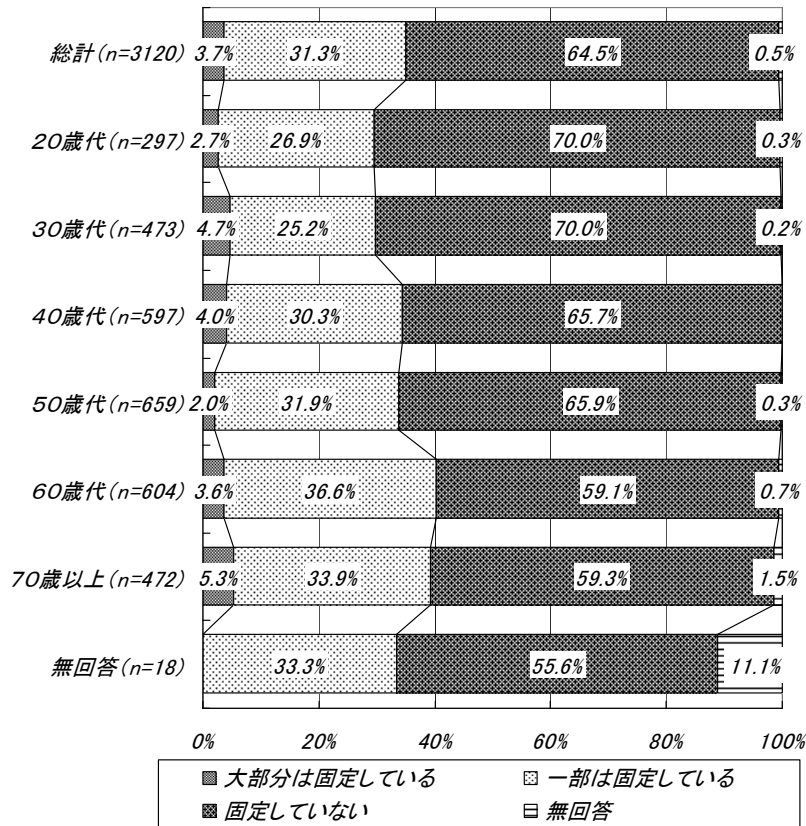
全体では「固定していない」という回答が64.5%と半数以上で最も多い。一方で「大部分は固定している」が3.7%、「一部は固定している」が31.3%となっており、両者を合わせると35.0%が一部でも家具を固定をしている結果となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが固定していると回答した割合が高くなっており「大部分は固定している」「一部は固定している」合わせて36.6%が回答。女性については両者合わせて33.7%が回答している。

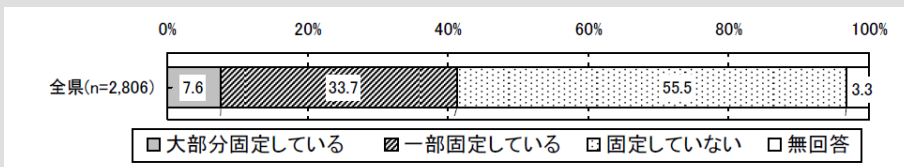
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、20～30歳代は「固定していない」との回答が70%程度見られるが、40～50歳代では「固定していない」がやや減少し66%前後が固定していないと回答しており家具類の固定率が上昇している。さらに60～70歳代以上になると、「固定していない」がさらに減少しており約4割程度が家具を固定している結果となっている。

### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

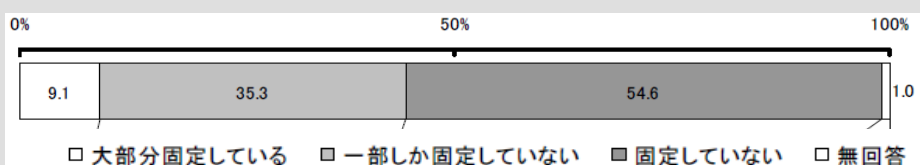
問 ご自宅では、家具類が転倒しないよう固定をしていますか。



三重県調査では「固定していない」の回答が55.5%となっており、大分県よりも固定率が高い。

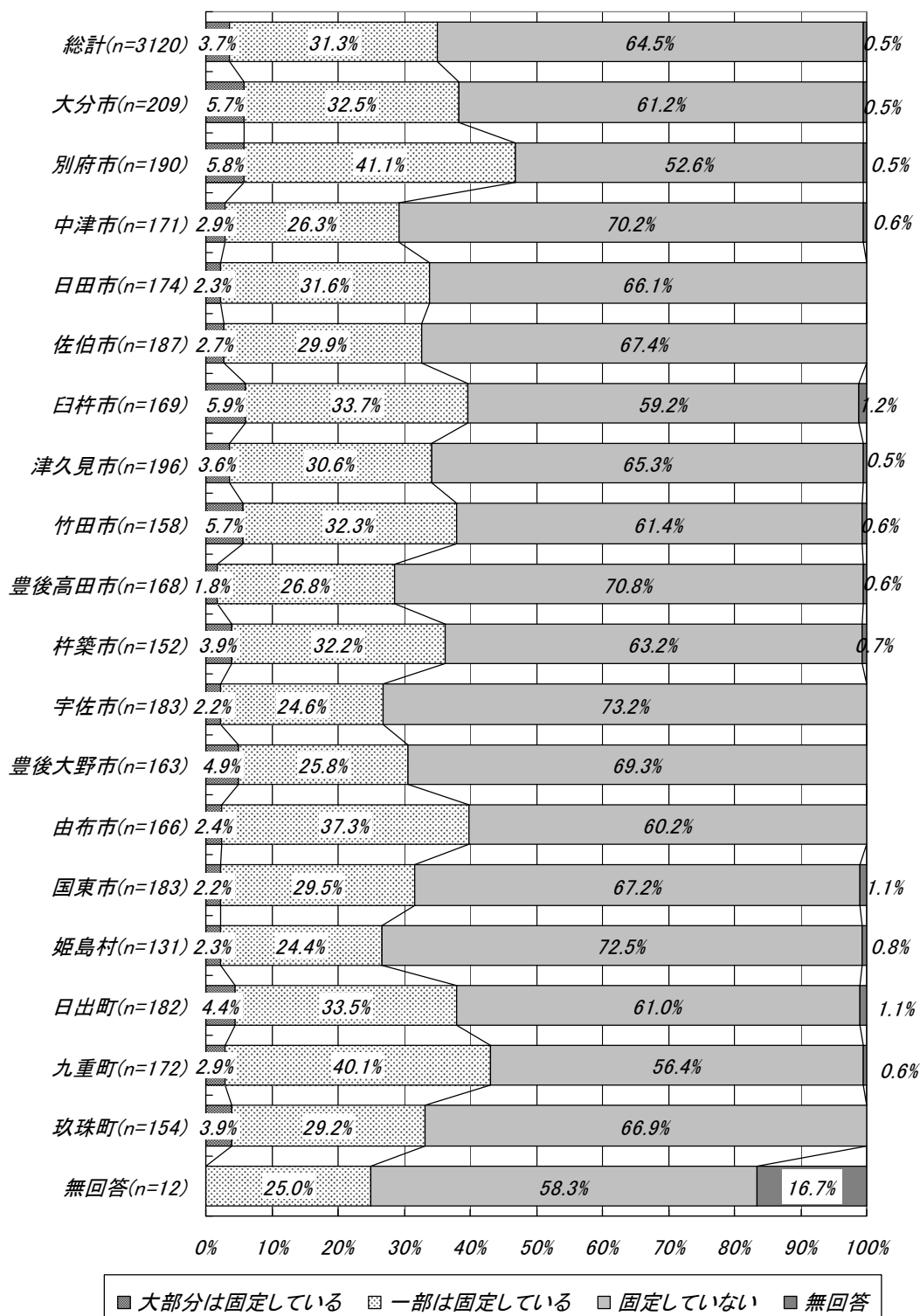
### ◆ 参考データ（愛知県「平成19年度 防災(地震)に関する意識調査」より）

問 あなたのお宅では、家具や冷蔵庫・テレビなどの固定をどの程度していますか。



愛知県調査では「固定していない」の回答が54.6%となっており、大分県よりも固定率が高い。

## 市町村別集計



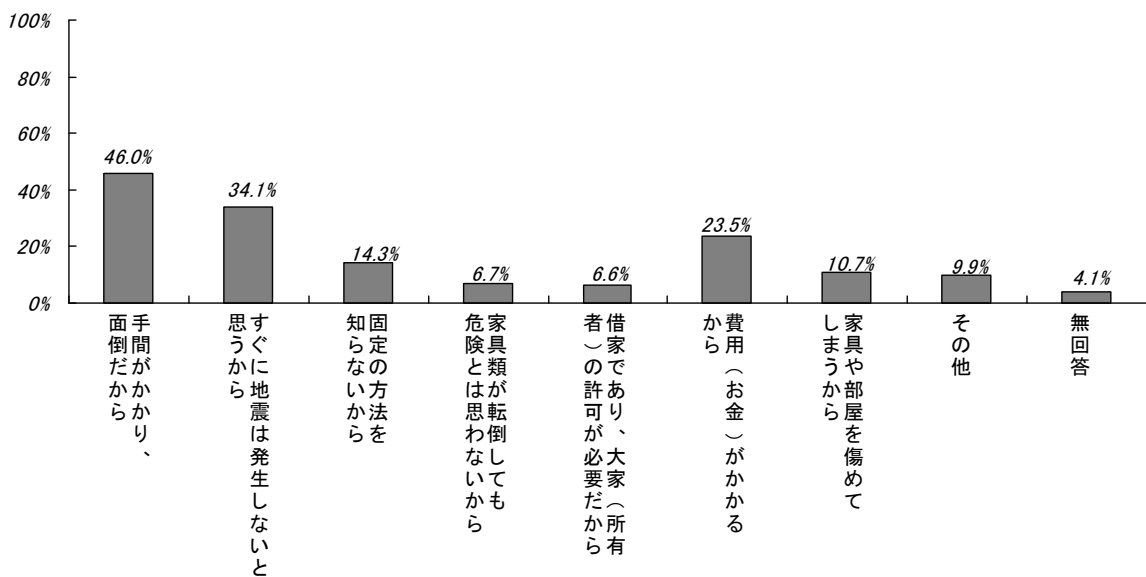
市町村別の状況をみると、市町村ごとにバラツキがみられ、大分市・別府市・臼杵市・竹田市・豊後大野市などは「大部分は固定している」と回答した割合が相対的に高い。また、由布市・九重町も「一部は固定している」という回答が高め。一方で、中津市・豊後高田市・宇佐市・姫島村などは「固定していない」という回答が多い。

【問9】で<3. 固定していない>方にお聞きします。

固定していない理由は何ですか。 (〇はいくつでも)

1. 手間がかかり、面倒だから
2. すぐに地震は発生しないと思うから
3. 固定の方法を知らないから
4. 家具類が転倒しても危険とは思わないから
5. 借家であり、大家(所有者)の許可が必要だから
6. 費用(お金)がかかるから
7. 家具や部屋を傷めてしまうから
8. その他 ( )

### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 手間がかかり、面倒だから	926	46.0%
(2) すぐに地震は発生しないと思うから	686	34.1%
(3) 固定の方法を知らないから	287	14.3%
(4) 家具類が転倒しても危険とは思わないから	134	6.7%
(5) 借家であり、大家(所有者)の許可が必要だから	132	6.6%
(6) 費用(お金)がかかるから	473	23.5%
(7) 家具や部屋を傷めてしまうから	216	10.7%
(8) その他	200	9.9%
無回答	83	4.1%
計	3,137	155.9%

※割合は「固定していない」回答者に対する割合

その他回答(無回答は除く)

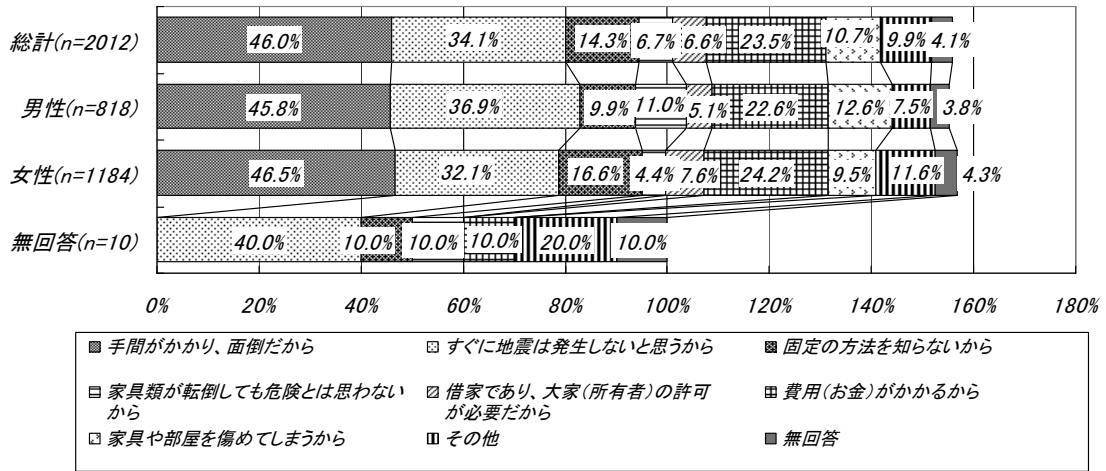
項目	回答数
家具がない場所にいるから。	70
家具が低いから。	
いつかはしたい。	46
これまで関心なかったから。	
家具が固定してあるから。	15
家が古いために強度がないから。	13
一人ではできないから。	8
あきらめているから。	7
家具が固定しにくいから。	6
危機意識が低いから。	6
地震の心配が少ないから。	5
やり方が分からないから。	5
引越したばかりだからから。	4
家族の了解が得られないから。	3
その他(入院中のため。模様替えの予定。)	2

固定していない理由について全体では「手間がかかり面倒だから」という回答が46.0%と最も多い。次に「すぐに地震は発生しないと思うから」が34.1%、さらに「費用(お金)がかかるから」が23.5%と続いている。

また、その他回答について、回答状況をいくつかの項目に分けて集計してみると、もっとも多かったのは「家具のない場所にいる。家具が低いから」という回答であった。また、「いつかはしたい」「これまで関心なかったから」という回答も多くみられた。



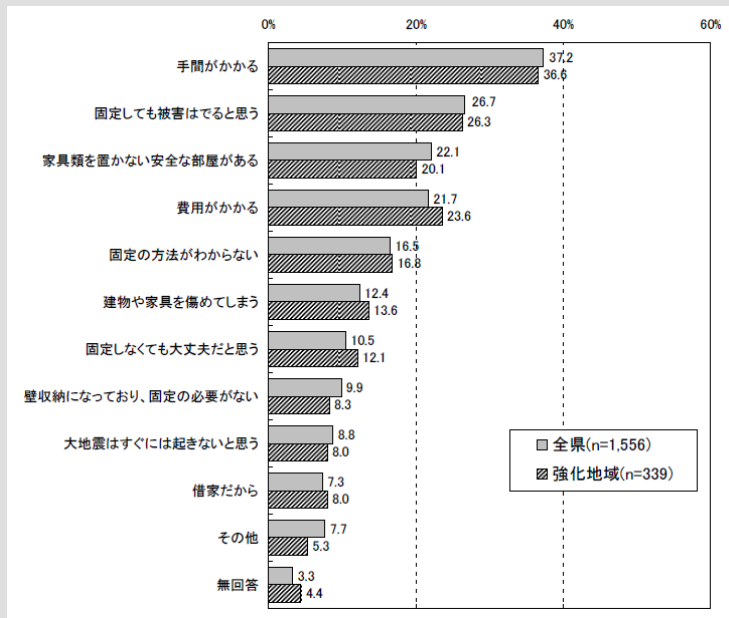
## 男女別集計



男女別の状況を見ると、回答結果に大きな違いはないが、男性では「すぐに地震は発生しないと思うから」や「家具類が転倒しても危険とは思わないから」が女性の回答よりもやや多くなっている。一方で女性では「固定の方法を知らないから」という回答が多くなっている。

## ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

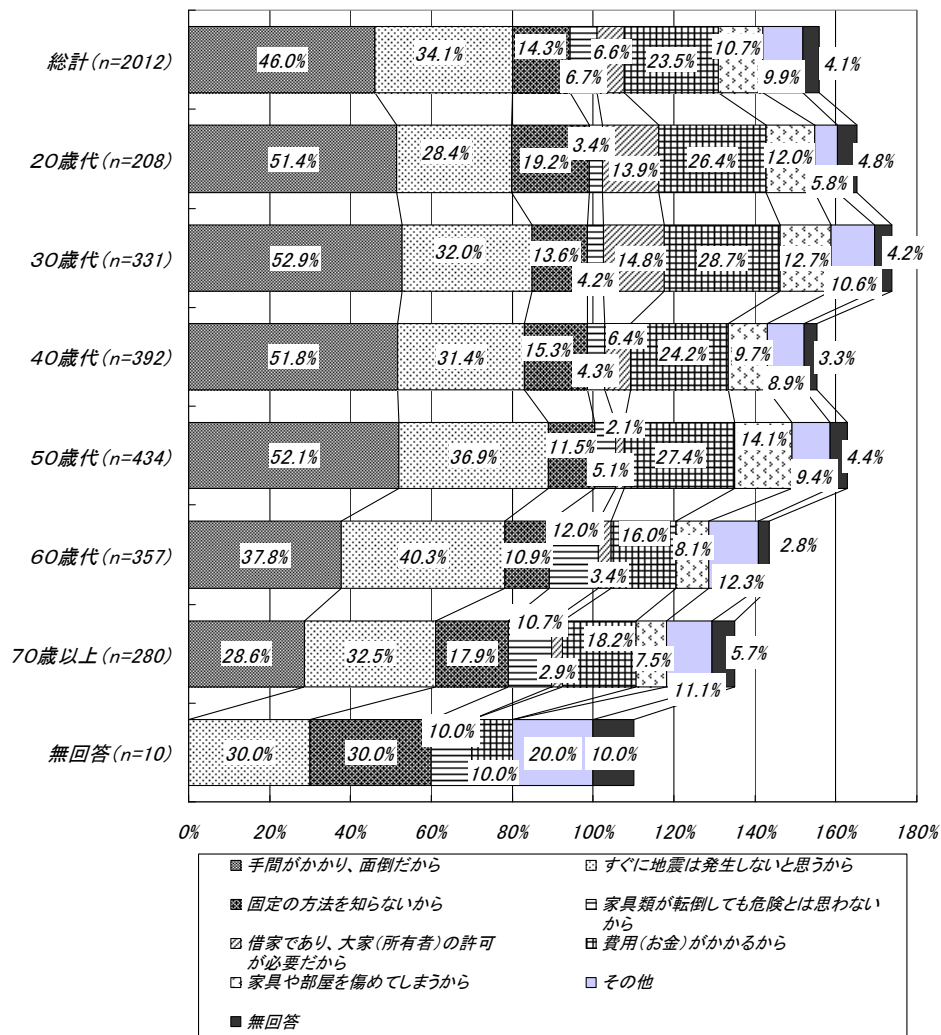
問 家具類の固定をしない理由は何ですか。



三重県調査では、「手間がかかる」が最も多く、次いで「固定しても被害はでると思う」「家具類を置かない安全な部屋がある」と続いている。

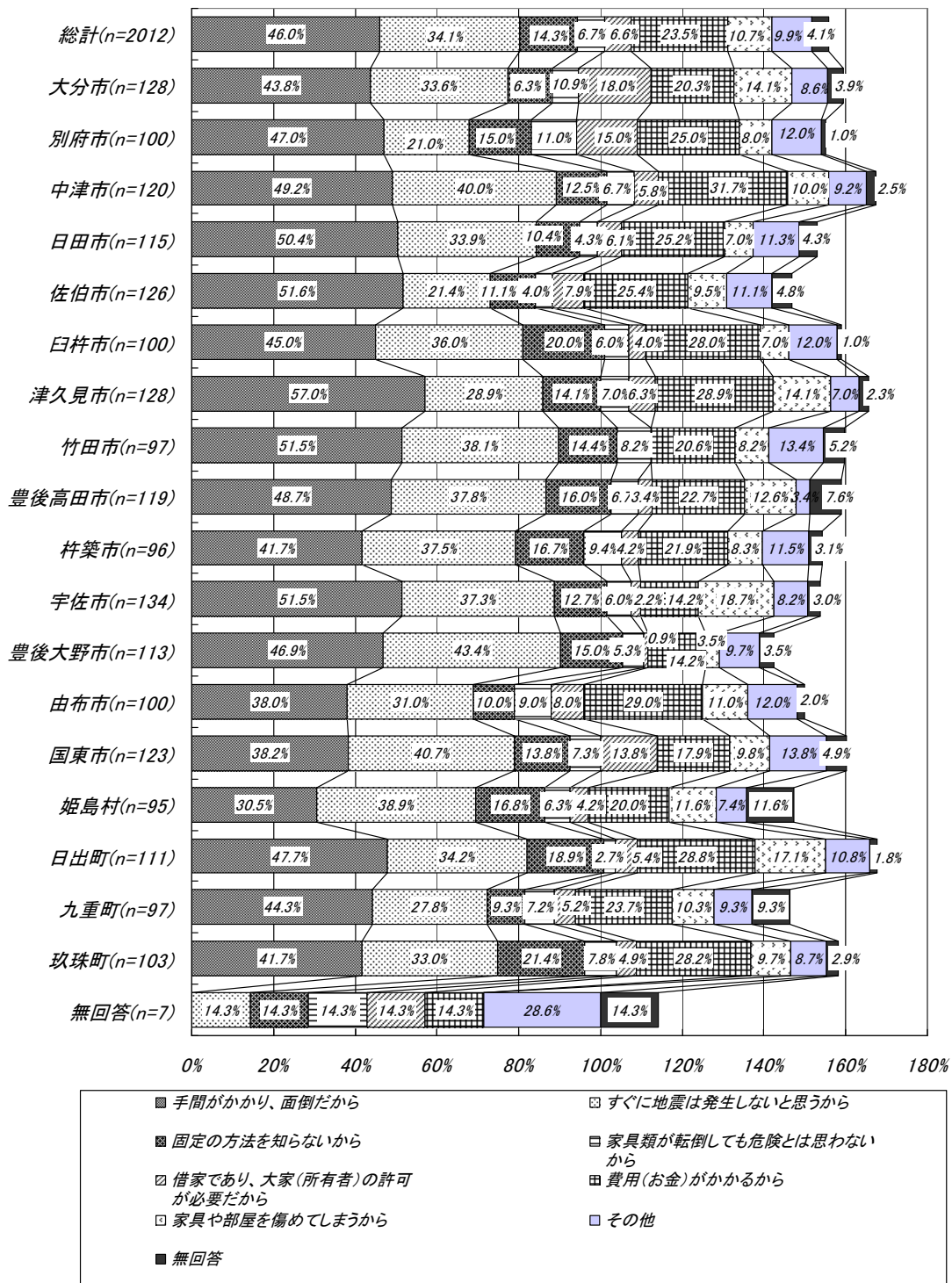
大分県と比較すると「手間がかかる」や「費用(お金)がかかるから」は同じように上位の回答となっているが、大分県で多かった「すぐに地震が発生はしないと思うから」については低い回答状況となっている。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、20～50歳代までは同じような回答の傾向であり、回答が多いのは「手間がかかり、面倒だから」という回答である。しかし、60歳代以上では「すぐに地震は発生しないと思うから」や「家具類が転倒しても危険とは思わないから」という回答が他の年代よりも多くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、どの市町村も「手間がかかり、面倒だから」「すぐに地震は発生しないと思うから」の回答が多くなっている。その中で、津久見市などでは「手間がかかり、面倒だから」の回答が多くなっている。また、豊後大野市・国東市などでは「すぐに地震は発生しないと思うから」という回答が多くなっている。また、「費用(お金)がかかるから」も20~30%前後を中心とした回答が見られ、その中でも中津市・由布市・日出町・津久見市などで回答が多くなっている。

2 - (2)

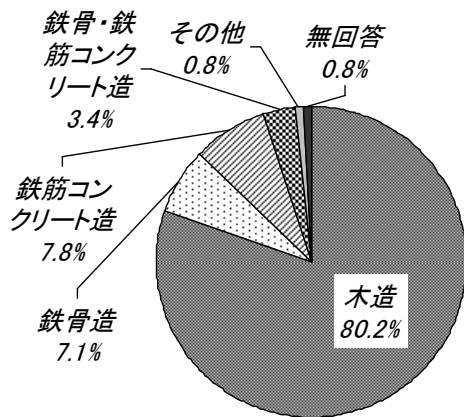
**【問10】**

**◎住宅の構造について**

住んでいるご自宅（借家を含む）の構造は、どれにあたりますか？（○はひとつ）

1. 木造→別途質問へ                      2. 鉄骨造                      3. 鉄筋コンクリート造  
4. 鉄骨・鉄筋コンクリート造            5. その他（                      ）

**全体集計**

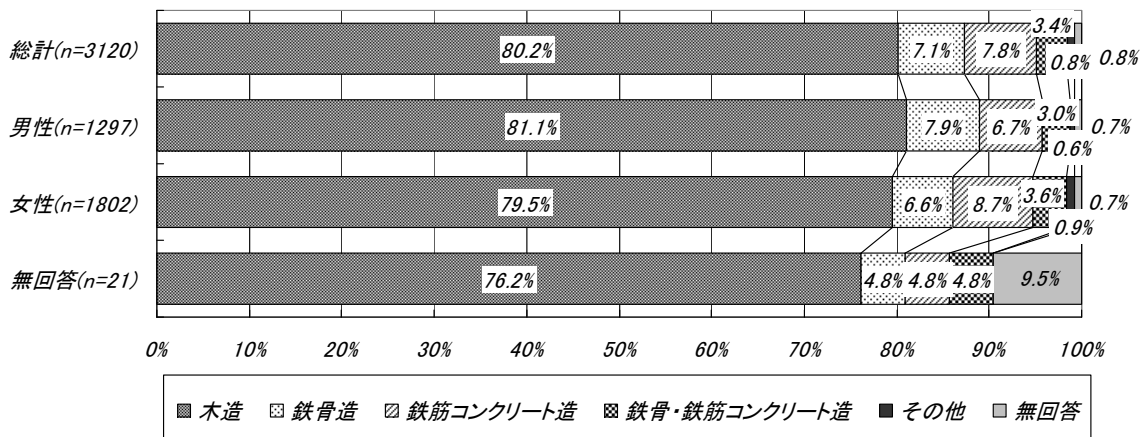


項目	回答数	構成比
(1) 木造	2,501	80.2%
(2) 鉄骨造	222	7.1%
(3) 鉄筋コンクリート造	244	7.8%
(4) 鉄骨・鉄筋コンクリート造	105	3.4%
(5) その他	24	0.8%
無回答	24	0.8%
計	3,120	100.0%

全体では「木造」が80.2%と大多数を占めている。木造の次に回答が多かったのは「鉄筋コンクリート造」で7.8%、ほぼ同率で「鉄骨造」が7.1%と続いている。

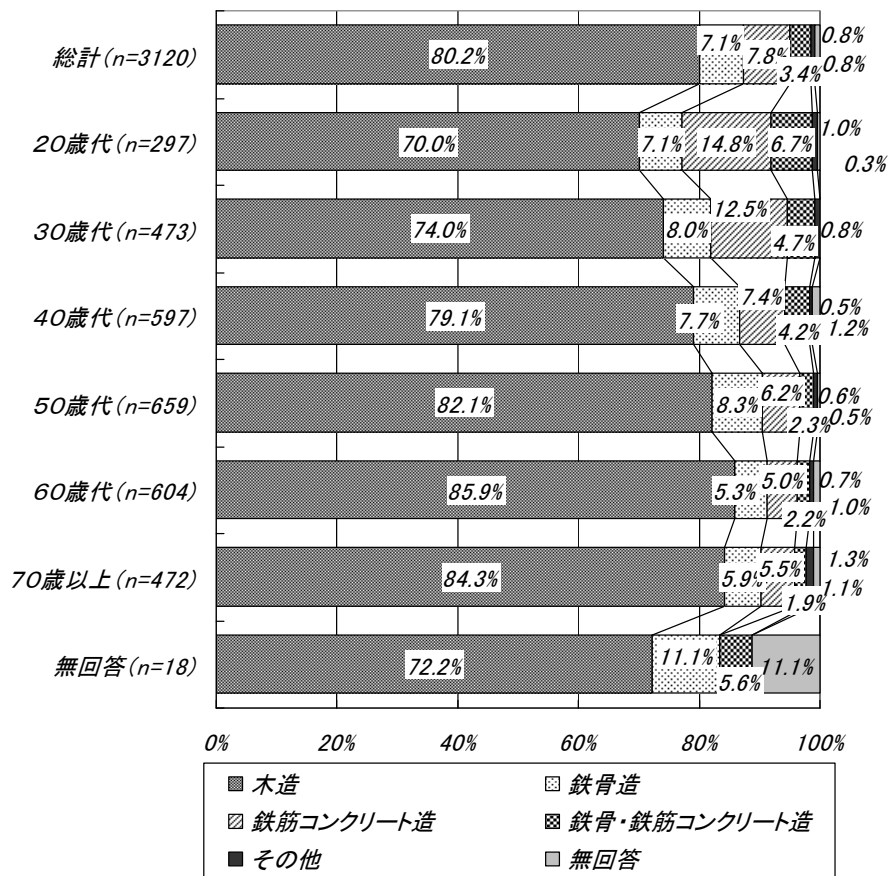
その他の回答については「1F 鉄骨・2F 木造」「軽量鉄骨」という回答が中心であった。

**男女別集計**



男女別の状況をみると、男女別で回答には大きな違いにはなく約80%前後が「木造」と回答している。

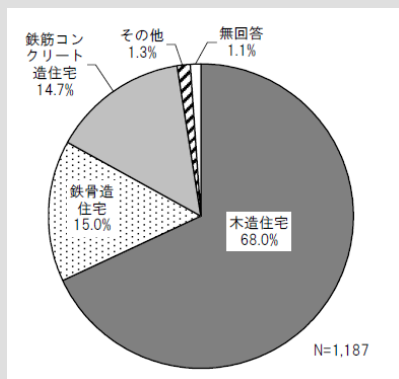
### 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、20～30歳代では「木造」の回答が他の年代と比較して低くなっている。一方で年齢が高くなるにつれて「木造」の回答が増加している。

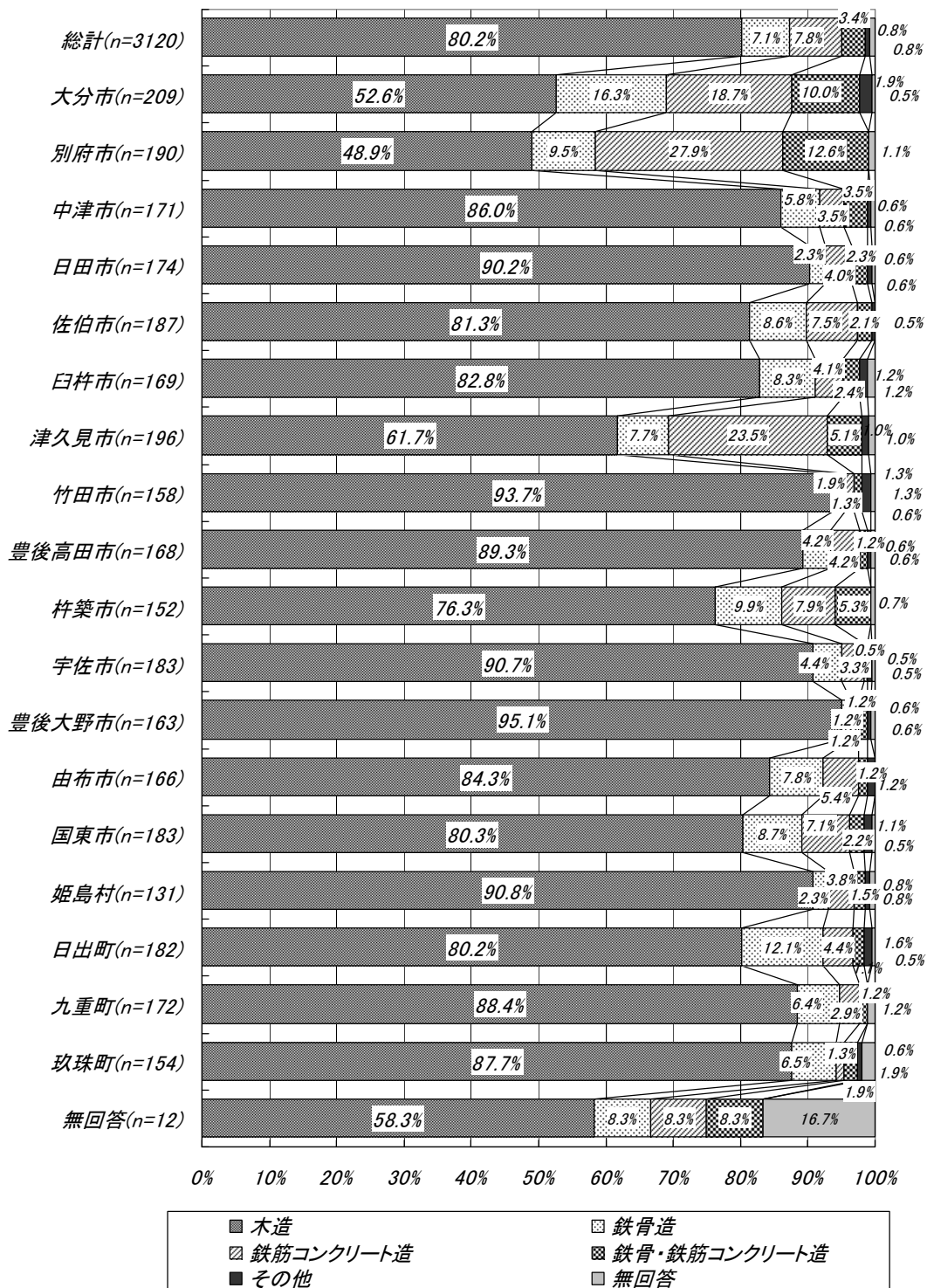
### ◆ 参考データ（静岡県「平成 19 年度東海地震についての県民意識調査」より）

問 あなたの住まいの家は、次のどれにあたりますか。



静岡県調査をみると、「木造住宅」が最も多く 68.0%となっている。大分県と比較すると「木造住宅」の割合が低く、「鉄骨造住宅」「鉄筋コンクリート造住宅」の割合が高くなっている。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、大分市・別府市・津久見市などで「木造」の回答率が低い傾向にある。竹田市・豊後大野市などでは「木造」の回答が特に高くなっている。

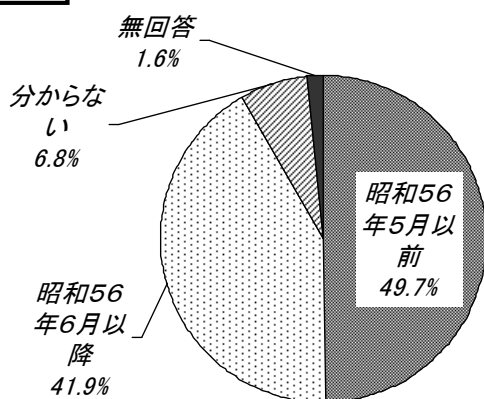
**【問10】**で＜1.木造＞の方にお聞きします。

いつごろ建てられた木造住宅ですか。

増改築を行っている場合には、一番古い部分の建築年を回答してください。（〇はひとつ）

1. 昭和56年5月以前→問11へ
2. 昭和56年6月以降
3. 分からない

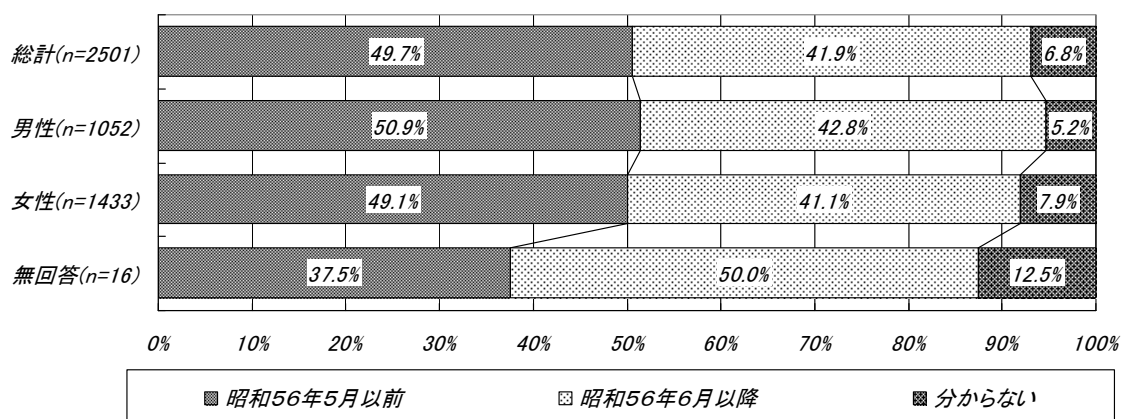
### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 昭和56年5月以前	1,244	49.7%
(2) 昭和56年6月以降	1,047	41.9%
(3) 分からない	170	6.8%
無回答	40	1.6%
計	2,501	100.0%

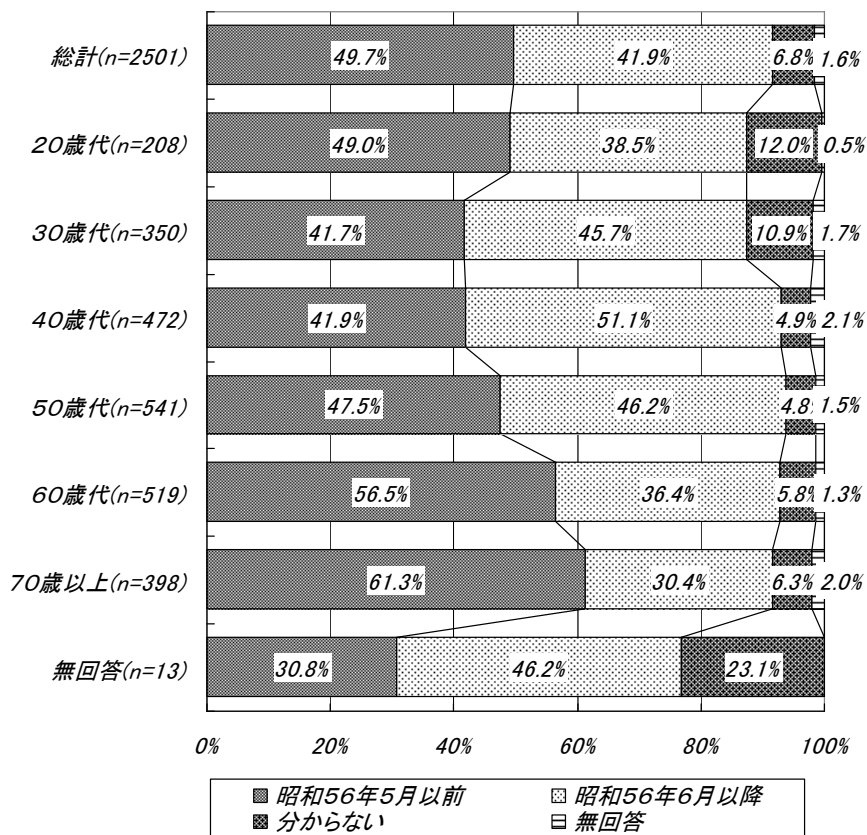
住宅の構造について「木造」と回答した方に対して建築年を尋ねた結果であるが、最も回答が多かったのは「昭和56年5月以前」であり49.7%となった。「昭和56年6月以降」については41.9%となっている。

### 男女別集計



男女別の状況を見ると、性別間での大きな違いはなく約50%前後が「昭和56年5月以前」の建築年と回答している。

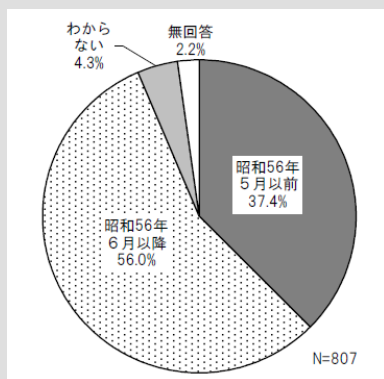
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、「昭和56年5月以前」との回答が多くなっているのは60～70歳代以上。また、20歳代も「昭和56年5月以前」との回答率が多い。30～40歳代で「昭和56年6月以降」との回答が多くなっている。

### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

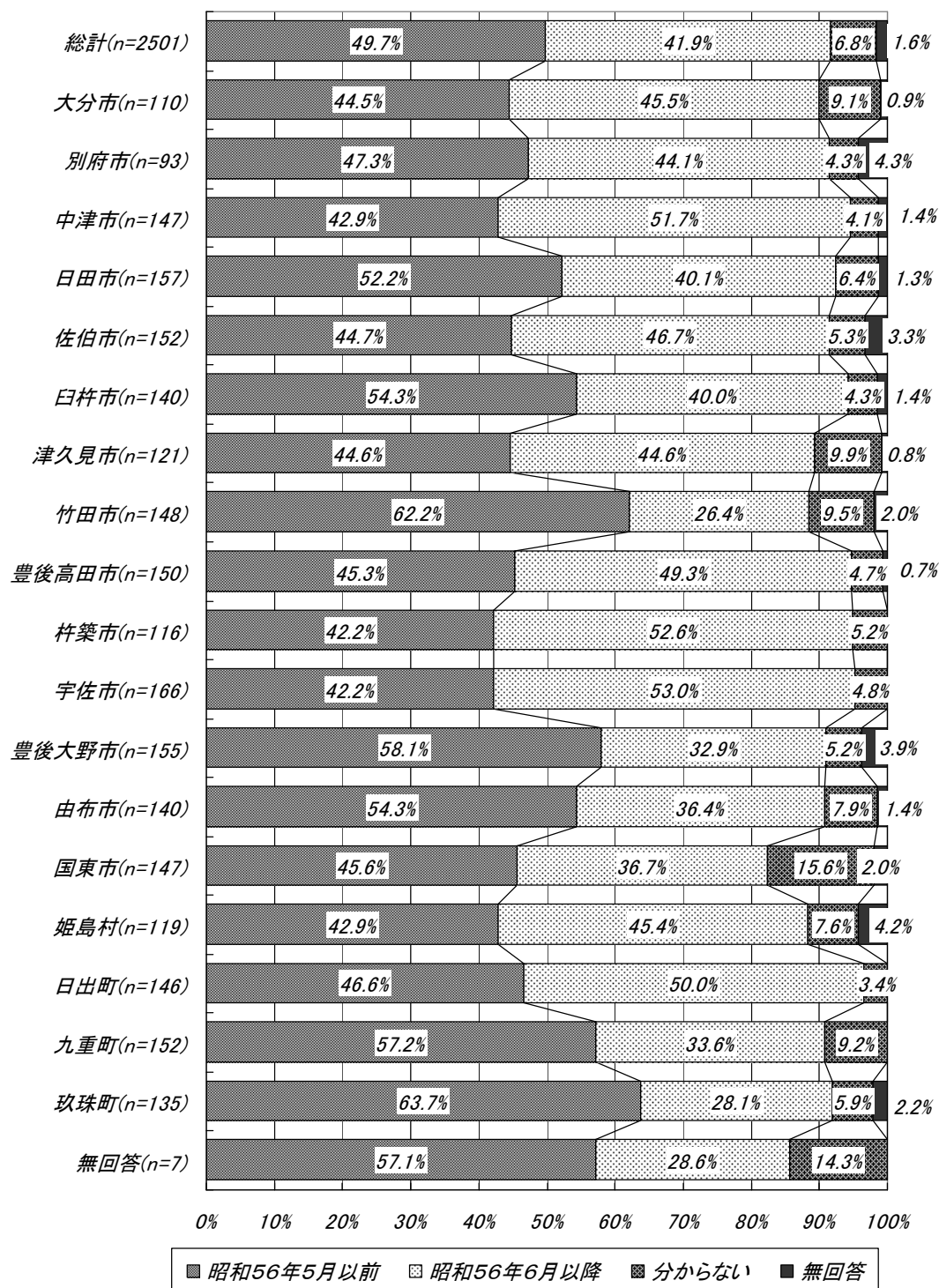
問 あなたの住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。



静岡県調査をみると「昭和56年5月以前」が37.4%、「昭和56年6月以降」が56.0%。大分県と比較すると、「昭和56年5月以前」の割合が低くなっている。



### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、「昭和56年5月以前」との回答が多いのは竹田市・豊後大野市・九重町・玖珠町など。一方で「昭和56年6月以降」との回答が多いのは、中津市・杵築市・宇佐市などとなっている。

## 2 - (3)

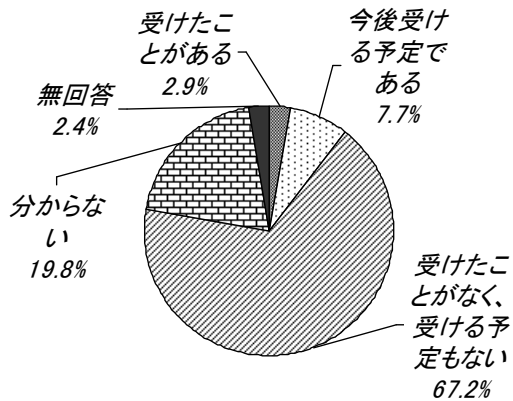
### 【問11】

#### ◎耐震診断・耐震補強について

ご自宅は、耐震診断を受けたことがありますか？（〇はひとつ）  
 （この設問は、前問【問10】でご自宅（借家を含む）の構造が木造で、建築年が昭和56年5月以前であると回答された方のみ回答してください）

1. 受けたことがある→小問①②へ
2. 今後受ける予定である
3. 受けたことがなく、受ける予定もない→小問③へ
4. 分からない

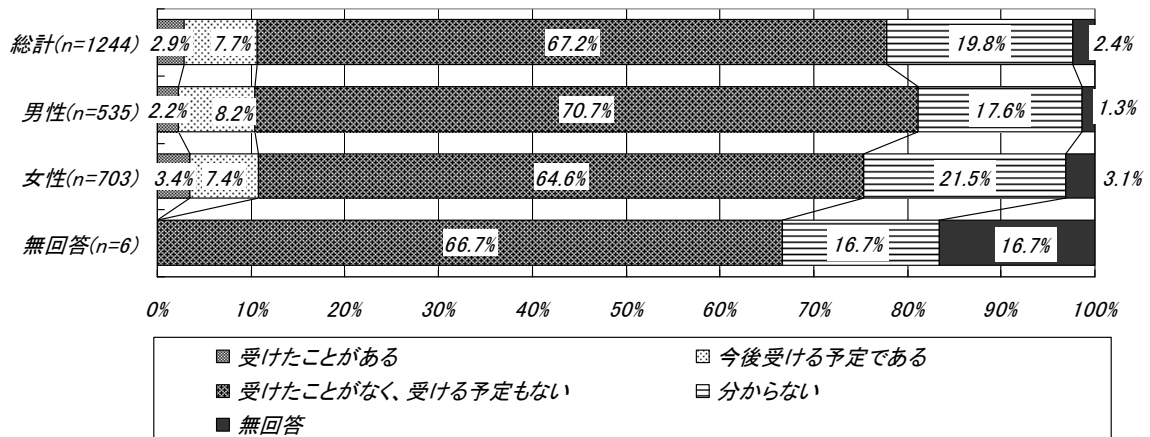
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 受けたことがある	36	2.9%
(2) 今後受ける予定である	96	7.7%
(3) 受けたことがなく、受ける予定もない	836	67.2%
(4) 分からない	246	19.8%
無回答	30	2.4%
計	1,244	100.0%

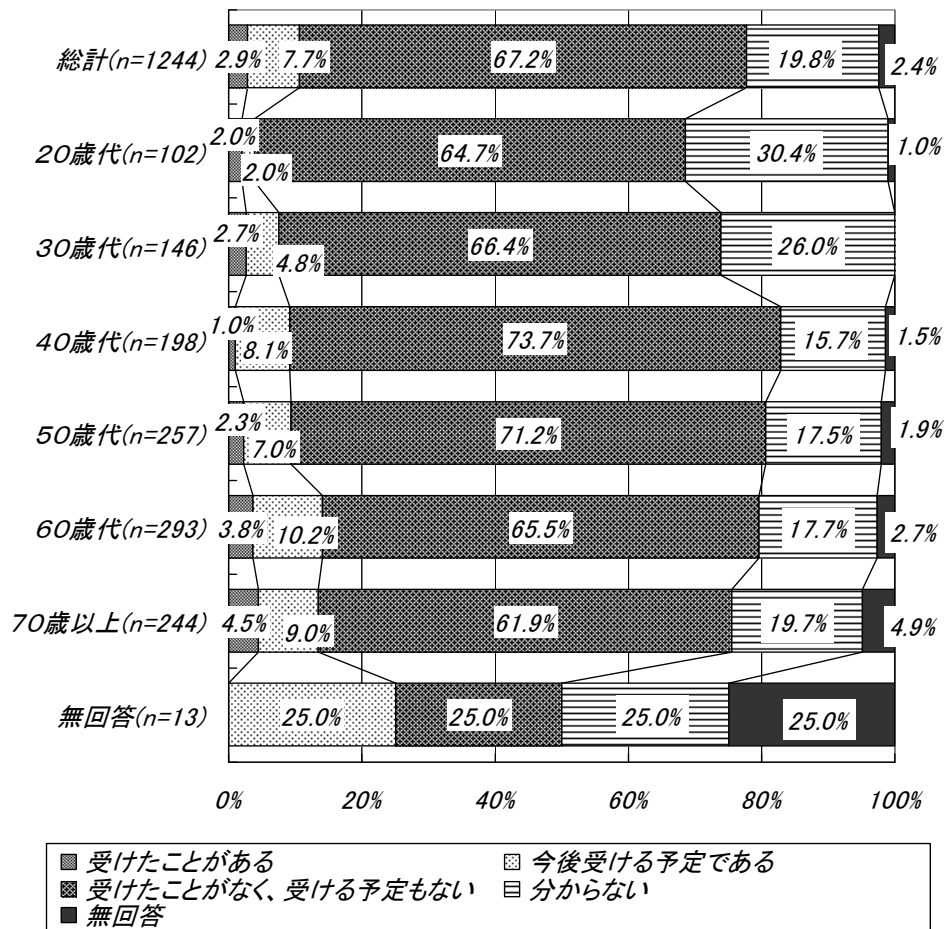
自宅が木造でかつ昭和56年5月以前の建築に該当する方が回答したのが上記結果であるが、最も多かったのは「受けたことがなく、受ける予定もない」が67.2%。次いで「分からない」が19.8%となっている。一方で「今後受ける予定である」は7.7%、「受けたことがある」は2.9%と低い結果となった。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、「受けたことがある」との回答が女性のほうが高く3.4%。また、「受けたことがなく、受ける予定もない」との回答は男性のほうが高く70.7%となっている。

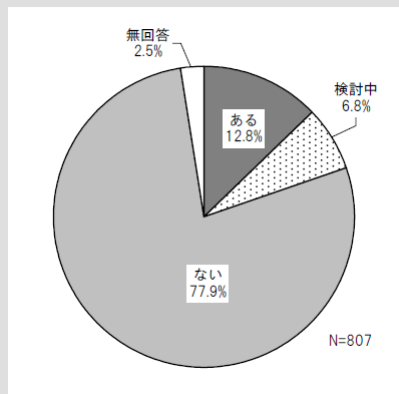
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、全体的には「受けたことがなく、受ける予定もない」の回答が多いが、その中で「受けたことがある」の回答が多いのは60～70歳代以上となっている。

## ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

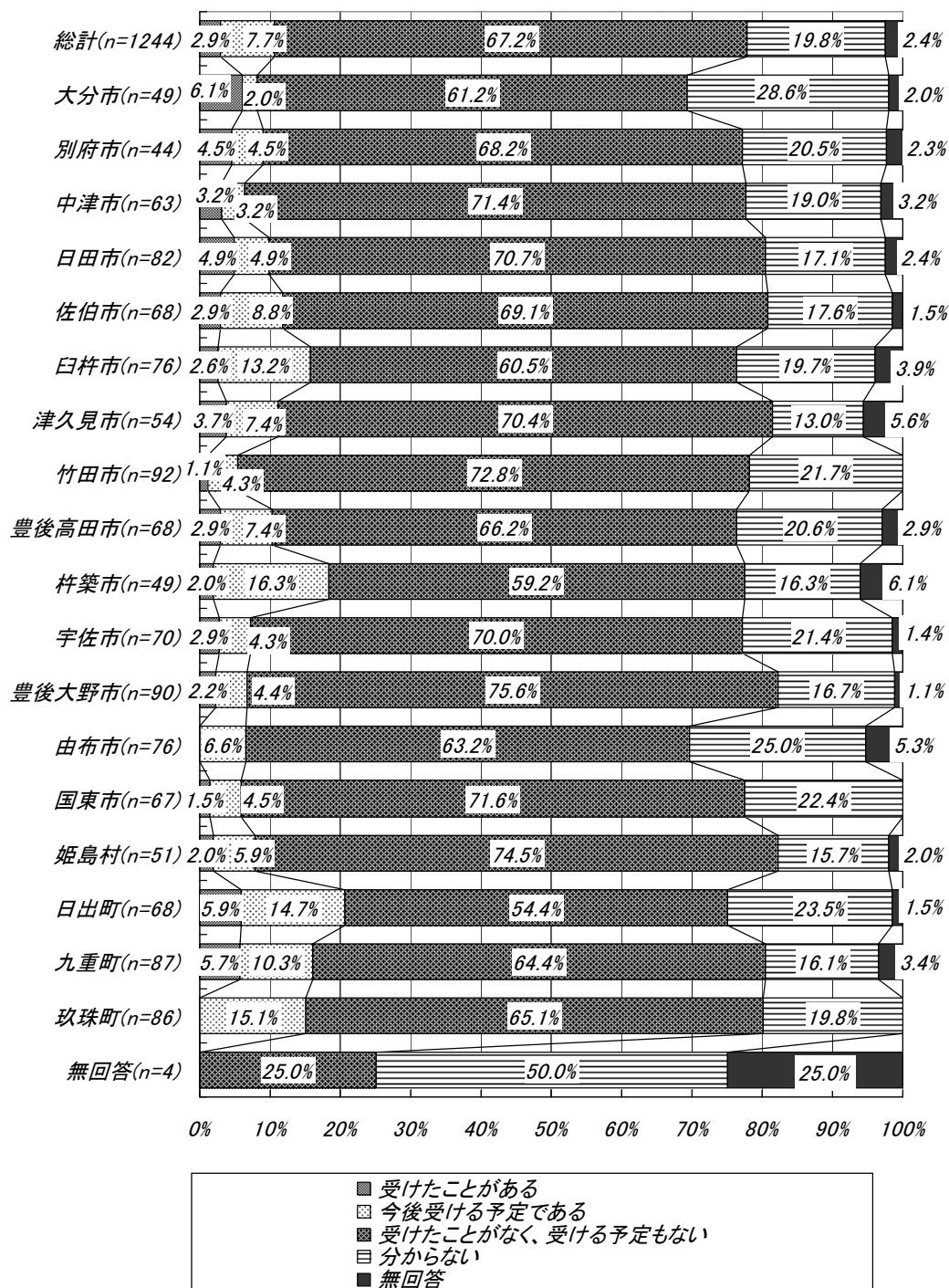
問 耐震診断をしたことがありますか。（木造住宅の方のみ）



静岡県調査をみると、耐震診断の受診は「ない」が77.9%。一方で「ある」は12.8%。

大分県と比較すると「ある」と回答した割合が高くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、「受けたことがある」の回答率が相対的に高いのは、大分市・別府市・日田市・日出町・九重町など。しかし、日田市については「受けたことがなく、受ける予定もない」との回答も多い。一方で「受けたことがなく、受ける予定もない」の回答が多いのは竹田市・豊後大野市・姫島村など。また、「受けたことがある」の回答がなかった地域もみられ、由布市・玖珠町については「受けたことがある」との回答がなかった。

※【問11】で耐震診断を「1. 受けたことがある」と回答した者が対象

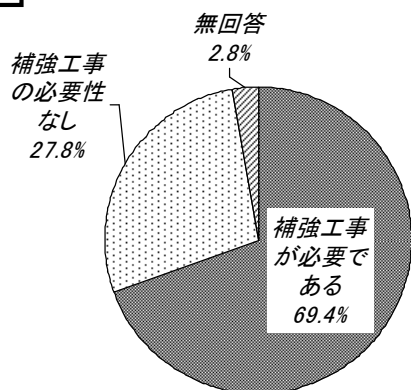
【小問①】

診断結果はどうでしたか？（〇はひとつ）

1. 補強工事が必要である→別途質問へ

2. 補強工事の必要性なし

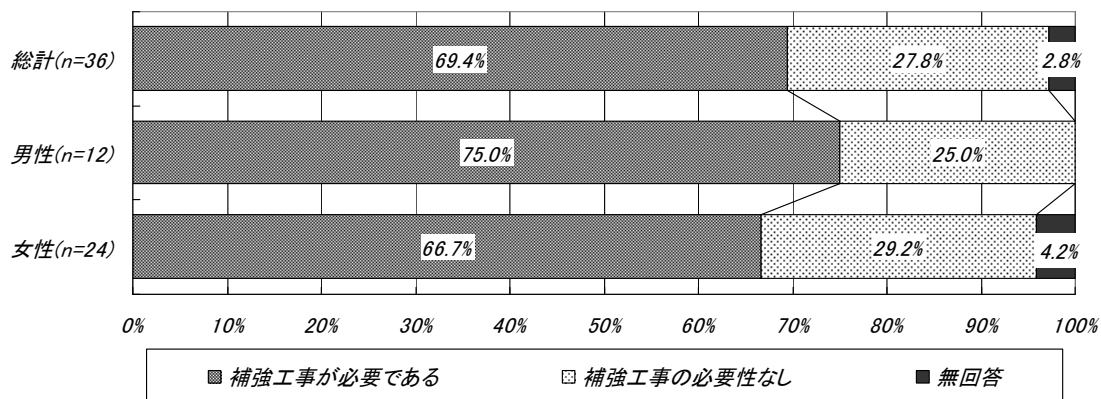
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 補強工事が必要である	25	69.4%
(2) 補強工事の必要性なし	10	27.8%
無回答	1	2.8%
計	36	100.0%

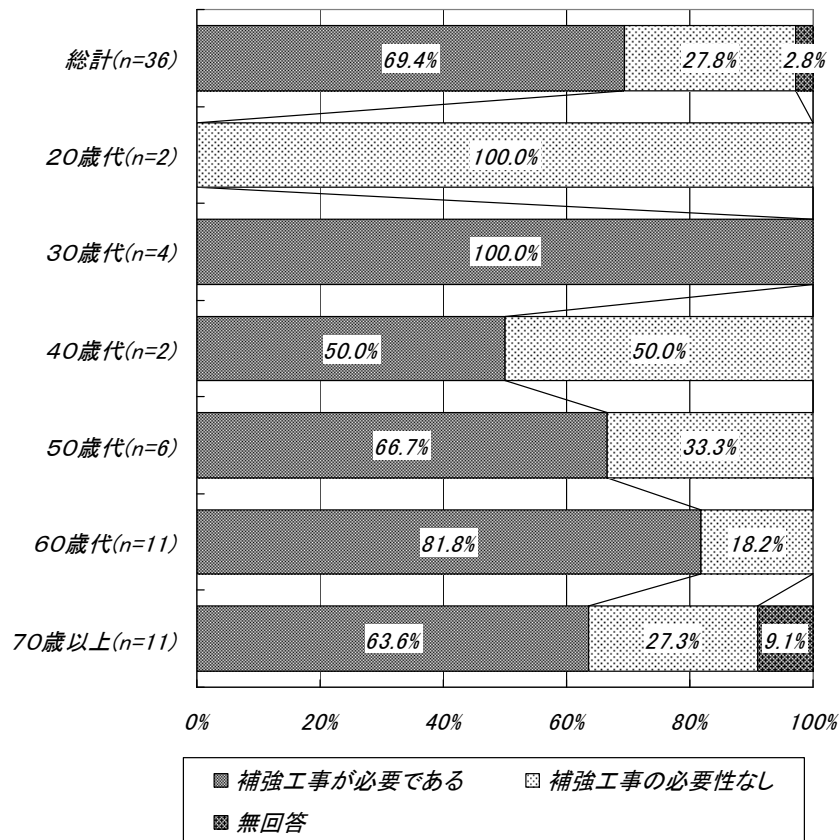
耐震診断を受けたことがあると回答した方に対して尋ねた結果であるが、69.4%が「補強工事が必要である」と診断されたと回答している。一方で「補強工事の必要性なし」と診断された方は27.8%となっている。

男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「補強工事が必要である」との回答が多くなっており、75.0%が回答している。

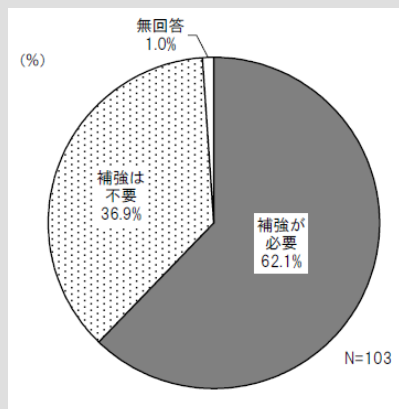
### 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、回答数が少ないために一概には判断ができないが、30歳代では全員が、また、50～60歳代で「補強工事が必要である」との回答が多くなっている。

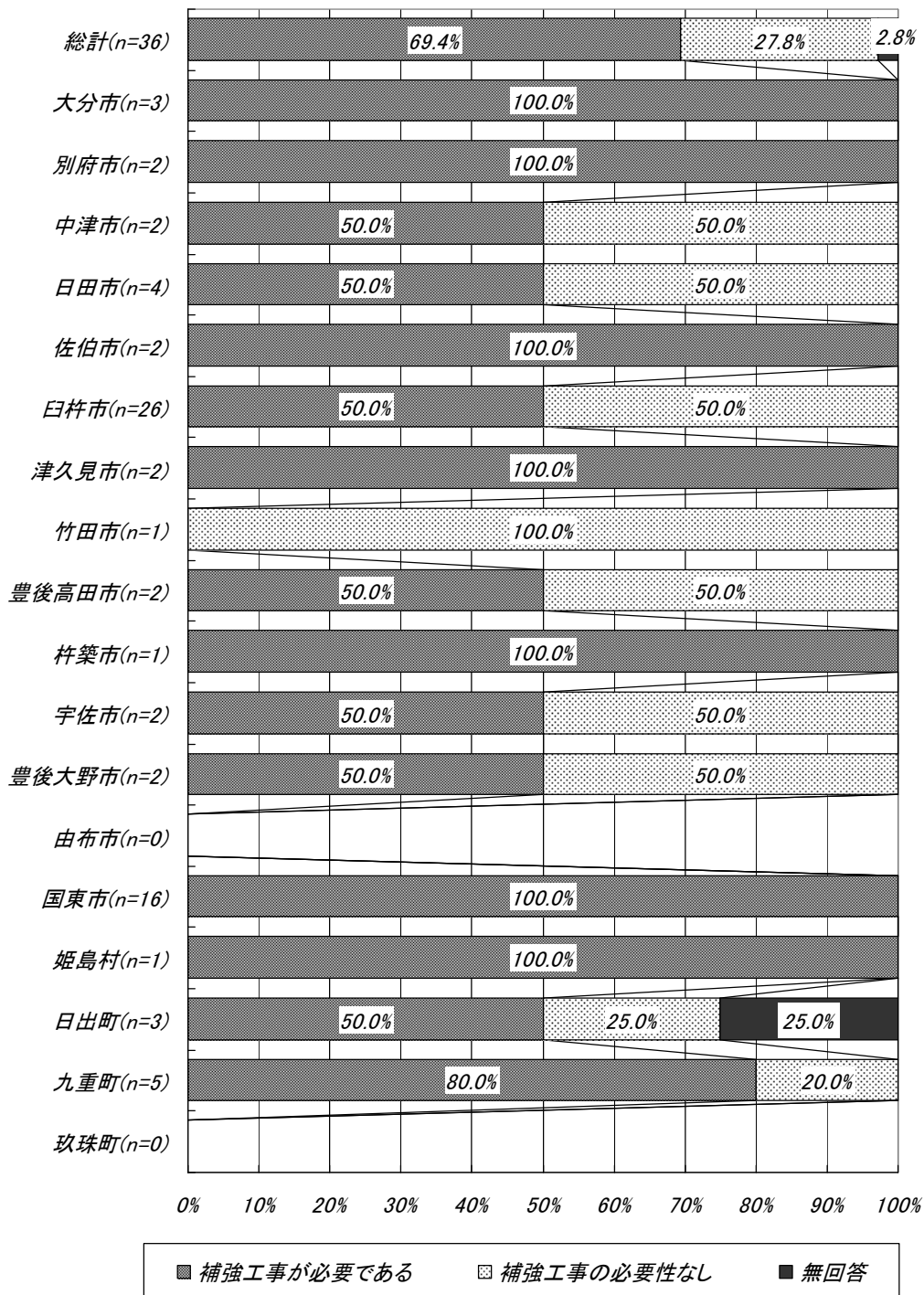
### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

問 耐震診断の結果はいかがでしたか。（木造住宅の方のみ）



静岡県調査をみると、「補強が必要」の回答が62.1%となっている。

### 市町村別集計



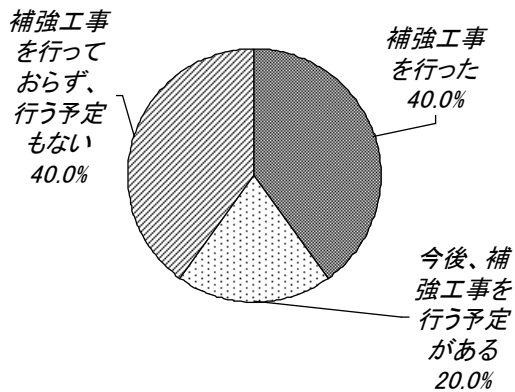
市町村別の状況を見ると、年代別と同じく市町村別でも回答数が少ないために、一概に判断がしにくいですが、回答数が多かった市町村をみると、臼杵市では「補強工事が必要である」と「補強工事の必要性なし」が各 50%。また、国東市では 100%が「補強工事が必要である」という結果となっている。

## 【小問②】

【小問①】で「1. 補強工事が必要である」と回答した方にお聞きします。診断結果を受けて、補強工事を行いましたか？（○はひとつ）

1. 補強工事を行った
2. 今後、補強工事を行う予定がある
3. 補強工事を行っておらず、行う予定もない→別途質問へ

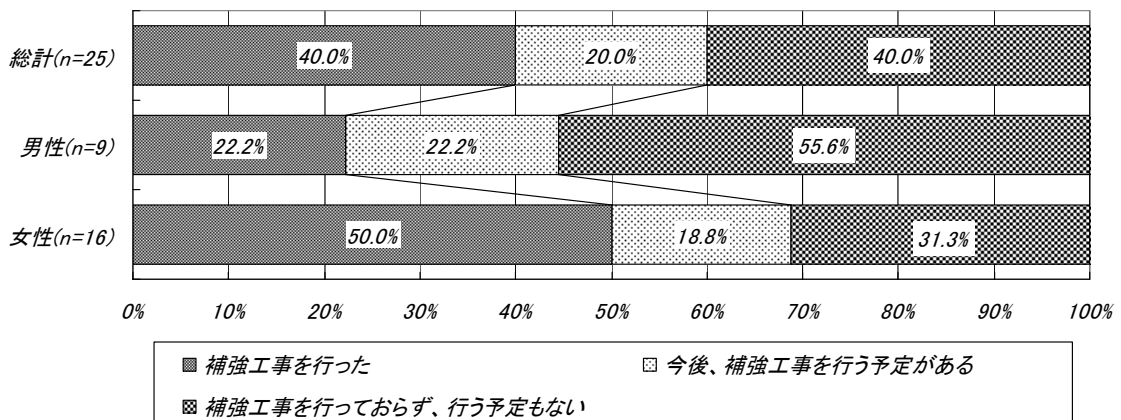
### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 補強工事を行った	10	40.0%
(2) 今後、補強工事を行う予定がある	5	20.0%
(3) 補強工事を行っておらず、行う予定もない	10	40.0%
無回答	0	0.0%
計	25	100.0%

耐震診断を受けて補強工事が必要であると診断された方に対してその後の対応を尋ねた結果であるが、回答の中心は「補強工事を行った」と「補強工事を行っておらず、行う予定もない」が各40%となった。また、「今後、補強工事を行う予定がある」は20.0%となった。

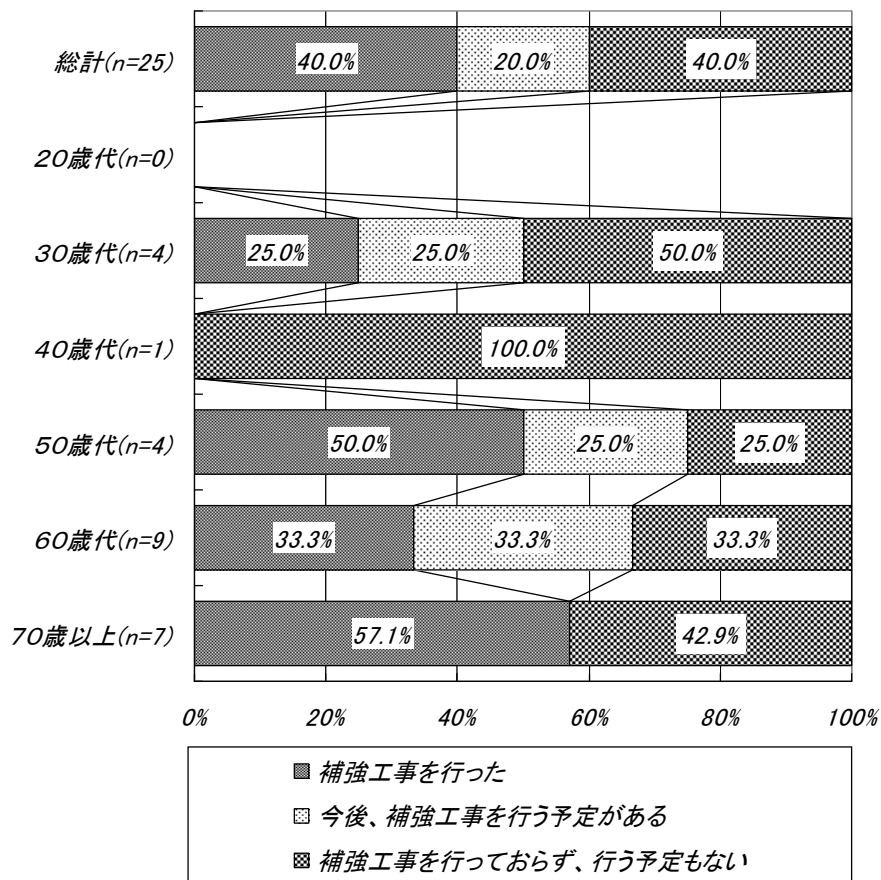
### 男女別集計



男女別について、回答数が少ないために一概に判断することは難しいが、女性のほうが「補強工事を行った」の回答率が50.0%と高くなっている。また、男性の55.6%が「補強工事を行っておらず、行う予定もない」と回答している。



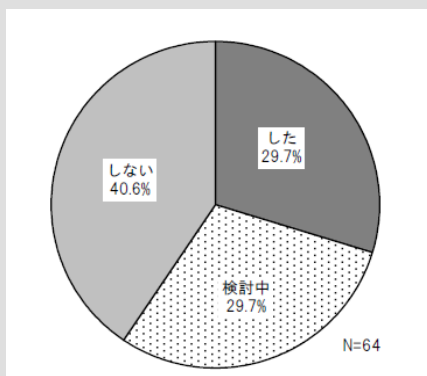
### 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、ここも各年代において回答数が少ないために一概に判断できないが、50歳代、70歳以上では半数以上が「補強工事を行った」と回答。その他の年代では回答がばらついている。

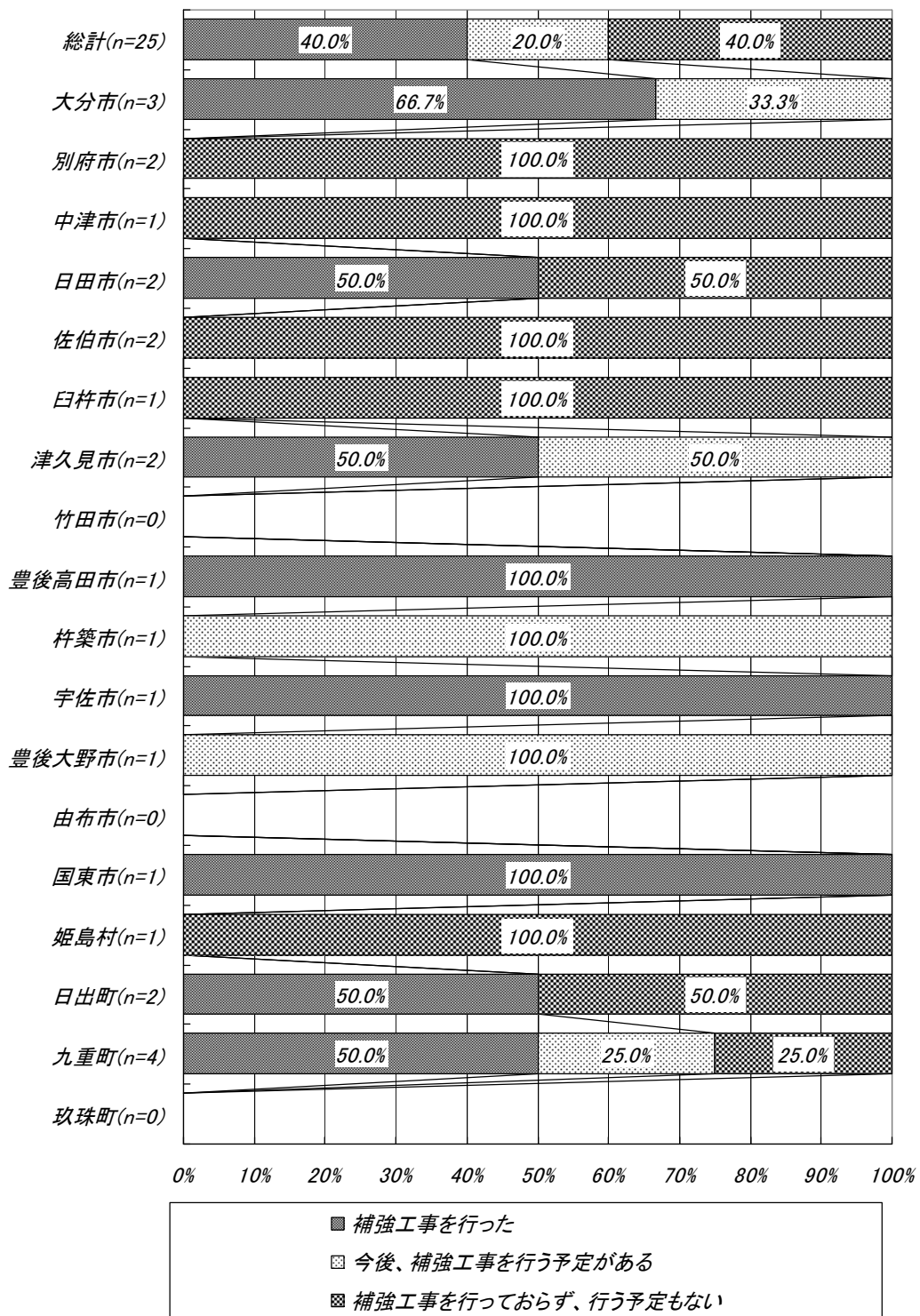
### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

問 診断後、補強しましたか。（木造住宅の方のみ）



静岡県調査をみると、最も回答が多いのは「しない」で40.6%となっている。一方で「した」は29.7%となっている。

### 市町村別集計



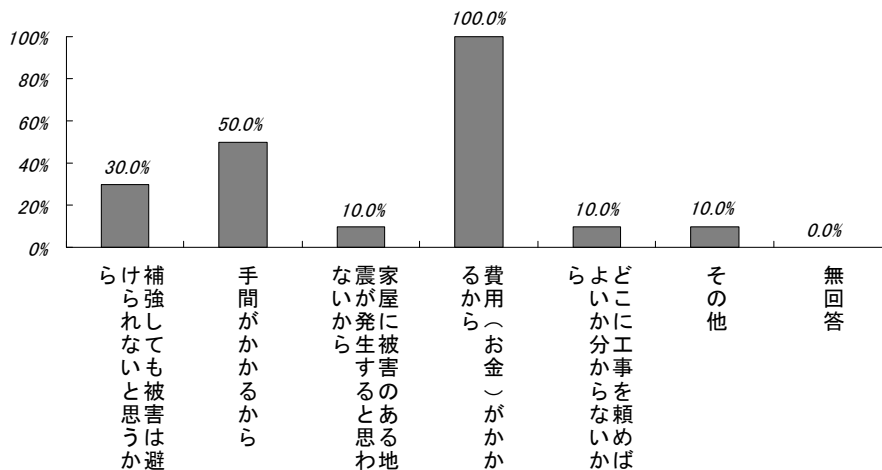
市町村別の状況をみると、各市町村での回答数が少ないために判断が難しいが、大分市では66.7%が「補強工事をおこなった」と回答。

【小問②】で〈3. 補強工事を行っておらず、行う予定もない〉方にお聞きします。

その理由は何ですか？（〇はいくつでも）

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 補強しても被害は避けられないと思うから    | 2. 手間がかかるから     |
| 3. 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから | 4. 費用（お金）がかかるから |
| 5. どこに工事を頼めばよいか分からないから    | 6. その他（ ）       |

全体集計

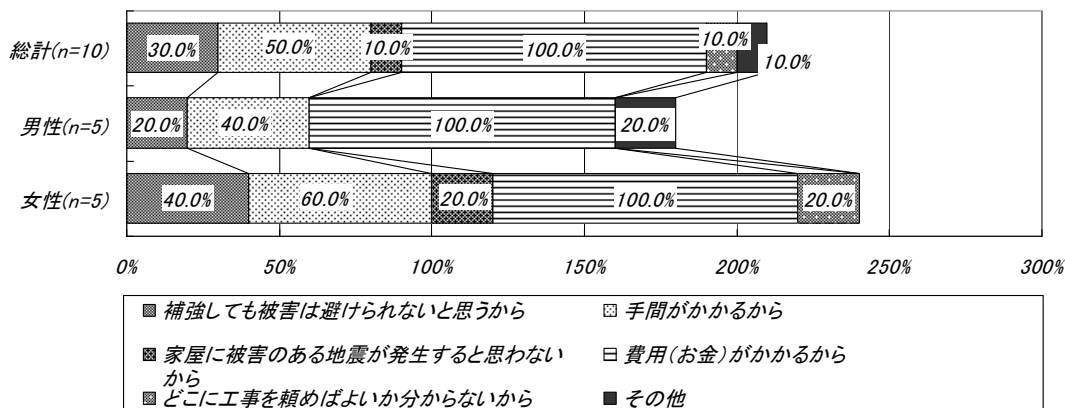


項目	回答数	構成比
(1) 補強しても被害は避けられないと思うから	3	30.0%
(2) 手間がかかるから	5	50.0%
(3) 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから	1	10.0%
(4) 費用（お金）がかかるから	10	100.0%
(5) どこに工事を頼めばよいか分からないから	1	10.0%
(6) その他	1	10.0%
無回答	0	0.0%
計	21	210.0%

回答者数が少ないが、補強工事が必要と診断された方で補強工事を行っていない方に尋ねた結果が上記である。最も回答が多いのは「費用（お金）がかかるから」であり100%の回答。次いで「手間がかかるから」が50.0%の回答となっている。

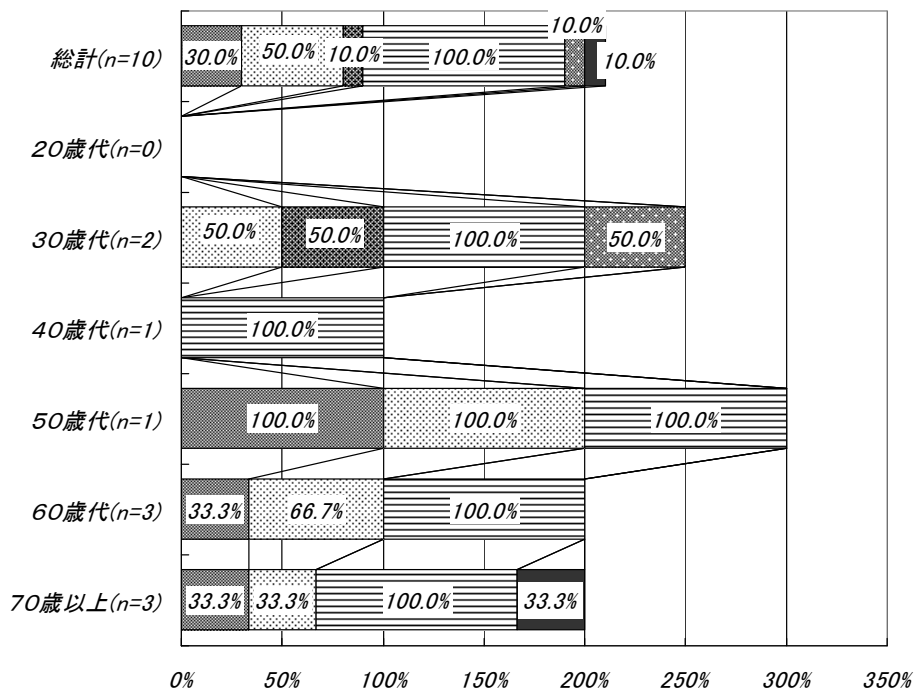
その他回答は「蓄えを消費すると、老後が不安だから」という回答が見られた。

男女別集計



男女別の回答状況を見ると、回答数が少ないために判断が難しいが、男女とも全員が「費用（お金）がかかるから」と回答。また、男性よりも女性のほうが「補強しても被害は避けられないと思うから」「手間がかかるから」との回答が多くなっている。

### 年代別集計

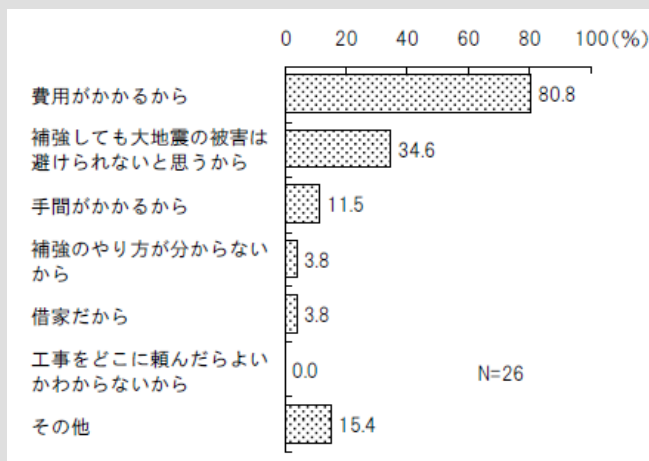


- 補強しても被害は避けられないと思うから
- 手間がかかるから
- 費用(お金)がかかるから
- どこに工事を頼めばよいか分からないから
- その他

年代別の回答状況を見ると、ここも各年代での回答数が少ないために判断が難しいが、どの年代でも全員が「費用(お金)がかかるから」と回答している。

### ◆ 参考データ (静岡県「平成 19 年度 東海地震についての県民意識調査」より)

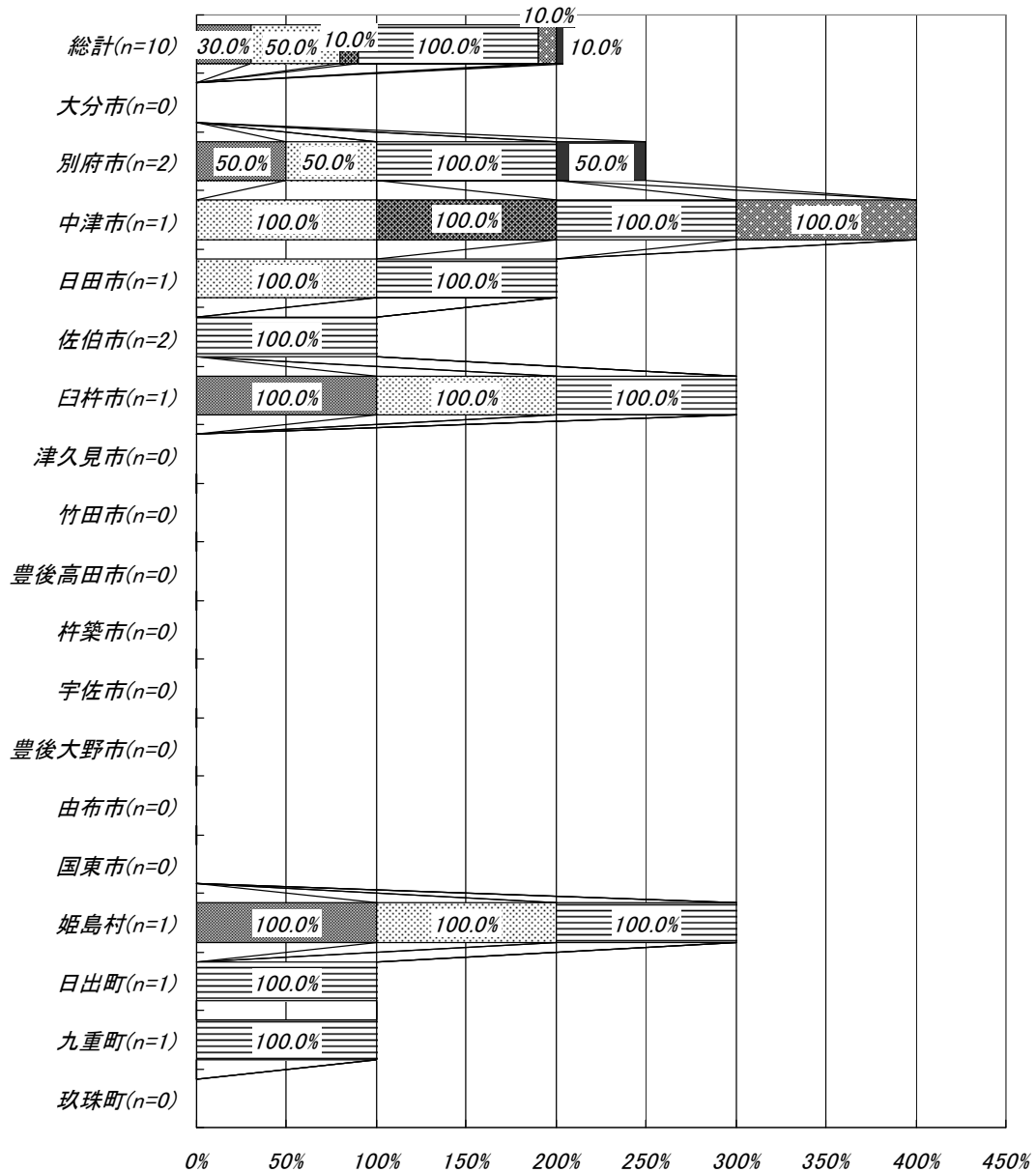
問 補強をしないのはなぜですか。(耐震診断で補強が必要と診断された方のみ)



静岡県調査をみると、補強しない理由としては「費用がかかるから」が最も高く 80.8%が回答している。

大分県の回答と比較すると、「費用がかかるから」は同じように最も多い回答であるが、大分県で 2 番目に多かった「手間がかかるから」は静岡県では 11.5%と低くなっている。

## 市町村別集計



- 補強しても被害は避けられないと思うから
- ▨ 手間がかかるから
- ▩ 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから
- ▨ 費用(お金)がかかるから
- ▨ どこに工事を頼めばよいか分からないから
- その他

市町村別の状況をみると、市町村別での回答数が少ないために判断が難しいが、回答がみられた市町村では全ての市町村において「費用(お金)がかかるから」との回答が見られた。

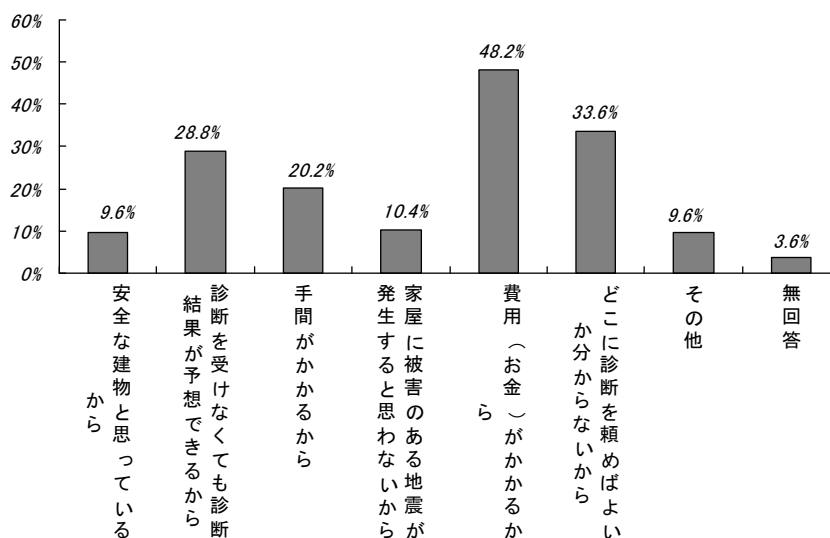
※【問11】で「3. 受けたことがなく、受ける予定もない」と回答した者が対象

【小問③】

耐震診断を受けたことがなく、受ける予定もない理由は何ですか？ (〇はいくつでも)

- 1. 安全な建物と思っているから
- 2. 診断を受けなくても診断結果が予想できるから
- 3. 手間がかかるから
- 4. 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから
- 5. 費用(お金)がかかるから
- 6. どこに診断を頼めばよいか分からないから
- 7. その他( )

全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 安全な建物と思っているから	80	9.6%
(2) 診断を受けなくても診断結果が予想できるから	241	28.8%
(3) 手間がかかるから	169	20.2%
(4) 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから	87	10.4%
(5) 費用(お金)がかかるから	403	48.2%
(6) どこに診断を頼めばよいか分からないから	281	33.6%
(7) その他	80	9.6%
無回答	30	3.6%
計	1,371	164.0%

その他回答(無回答は除く)

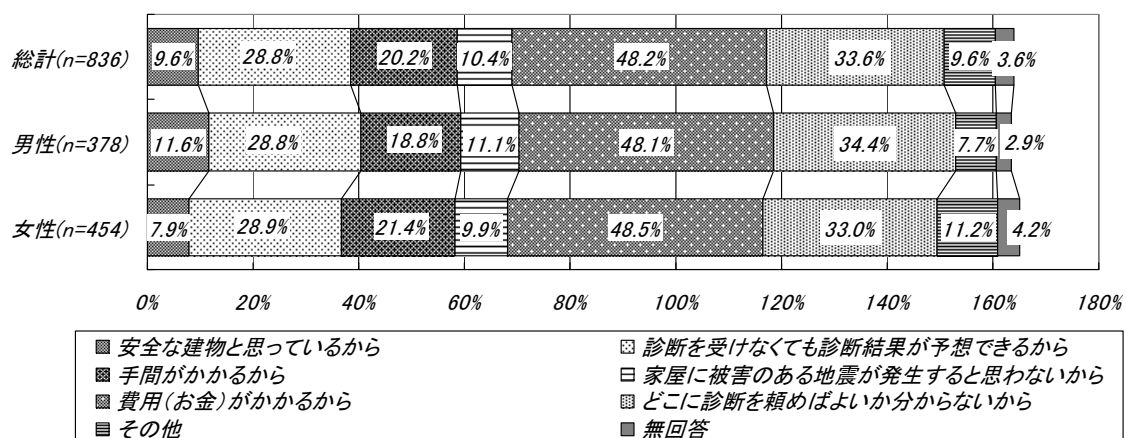
項目	回答数
家が古いので意味がないから。	16
勝手に変更できない理由があるから。	13
いづれ建て直すから。	12
リフォームを実施したばかりだから。大丈夫と思っているから。	8
きっかけがないから。	6
耐震対策を知らないから。	5
転居を考えているから。	4
家族の了解がないから。	2
あきらめているから。	2
補強工事の営業マンに不信感があるから。	1
その他(人が住んでいない。効果が分からない)	2

木造住宅で建築年が昭和56年5月以前の方で、耐震診断を受けたことがなく、受ける予定もない方に尋ねた結果が上記である。

最も回答が多かったのは「費用(お金)がかかるから」で48.2%、次いで「どこに診断を頼めばよいか分からないから」が33.6%と続いている。

その他回答について、回答結果からいくつかの項目に分類して見ると、一部設問項目と同じような内容の回答もみられるが、最も多かったのは「家が古いので意味がないから」となっている。

## 男女別集計

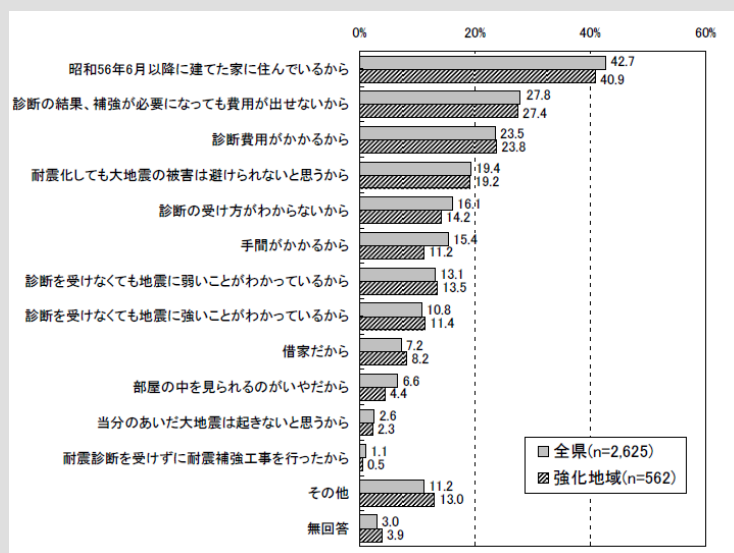


男女別の状況を見ると、男女間で大きな差はないが、男性のほうが「安全な建物とと思っているから」の回答が多く 11.6%。女性では「手間がかかるから」の回答が男性よりも多く 21.4%となっている。

## ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 耐震診断を受けない理由は何ですか。

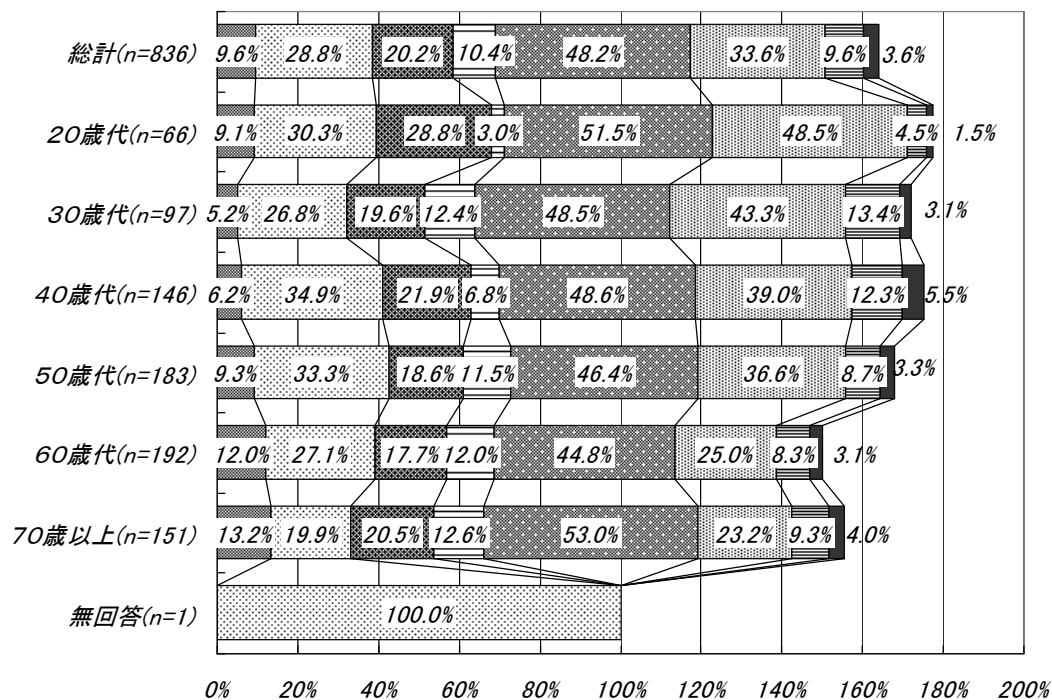
（あなたのご自宅（借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。の質問に対して「受けたことがない」と回答した者に対する質問）



三重県調査をみると、「昭和 56 年 6 月以降に建てた家に住んでいるから」が多い。次いで「診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから」「診断費用がかかるから」と続いている。

大分県とでは、質問項目がやや異なるために単純に比較ができないが、三重県でも「費用」の面が上位に来ている。

## 年代別集計



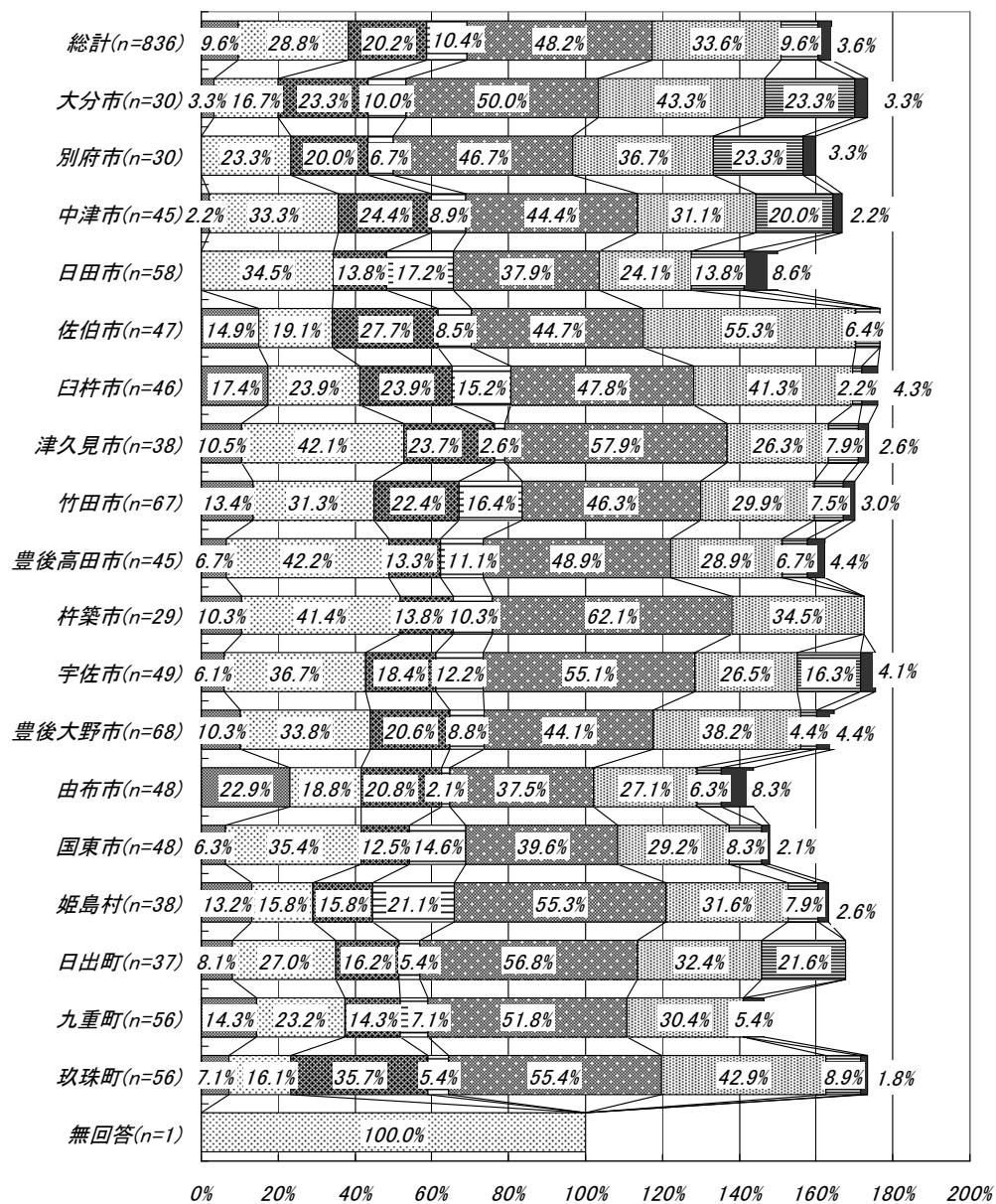
- 安全な建物と思っているから
- 手間がかかるから
- 費用(お金)がかかるから
- その他
- 診断を受けなくても診断結果が予想できるから
- 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから
- どこに診断を頼めばよいか分からないから
- 無回答

年代別の回答状況を見ると、20歳代で「手間がかかるから」「どこに診断を頼めばよいか分からないから」の回答が多い。また30～40歳代では「どこに診断を頼めばよいか分からないから」が多い。

50歳代では全体平均と同じような回答状況となっており、60～70歳代以上では「安全な建物と思っているから」がやや多く、「どこに診断を頼めばよいか分からないから」が少なくなっている。



## 市町村別集計



- 安全な建物とと思っているから
- 手間がかかるから
- 費用(お金)がかかるから
- その他
- 診断を受けなくても診断結果が予想できるから
- 家屋に被害のある地震が発生すると思わないから
- どこに診断を頼めばよいか分からないから
- 無回答

市町村別の状況をみると、各市町村でバラツキがみられるが、その中でいくつかみていくと、臼杵市・由布市などでは「安全な建物とと思っているから」の回答が多い。また、津久見市・豊後高田市・杵築市などでは「診断を受けなくても診断結果が予想できるから」の回答が多い。「費用(お金)がかかるから」の回答については、津久見市・杵築市で多くなっている。佐伯市・玖珠町などでは「手間がかかるから」や「どこに診断を頼めばよいか分からないから」の回答が多い。姫島村では「家屋に被害のある地震が発生するとは思わないから」の回答が多い。

## 2 - (4)

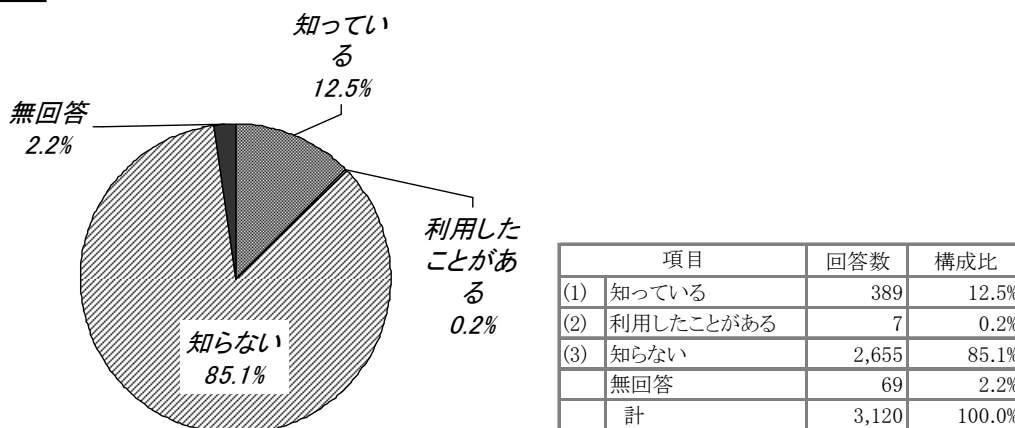
### 【問12】

#### ◎耐震診断(しんだん)費用への助成について

大分県と市町村では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工された 2 階以下の木造一戸建て住宅の耐震診断費用への助成を行っています。この助成制度をご存じですか？（〇はひとつ）

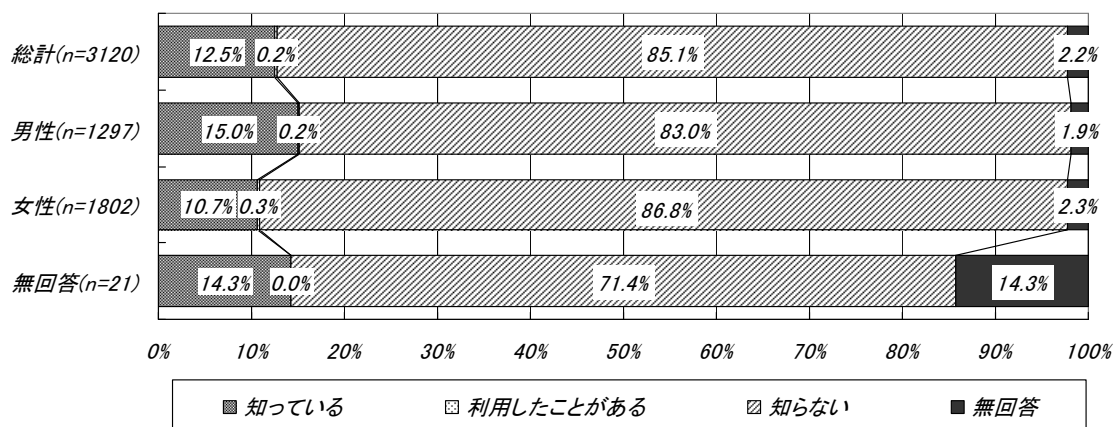
1. 知っている                      2. 利用したことがある                      3. 知らない

#### 全体集計



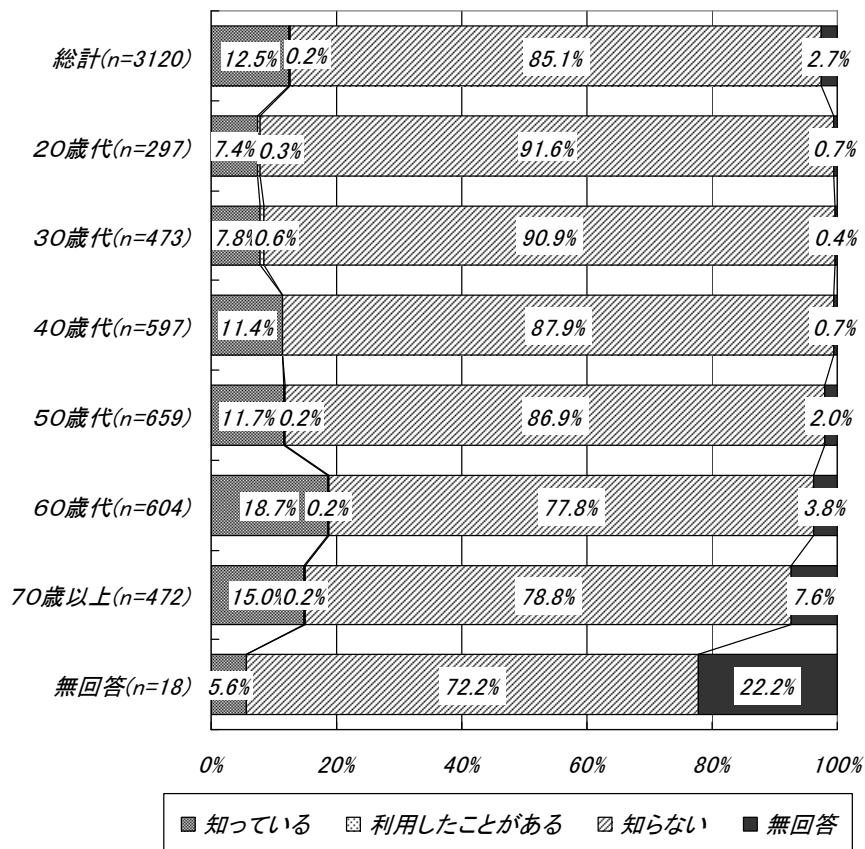
全体では「知らない」が 85.1%と大多数を占めている。「知っている」は 12.5%、「利用したことがある」については 0.2%となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「知っている」と回答した割合が高く、15.0%が回答している。

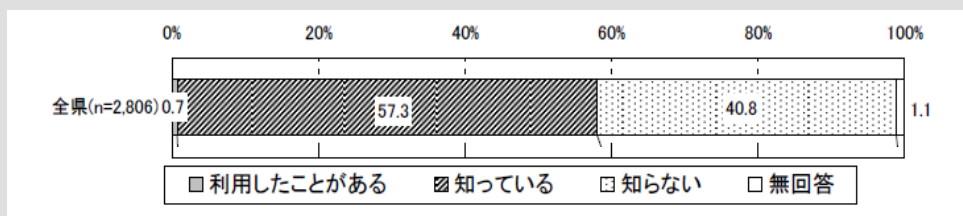
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年代が高くなるにつれて「知っている」とした回答が多くなっており、特に60歳代で18.7%が「知っている」と回答しているまた、「利用したことがある」についてはどの年代もあまり違いはない。

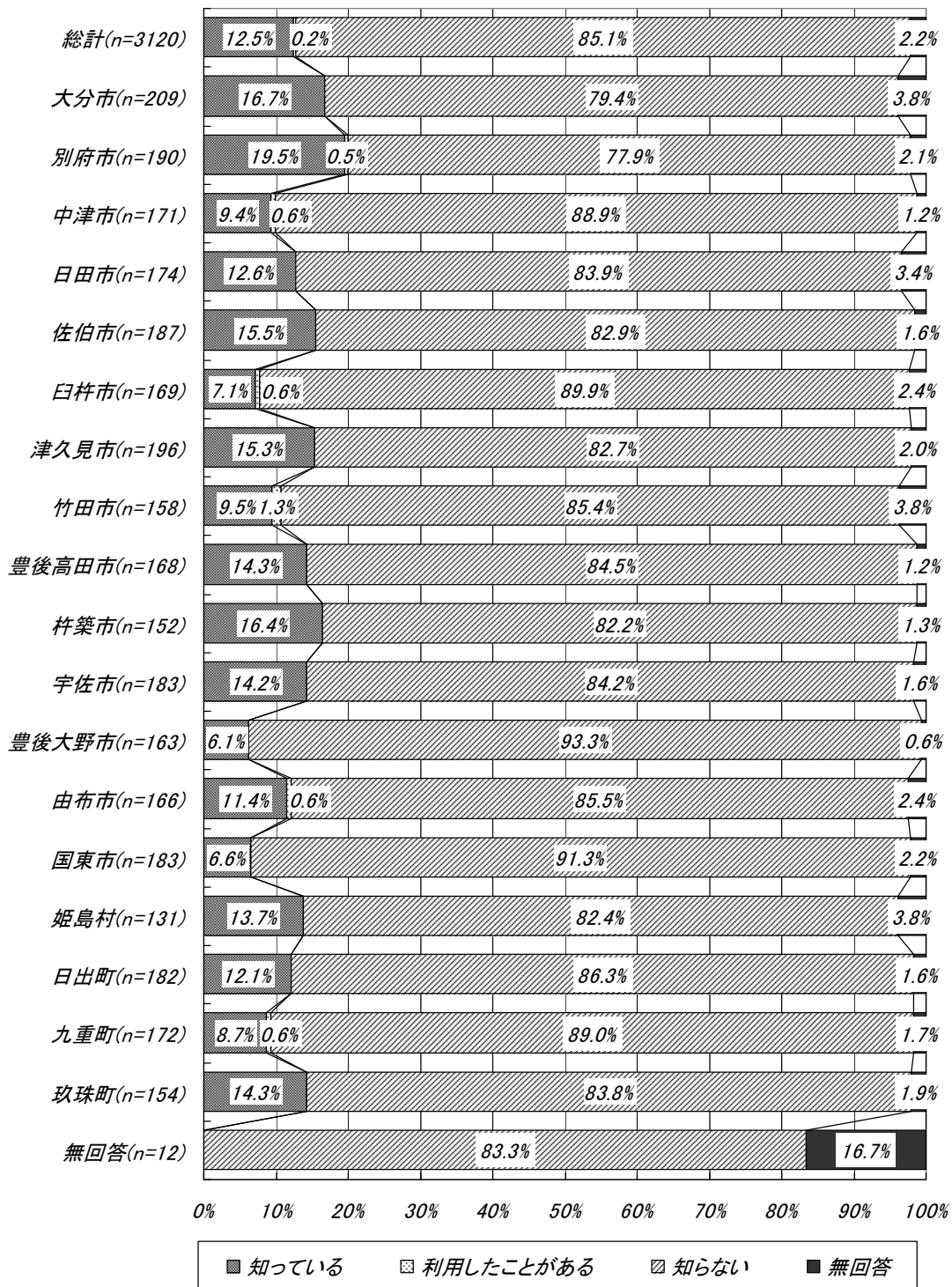
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震診断費用の補助を行っています。あなたは、この制度を知っていますか。



三重県調査をみると「知っている」が57.3%、「知らない」が40.8%。大分県と比較すると「知っている」割合が45%程度高くなっている。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、「知っている」とした回答が多いのは大分市・別府市・杵築市などとなっている。「知らない」の回答が多いのは、臼杵市・豊後大野市・国東市などとなっている。「利用したことがある」については、全体的に回答数が少ないが、竹田市が1.3%と最も回答率が高くなっている。

## 2 - (5)

### 【問13】

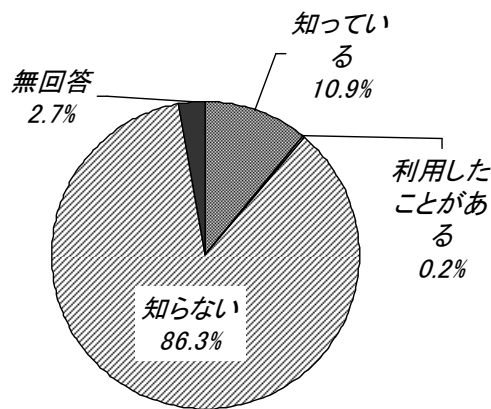
#### ◎耐震補強(ほきょう)費用への助成について

大分県と市町村（佐伯市を除く）では、昭和56年5月31日以前に着工された2階以下の木造一戸建て住宅の耐震補強費用への助成を行っています。この助成制度をご存じですか？

（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 利用したことがある                      3. 知らない

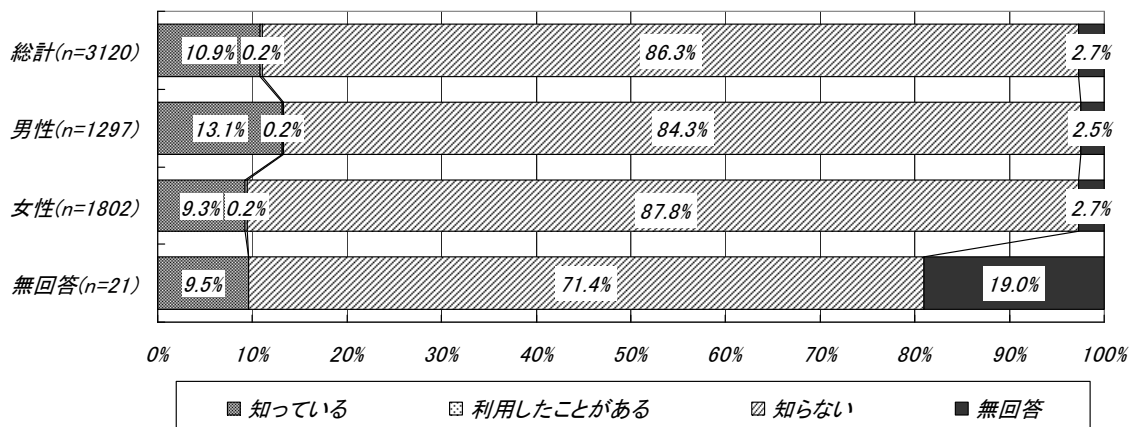
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	339	10.9%
(2) 利用したことがある	6	0.2%
(3) 知らない	2,691	86.3%
無回答	84	2.7%
計	3,120	100.0%

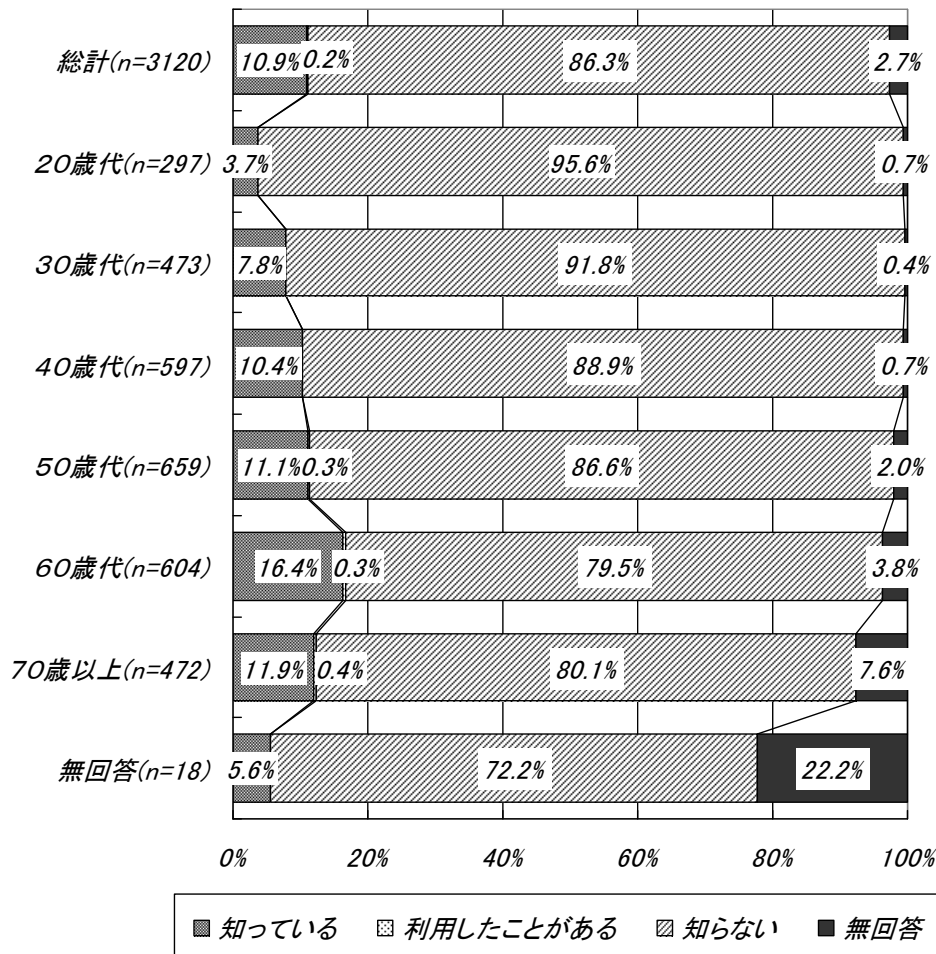
全体では「知らない」が86.3%と大多数を占めている。一方で「知っている」は10.9%。「利用したことがある」は0.2%に留まっている。前問の耐震診断費用への助成の認知状況と比較すると「知っている」の回答割合がやや低くなっている。

#### 男女別集計



男女別の状況をみると、男性のほうが女性よりも「知っている」とした回答が多く13.1%が回答。一方で「利用したことがある」については男女とも差がない。

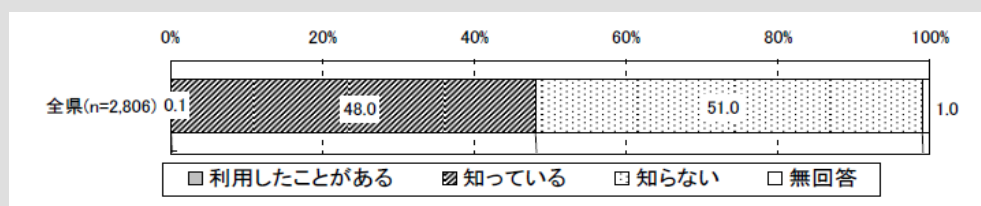
### 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「知っている」との回答が多くなっており、前問の「耐震診断費用への助成」についてと同様に60歳代の回答が多くなっている。一方で「利用したことがある」とした回答については、全体的に回答数が少ないが50～70歳代以上で0.3～0.4%の回答となっている。

### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震補強工事費用の一部（一部の市町を除く）について、補助を行っています。あなたは、この制度を知っていますか。



三重県調査をみると「知っている」が48.0%、「知らない」が51.0%。大分県と比較すると「知っている」割合が約40%程度高くなっている。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、「知っている」とした回答が多いのは、大分市・別府市など。一方で「知らない」の回答が多いのは、豊後大野市・国東市・九重町などとなっている。「利用したことがある」についてはどの市町村でも回答率が低い。

2 - (6)

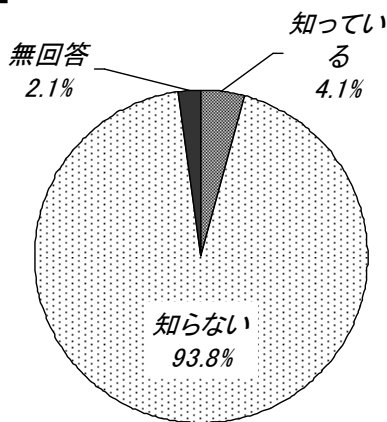
**【問14】**

**◎おおいた住まい守り隊について**

大分県には、安心して耐震補強業務を依頼できる専門の設計及び施工業者である「おおいた住まい守り隊」の制度がありますが、ご存じですか？（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 知らない

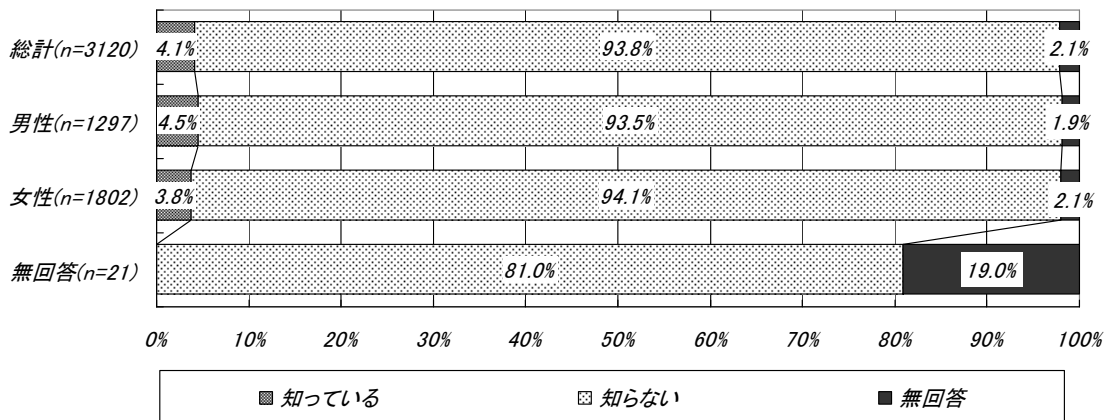
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	128	4.1%
(2) 知らない	2,926	93.8%
無回答	66	2.1%
計	3,120	100.0%

全体では「知らない」が93.8%と大多数を占めている。「知っている」は4.1%となっている。

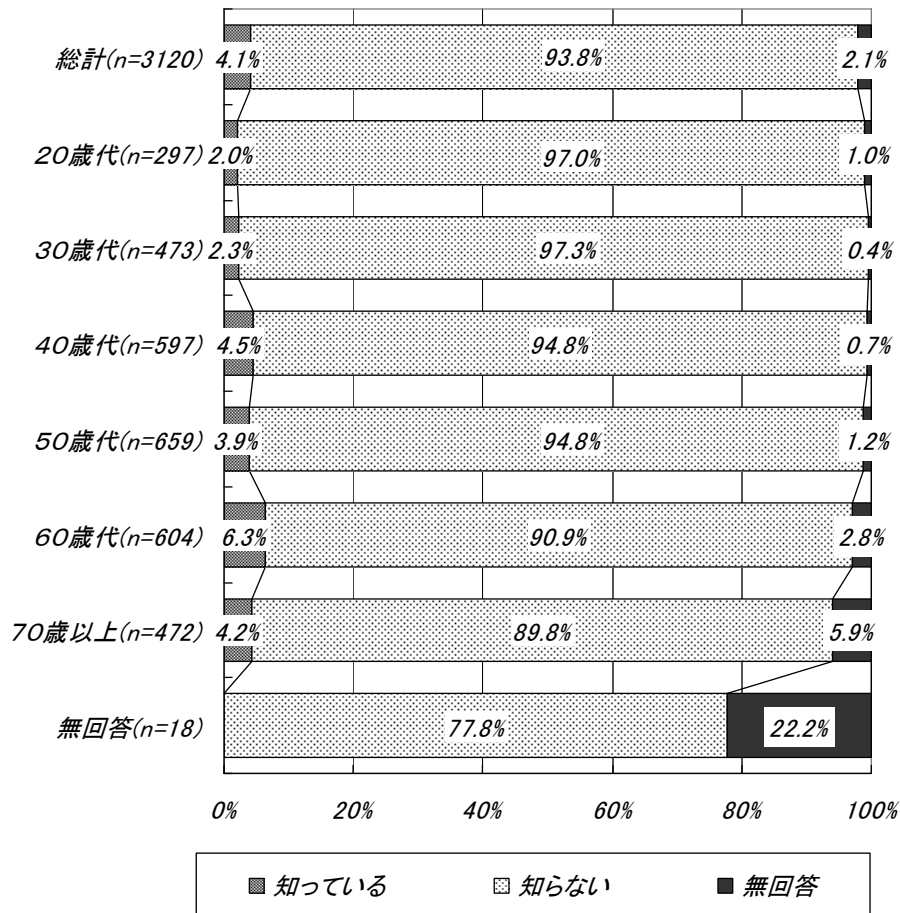
**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男女とも大きな違いはないが、男性のほうが「知っている」の回答が多く4.5%となっている。

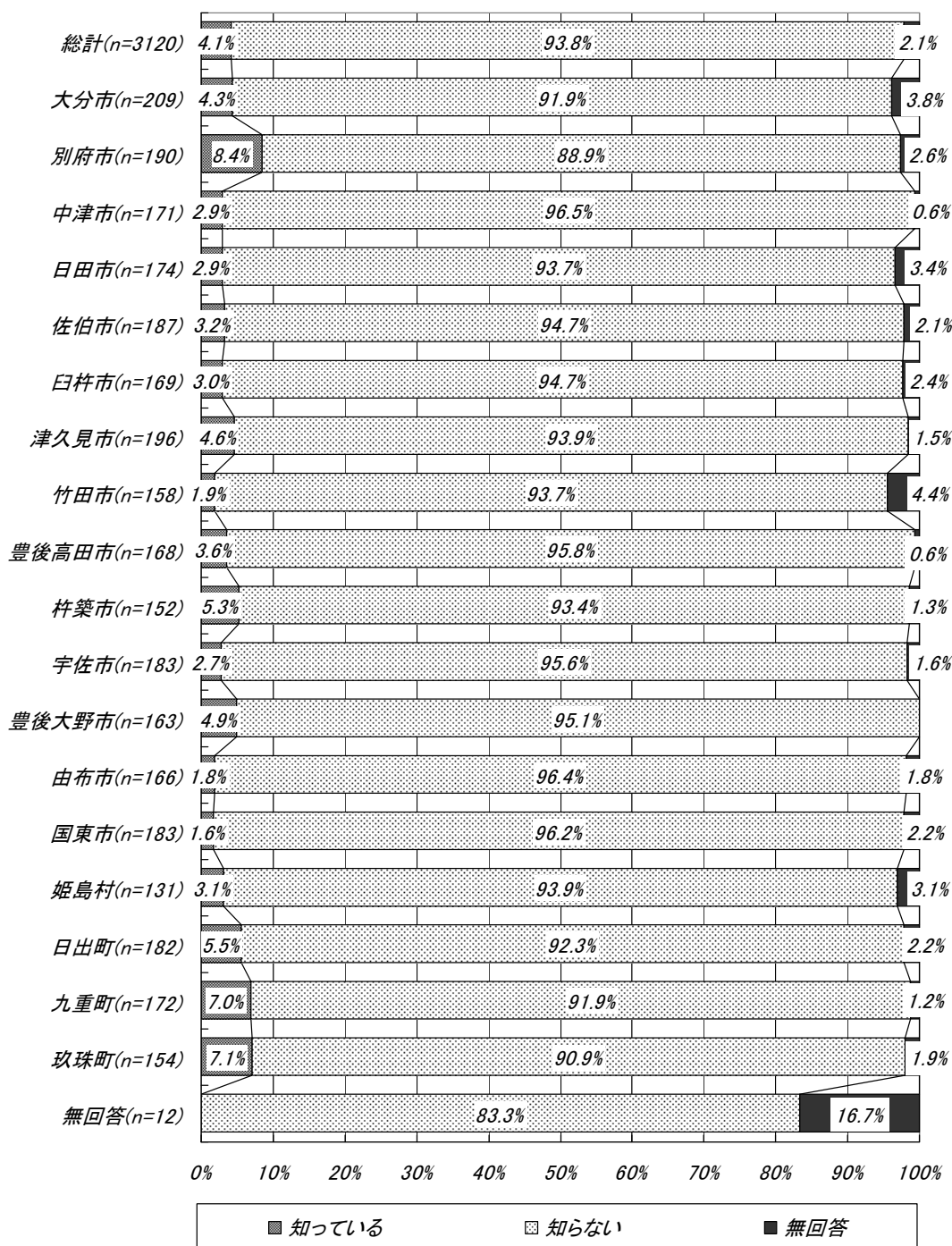


## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年代が高くなるにつれて「知っている」の回答がやや多くなっており、特に60歳代が最も回答が多く6.3%が「知っている」と回答している。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、全体的には「知らない」の回答が中心であるが、その中で「知っている」の回答が多いのは、別府市・九重町・玖珠町など。一方で「知らない」の回答が多いのは中津市・由布市・国東市などとなっている。

## 2 - (7)

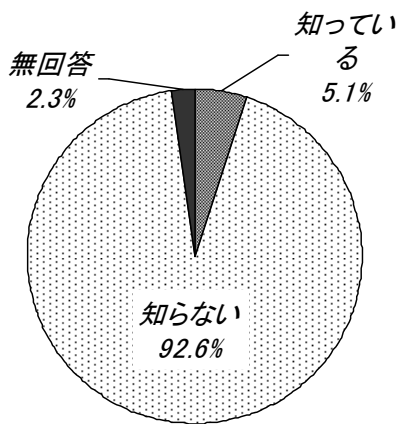
### 【問15】

#### ◎耐震・リフォームアドバイザーについて

大分県では、平成21年7月から、昭和56年5月までに建てられた木造一戸建て住宅を対象に、耐震化やリフォームに関する相談に応じる建築士のアドバイザーを現地に派遣しています。この派遣制度をご存じですか（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 知らない

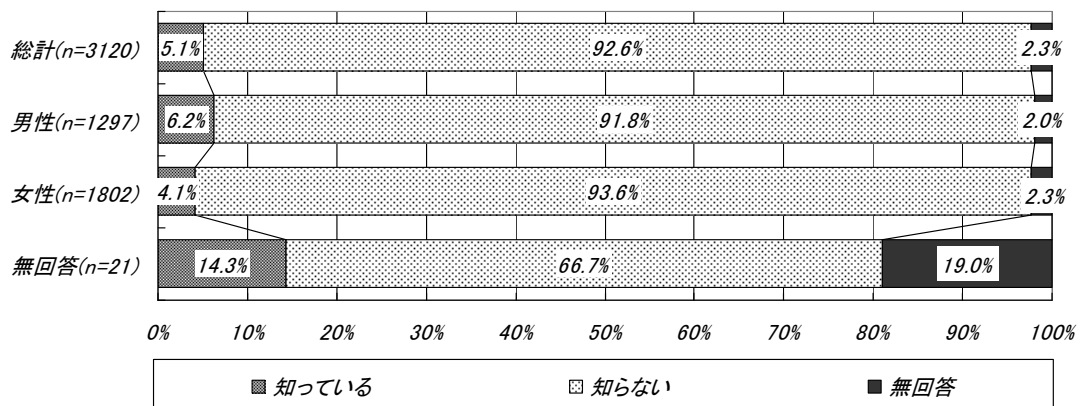
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	158	5.1%
(2) 知らない	2,890	92.6%
無回答	72	2.3%
計	3,120	100.0%

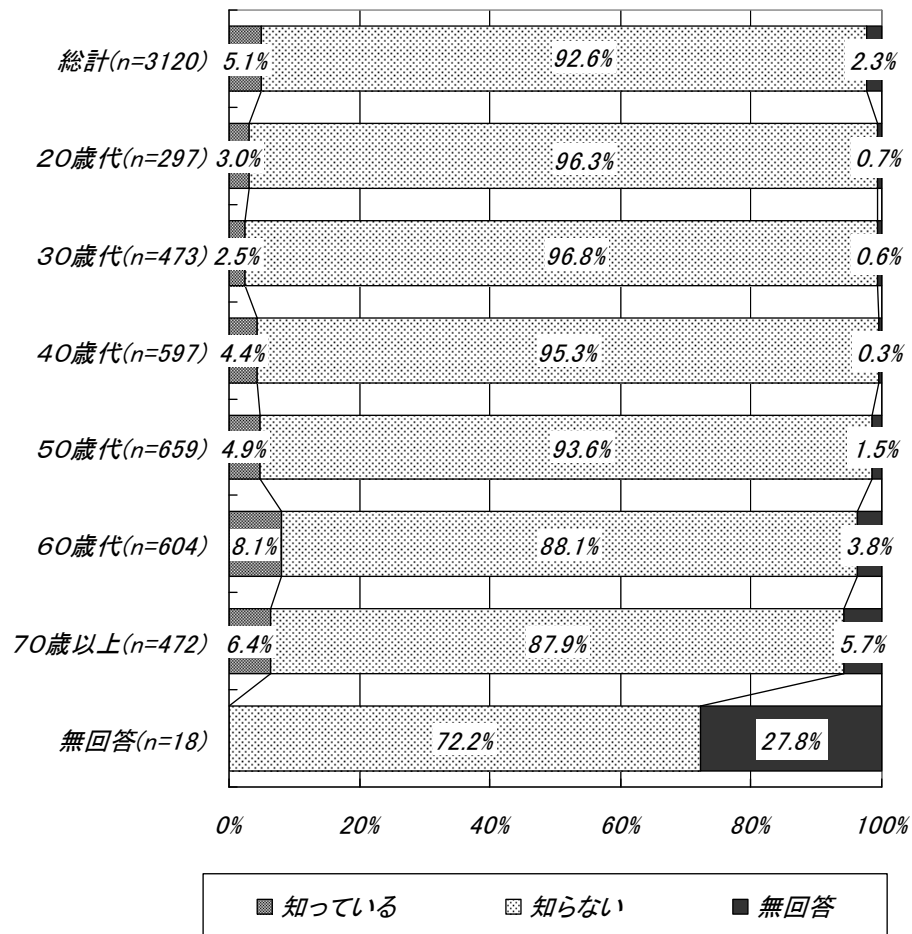
「知らない」が大多数を占めており92.6%となっている。「知っている」は5.1%となっている。

#### 男女別集計



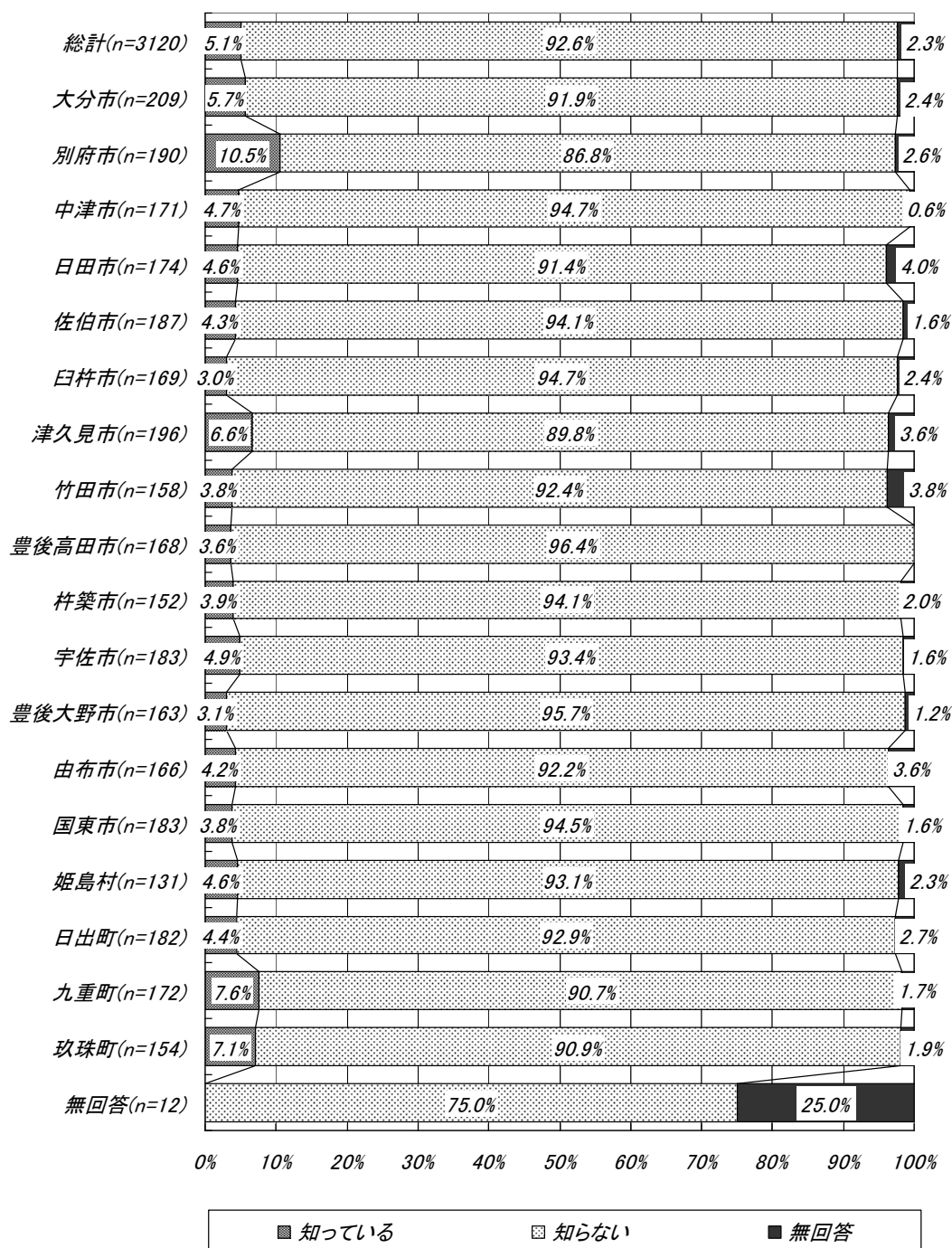
男女別の状況を見ると、男女別によって大きな差はないが、男性のほうが「知っている」とした回答が多くなっており、6.2%が回答している。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年代が上昇するにつれて「知っている」との回答が多くなっており、ここでも60歳代の認知率が最も高く、8.1%が「知っている」と回答している。

## 市町村別集計



市町村別の状況をみると、「知っている」の回答が多いのは別府市・九重町・玖珠町などで「おおいた住まい守り隊」の制度の認知率と同様の傾向となっている。一方で、「知らない」の回答が多いのは豊後高田市・豊後大野市などとなっている。

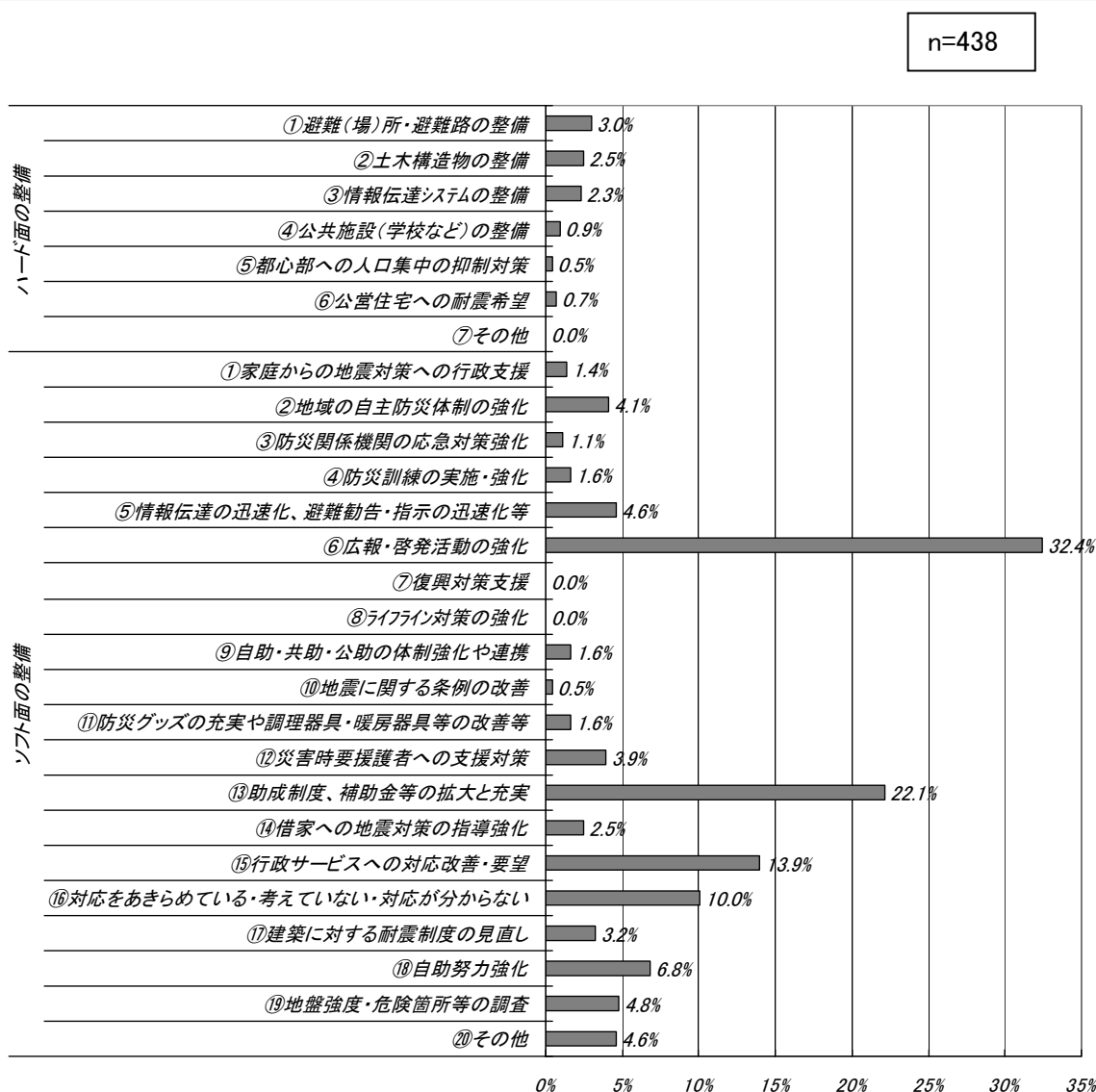
2 - (8)

**【問16】**

**◎住まいの地震対策への要望・提案について**

大地震による被害を最小化するためには、特に住まいの地震対策を着実に進めることが重要です。住まいの地震対策に関する要望・提案があれば記入してください

ここでは記入があった自由回答を、まずハード面とソフト面に区分し、その後それぞれの項目において、回答をベースにいくつかの要望項目に区分し、住まいの地震対策への要望・提案を整理した。



＜ソフト面のその他回答＞

- ・ 特になし
- ・ あまり深く考えたことがない
- ・ 耐震補強等が充実している現状で問題はないと思われる

回答で多かった項目を見ていくと「広報・啓発活動の強化」「助成制度、補助金等の拡大と充実」「行政サービスへの対応改善・要望」となっている。ハード面よりもソフト面での要望が多くなっている。

---

## 自由要望・提案の回答内容

ここでは、問 16 の自由回答について、回答が多かった各テーマについて、内容を整理のうえ一部掲載する。

### <広報・啓発活動の強化>

- アンケートを見て、知らない事が多かった。もっと情報を得やすいようにしてほしい。
- いろいろな取り組みの情報が分からない。もっと「情報」が届く努力をしてほしい。
- 市町村の広報等でもっと具体的に制度を教えてほしい。
- テレビなどのメディアを通して正しい知識を県民一人一人に知ってもらい、意識の向上に努めてほしい。
- 知らないことばかりだったので、もっとケーブルTVなどを使って地震に関する事を身近に教えてほしい。

### <助成制度、補助金等の拡大と充実>

- S56年以降の建築物についても助成制度を設ける。
- 高齢者が多い世帯では家が老朽化しているが、修繕するのに費用がかかる。助成が必要ではないだろうか。
- 耐震補強費用への助成制度を佐伯市でもおこなってほしい。
- 耐震制度について全戸無料化とする。そして、各世帯で実施し結果を通知する。

### <行政サービスへの対応改善・要望>

- 大分県すべての建築物について耐震調査をおこないランク付けを実施する。
- 行政にもっと防災意識を高く持ってもらいたい。
- どのような世帯においても利用できるような制度があればよい。
- もっと行政が各家庭を回りアドバイスをする。

### <対応をあきらめている>

- あまりに家が古く耐震補強ができない。
- 自分が住んでいる地域がどの程度地震の被害が予想されるかがもっとわかれば、より対策への意識が強まると思う。今の状況ではあまり危機感がない。
- 電気等がダメになり、避難するにはどうしたらいいのか、一人ではどうにもできない。

### <自助努力強化>

- 避難用具を用意しておく。
- 一度診断を受ける必要があるかと思う。
- お互いに両隣に声を掛け合い、助け合う様、日頃から話し合っておく。

### <地盤強度・危険箇所等の調査>

- 家屋自体の耐震性の重要さもあるが、建築されている地盤強度の詳細調査も必要と思う。
- 住宅の裏側が山であるが、地震の際は崩れる危険性がある。こういった場所を点検してほしい。

### 3. 日ごろの備えについて

#### 3-(1)

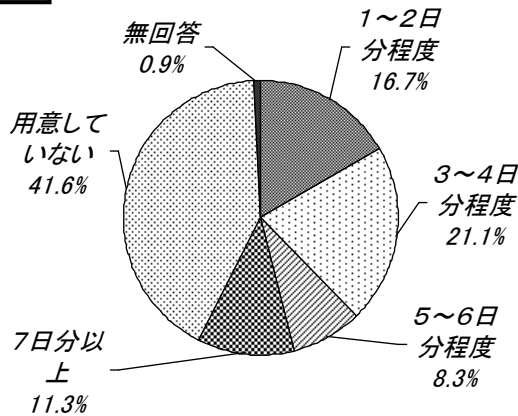
##### 【問17】

##### ◎食糧の備蓄について

ご家庭では、非常持ち出し用の食料を含めて、何日分の食料がありますか？（〇はひとつ）

- 1. 1～2日分程度                      2. 3～4日分程度                      3. 5～6日分程度
- 4. 7日分以上                        5. 用意していない

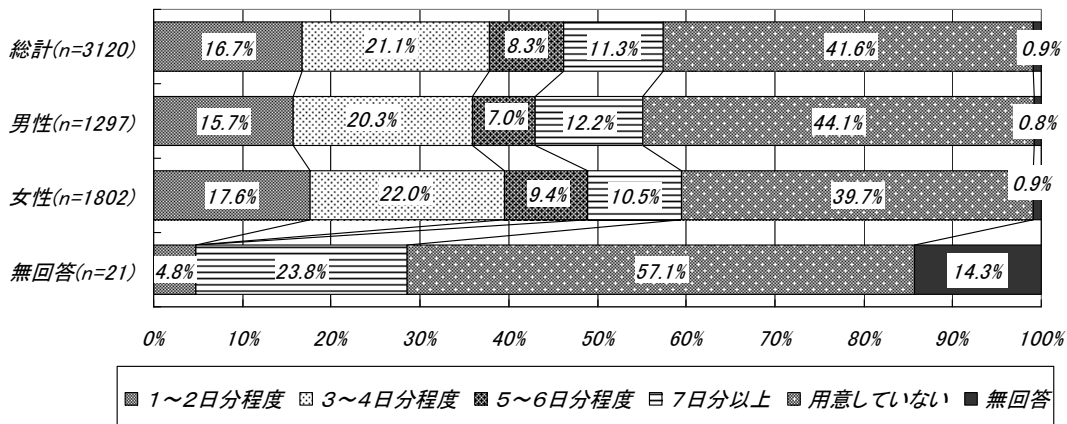
##### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 1～2日分程度	521	16.7%
(2) 3～4日分程度	659	21.1%
(3) 5～6日分程度	260	8.3%
(4) 7日分以上	352	11.3%
(5) 用意していない	1,299	41.6%
無回答	29	0.9%
計	3,120	100.0%

全体では「用意していない」が41.6%と最も多い。次いで「3～4日分程度」が21.1%、さらに「1～2日分程度」が16.7%となっている。1日以上「用意している」を合わせると57.4%となり「用意していない」を上回る結果となった。

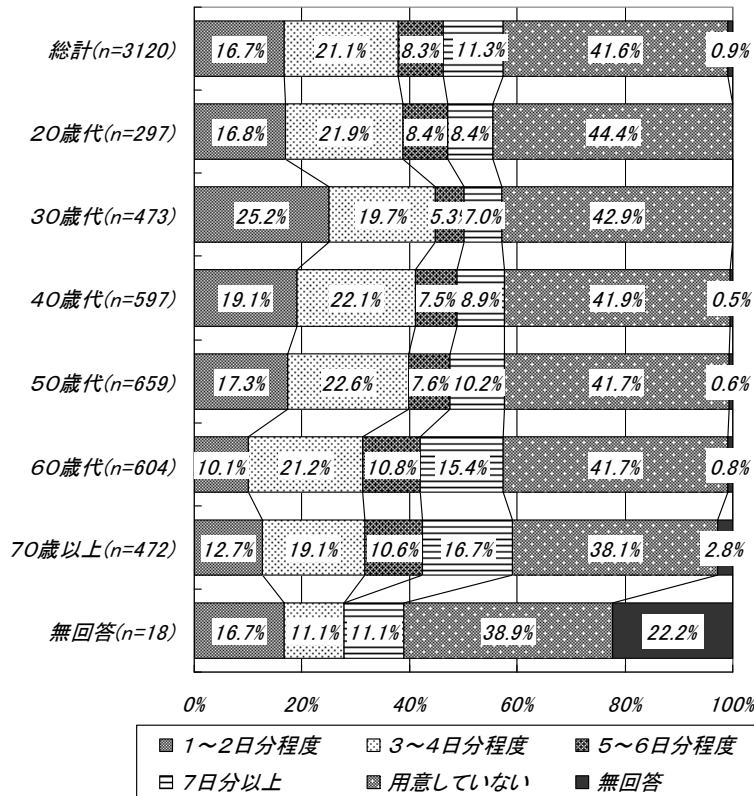
##### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男性よりも女性のほうが総体的に「1～2日分程度」から「7日分以上」までの回答率が高くなっており、備蓄率が高くなっている。男性では「7日分以上」の回答が女性よりも多くなっているものの「用意していない」の回答が女性よりも多い。



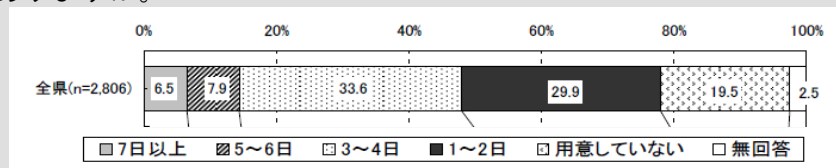
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、傾向としては年齢が高くなるにつれて、用意している期間が長くなっており、60～70歳代以上では「7日分以上」の回答が他の年代よりも多くなっている。その他、30歳代では「1～2日分程度」が多くなっており25.2%が回答。また、「用意していない」については、20歳代で最も多くなっている。

### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

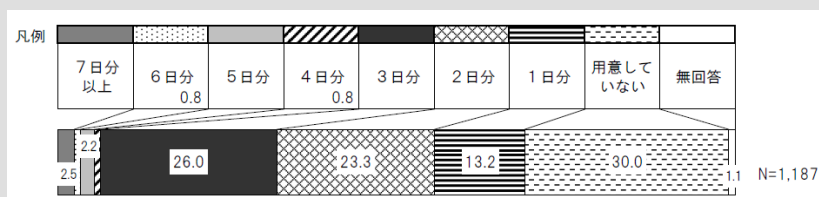
問 お宅では、災害で電気・水道・ガス等が途絶した時、家にある食料（備蓄分含む）は何日分ありますか。



三重県調査では「3～4日分」が33.6%。「用意していない」は19.5%と大分県よりも備蓄率が高い。

### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

問 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。



静岡県調査では、「3日分」が26.0%。「用意していない」は30.0%と大分県よりも備蓄率が高い。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、各市町村でバラツキがみられるが、その中でいくつか特徴的な市町村を見ると、大分市・別府市・宇佐市・由布市・九重町などで「用意していない」の回答が少なく、かつ備蓄率が高いといえる。

一方で、中津市・竹田市・杵築市・国東市・姫島村などでは「用意していない」の回答が多くなっており、特に姫島村では60.3%が「用意していない」と回答している。

### 3 - (2)

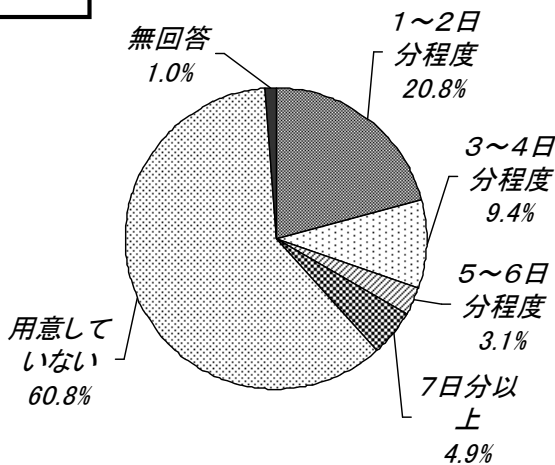
#### 【問18】

#### ◎飲料水の備蓄について

ご家庭では、災害時用に何日分の飲料水を備蓄していますか？  
ひとり1日あたり3リットルで計算してください。（〇はひとつ）

1. 1～2日分程度
2. 3～4日分程度
3. 5～6日分程度
4. 7日分以上
5. 用意していない

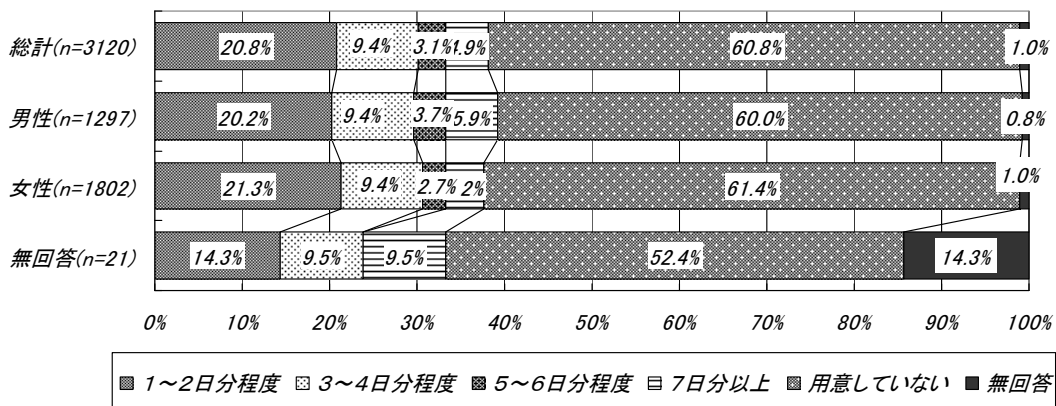
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 1～2日分程度	649	20.8%
(2) 3～4日分程度	293	9.4%
(3) 5～6日分程度	96	3.1%
(4) 7日分以上	154	4.9%
(5) 用意していない	1,896	60.8%
無回答	32	1.0%
計	3,120	100.0%

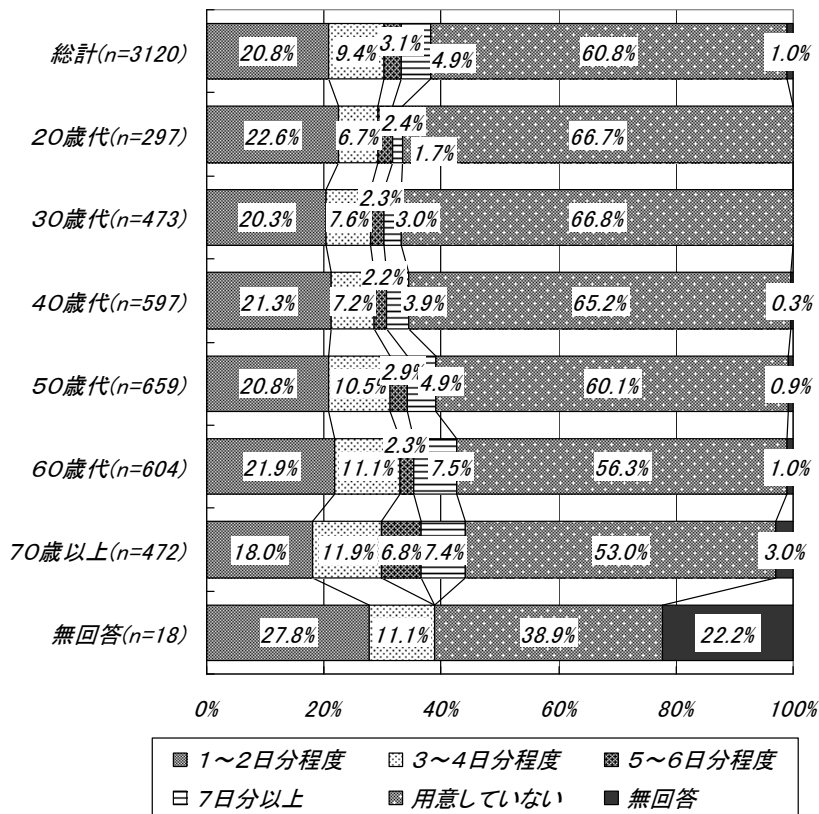
全体では「用意していない」が60.8%で最も多い。次いで「1～2日分程度」が20.8%。さらに「3～4日分程度」が9.4%と続いている。1日以上分を準備しているのは約4割となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況をみると、男女とも大きな違いはなく「用意していない」と回答は60%程度となっている。

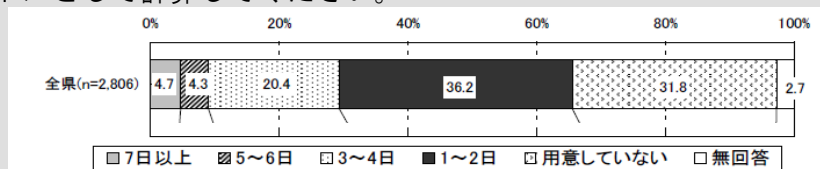
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、前問の食料の備蓄率と同様な傾向となっており、年齢が高くなるにつれて準備している期間が長くなっている。また、「用意していない」の回答率も若い世代ほど高くなっている。

### ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 お宅では、災害時用に何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり一日あたり 3 リットルとして計算してください。



三重県調査では「3~4日分」が 36.2%。「用意していない」は 31.8%と大分県よりも備蓄率が高い。

### ◆ 参考データ（静岡県「平成 19 年度 東海地震についての県民意識調査」より）

問 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり 1 日あたり 3 リットルで計算してください。



静岡県調査では、「1日分」が 22.7%。「備蓄していない」は 28.2%と大分県よりも備蓄率が高い。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、中津市・竹田市・姫島村などでは「用意していない」の回答が多くなっている。姫島村では食料の備蓄率が低かったが、飲料水についても同様の傾向となっている。一方で、大分市・別府市・豊後高田市などでは備蓄率が高くなっている。

### 3 - (3)

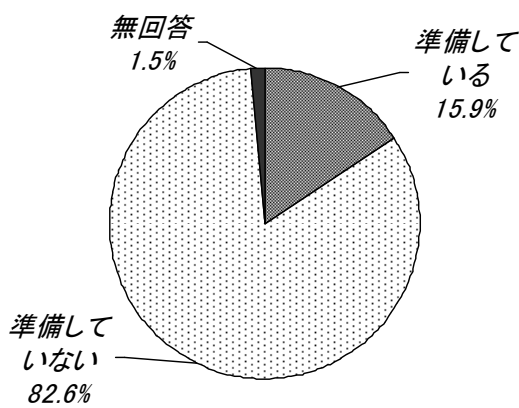
#### 【問19】

#### ◎非常持ち出し袋について

ご家庭では、救急医薬品や懐中電灯などを入れた非常持ち出し袋を準備していますか？  
 (○はひとつ)

1. 準備している →[別途質問へ](#)      2. 準備していない

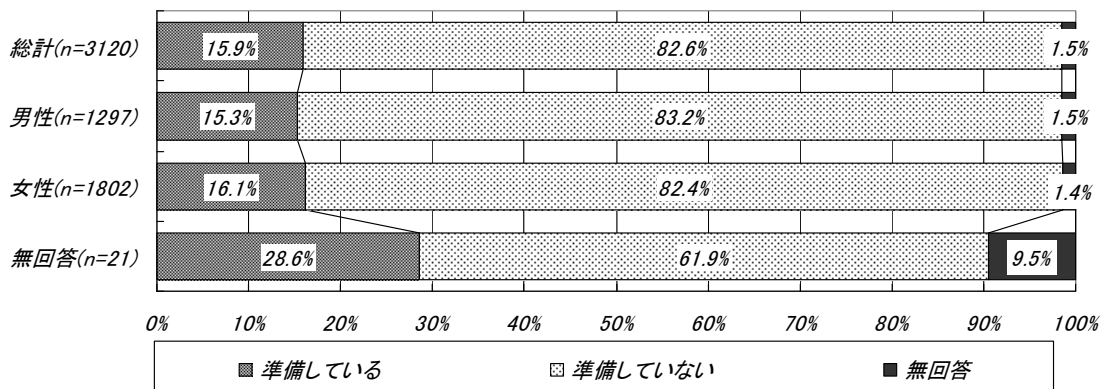
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 準備している	496	15.9%
(2) 準備していない	2,577	82.6%
無回答	46	1.5%
計	3,119	100.0%

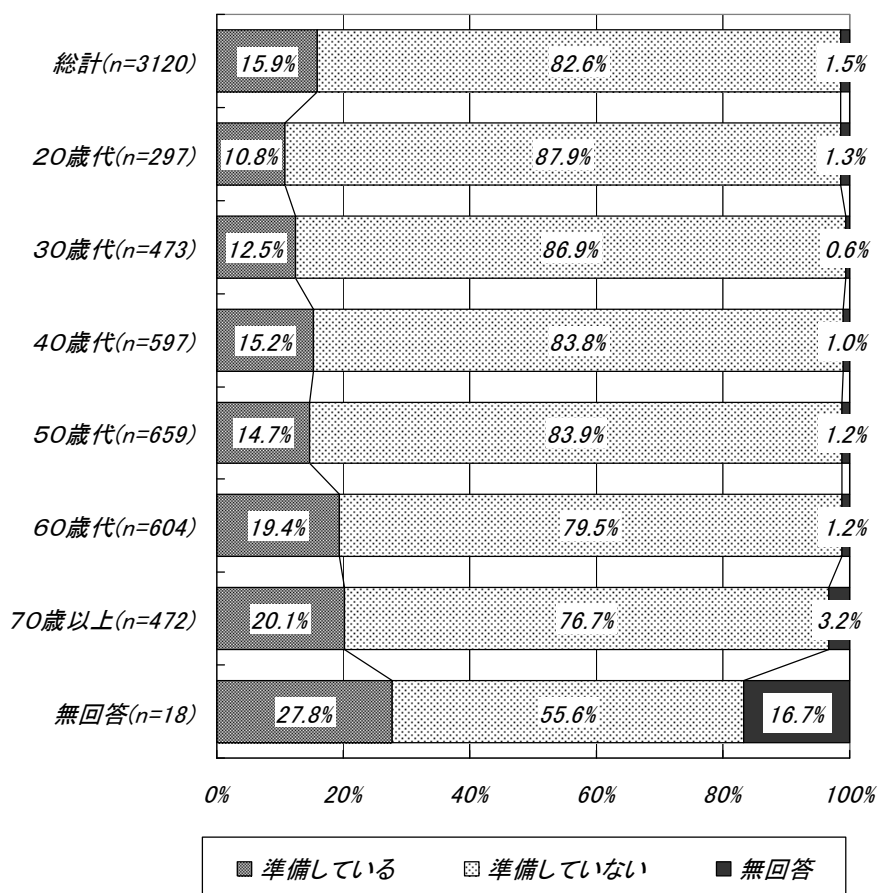
全体では「準備していない」が82.6%となっている。「準備している」は15.9%となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男女別で大きな違いは見られず、男女とも15~16%程度が「準備している」と回答している。

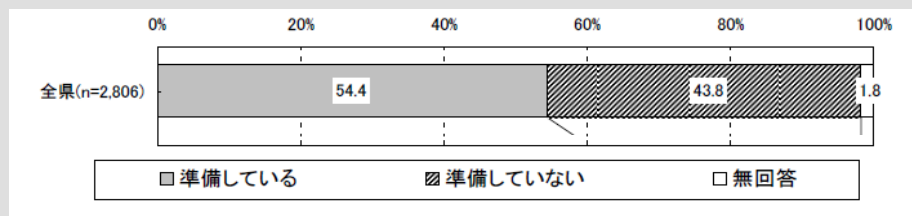
## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、食料や飲料水の備蓄率と同じように年齢が高くなるにつれて「準備している」との回答が多くなっている。70歳以上では20.1%が準備していると回答。

### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 お宅では、災害に備えて、懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備していますか。



三重県調査をみると「準備している」が54.4%、「準備していない」が43.8%。大分県と比較すると「準備している」割合が約40%程度高くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、別府市や由布市などで「準備している」という回答が多くなっており 20%を超えている。一方で、豊後高田市・姫島村・玖珠町などで「準備してない」という回答が多くなっている。

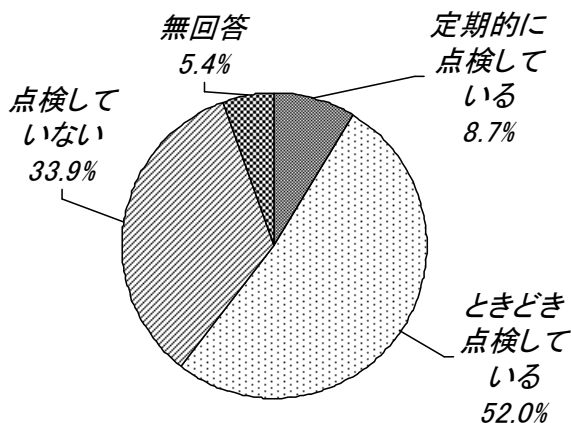


< 1. 準備している >方にお聞きします。

準備している非常持ち出し袋の中身を点検していますか。(〇はひとつ)

1. 定期的に点検している      2. ときどき点検している      3. 点検していない

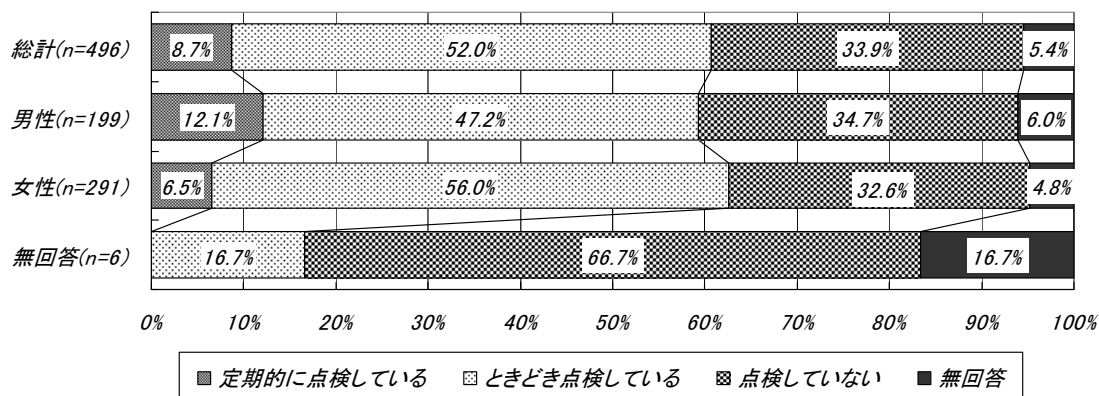
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 定期的に点検している	43	8.7%
(2) ときどき点検している	258	52.0%
(3) 点検していない	168	33.9%
無回答	27	5.4%
計	496	100.0%

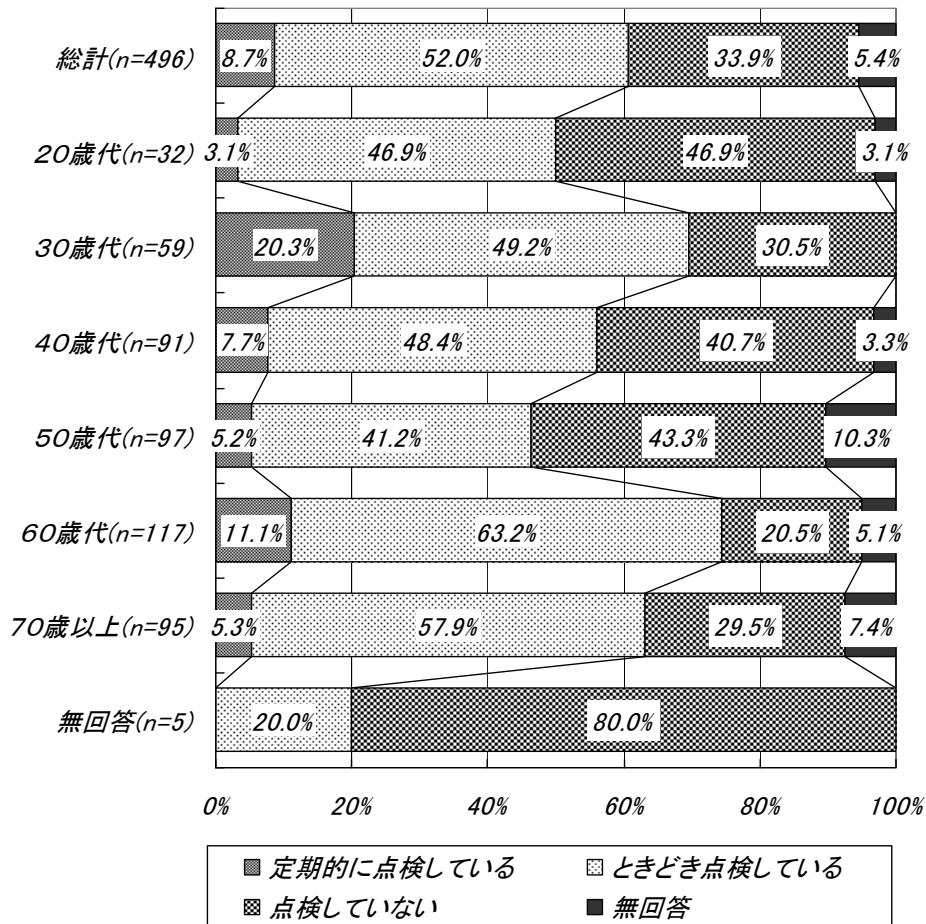
全体では「ときどき点検している」が 52.0%と最も多い。次いで「点検していない」が 33.9%と続いている。

**男女別集計**



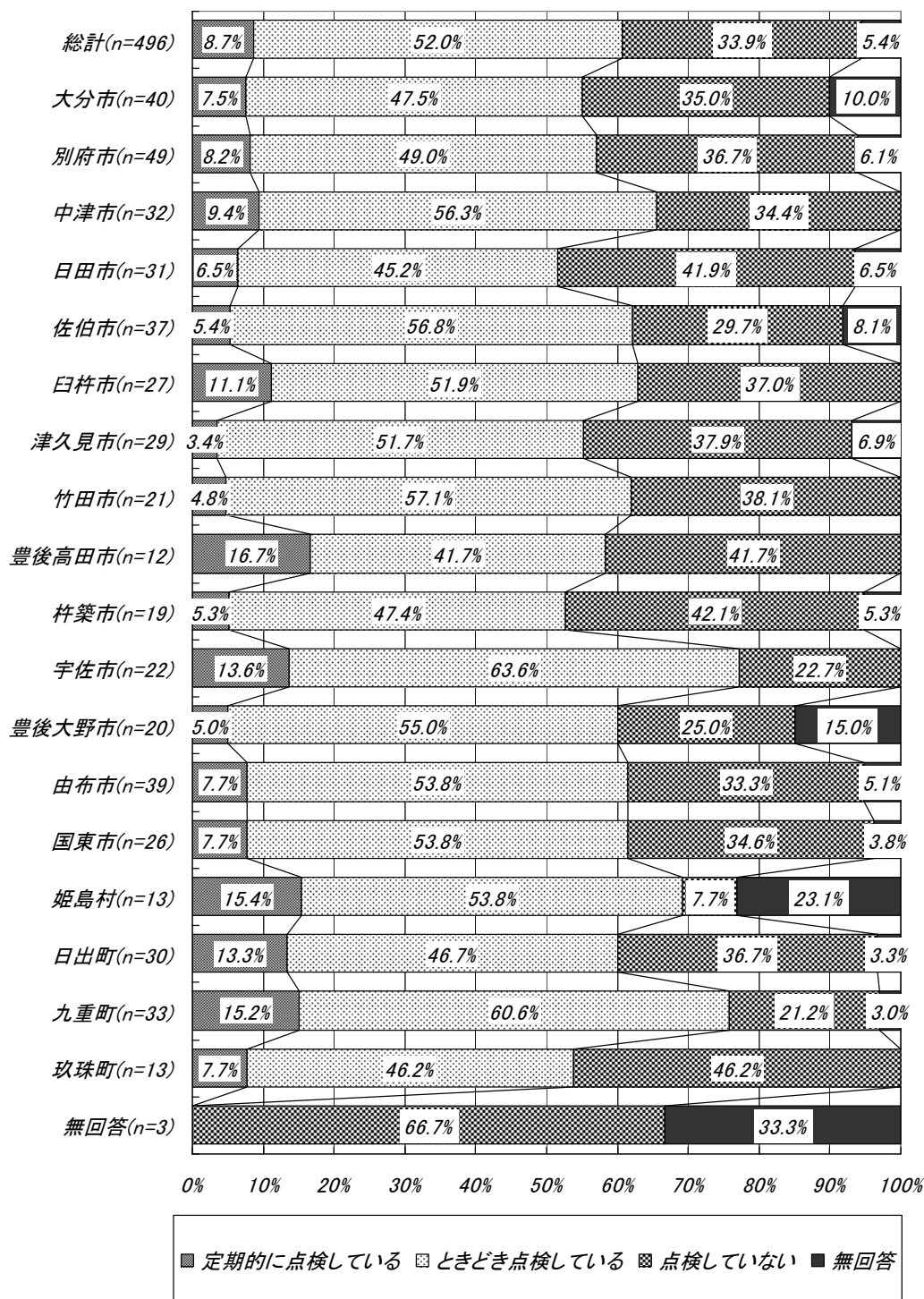
男女別の状況を見ると、男性のほうが女性よりも「定期的に点検している」という回答が多く 12.1%となっている。女性では「ときどき点検している」という回答が多く 56.0%が回答している。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、30歳代が他の年代と比較して「定期的に点検している」と回答が多くなっており 20.3%が回答している。一方で、「点検していない」の回答が多いのは20歳代、50歳代でそれぞれ、46.9%、43.3%となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、全体的には点検しているとの回答が多い。その中で「定期的に点検している」という回答が多いのは豊後高田市・姫島村・九重町など。姫島村は準備率は低かったが、点検率は高いといえる。一方で、「点検していない」という回答が多かったのは、日田市・杵築市・玖珠町などとなっている。

### 3 - (4)

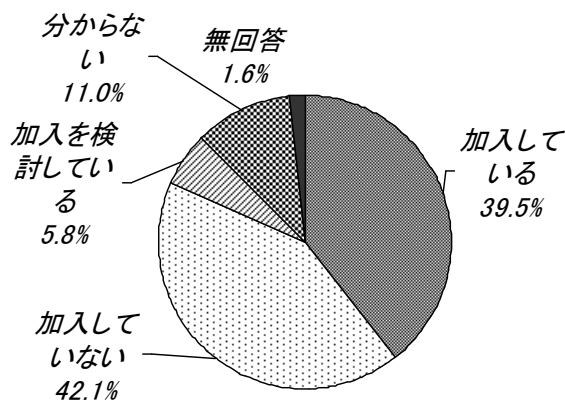
#### 【問 20】

#### ◎地震保険について

一般の火災保険では、地震を原因とする火災などの損害は補償されません。ご家庭では、火災保険とセットで地震保険（建物更生共済を含む。）に加入していますか？（〇はひとつ）

1. 加入している      2. 加入していない      3. 加入を検討している      4. 分からない

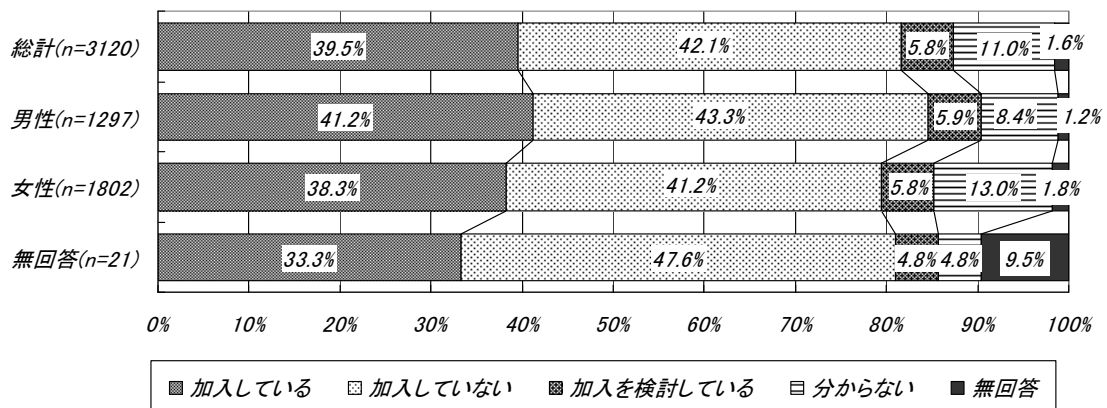
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 加入している	1,232	39.5%
(2) 加入していない	1,313	42.1%
(3) 加入を検討している	182	5.8%
(4) 分からない	344	11.0%
無回答	49	1.6%
計	3,120	100.0%

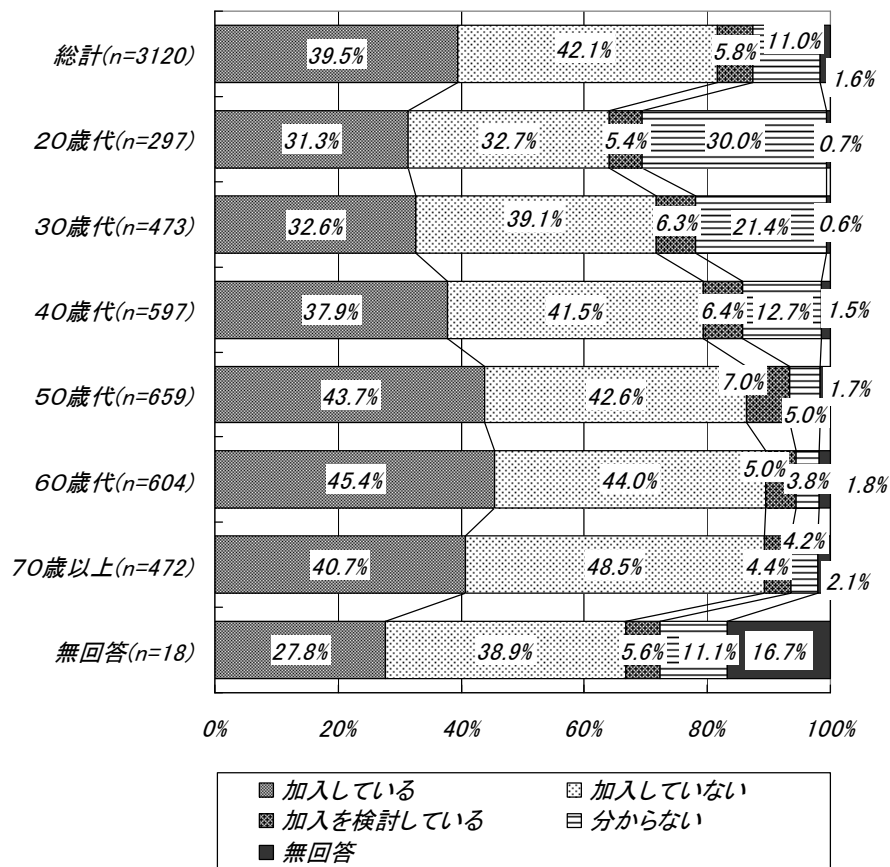
全体についてみると、「加入している」が39.5%、一方で「加入していない」が42.1%とほぼ同率の回答結果となっている。また、「加入を検討している」は5.8%となっている。

#### 男女別集計



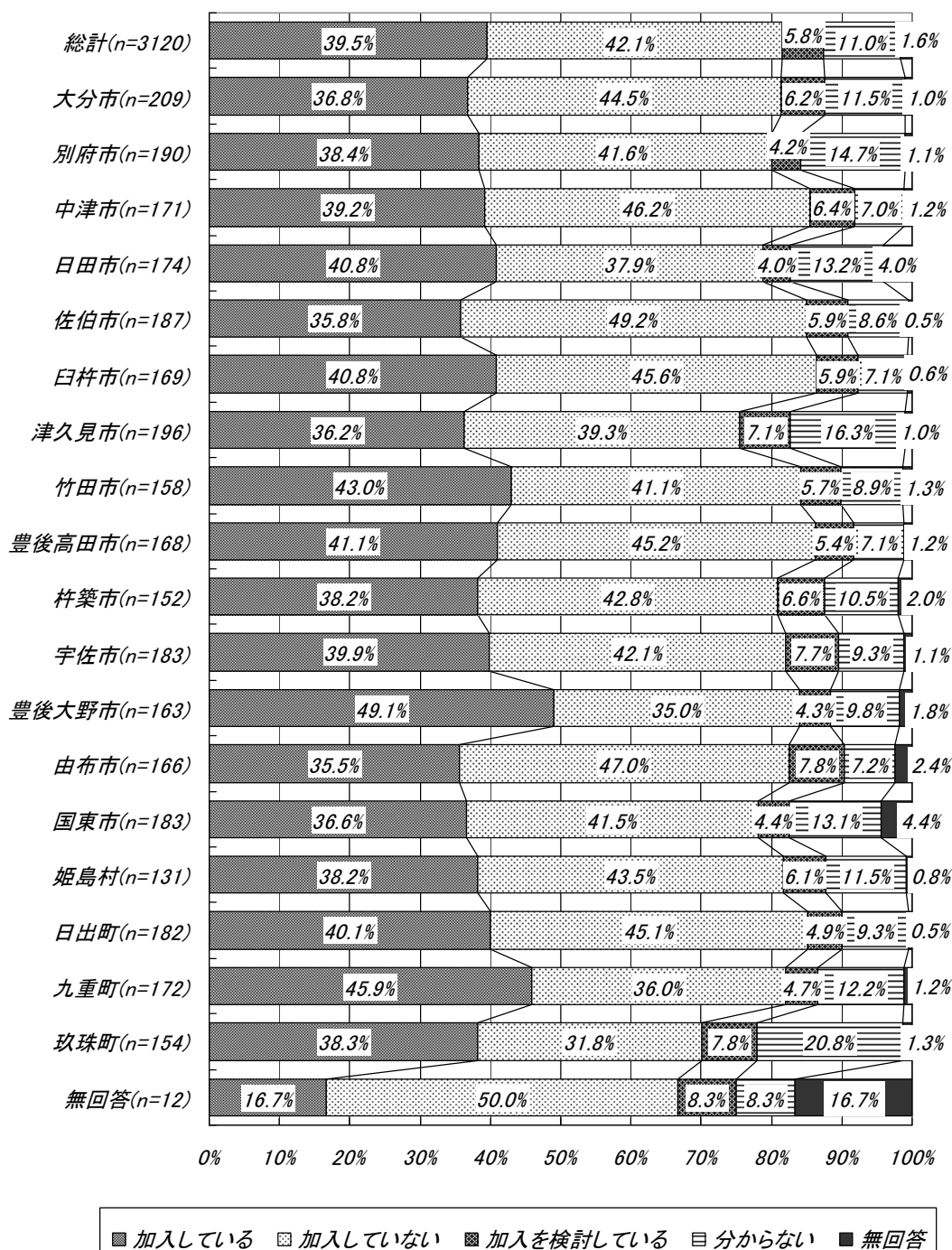
男女別の状況を見ると、男性のほうが女性よりも「加入している」との回答が高く41.2%が回答している。

## 年代別集計



年代別の回答状況を見ると、年齢が上がるにつれて「加入している」との回答が多くなっている。60歳代では45.4%が「加入している」と回答。一方で、若い世代では世帯主ではない場合もあるためか、「分からない」の回答も多くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、どの市町村でも同じような傾向となっているが、その中で、豊後大野市・九重町などで「加入している」との回答が多くなっている。一方で、中津市・佐伯市・由布市などでは「加入していない」という回答が多くなっている。

## 4. 避難について

### 4- (1)

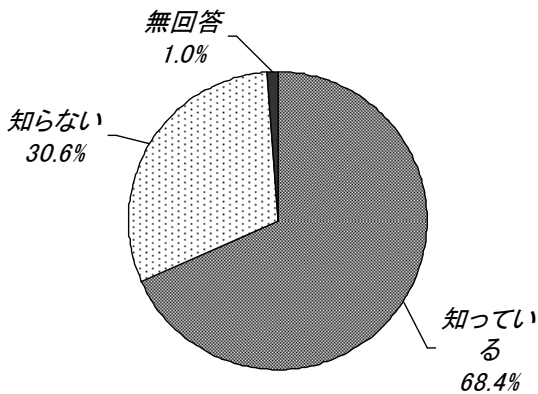
#### 【問 21】

#### ◎避難場所について

市町村が指定しているご自宅近くの避難場所をご存じですか？（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 知らない

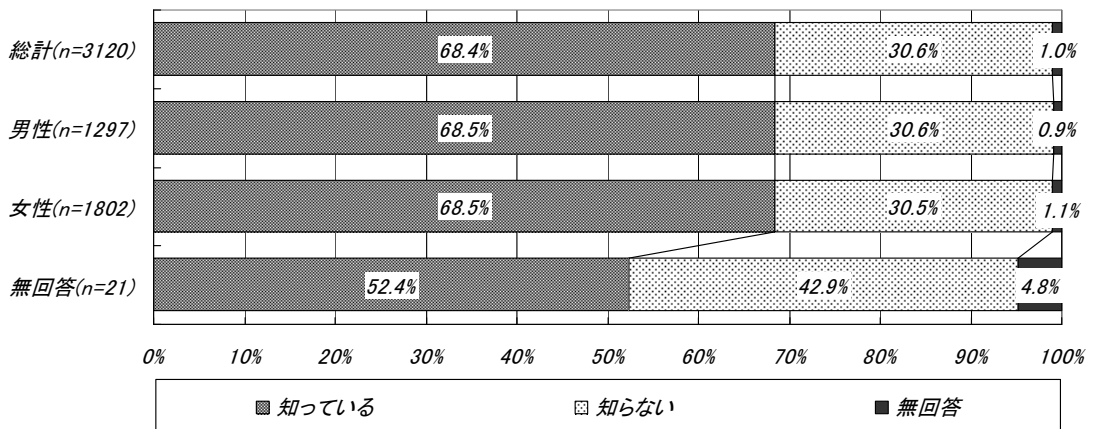
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	2,133	68.4%
(2) 知らない	955	30.6%
無回答	32	1.0%
計	3,120	100.0%

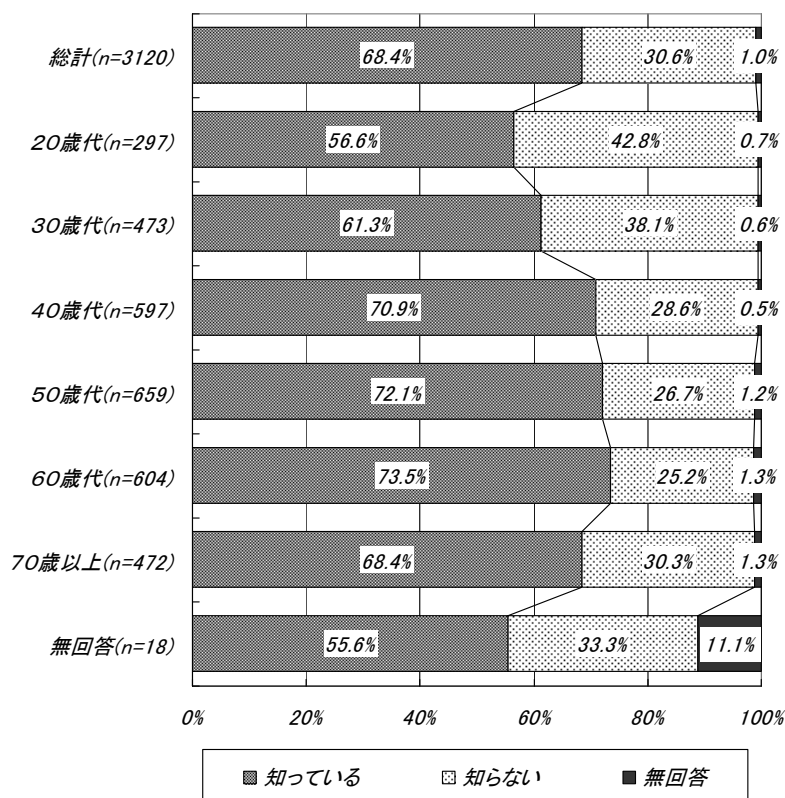
全体では「知っている」が68.4%。「知らない」は30.6%の回答となっている。「知っている」の回答のほうが多くなっている。

#### 男女別集計



男女別の状況をみると、男女ともほとんど回答に差はなく、約68%が「知っている」と回答している。

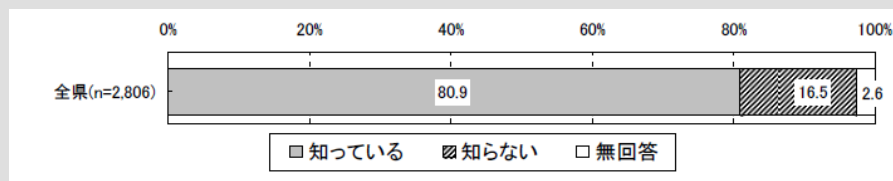
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「知っている」との回答が多くなっており、40～60歳代では70%以上が「知っている」と回答。一方で20～30歳代では4割前後が「知らない」と回答している。

### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

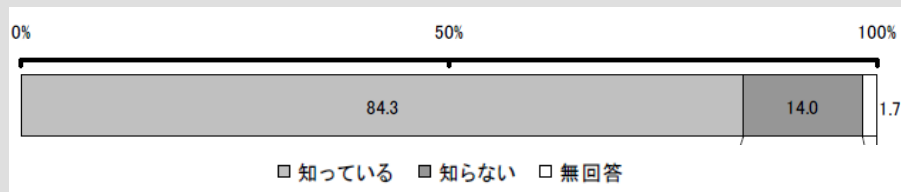
問 あなたは、ご自宅付近の避難所をご存じですか。



三重県調査では「知っている」が80.9%。「知らない」は16.5%と大分県よりも認知率が高い。

### ◆ 参考データ（愛知県「平成19年度 防災(地震)に関する意識調査」より）

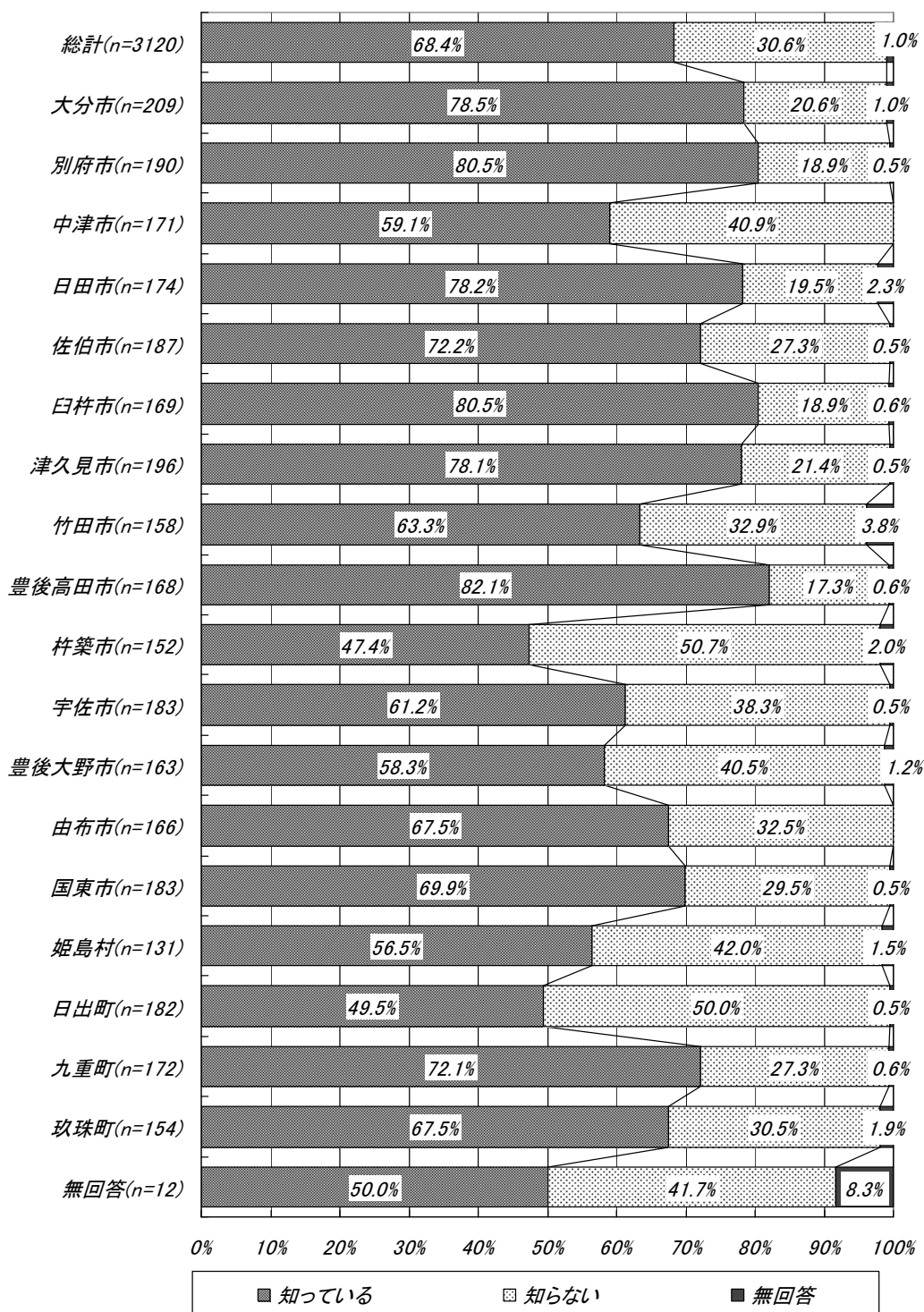
問 大規模地震などに備えて、市町村ではあらかじめ屋外避難場所を指定しています。あなたは、指定された避難場所を知っていますか。



愛知県調査では、「知っている」が84.3%。「知らない」は14.0%と大分県よりも認知率が高い。



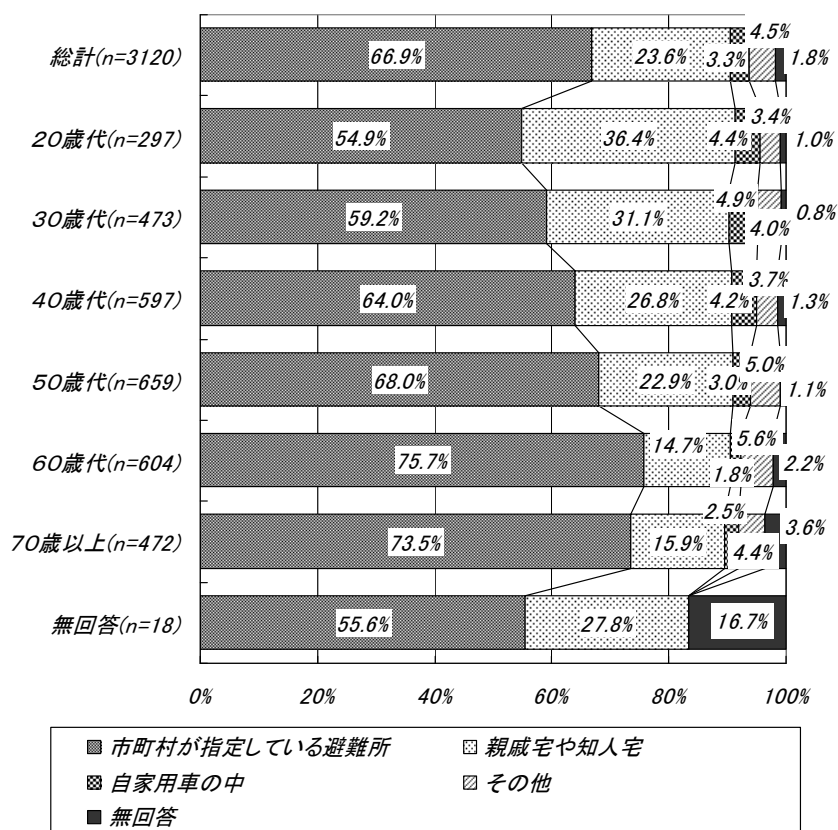
## 市町村別集計



市町村別の状況をみると、各市町村でバラツキがみられる。「知っている」の回答が多いのは大分市・別府市・日田市・臼杵市・津久見市・豊後高田市などで約8割前後が回答している。一方で、中津市・杵築市・豊後大野市・姫島村・日出町などでは約4～5割前後が「知らない」と回答している。



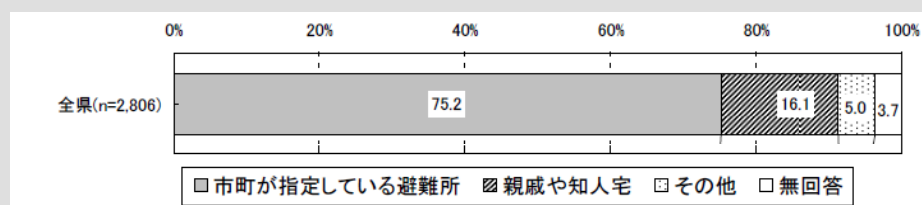
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、傾向として年齢が高くなるにつれて「市町村が指定している避難所」との回答が多くなっており、60～70歳代以上では75%前後が回答。一方で、20～30歳代では「親戚や知人宅」との回答が多くなっている。また、「自家用車の中」という回答は年齢が高くなるにつれて少なくなっている。

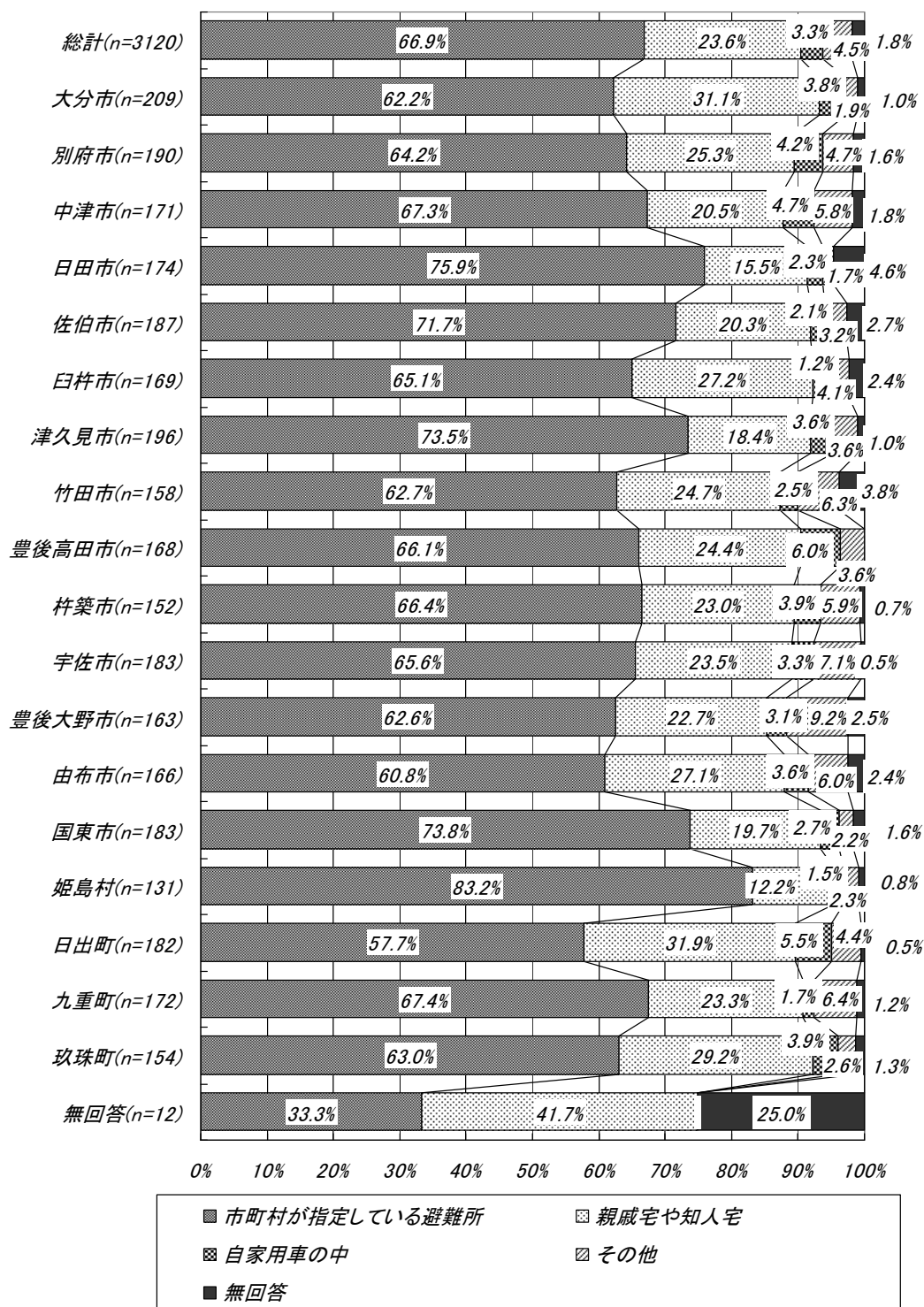
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、自宅の倒壊・浸水等で避難しなければならない状況になった時、どこへ避難しますか。



三重県調査をみると「市町村が指定している避難所」が75.2%、「親戚や知人宅」が16.1%。大分県と比較すると「親戚や知人宅」が低く「市町村が指定している避難所」が高くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況をみると、どの市町村でも中心は「市町村が指定している避難所」である。その中で、回答が多いのは、日田市・津久見市・国東市・姫島村など。また、「親戚や知人宅」の回答が多いのは大分市や日出町などとなっている。

## 5. 地域や職場での防災活動について

### 5- (1)

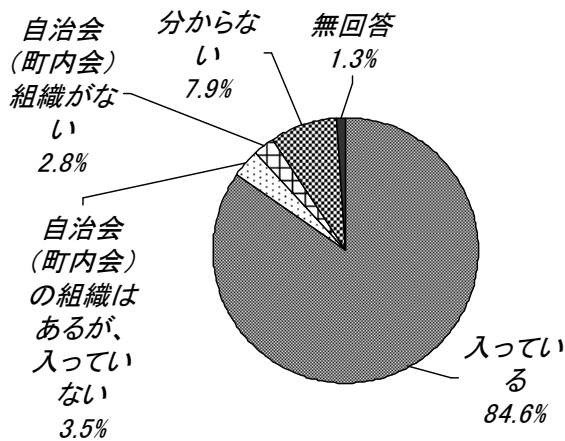
#### 【問23】

#### ◎自治会(町内会)について

ご家庭は、自治会(町内会)に入っていますか？ (〇はひとつ)

1. 入っている
2. 自治会(町内会)の組織はあるが、入っていない
3. 自治会(町内会)組織がない
4. 分からない

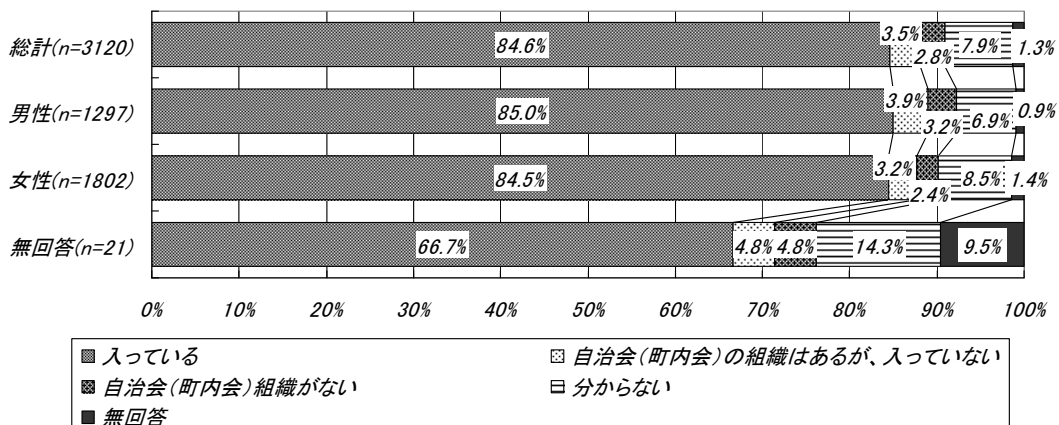
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 入っている	2,639	84.6%
(2) 自治会(町内会)の組織はあるが、入っていない	110	3.5%
(3) 自治会(町内会)組織がない	87	2.8%
(4) 分からない	245	7.9%
無回答	39	1.3%
計	3,120	100.0%

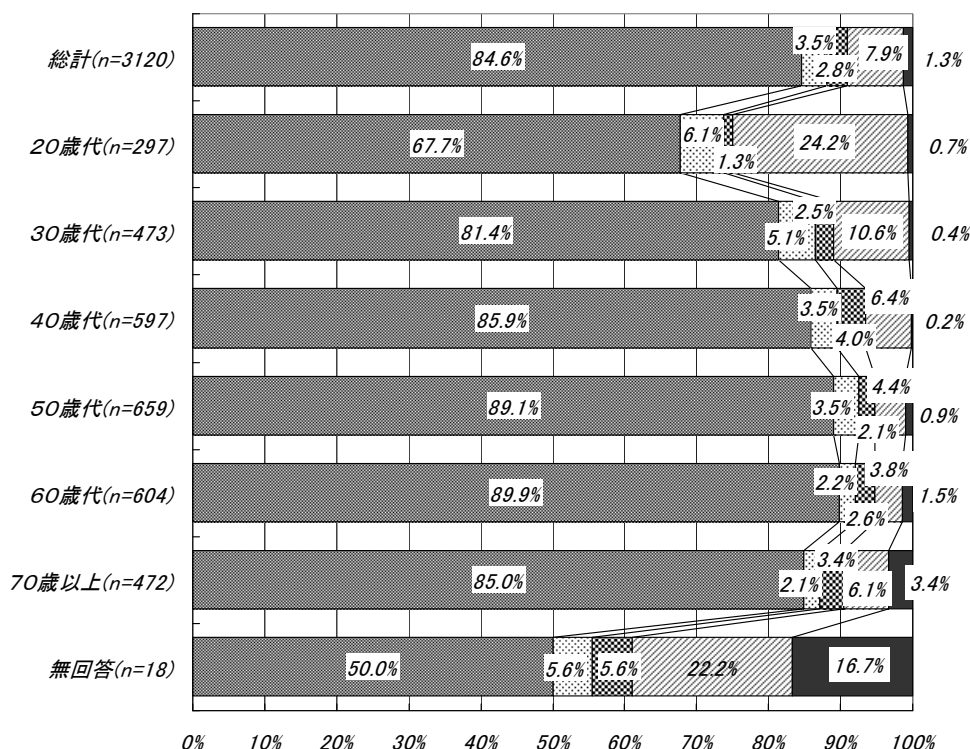
全体では「入っている」が 84.6%となっており、ほとんどが加入している。また、「分からない」については7.9%となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男女間で大きな違いはない。約 85%前後が「入っている」と回答している。

## 年代別集計

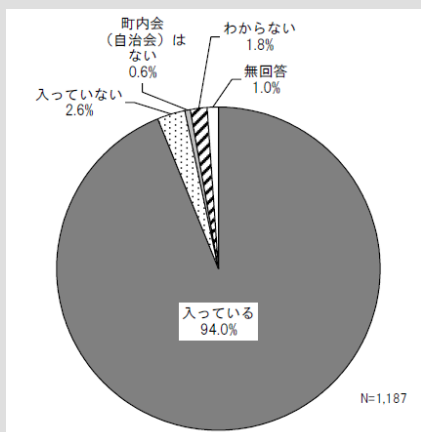


- 入っている
- ▨ 自治会(町内会)組織はあるが、入っていない
- ▤ 自治会(町内会)組織がない
- ▧ 分からない
- 無回答

年代別の状況を見ると、30歳代以上では「入っている」の回答が中心であり、特に50～60歳代では約9割程度が「入っている」と回答している。一方で、20歳代では「入っている」の回答が少なくなっており67.7%回答。さらに「分からない」も24.2%が回答している。

### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

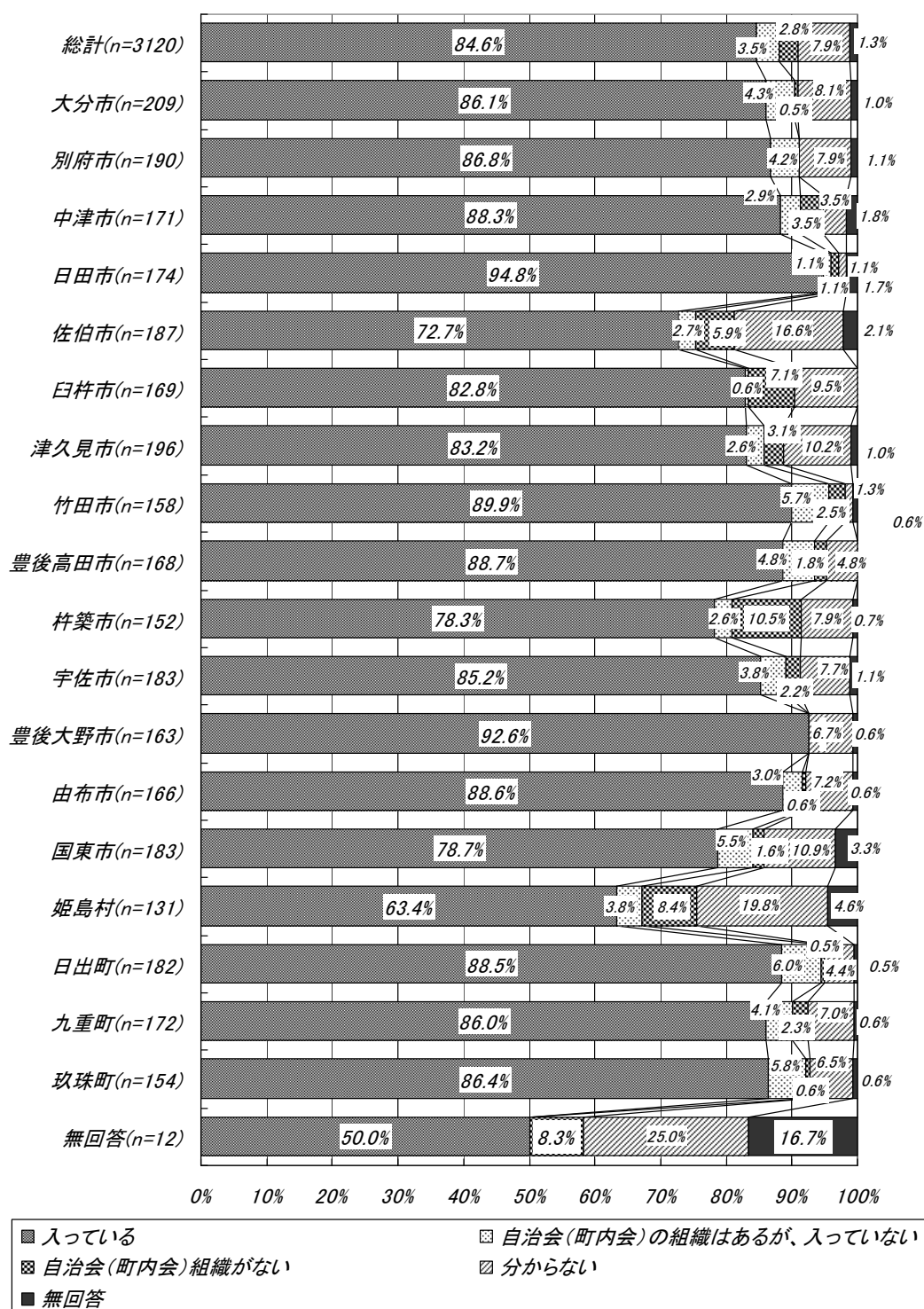
問 あなたの自宅は、町内会（自治会）に入っていますか。



静岡県調査をみると、「入っている」が94.0%となっている。

大分県と比較すると、約10%程度加入率が高くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況をみると、ほとんどの市町村で「入っている」の回答が多い。その中で日田市・竹田市・豊後大野市などで「入っている」という回答が9割前後以上と多い。一方で佐伯市・姫島村などでは「分からない」という回答が多くなっているために「入っている」という回答が他の市町村よりも低くなっている。

5 - (2)

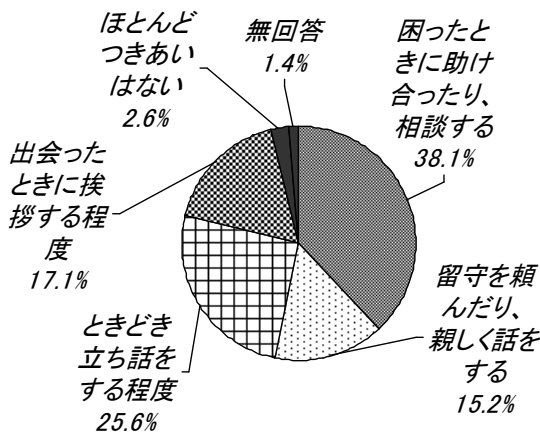
【問24】

◎近所つきあいについて

災害発生時には、地域住民同士の助け合いが重要と言われています。あなたは、普段どの程度の近所つきあいをしていますか？（○はひとつ）

- 1. 困ったときに助け合ったり、相談する
- 2. 留守を頼んだり、親しく話をする
- 3. ときどき立ち話をする程度
- 4. 出会ったときに挨拶する程度
- 5. ほとんどつきあいはない

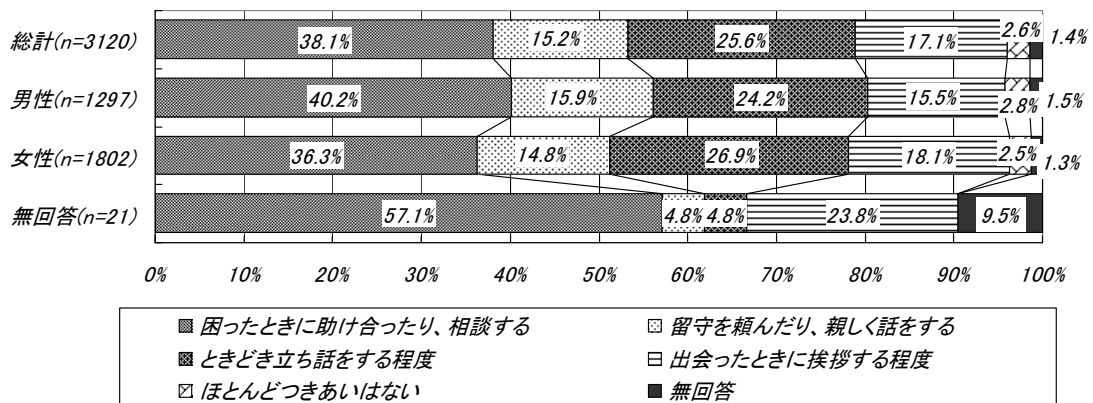
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 困ったときに助け合ったり、相談する	1,188	38.1%
(2) 留守を頼んだり、親しく話をする	474	15.2%
(3) ときどき立ち話をする程度	800	25.6%
(4) 出会ったときに挨拶する程度	533	17.1%
(5) ほとんどつきあいはない	81	2.6%
無回答	44	1.4%
計	3,120	100.0%

全体では「困ったときに助け合ったり、相談する」が38.1%と最も多くなっているものの、回答はややバラツキがみられ、「ときどき立ち話をする程度」も25.6%。また「出会ったときに挨拶をする程度」も17.1%などとなっている。

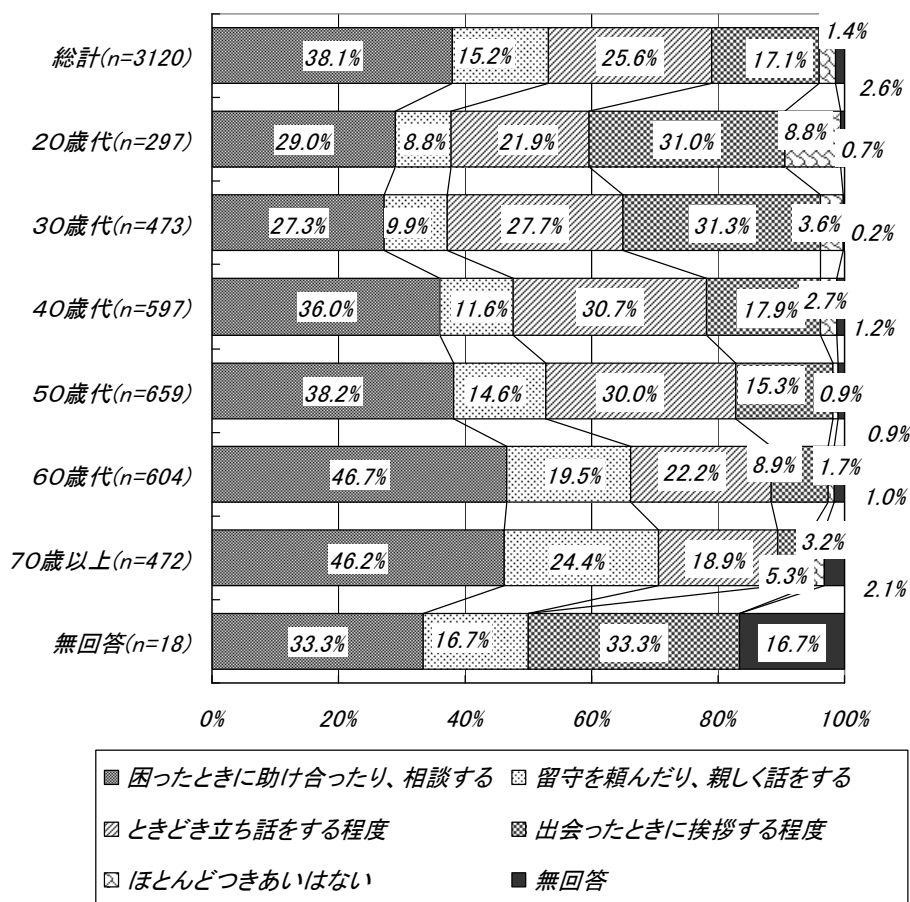
男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「困ったときに助け合ったり、相談する」「留守を頼んだり、親しく話をする」の回答が女性よりも多く56.1%が回答。一方で女性では「ときどき立ち話をする程度」「出会ったときに挨拶する程度」の回答が男性よりも多く45.0%が回答している。



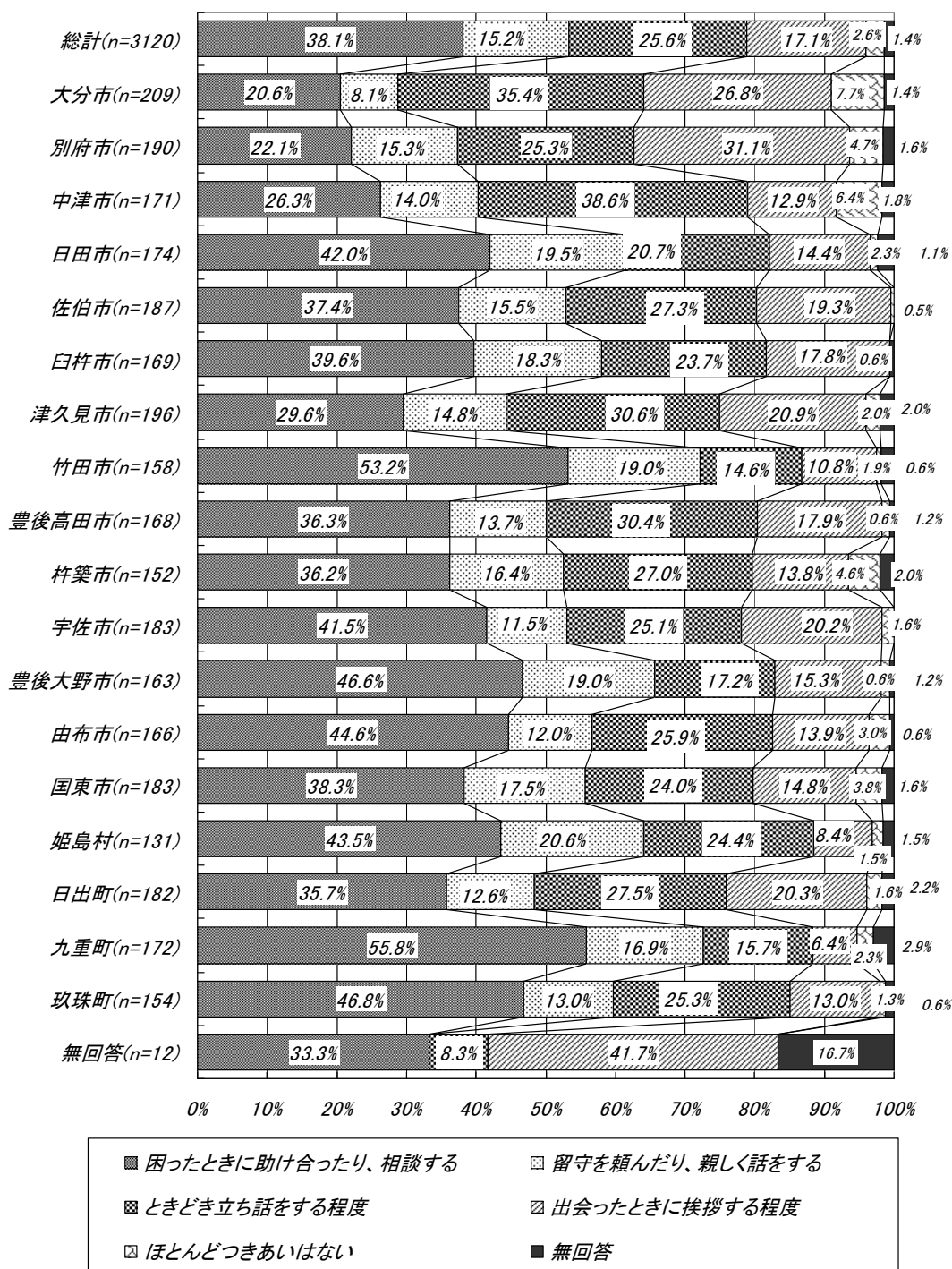
## 年代別集計



年代別の状況をみると、年齢が高くなるにつれて「困ったときに助け合ったり、相談する」「留守を頼んだり、親しく話をする」という回答が多くなっている。一方で、20～30歳代では「出会ったときに挨拶する程度」という回答が多い。特に、20歳代では「ほとんどつきあいはない」という回答も8.8%と他の年代よりも多くなっている。

また、40～50歳代では「ときどき立ち話をする程度」という回答も30%程度の回答率となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、各市町村でばらついているが、その中で、日田市・竹田市・豊後大野市・姫島村・九重町などでは「困ったときに助け合ったり、相談する」「留守を頼んだり、親しく話をする」という回答が多くなっている。一方で、大分市・別府市では「出会ったときに挨拶する程度」「ほとんどつきあいがいい」といった回答が多くなっている。

「ときどき立ち話をする程度」については、中津市・津久見市・豊後高田市と大分市などで多くなっている。

5 - (2)

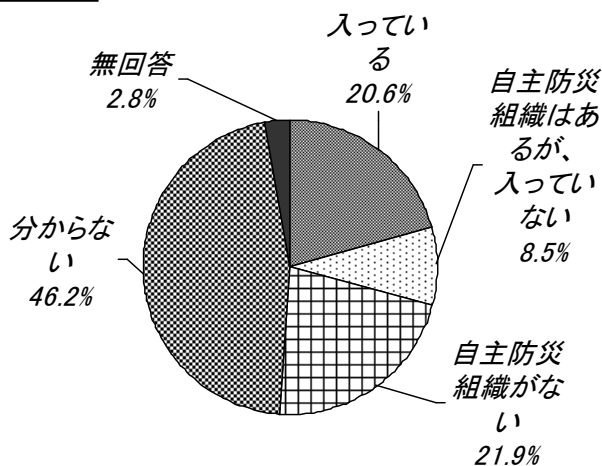
【問25】

◎地域の自主防災組織について

ご家庭は、地域の自主防災組織に入っていますか？（○はひとつ）

- 1. 入っている→別途質問へ
- 2. 自主防災組織はあるが、入っていない
- 3. 自主防災組織がない
- 4. 分からない

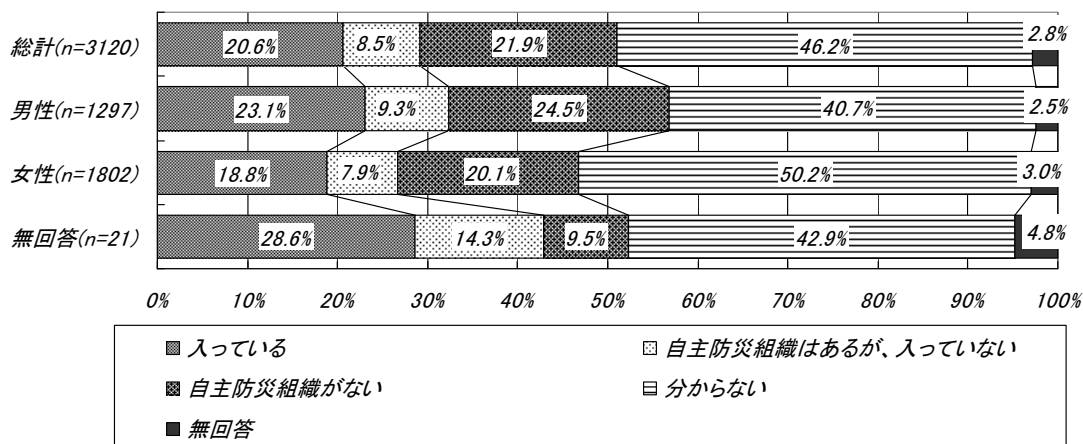
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 入っている	643	20.6%
(2) 自主防災組織はあるが、入っていない	266	8.5%
(3) 自主防災組織がない	683	21.9%
(4) 分からない	1,441	46.2%
無回答	87	2.8%
計	3,120	100.0%

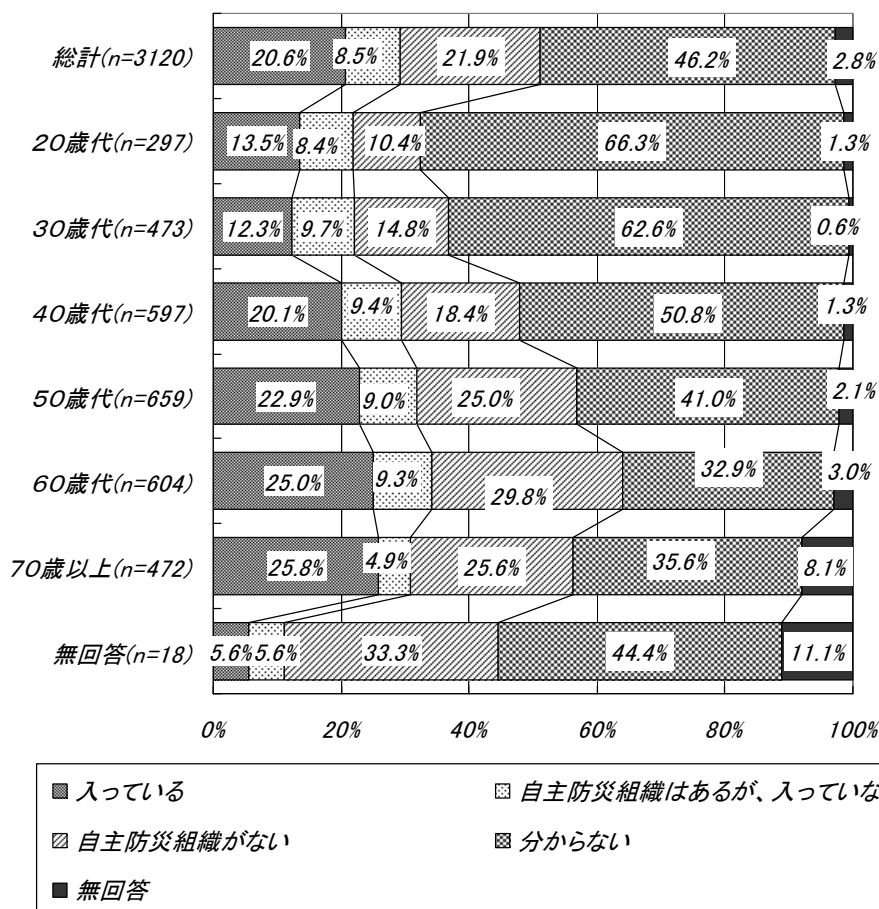
全体では「分からない」が最も多く46.2%となっている。次いで「自主防災組織がない」が21.9%、「入っている」が20.6%と続いている。

男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「入っている」との回答が多く、23.1%が回答。女性では「分からない」という回答が多く50.2%と約半数が回答している。

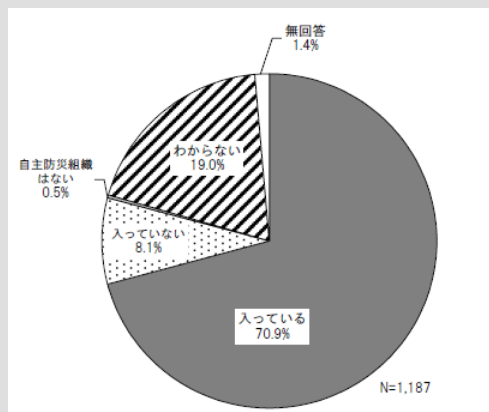
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、20～30歳代では「入っている」という回答が12～13%前後と低く「分からない」の回答が中心となっている。また、40～70歳代以上では「入っている」と回答した割合が20～25%前後となっているが、「自主防災組織がない」という回答も20～30%前後と高くなっている。

## ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

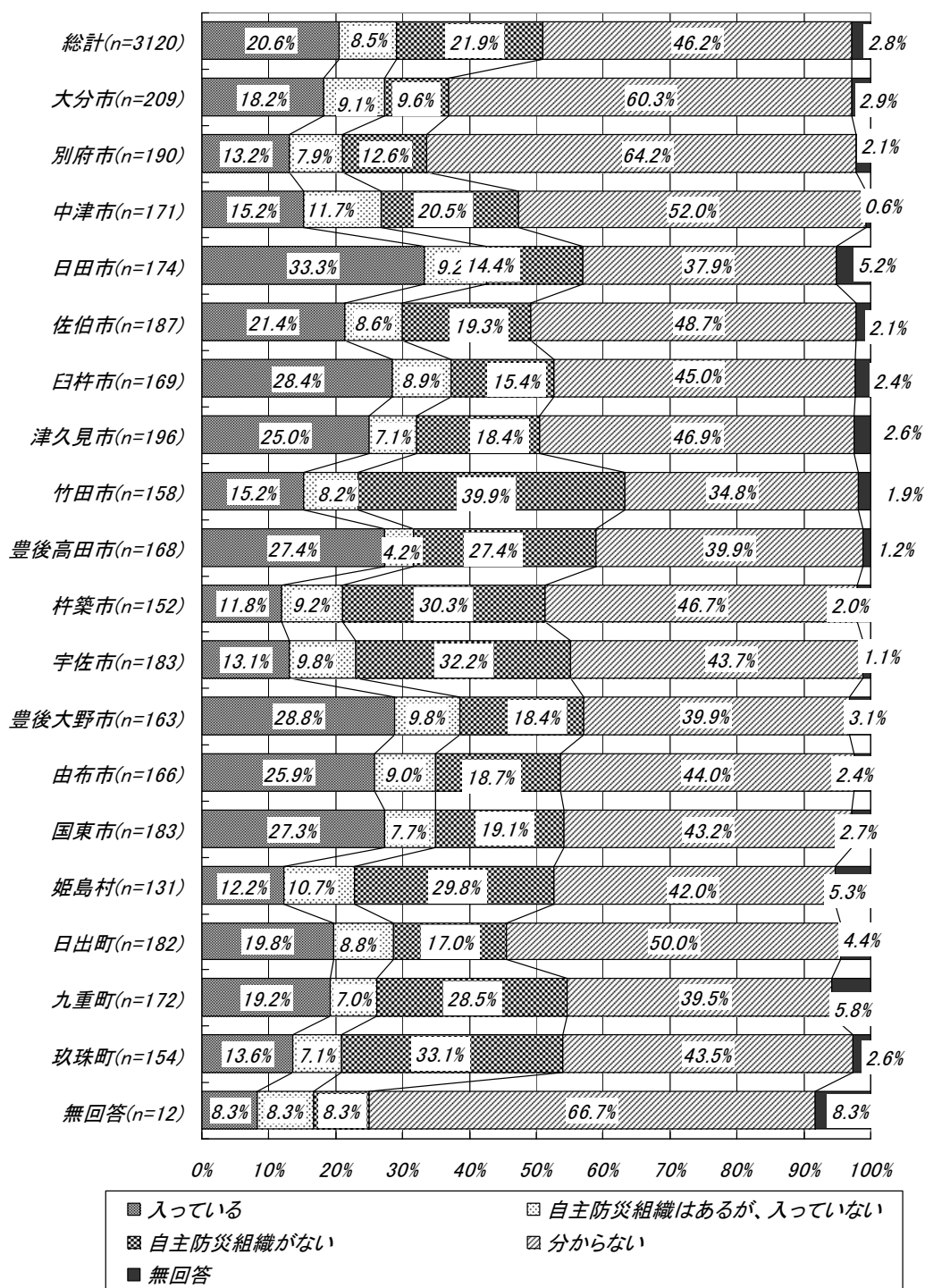
問 あなたの自宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



静岡県調査をみると、「入っている」が70.9%となっている。

大分県と比較すると加入率が非常に高い。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、市町村間でややバラツキがみられる。その中で「入っている」という回答が多いのは、日田市・臼杵市・豊後大野市など。一方で、中津市や姫島村などで「自主防災組織はあるが、入っていない」という回答が10%前後と他の市町村より多い。

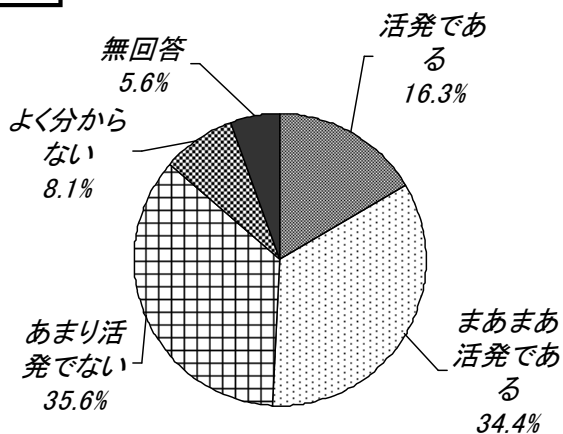
また、竹田市・宇佐市・玖珠町などでは「自主防災組織がない」という回答が多く、さらに、大分市・別府市・中津市・日出町などでは「分からない」という回答も多くなっている。

<1.入っている>方にお聞きします。

入っている自主防災組織の活動は、活発ですか。（〇はひとつ）

1. 活発である    2. まあまあ活発である    3. あまり活発でない    4. よく分からない

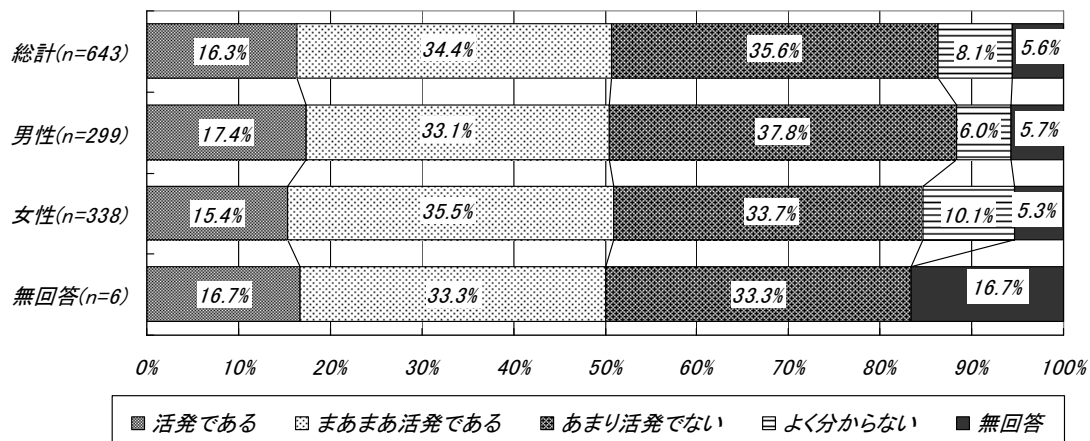
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 活発である	105	16.3%
(2) まあまあ活発である	221	34.4%
(3) あまり活発でない	229	35.6%
(4) よく分からない	52	8.1%
無回答	36	5.6%
計	643	100.0%

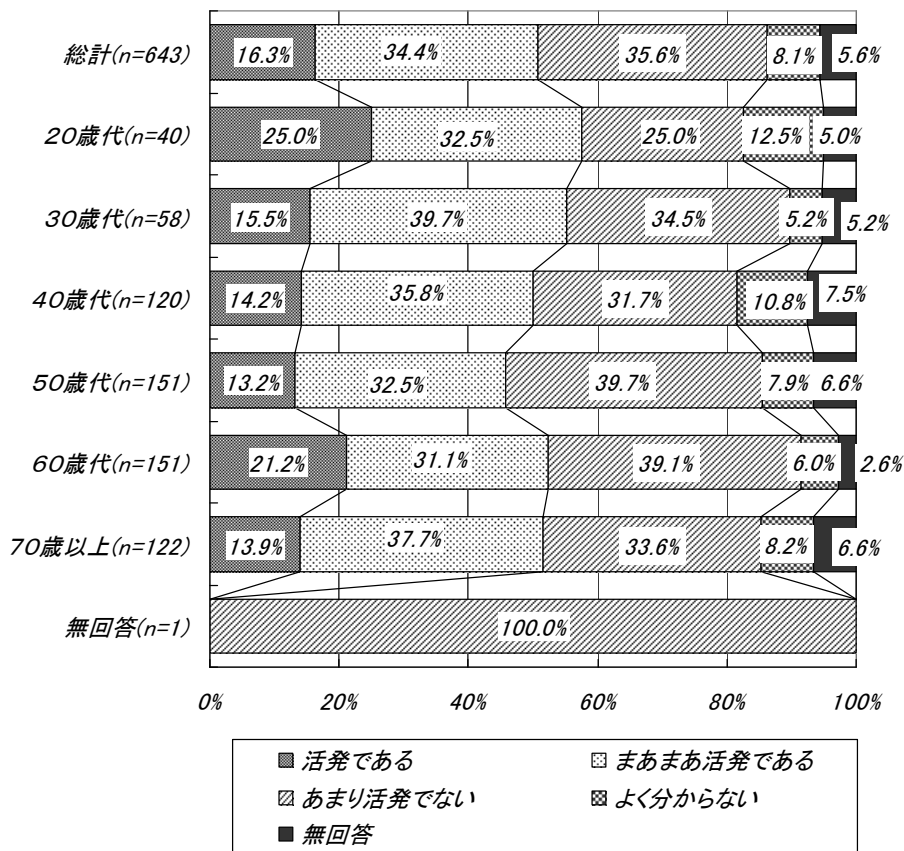
全体では回答が大きく2つに分かれており「まあまあ活発である」が34.4%、「あまり活発でない」が35.6%となっている。「活発である」は16.3%となっている。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男性のほうが「活発である」という回答が多く17.4%となっている。また、女性では「よく分からない」という回答も男性と比較して多く、10.1%となっている。

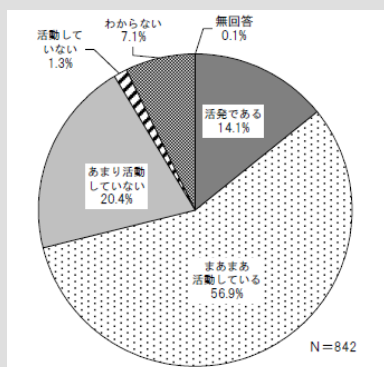
### 年代別集計



年代別の状況を見ると、20歳代と60歳代で「活発である」という回答が多くなっている。一方で、50～60歳代で「あまり活発でない」という回答が多くなっている。

### ◆ 参考データ（静岡県「平成19年度 東海地震についての県民意識調査」より）

問 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。



静岡県調査をみると、「活発である」は14.1%、「まあまあ活発である」は56.9%となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、回答にややバラツキがみられるが、由布市や姫島村などで「活発である」という回答が多くなっている。一方で、別府市や日出町などでは「あまり活発ではない」という回答が多くなっている。また、大分市や宇佐市などでは「まあまあ活発である」という回答が多くなっている。



5 - (4)

**【問26】**

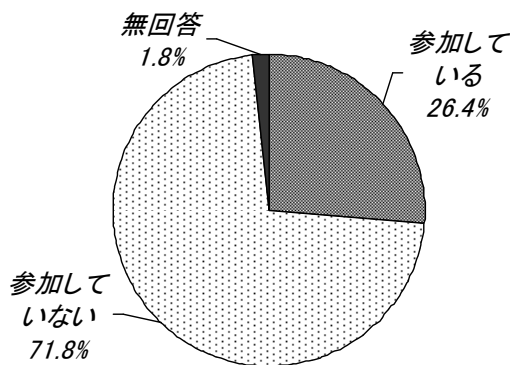
**◎防災訓練(活動)への参加状況について**

あなたは、平成 21 年に、地域や職場での防災訓練（活動）に参加したことがありますか？  
（〇はひとつ）

1. 参加している→小問①へ

2. 参加していない→小問②へ

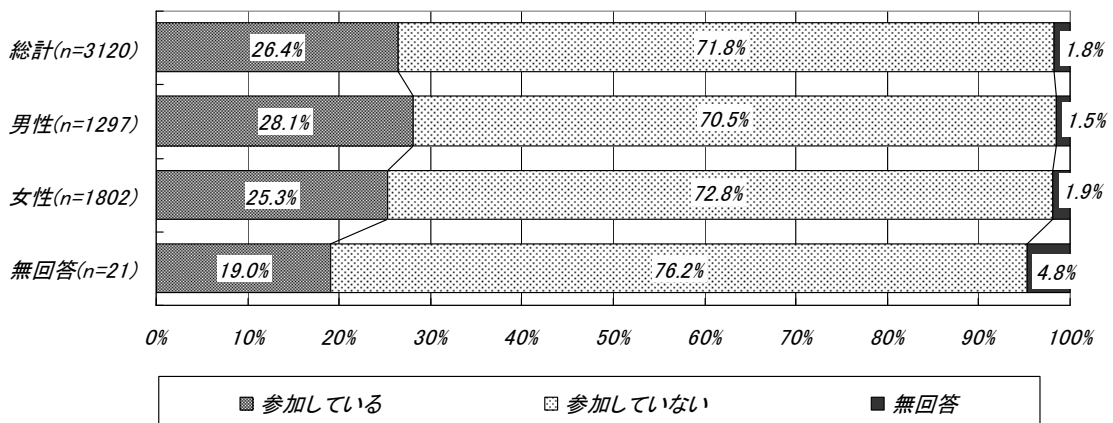
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 参加している	824	26.4%
(2) 参加していない	2,241	71.8%
無回答	55	1.8%
計	3,120	100.0%

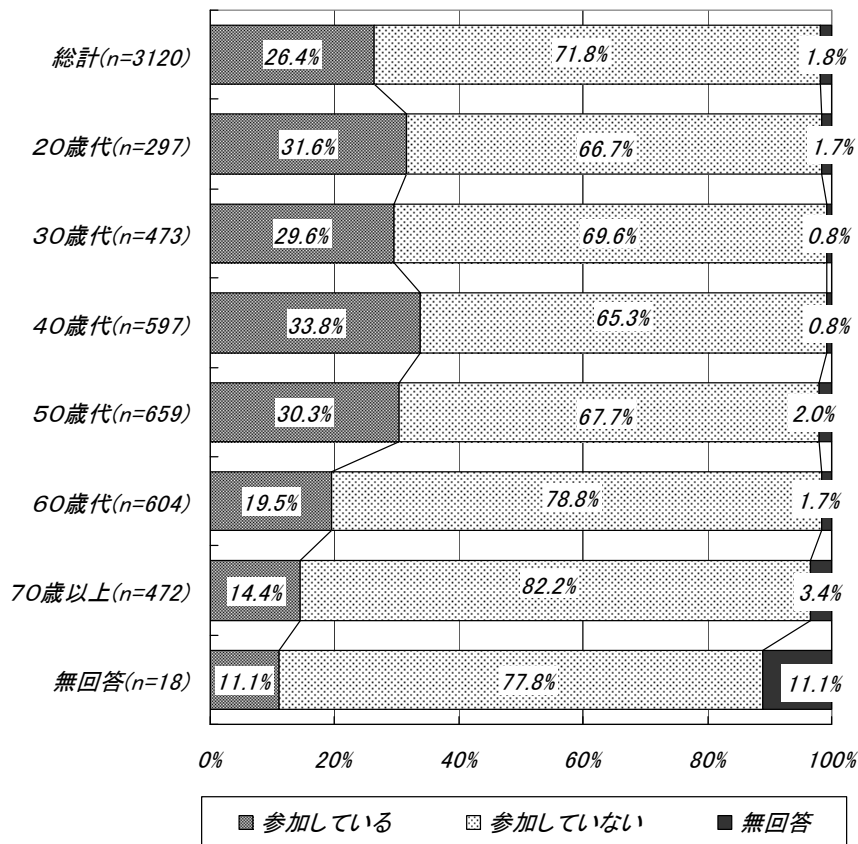
全体では「参加していない」が多く 71.8%が回答。「参加している」は 26.4%が回答している。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男性のほうが「参加している」との回答が多く、28.1%が回答している。女性では 25.3%が「参加している」と回答。

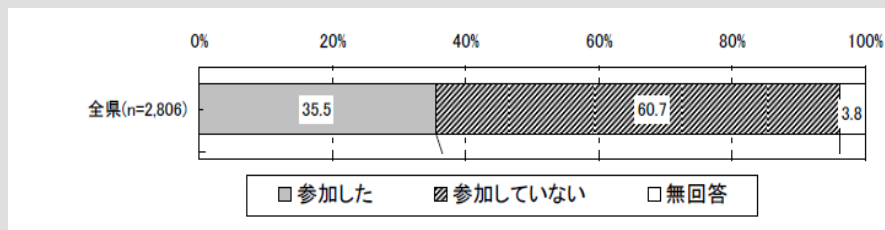
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、20～50歳代で「参加している」という回答が多くなっており、30%前後が回答。一方で60歳代以上では「参加している」と回答したのは2割以下となっている。

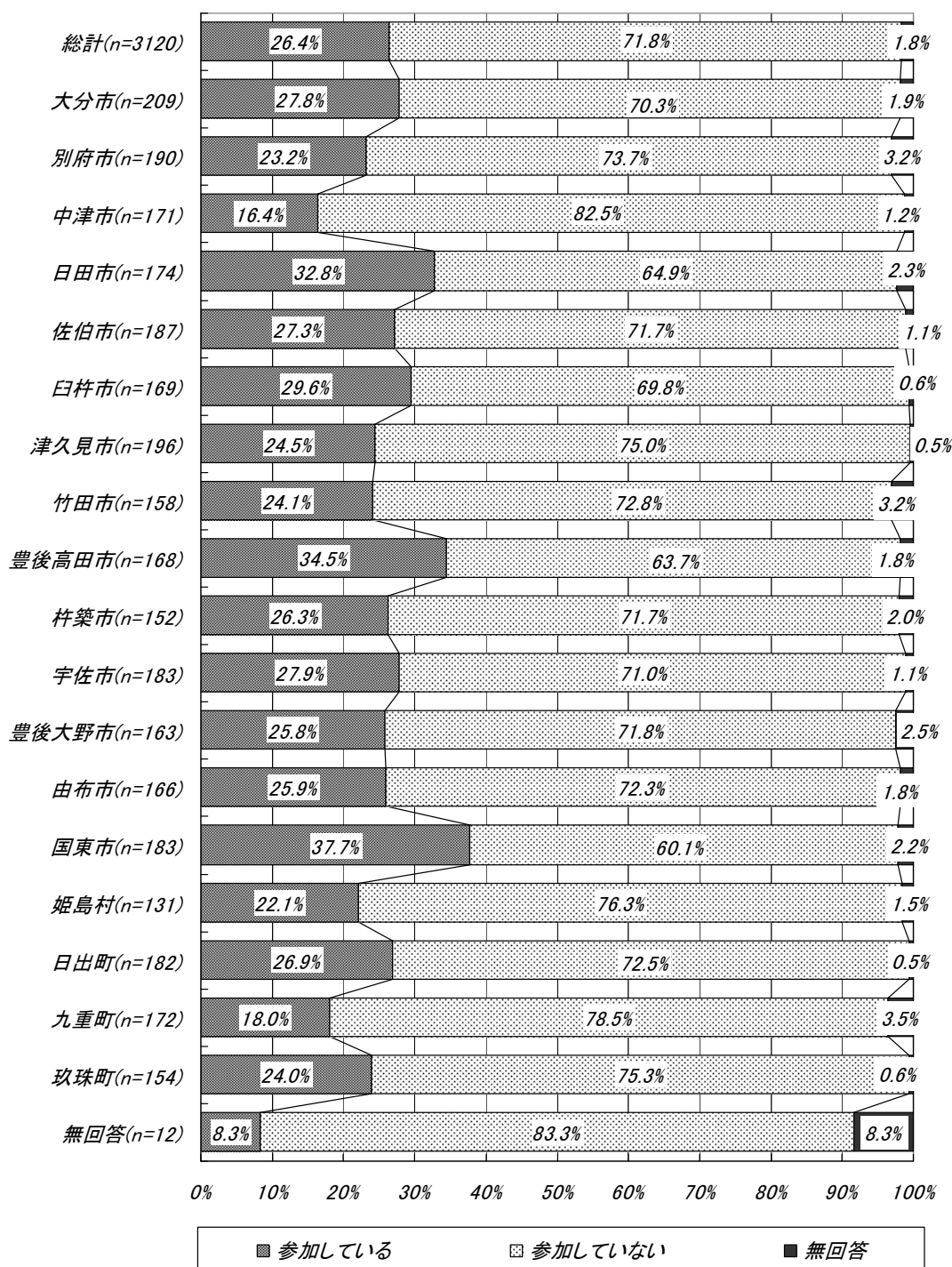
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。



三重県調査をみると35.5%が「参加した」と回答。大分県の「参加した」という回答は26.4%となっていることから、大分県のほうが参加率が低い状況となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、どの市町村でも同じような傾向となっているが、その中で「参加している」という回答が多くなっているのは日田市・豊後高田市・国東市などとなっている。一方で「参加していない」という回答が多くなっているのは、中津市・姫島村・九重町などとなっている。

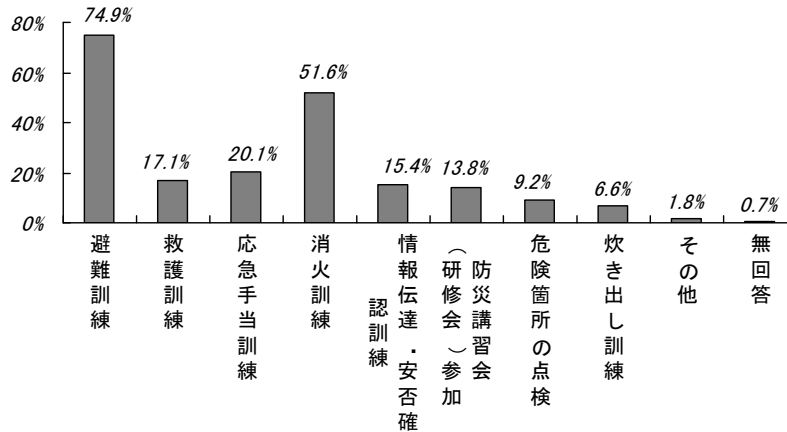
※[問26]で防災訓練（活動）に「1. 参加している」と回答した者が対象

【小問①】

参加した防災訓練（活動）はどんな内容でしたか？（〇はいくつでも）

- 1. 避難訓練                      2. 救護訓練                      3. 応急手当訓練
- 4. 消火訓練                      5. 情報伝達・安否確認訓練      6. 防災講習会（研修会）参加
- 7. 危険箇所の点検              8. 炊き出し訓練                      9. その他（                      ）

全体集計

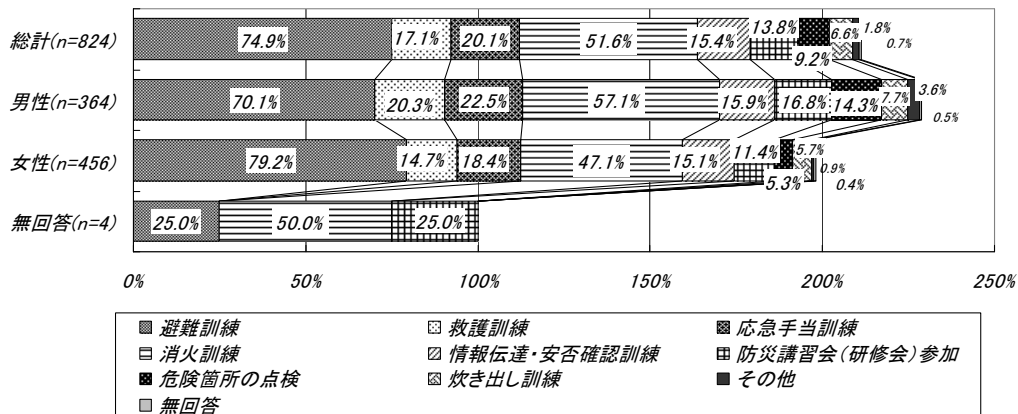


項目	回答数	構成比
(1) 避難訓練	617	74.9%
(2) 救護訓練	141	17.1%
(3) 応急手当訓練	166	20.1%
(4) 消火訓練	425	51.6%
(5) 情報伝達・安否確認訓練	127	15.4%
(6) 防災講習会(研修会)参加	114	13.8%
(7) 危険箇所の点検	76	9.2%
(8) 炊き出し訓練	54	6.6%
(9) その他	15	1.8%
無回答	6	0.7%
計	1,741	211.3%

全体では「避難訓練」と「消火訓練」が多くなっており、それぞれ74.9%、51.6%の回答となっている。

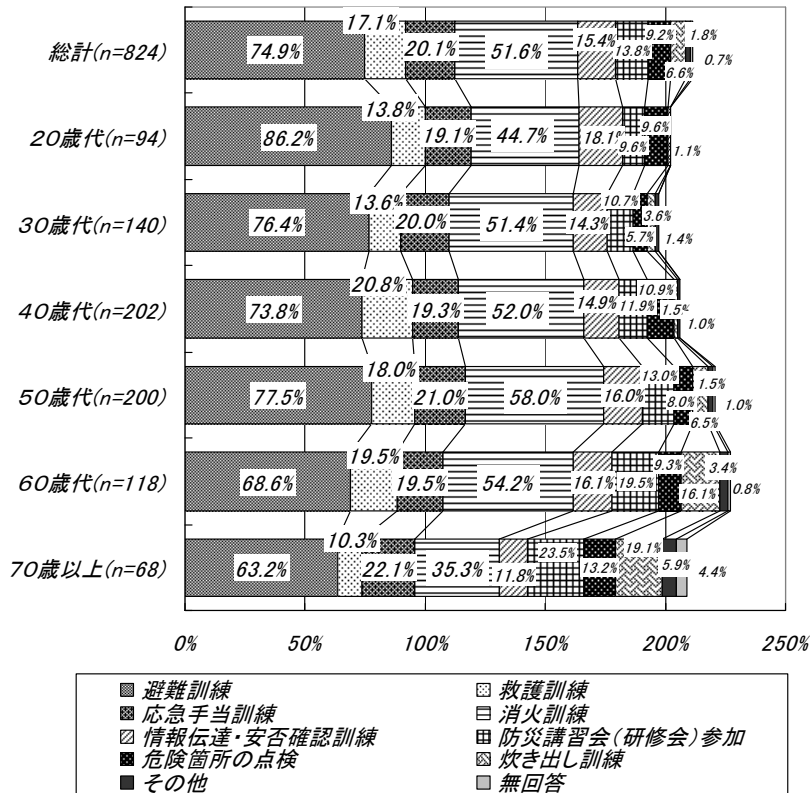
その他回答では「消防団の訓練」「ドクターヘリ」「非常食の試食」「化学薬品流出訓練」などの回答が見られた。

男女別集計



男女別の状況を見ると、女性のほうが「避難訓練」の回答が多く79.2%が参加。一方で男性では「救護訓練」「消火訓練」「危険箇所の点検」などで参加率が女性より高くなっている。

### 年代別集計



※年齢無回答者については、グラフィケアウトの都合上数表にて表示。

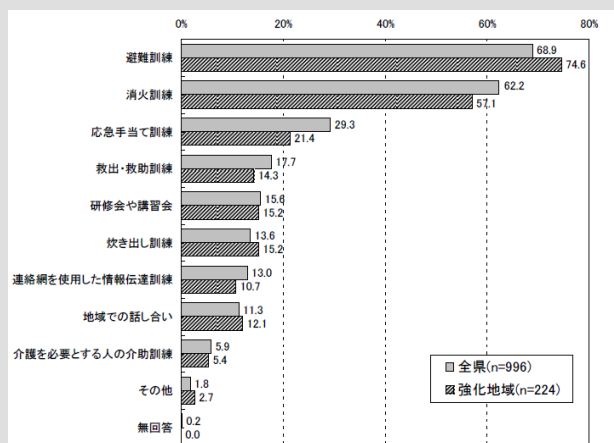
年齢無回答(n=2)

項目	避難訓練	救護訓練	応急手当訓練	消火訓練	情報伝達・安否確認訓練	防災講習会(研修会)参加	危険箇所の点検	炊き出し訓練	その他	無回答	合計
回答	1	1	1	2	1	1	1	0	0	0	8
構成比	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0	400%

年代別の状況を見ると、若い世代ほど「避難訓練」の回答が多くなっている。一方で年齢が高くなるにつれて「消火訓練」の回答が多くなる傾向にある。その他「救護訓練」についても年齢が高いほうが参加状況が高くなっている。ただし、70歳以上では「防災講習会(研修会)参加」や「炊き出し訓練」の回答が多くなっている。

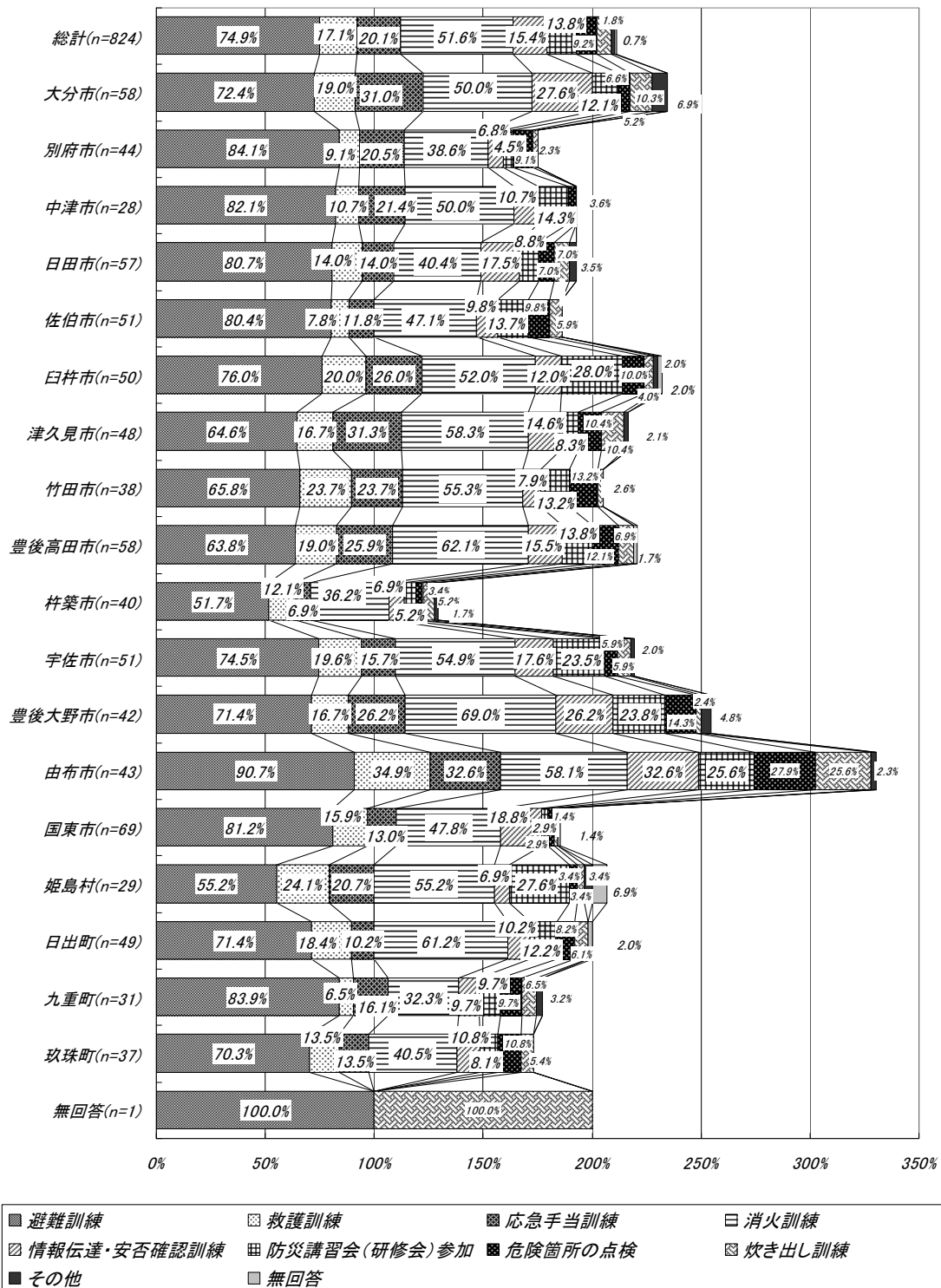
### ◆ 参考データ (三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より)

問 参加した防災活動は、どのようなものでしたか。



三重県調査をみると最も回答が多いのは「避難訓練」。次いで「消火訓練」「応急手当で訓練」と続いている。大分県と同じような回答傾向となっている。

### 市町村別集計



市町村別の状況をみると、ほとんどの市町村で「避難訓練」の参加が多くなっているが、杵築市や姫島村などではやや回答が少ない。また、「消火訓練」もどの市町村でも回答が多い。

その他、特徴のある市町村として、由布市では「情報伝達・安否確認訓練」「危険箇所の点検」「炊き出し訓練」などが多くなっている。

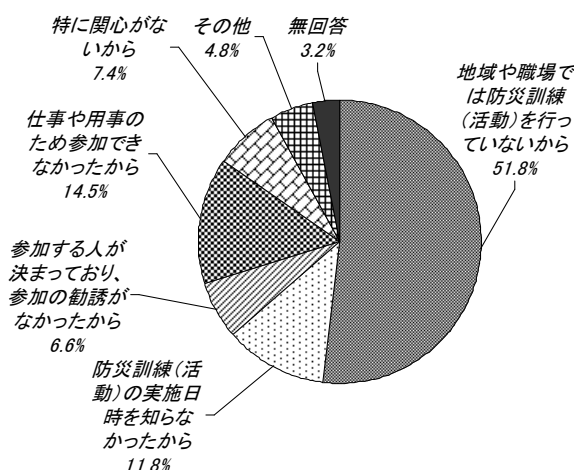
※【問26】で防災訓練（活動）に「2. 参加していない」と回答した者が対象

【小問②】

参加していない理由は何ですか？（○はひとつ）

1. 地域や職場では防災訓練（活動）を行っていないから
2. 防災訓練（活動）の実施日時を知らなかったから
3. 参加する人が決まっており、参加の勧誘がなかったから
4. 仕事や用事のため参加できなかったから
5. 特に関心がないから
6. その他（ ）

全体集計



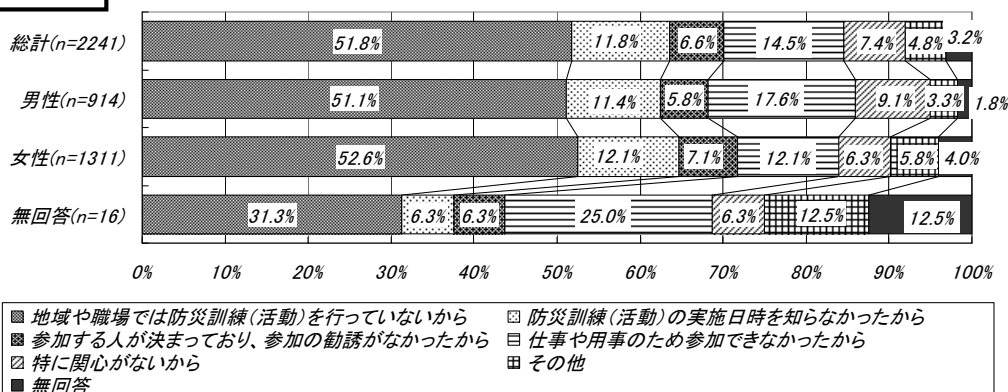
項目	回答数	構成比
(1) 地域や職場では防災訓練（活動）を行っていないから	1,161	51.8%
(2) 防災訓練（活動）の実施日時を知らなかったから	264	11.8%
(3) 参加する人が決まっており、参加の勧誘がなかったから	147	6.6%
(4) 仕事や用事のため参加できなかったから	324	14.5%
(5) 特に関心がないから	166	7.4%
(6) その他	108	4.8%
無回答	71	3.2%
計	2,241	100.0%

その他回答（無回答は除く）

項目	回答数
詳しくわからない、知らないから。	27
機会がなかったから。まだ実施されていないから。	24
子育てや介護などで時間に余裕がない。	9
体調不良のため。	7
障害があるため。	7
家族が参加しているので。	5
高齢のため。	4
会社で参加しているので。	2
地震の心配をしていないから。	2
過去に参加したことがあるため。	1

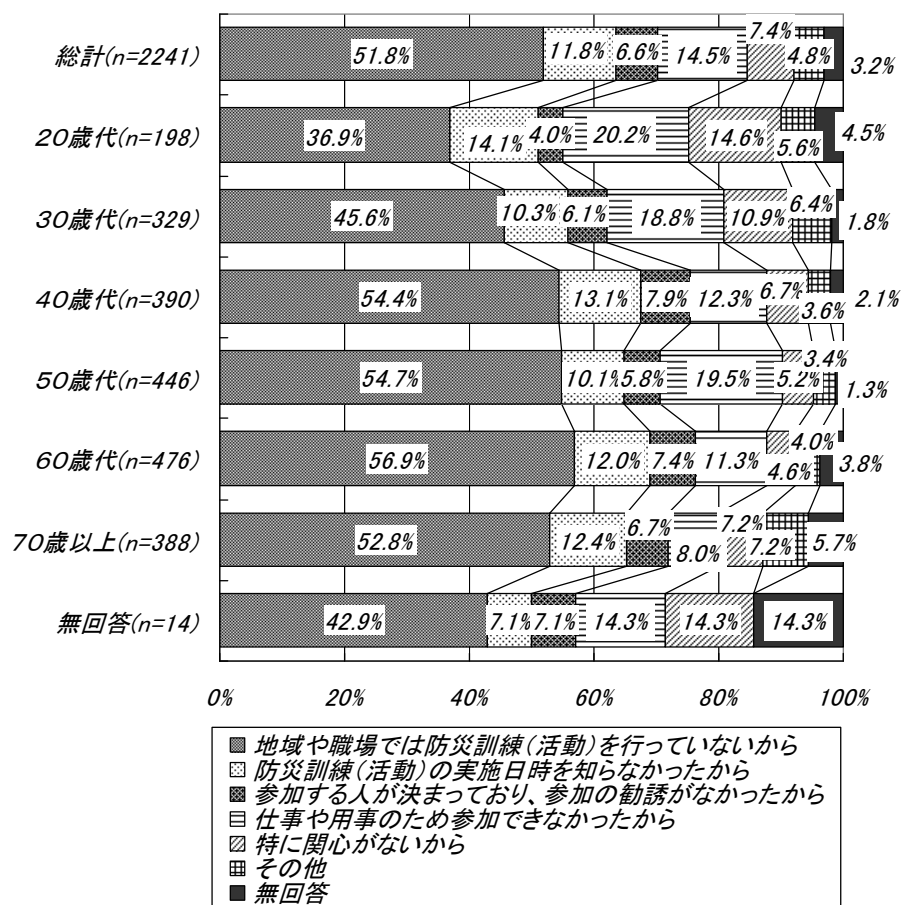
全体では「地域や職場では防災訓練（活動）を行っていないから」が多くなっており 51.8% が回答。次いで「仕事や用事のため参加できなかったから」が 14.5%、「防災訓練（活動）の実施日時を知らなかったから」が 11.8%と続いている。その他回答では、「詳しく分からない。知らない。」や「機会がなかったから。まだ実施されていないから」などがみられている。

男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「仕事や用事のため参加できなかったから」の回答が多くなっており 17.6%が回答。女性については「参加する人が決まっており、参加の勧誘がなかったから」が男性よりも高く 7.1%が回答している。

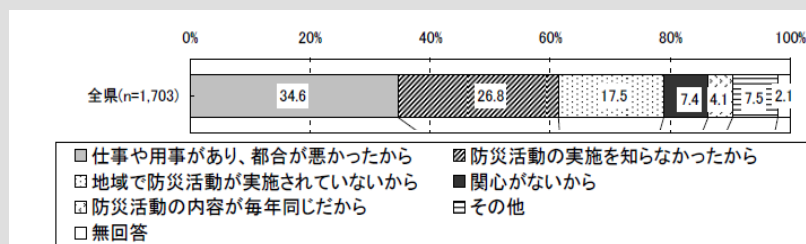
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、中心は「地域や職場では防災訓練（活動）を行っていないから」の回答であるが、20～30歳代で「仕事や用事のため参加できなかったから」や「特に興味がないから」の回答も多くなっている。また、50歳代では「仕事や用事のため参加できなかったから」の回答も多くなっている。

## ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

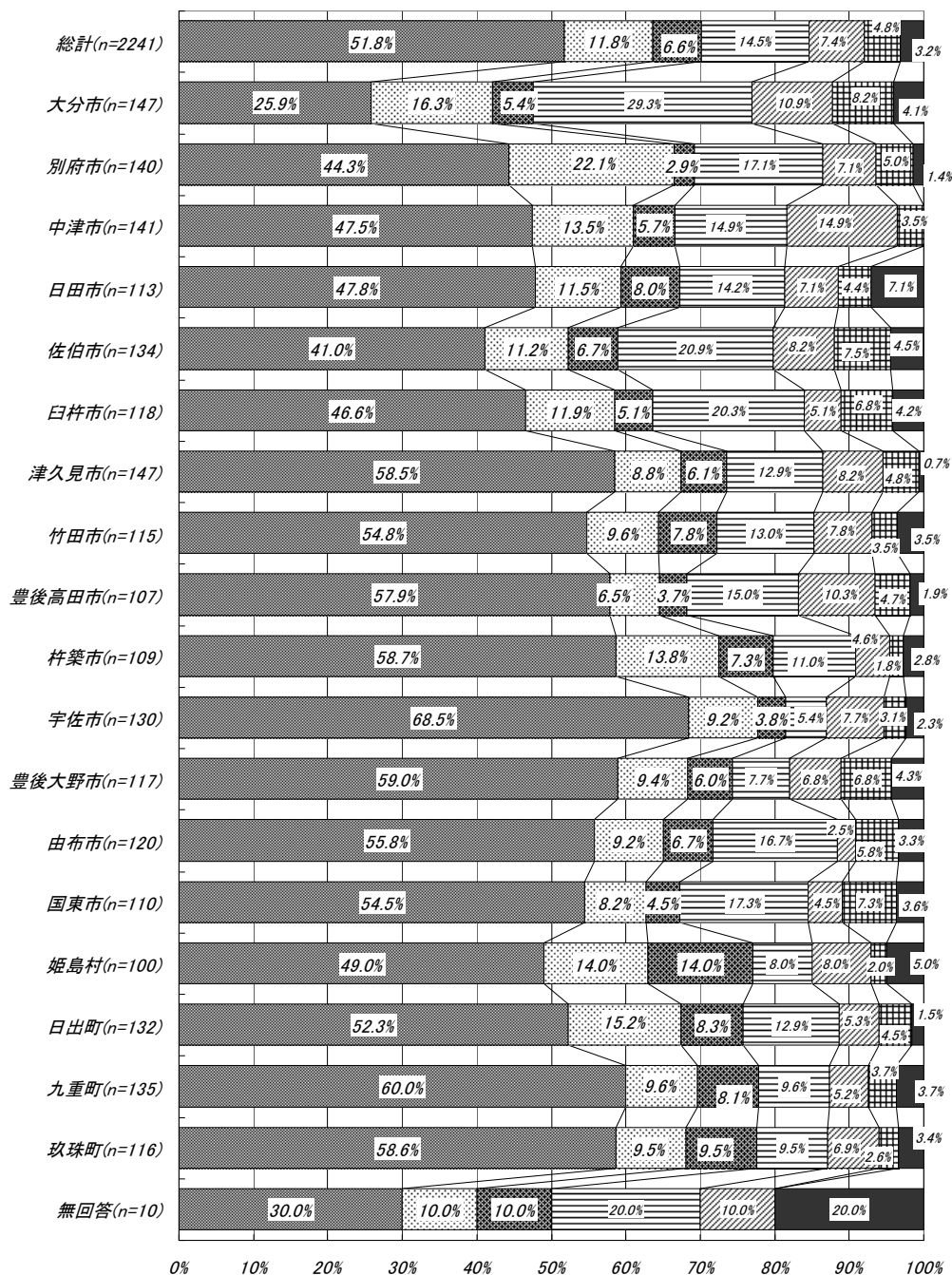
問 あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。（過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか？の質問に対して「参加していない」と回答した者に対する質問）



三重県調査をみると「仕事や用事があり、都合が悪かったから」が最も多くなっている。次いで「防災活動の実施を知らなかったから」となっている。大分県で回答が多かった「地域で防災活動が実施されていないから」は回答率が低い状況となっている。



## 市町村別集計



- 地域や職場では防災訓練(活動)を行っていないから
- 参加する人が決まっておき、参加の勧誘がなかったから
- 特に関心がないから
- 無回答
- 防災訓練(活動)の実施日時を知らなかったから
- 仕事や用事のため参加できなかったから
- その他

市町村別の状況を見ると、大分市以外では「地域や職場では防災訓練(活動)を行っていないから」が中心である。大分市では「仕事や用事のため参加できなかったから」の回答が多くなっている。また、別府市では「防災訓練(活動)の実施日時を知らなかったから」の回答も多い。その他、中津市では「特に関心がないから」の回答が多くなっている。また、姫島村では「参加する人が決まっておき、参加の勧誘がなかったから」の回答も多くなっている。

5 - (5)

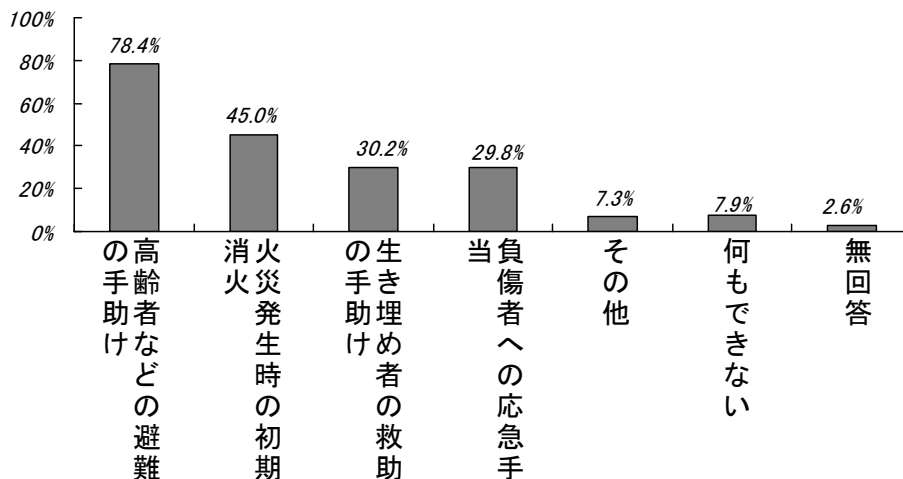
【問27】

◎助け合い活動の可能性について

災害発生時、あなたが無事だったとき、どのような助け合い活動ができると思いますか。  
(〇はいくつでも)

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1. 高齢者などの避難の手助け | 2. 火災発生時の初期消火 |
| 3. 生き埋め者の救助の手助け | 4. 負傷者への応急手当  |
| 5. その他 ( )      |               |
| 6. 何もできない       |               |

全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 高齢者などの避難の手助け	2,446	78.4%
(2) 火災発生時の初期消火	1,403	45.0%
(3) 生き埋め者の救助の手助け	942	30.2%
(4) 負傷者への応急手当	931	29.8%
(5) その他	227	7.3%
(6) 何もできない	246	7.9%
無回答	80	2.6%
計	6,275	201.1%

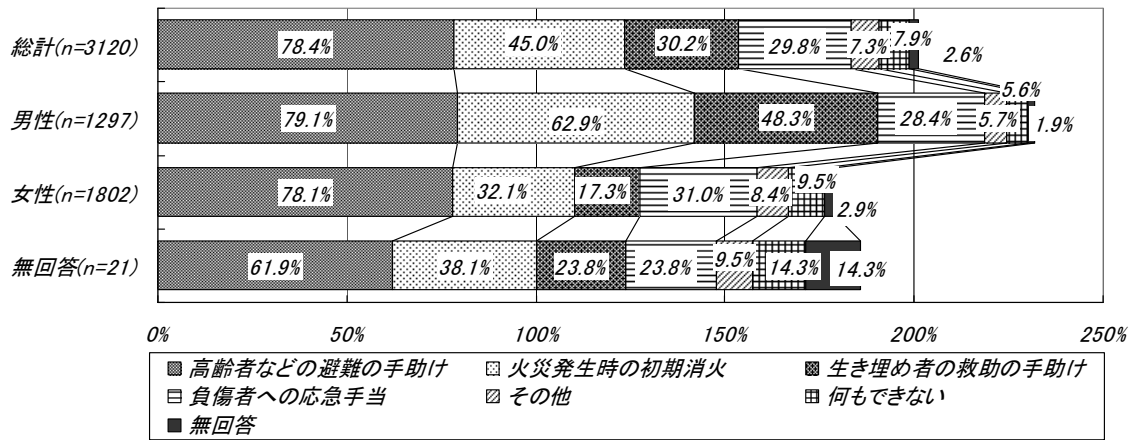
全体では「高齢者などの避難の手助け」が最も多く 78.4%が回答している。次いで「火災発生時の初期消火」が 45.0%と続いている。

その他回答についてみると、「食料の提供。炊き出しなど」という回答が多かった。また、「できることはすべて」という回答も多くみられた。

その他回答(無回答は除く)

項目	回答数
食料の提供。炊き出しなど。	86
できることはすべて。	37
安全場所の確認、連絡、誘導、責任者の確認など。	22
その時の状況による。	15
医療措置・メンタルケア・カウンセラー。	15
年齢や体の不調のためできる範囲で。	13
家族や自分自身のことを優先する。	10
子供の世話。	8
避難所でのボランティア活動。	7
仮設住宅の建設。住居の提供。	5
荷物運びなど簡単な手伝い。	4
110番、119番への通報。	1
ペットを預かる。	1

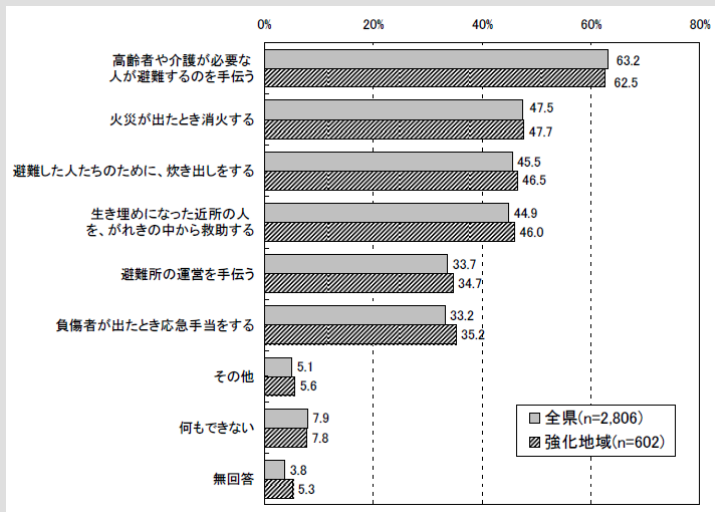
### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男性のほうが「火災発生時の初期消火」や「生き埋め者の救助の手助け」の回答が多くなっている。女性では「負傷者への応急手当」の回答が男性よりも多くなっている。

### ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

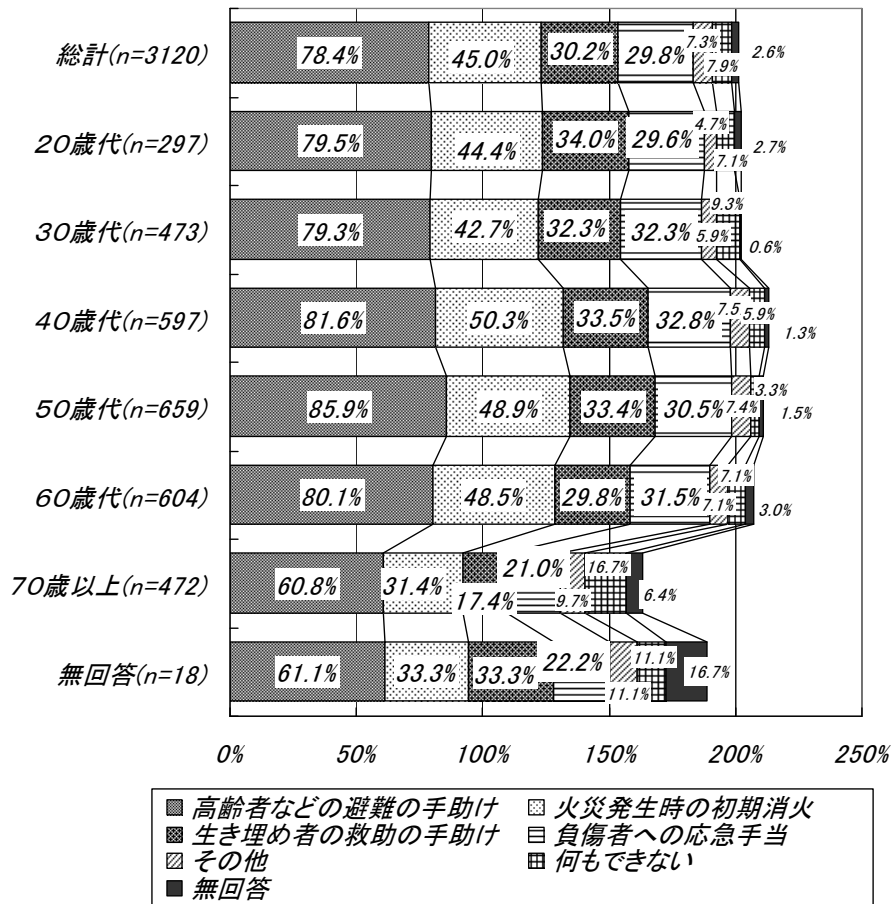
問 災害が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力してどのようなことができると思いますか。



三重県調査をみると、最も回答が多いのは「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」であり63.2%が回答。次に「火災が出たとき消火する」で47.5%と続いている。

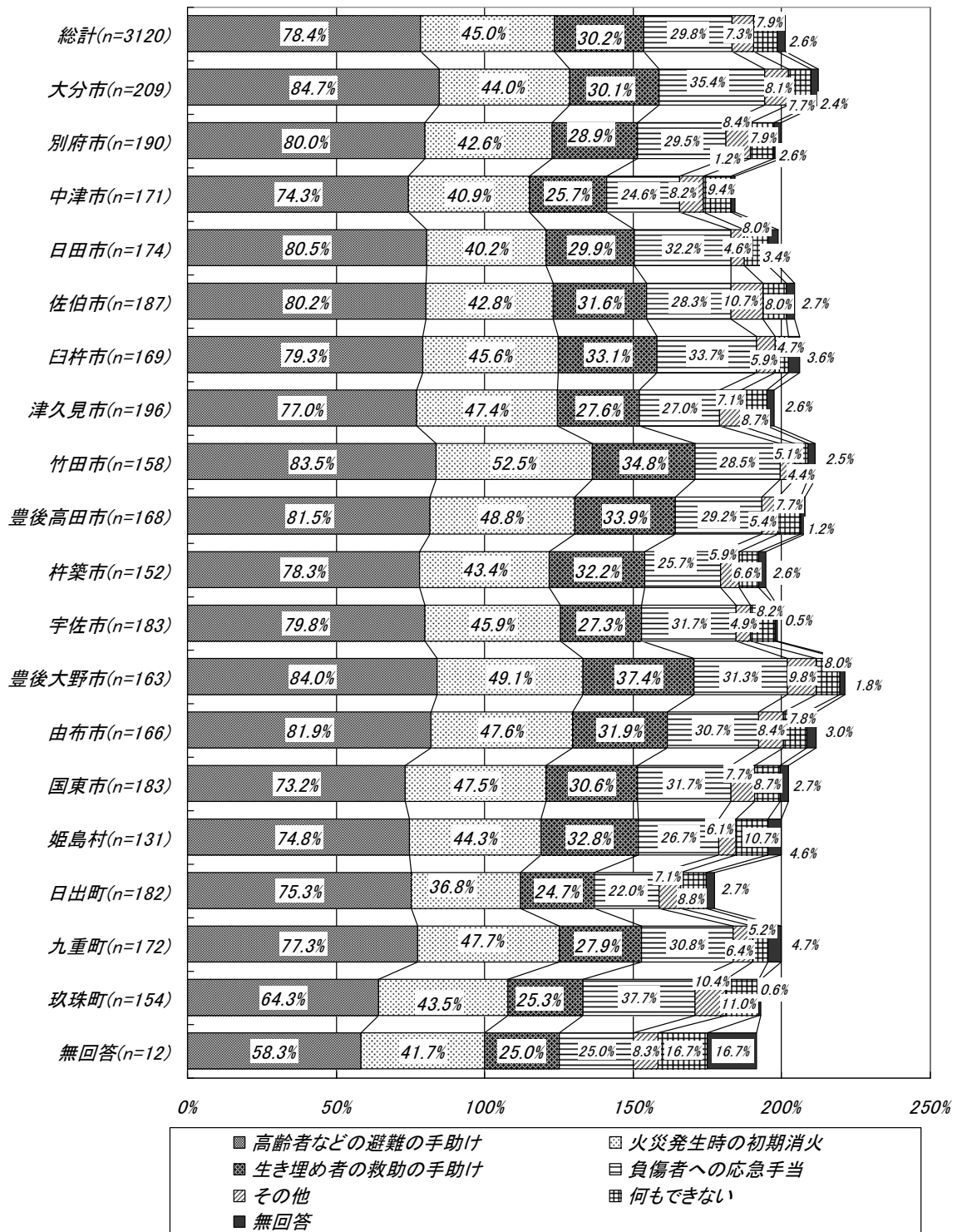
大分県と同じような回答結果となっており「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」「火災が出たとき消火する」が上位にきている。

## 年代別集計



年代別の状況を見ると、20歳代から60歳代までは大きな違いはなくどの年代でも「高齢者などの避難の手助け」「火災発生時の初期消火」などが多くなっている。また、70歳以上については「何もできない」という回答が多くなっている。

### 市町村別集計



市町村別の傾向をみると、おおむねどの市町村でも同じような回答の傾向となっているが、玖珠町では「高齢者などの避難の手助け」がやや少なく、「負傷者への応急手当」がやや多い。また、竹田市や豊後大野市では「火災発生時の初期消火」「生き埋め者の救助の手助け」がやや多くなっている。

## 6. 防災（減災）啓発について

### 6- (1)

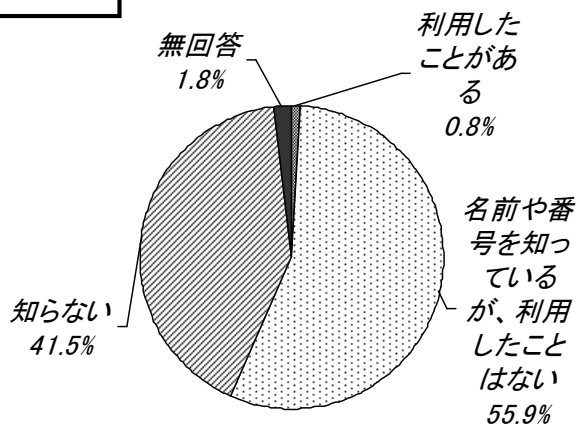
#### 【問28】

##### ◎災害用伝言ダイヤルについて

災害発生時に通信がつながりにくい状態になった場合には、「災害用伝言ダイヤル171」がNTTから提供されます。ご存じですか？（〇はひとつ）

1. 利用したことがある
2. 名前や番号を知っているが、利用したことはない
3. 知らない

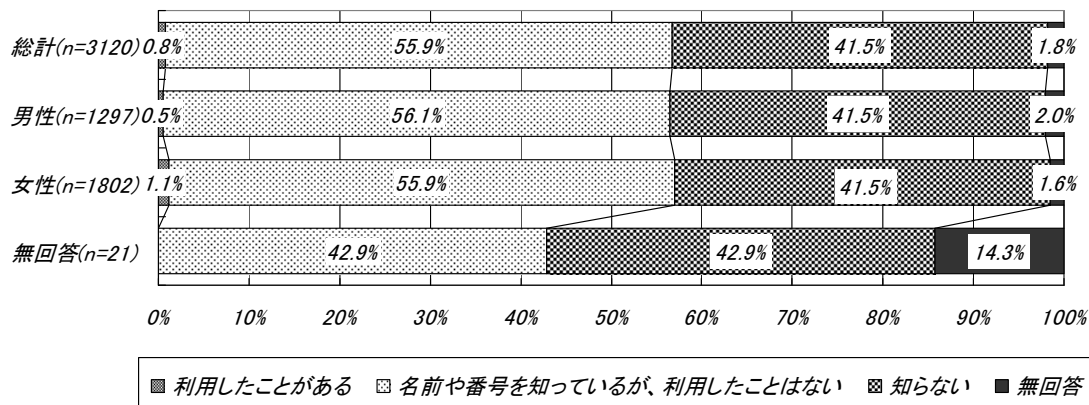
#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 利用したことがある	26	0.8%
(2) 名前や番号を知っているが、利用したことはない	1,743	55.9%
(3) 知らない	1,294	41.5%
無回答	57	1.8%
計	3,120	100.0%

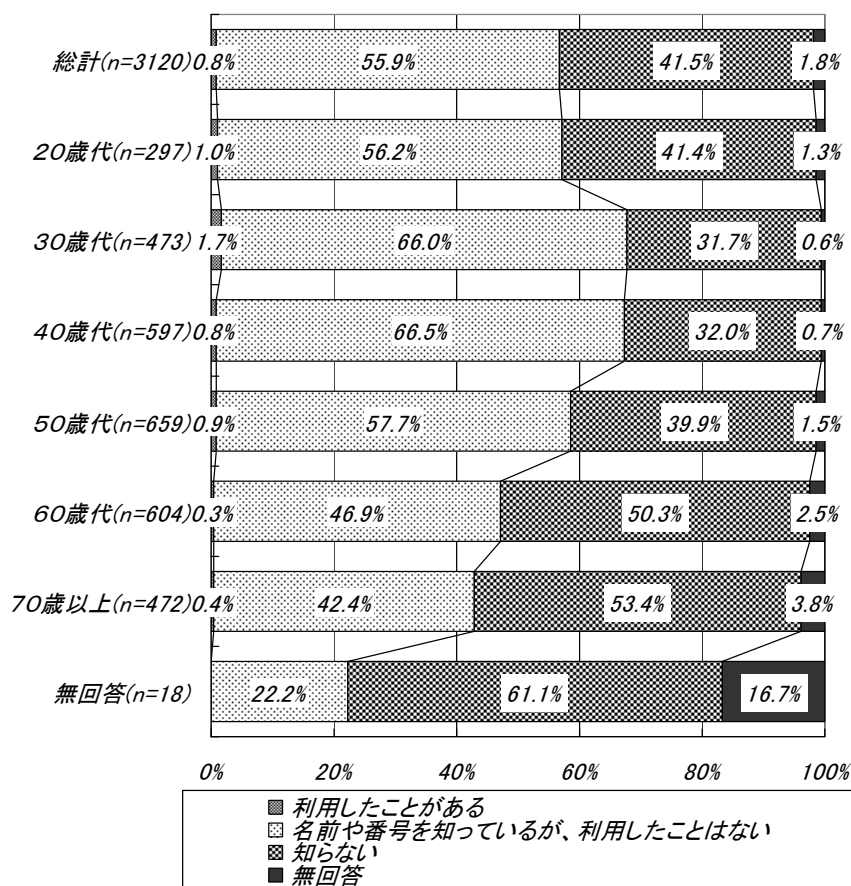
全体では「名前や番号を知っているが、利用したことはない」という回答が最も多く 55.9%。次いで「知らない」が 41.5%。「利用したことがある」は 0.8%となっている。

#### 男女別集計



男女別の状況を見ると、男女ともほとんど同率の回答状況となっており「名前や番号を知っているが、利用したことはない」が最も多く 56%前後の回答となっている。

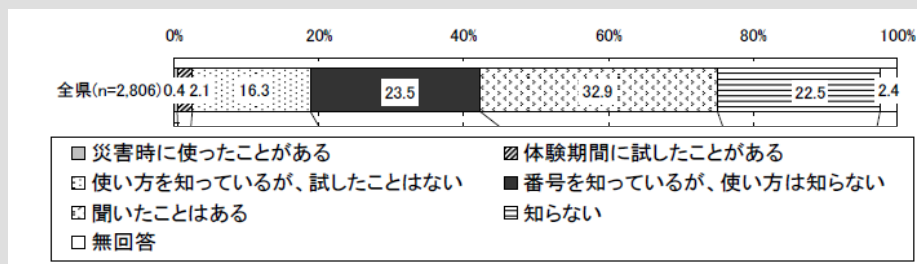
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、「名前や番号を知っているが、利用したことはない」の回答が中心であるが、年齢が高くなるにつれて「知らない」の回答が高くなっている。また、20歳代では56.2%が「名前や番号を知っているが、利用したことはない」となっており、50歳代と同じような回答状況となっている。

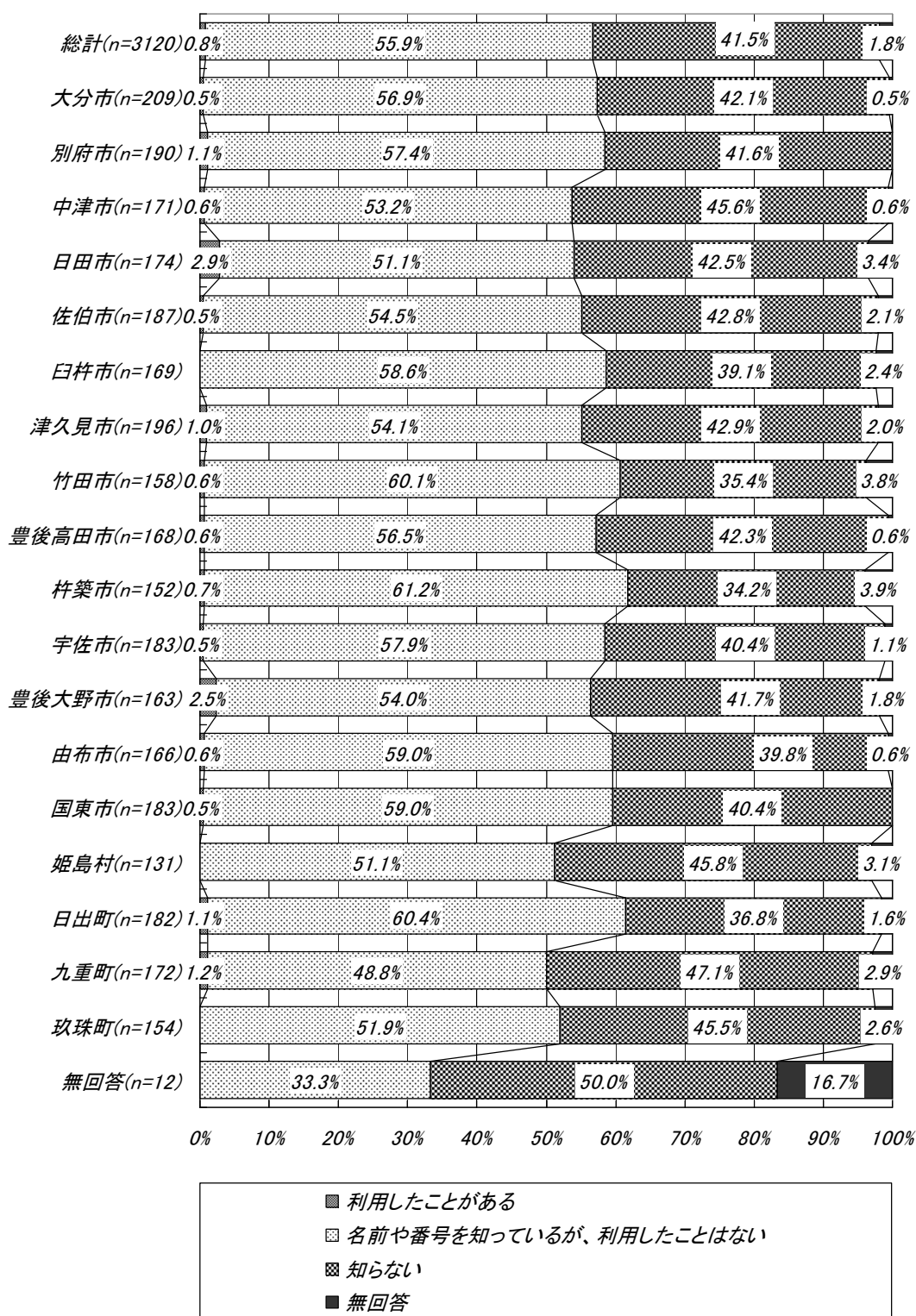
## ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 災害時に家族・親類・知人などの安否を確認できるシステムとして、NTTの災害用伝言ダイヤル「171」があります。災害用伝言ダイヤル「171」について知っていますか。



三重県調査をみると、「知らない」は22.5%。「知らない」の回答が大分県より約20%程度低い結果となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、どの市町村でも回答の傾向に大きな違いはみられない。その中で、「知らない」の回答が多いのは中津市・姫島村・九重町・玖珠町などとなっている。一方で「利用したことがある」「名前や番号を知っているが、利用したことはない」の回答が多いのは、竹田市・杵築市・日出町などとなっている。



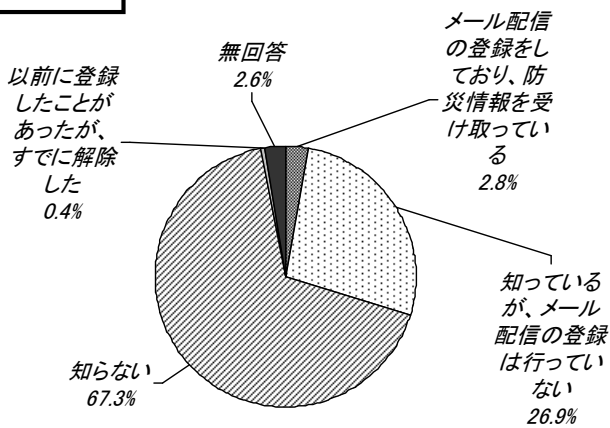
【問29】

◎県民安全・安心メールについて

大分県（県民安全・安心メール）や大分市（大分市防災メール）では、地震情報や気象警報などをメールで配信しています。この配信サービスをご存じですか？（○はひとつ）

1. メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている→別途質問へ
2. 知っているが、メール配信の登録は行っていない
3. 知らない
4. 以前に登録したことがあったが、すでに解除した

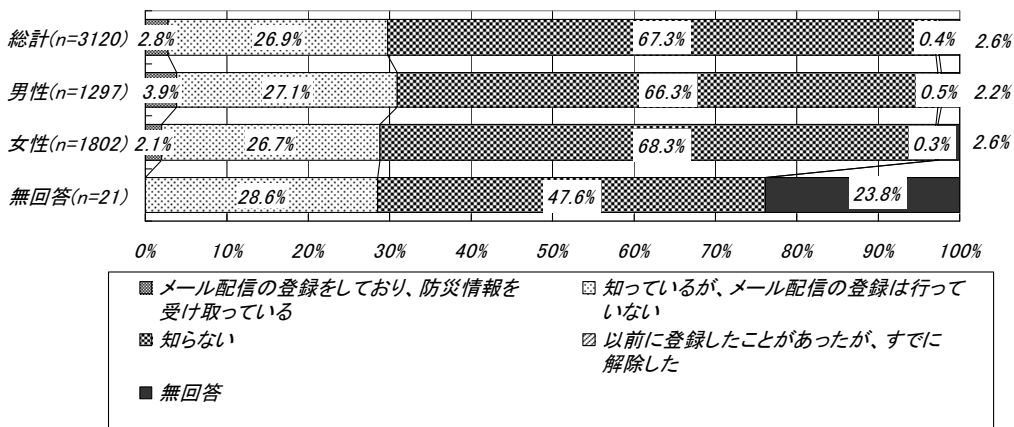
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている	87	2.8%
(2) 知っているが、メール配信の登録は行っていない	840	26.9%
(3) 知らない	2,100	67.3%
(4) 以前に登録したことがあったが、すでに解除した	12	0.4%
無回答	81	2.6%
計	3,120	100.0%

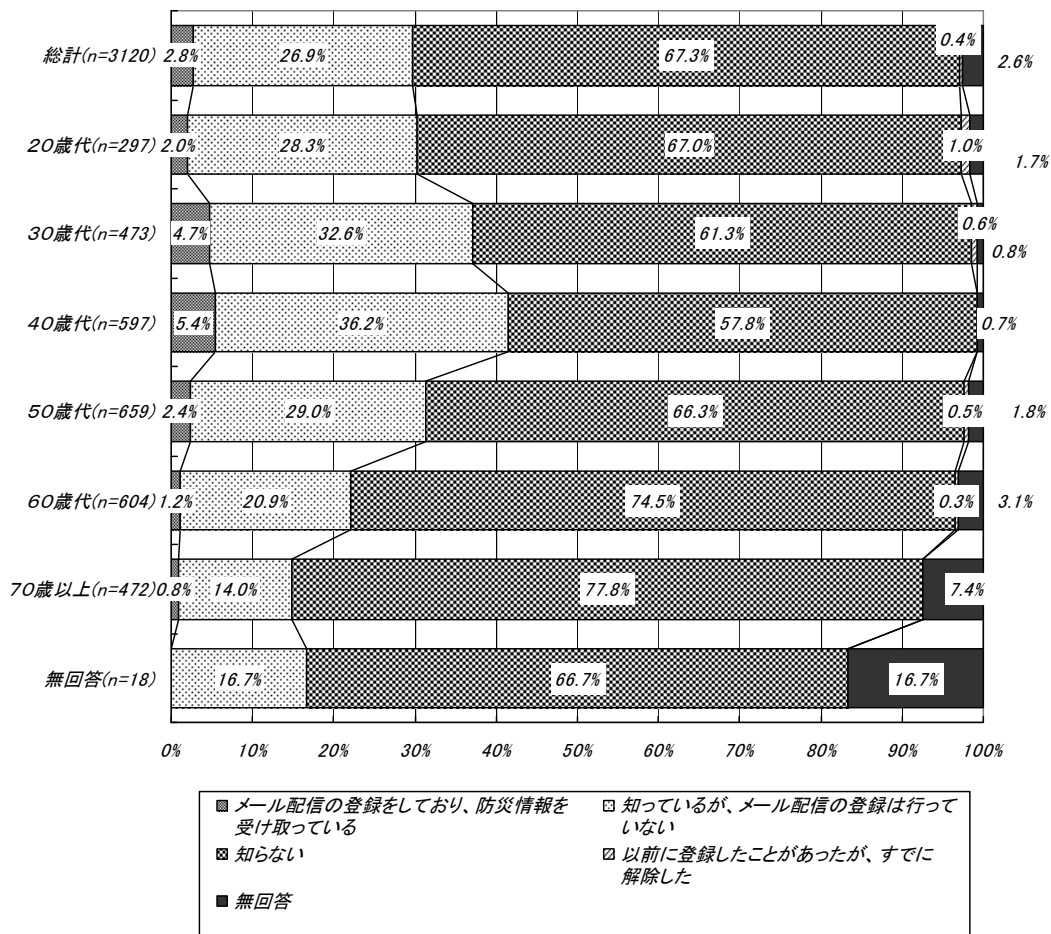
全体では「知らない」が最も多く 67.3%が回答。「メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている」は 2.8%。「知っているが、メール配信の登録は行っていない」が 26.9%。両者合わせると 29.7%が『知っている』という結果となった。

男女別集計



男女別の状況を見ると、男女の回答に大きな違いはないが、男性のほうが若干「メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている」の回答が高く 3.9%が回答している。

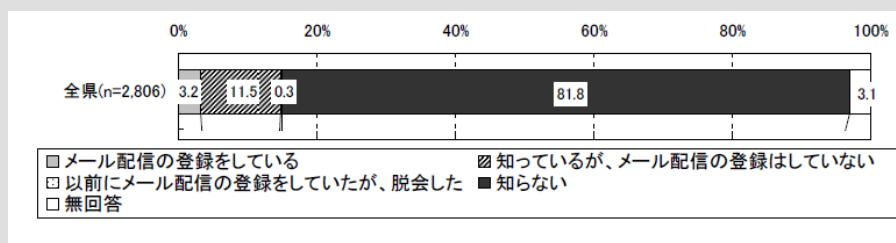
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、30～40歳代で「メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている」や「知っているが、メール配信の登録は行っていない」の回答が多くなっている。また、50歳以上では年齢が高くなるにつれて「知らない」の回答が多くなっており、60歳代以上では7割以上が「知らない」と回答している。

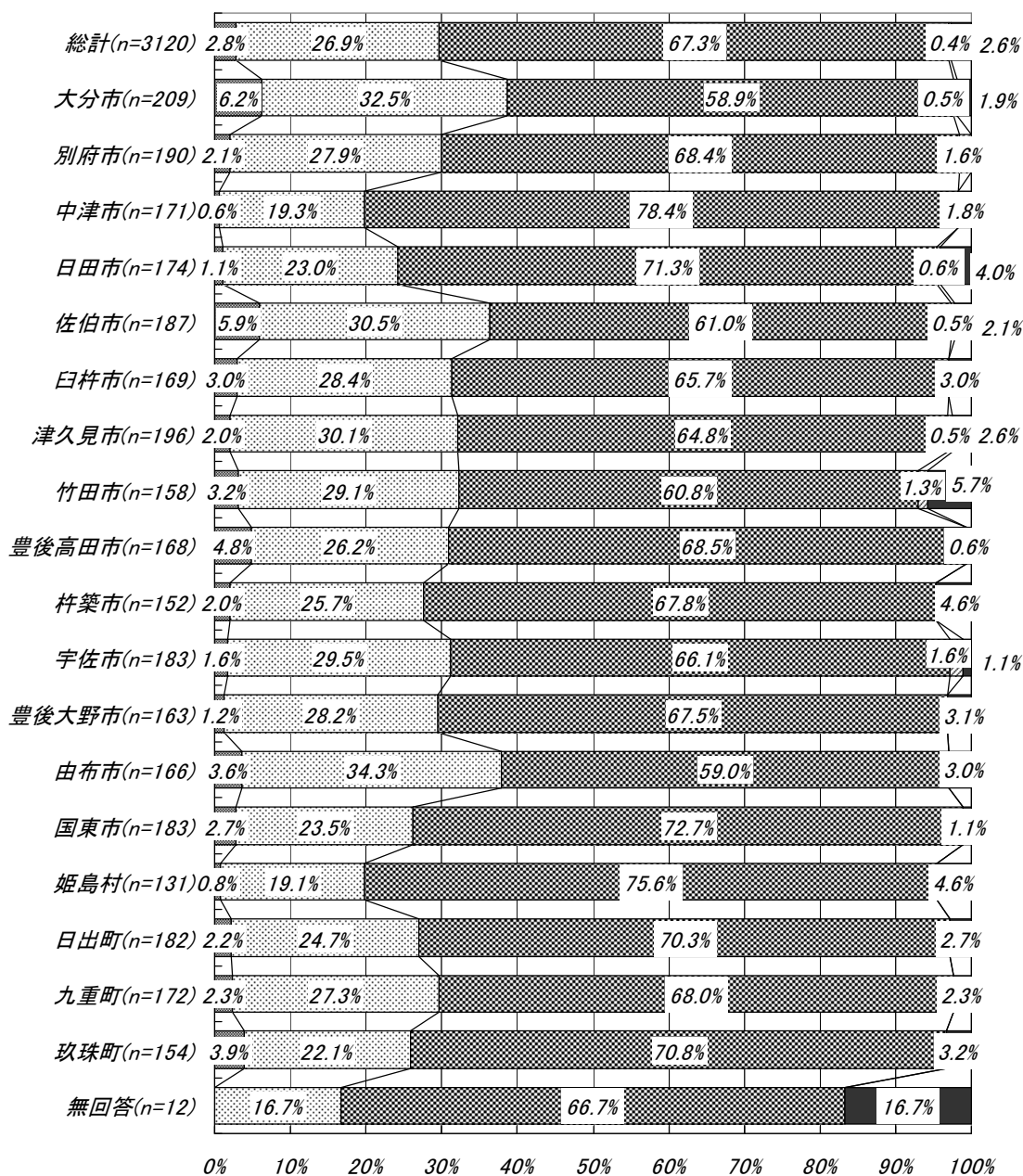
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 県では、気象情報や全国の地震情報などの防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存じですか。



三重県調査をみると、「知らない」は81.8%となっている。

## 市町村別集計



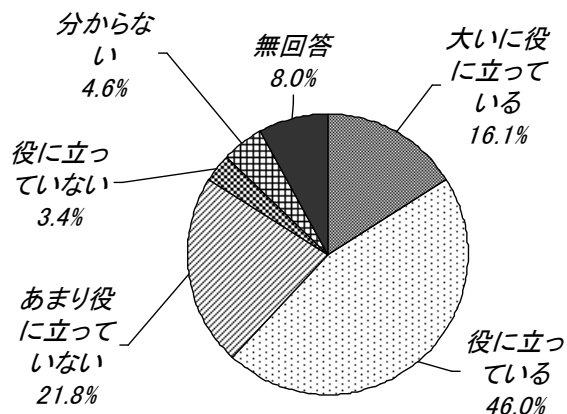
- メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている
- 知らない
- 無回答
- 知っているが、メール配信の登録は行っていない
- 以前に登録したことがあったが、すでに解除した

市町村別の状況を見ると、どの市町村でも同じような傾向となっているが、その中で「メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている」の回答が多いのは、大分市・佐伯市・豊後高田市。また、一方で「知らない」の回答が多いのは中津市・国東市・姫島村などとなっている。また、「知っているが、メール配信の登録は行っていない」については、大分市・佐伯市・由布市などで回答が多い。

< 1. メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている >方にお聞きします。  
登録していることで防災対策に役に立っていますか？（〇はひとつ）

1. 大いに役に立っている      2. 役に立っている  
3. あまり役に立っていない      4. 役に立っていない      5. 分からない

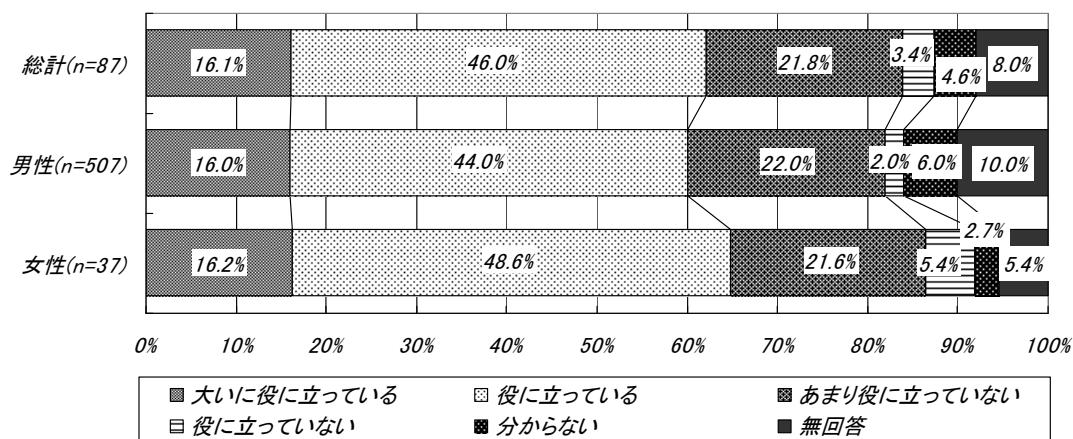
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 大いに役に立っている	14	16.1%
(2) 役に立っている	40	46.0%
(3) あまり役に立っていない	19	21.8%
(4) 役に立っていない	3	3.4%
(5) 分からない	4	4.6%
無回答	7	8.0%
計	87	100.0%

全体では、「役に立っている」という回答が最も多く 46.0%が回答。また「大いに役に立っている」が 16.1%回答しており、『役に立っている』という回答を合わせると 62.1%となっている。「あまり役に立っていない」については 21.8%となった。

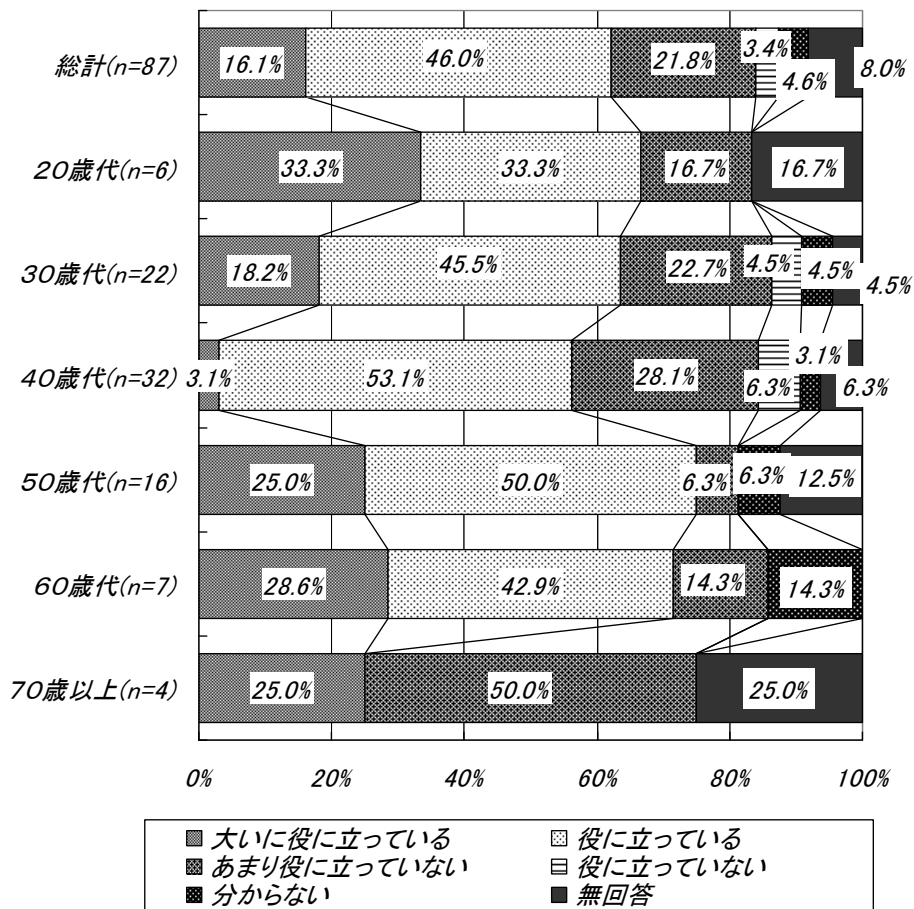
**男女別集計**



※性別無回答者なし

男女別の状況を見ると、回答に大きな違いはないが、女性のほうが若干「役に立っている」の回答が多く 48.6%が回答。一方で「役に立っていない」の回答も女性が若干多く 5.4%が回答している。また、男性では「分からない」の回答が 6.0%と女性よりも多い。

## 年代別集計

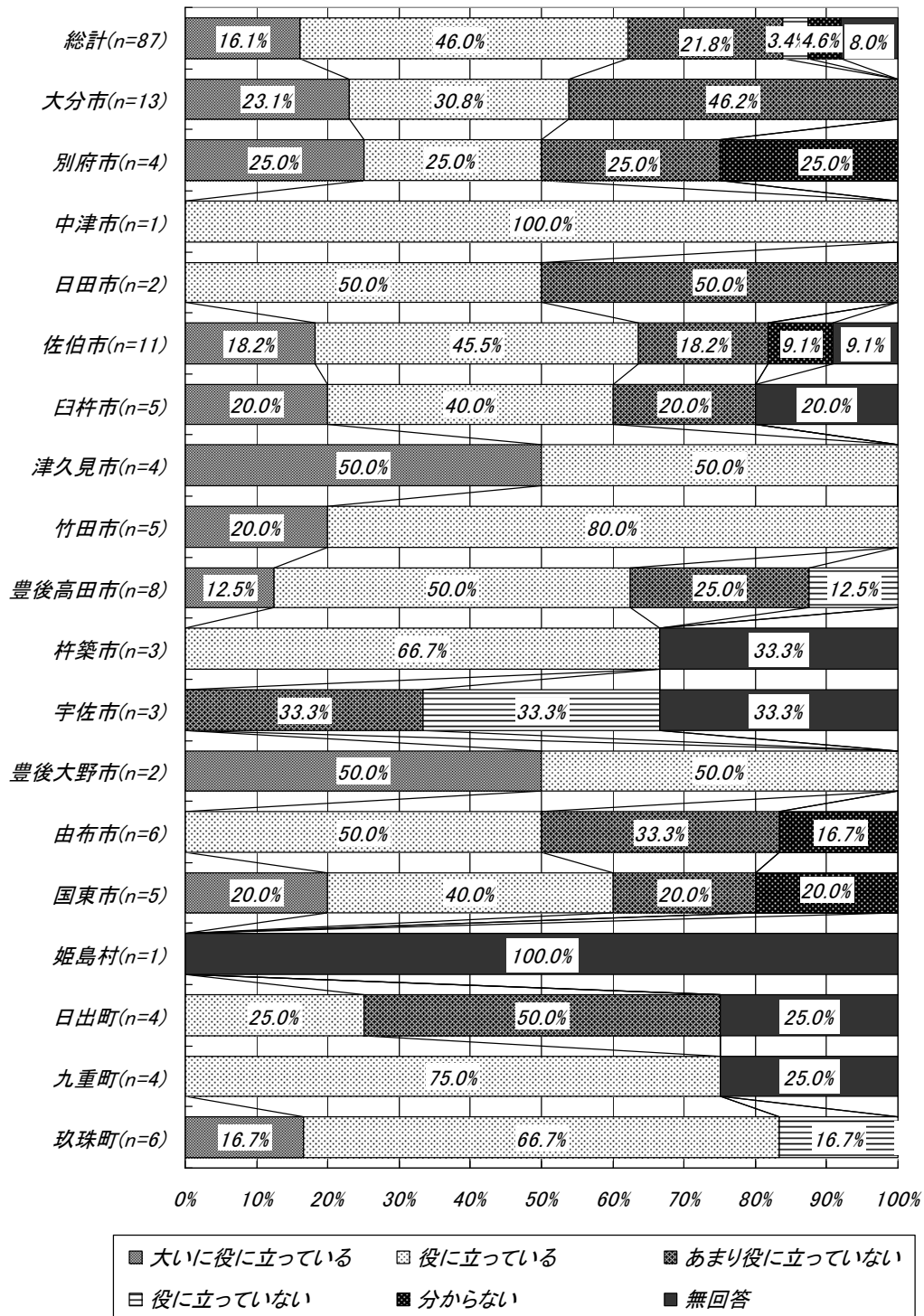


※年齢無回答者なし

年代別の状況をみると、どの年代でも回答数が多くはないために判断が難しいが、その中で40歳代では他の年代と比較して「大いに役に立っている」の回答が少なく「あまり役に立っていない」「役に立っていない」の回答が多い。

その他の年代については、50歳代、60歳代で「大いに役に立っている」「役に立っている」の両者を合わせた回答が多くなっている。20～30歳代も半数以上が「大いに役に立っている」「役に立っている」の両者を合わせた回答となっている。

### 市町村別集計



※住所無回答者なし

市町村別の状況を見ると、各市町村での回答者数が少ないために判断が難しいが、問 29 で「メール配信の登録をしており、防災情報を受け取っている」の回答が多かった、大分市・佐伯市・豊後高田市をみると、大分市が最も「大いに役に立っている」の回答が多い。また、3市とも「大いに役に立っている」「役に立っている」を合わせた回答率が5割以上となっている。

6 - (3)

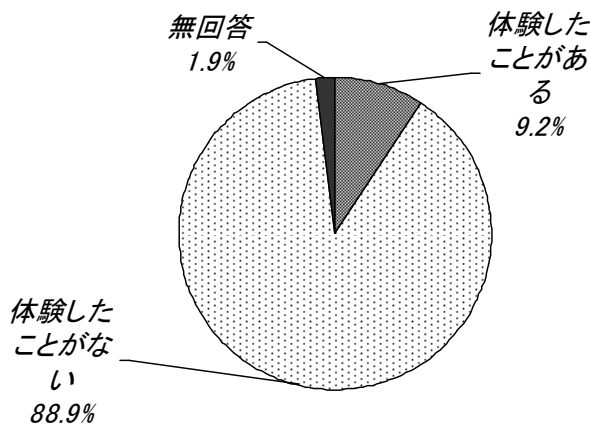
【問30】

◎地震体験車について

大分県や大分市では、地域の防災関連行事や防災訓練に「地震体験車」の貸し出しを行っています。これまでに地震体験車による地震を体験したことがありますか？（○はひとつ）

1. 体験したことがある→別途質問へ      2. 体験したことがない

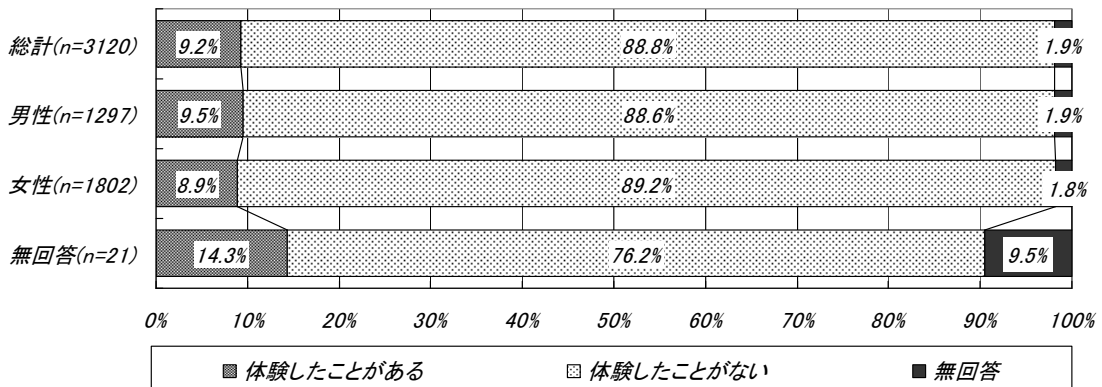
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 体験したことがある	287	9.2%
(2) 体験したことがない	2,772	88.9%
無回答	60	1.9%
計	3,119	100.0%

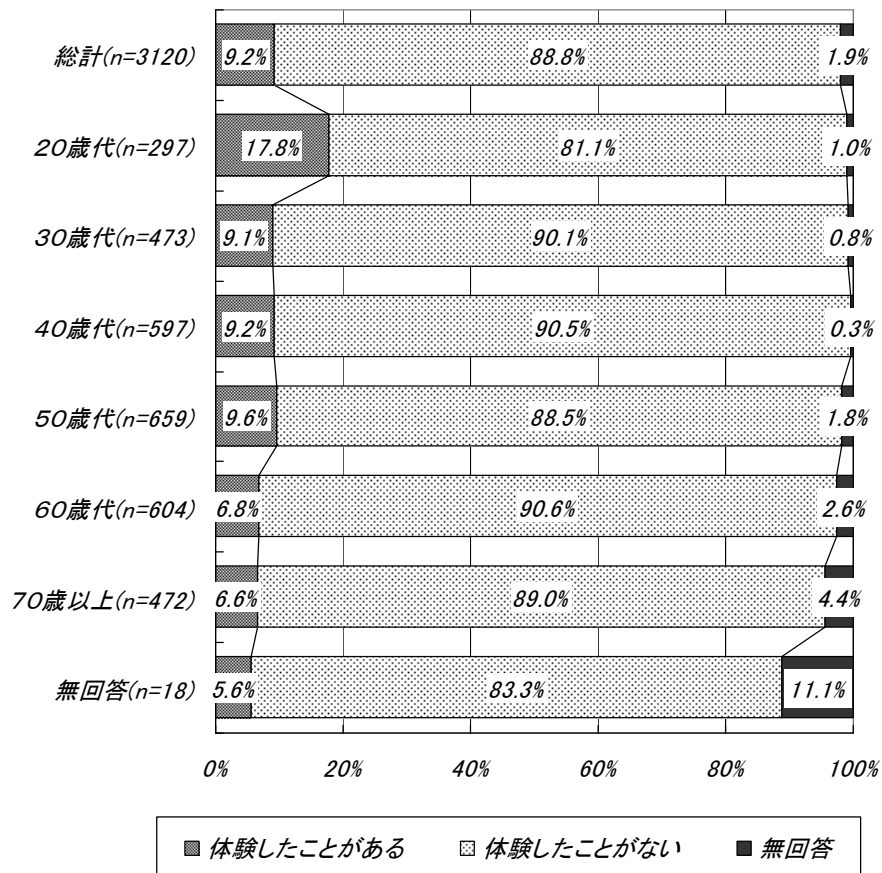
全体では「体験したことがない」という回答が多くなっており 88.9%が回答。「体験したことがある」は9.2%となっている。

男女別集計



男女別の状況を見ると、男女別で回答に大きな差はなく、9%前後が「体験したことがある」、89%前後が「体験したことがない」と回答している。

## 年代別集計

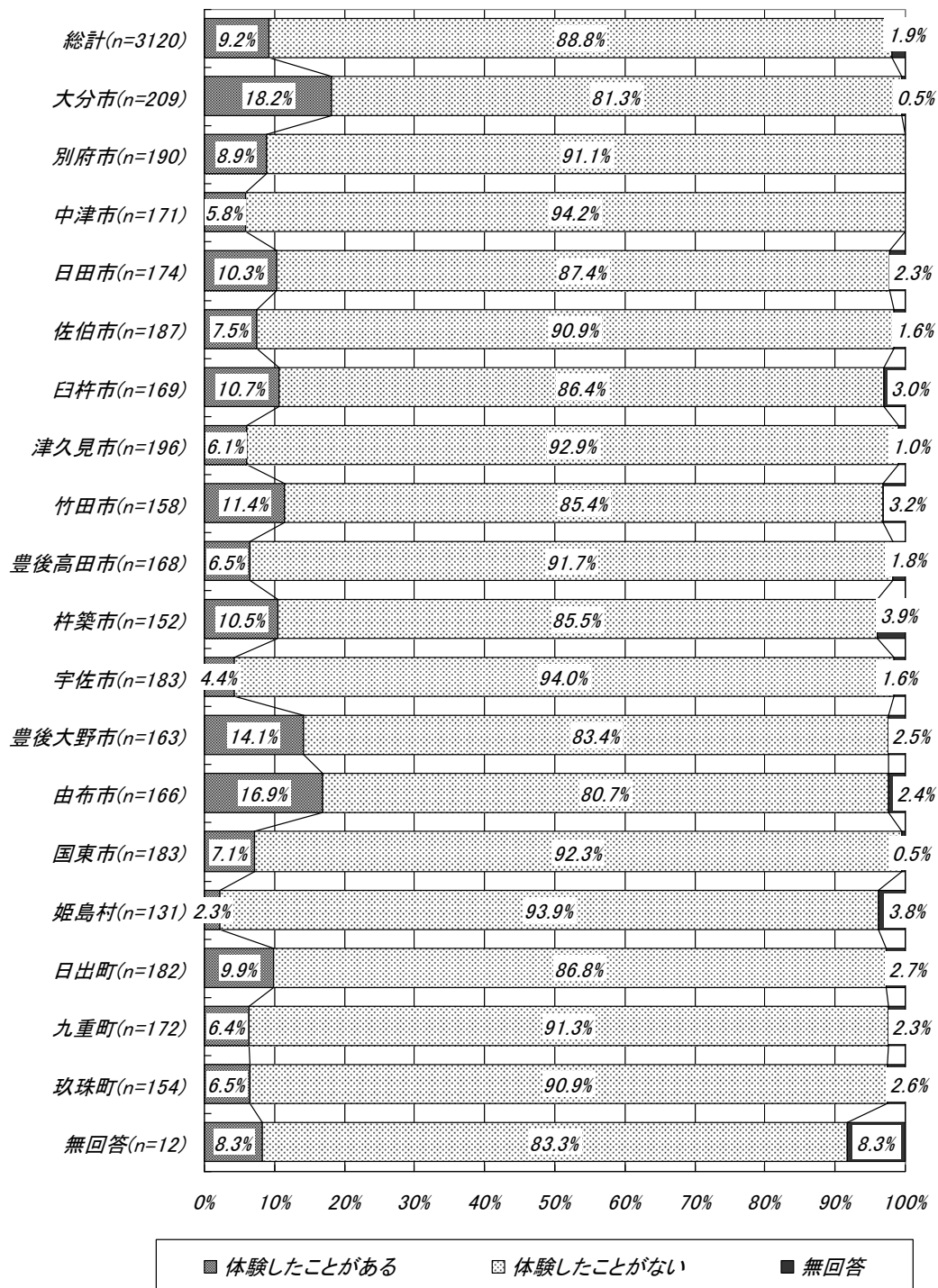


年代別の状況をみると、20歳代が「体験したことがある」の回答が多く17.8%が回答。30～50歳代についても9%程度が「体験したことがある」と回答している。

また一方で「体験したことがない」の回答については30歳代以上で9割程度が回答している。



## 市町村別集計



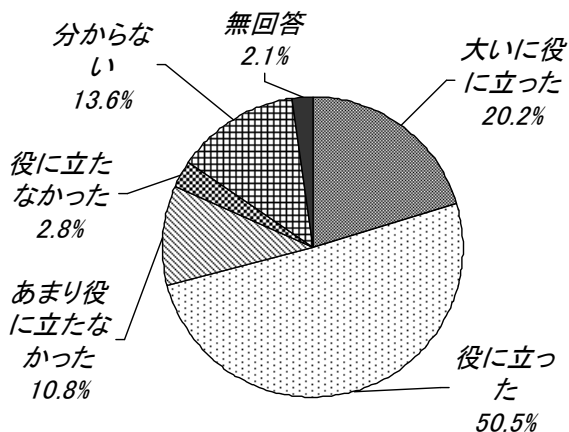
市町村別の状況を見ると、「体験したことがある」の回答が多いのは、大分市・豊後大野市・由布市など。一方で、「体験したことがない」の回答が多いのは、中津市・宇佐市・姫島村などとなっている。

地震体験車をく1. 体験したことがある>方にお聞きします。

体験したことで防災意識の向上や防災対策に役立ちましたか。 (〇はひとつ)

1. 大いに役に立った      2. 役に立った      3. あまり役に立たなかった  
4. 役に立たなかった      5. 分からない

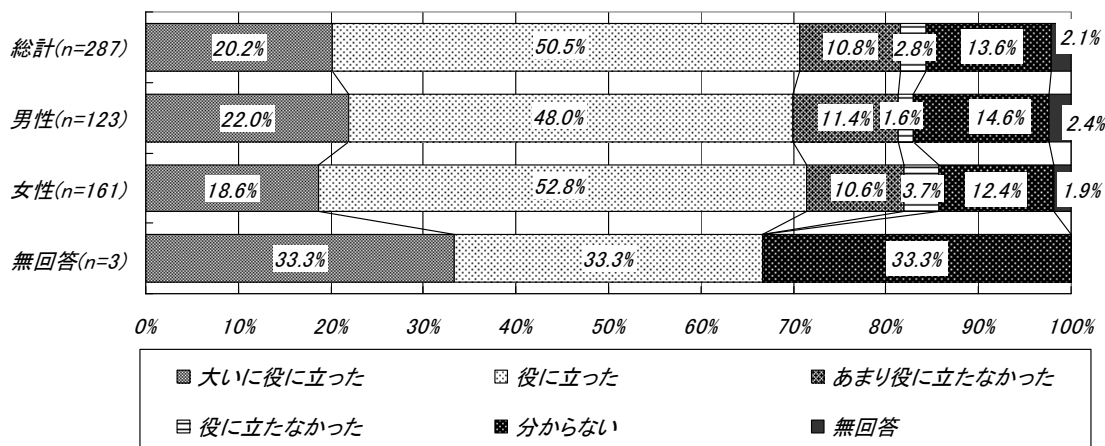
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 大いに役に立った	58	20.2%
(2) 役に立った	145	50.5%
(3) あまり役に立たなかった	31	10.8%
(4) 役に立たなかった	8	2.8%
(5) 分からない	39	13.6%
無回答	6	2.1%
計	287	100.0%

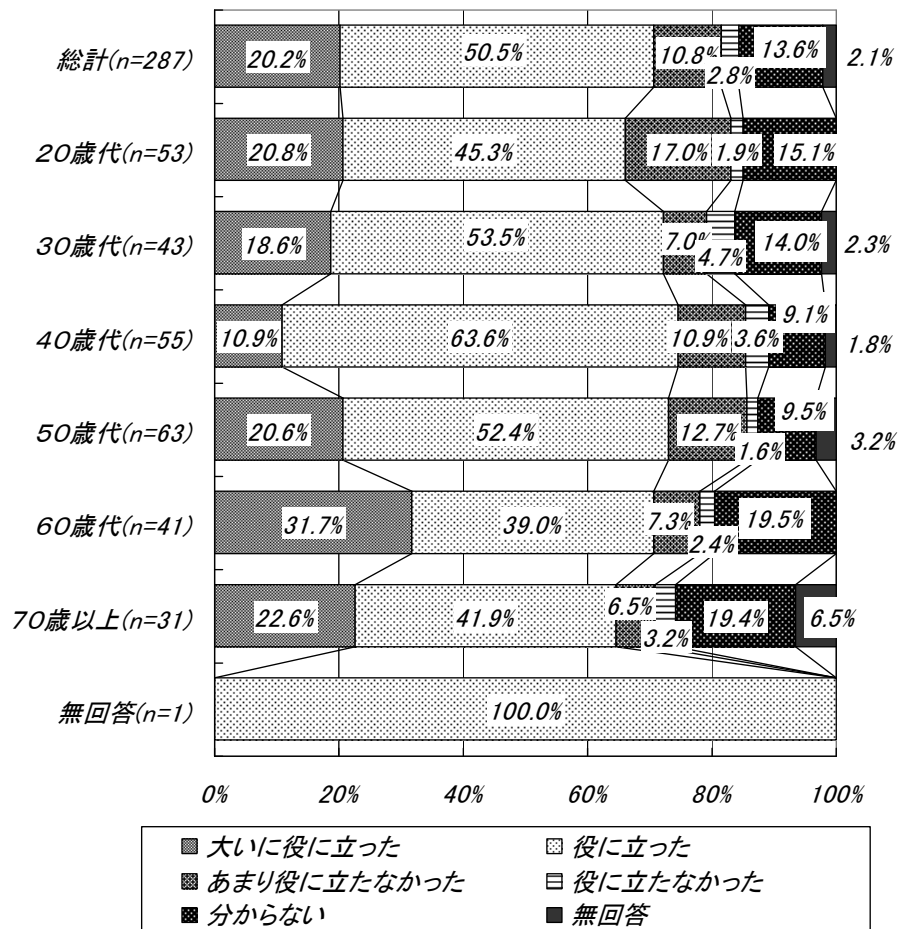
全体では「役に立った」が50.5%と最も多くなっている。次いで「大いに役に立った」が20.2%となっており、両者を合わせると『役に立った』は70.7%となっている。

**男女別集計**



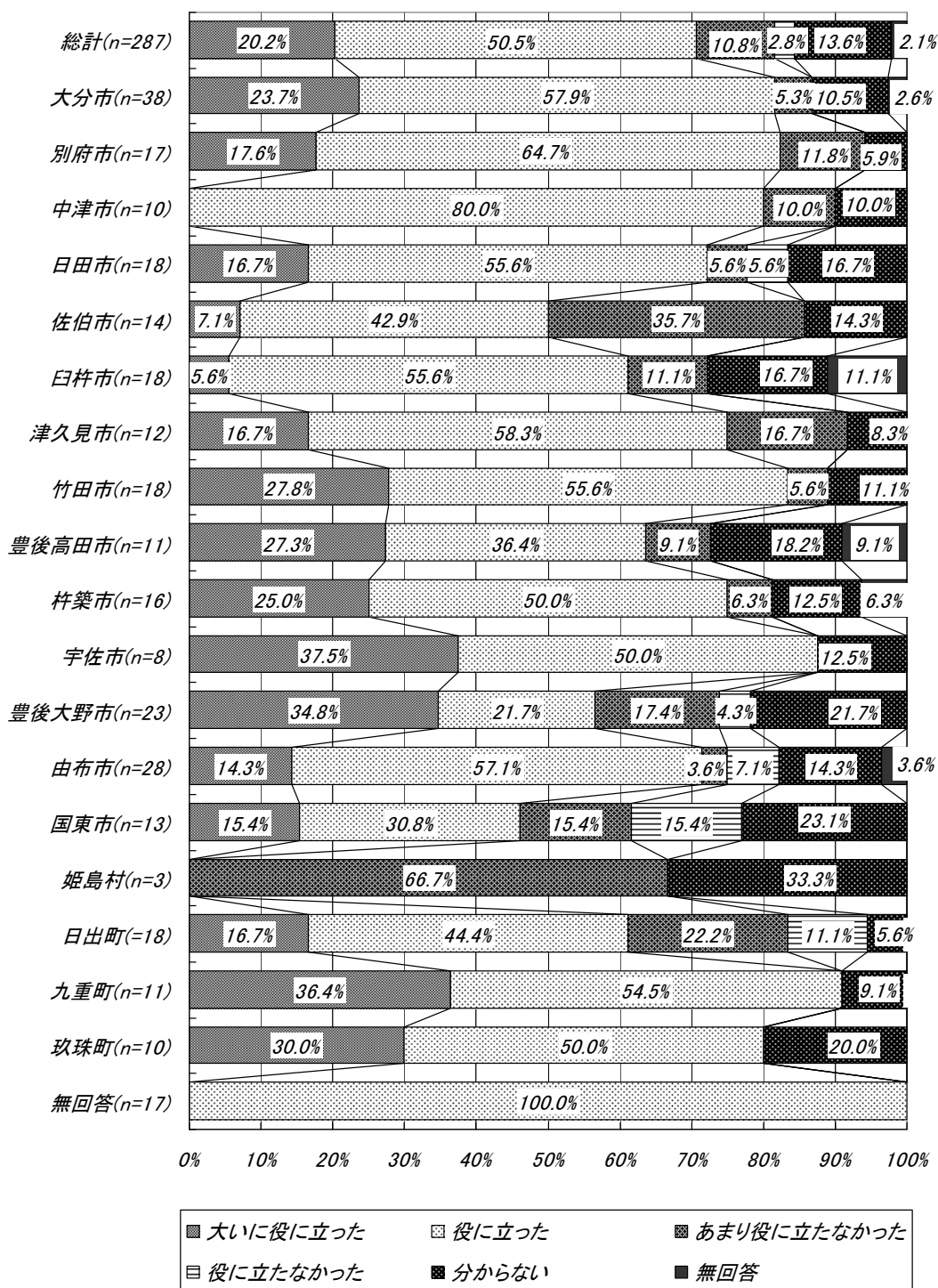
男女別の状況を見ると、男性のほうが「大いに役に立った」の回答が多く22.0%が回答している。一方で、女性では「役に立った」の回答が多くなっているものの、「役に立たなかった」の回答については男性より多く3.7%となっている。

### 年代別集計



年代別の状況を見ると、60歳代で「大いに役に立った」という回答が多く31.7%となっている。一方で、40歳代では「大いに役に立った」の回答が少なく、「役に立った」の回答が多くなっている。また、「役に立たなかった」の回答が多いのは30歳代となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、回答数が少ないために判断が難しいが、「大いに役に立った」の回答が多いのは、宇佐市・豊後大野市・九重町など。また「役に立った」の回答が多いのは別府市や中津市などとなっている。一方で「役に立たなかった」の回答が多かったのは国東市や日出町などとなっている。

6 - (4)

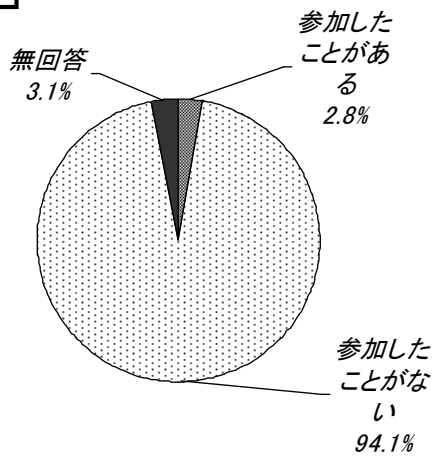
**【問31】**

**◎減災フェア・減災フォーラム・防災気象講演会について**

平成 21 年の防災週間（平成 21 年 8 月 30 日～9 月 5 日）には、さまざまな啓発事業を行っています。これらの啓発事業に参加したことがありますか？（○はひとつ）

1. 体験したことがある→別途質問へ                      2. 体験したことがない

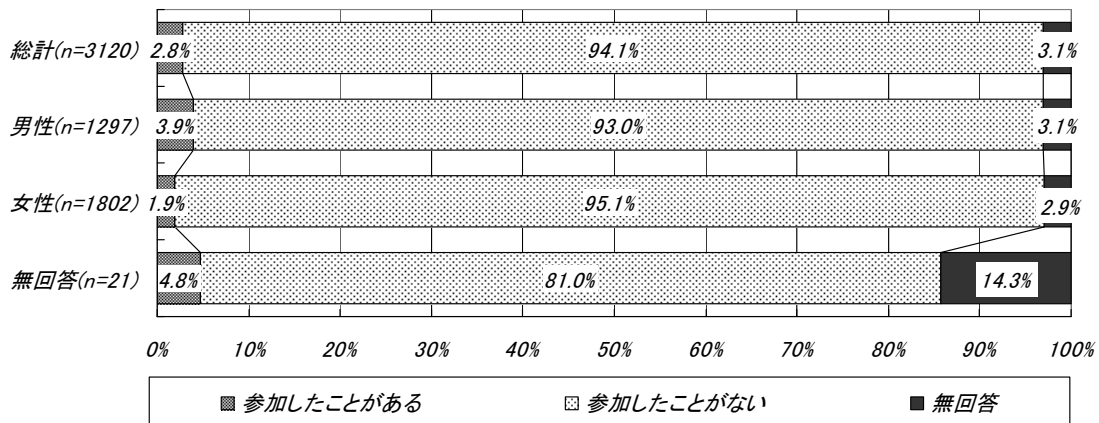
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 参加したことがある	87	2.8%
(2) 参加したことがない	2,937	94.1%
無回答	96	3.1%
計	3,120	100.0%

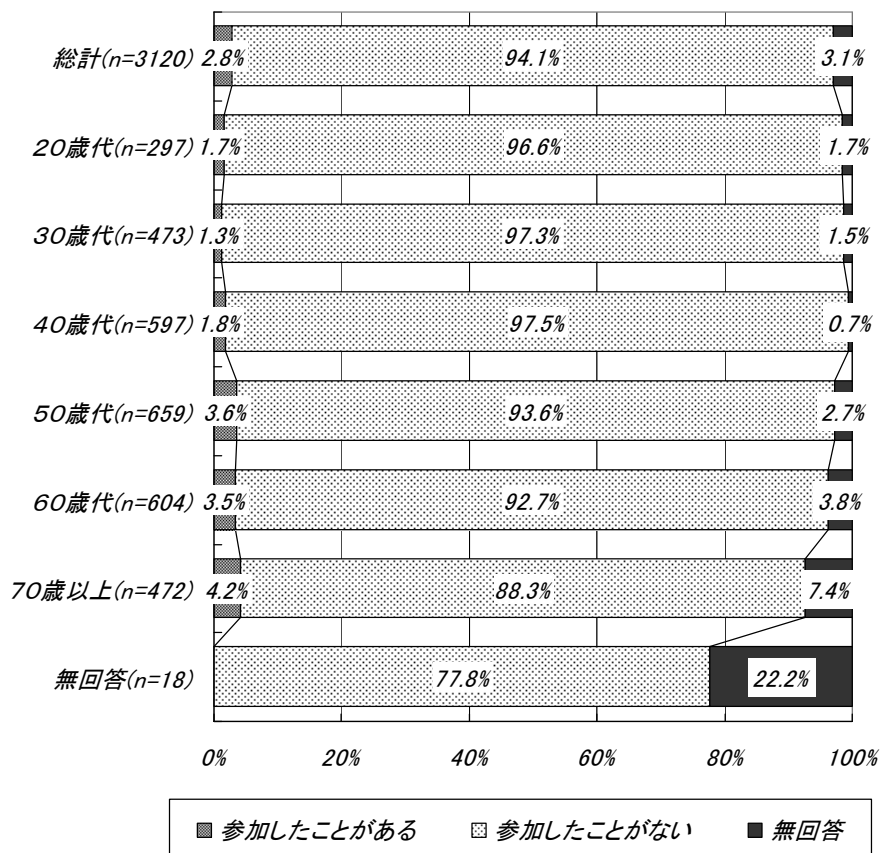
全体では「参加したことがない」の回答が多く 94.1%が回答。「参加したことがある」は 2.8%に留まっている。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、中心は「参加したことがない」であるが、男性のほうが若干「参加したことがある」という回答が多く 3.9%となっている。

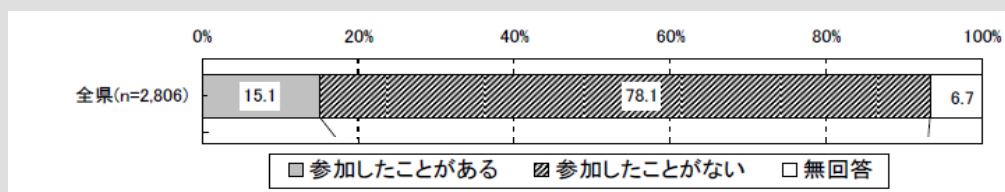
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、中心は「参加したことがない」であるが、年齢が高くなるにつれて「参加したことがある」という回答が多くなっている。50歳代以上では3.6～4.2%が「参加したことがある」と回答している。

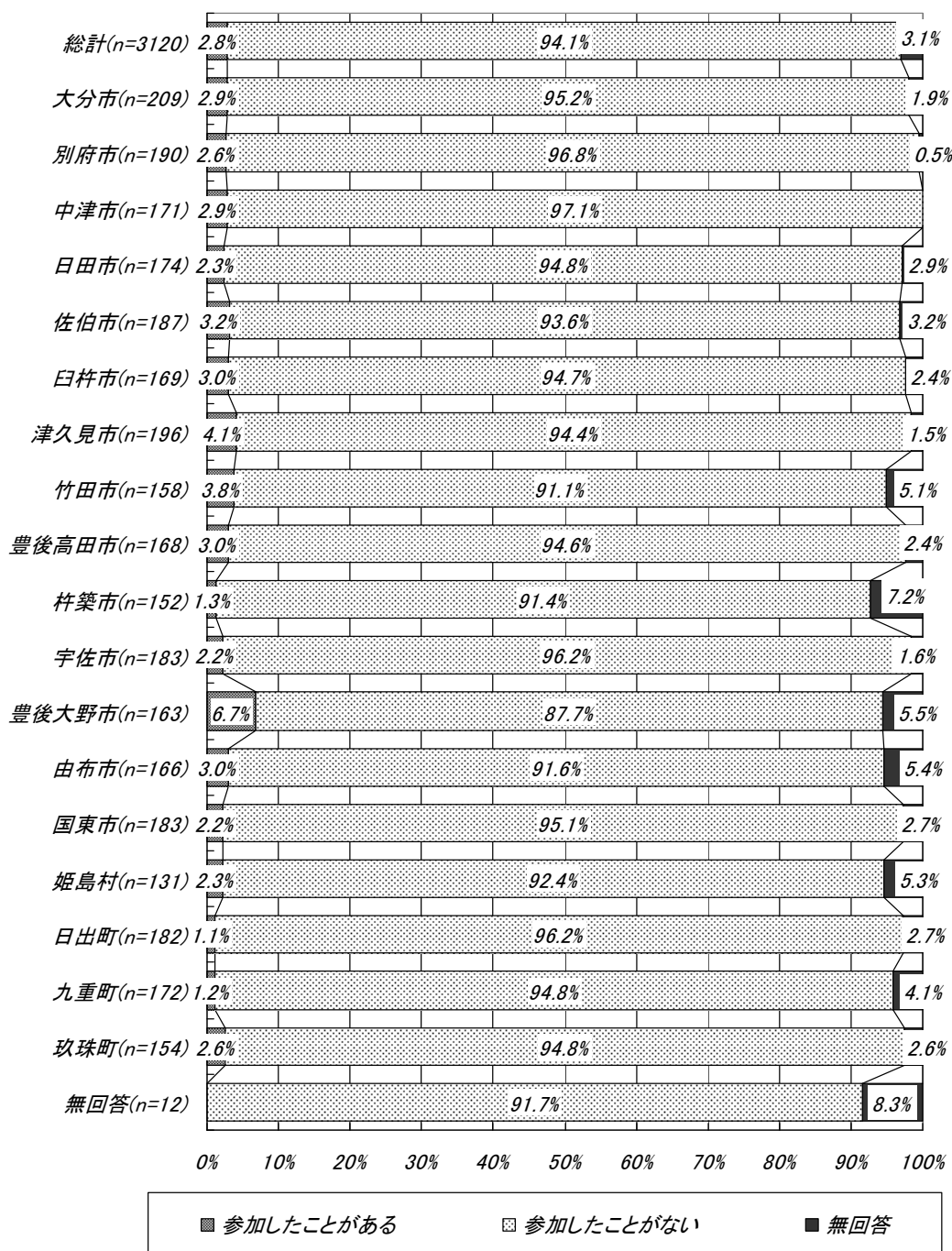
## ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、県や市町及び民間団体等が開催した地震や風水害に関する防災講演会に参加したことがありますか。



三重県調査をみると、「参加したことがある」は15.1%。大分県のほうが参加率が低くなっている。

## 市町村別集計



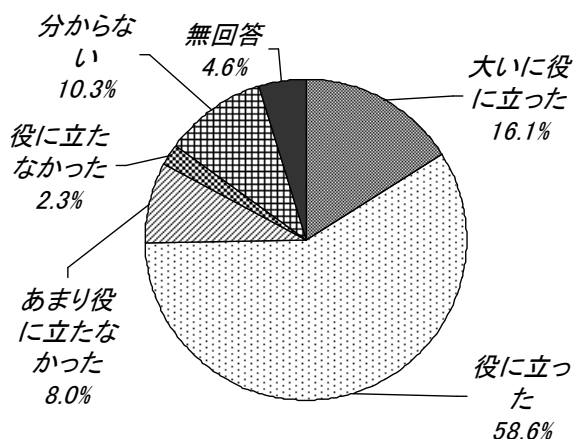
市町村別の状況をみると、どの市町村でも中心は「参加したことがない」であるが、その中では、豊後大野市で「参加したことがある」の回答が多くなっている。

啓発事業に<1. 参加したことがある>方にお聞きします。

参加したことで防災意識の向上や防災対策に役立ちましたか。 (〇はひとつ)

1. 大いに役に立った      2. 役に立った      3. あまり役に立たなかった  
4. 役に立たなかった      5. 分からない

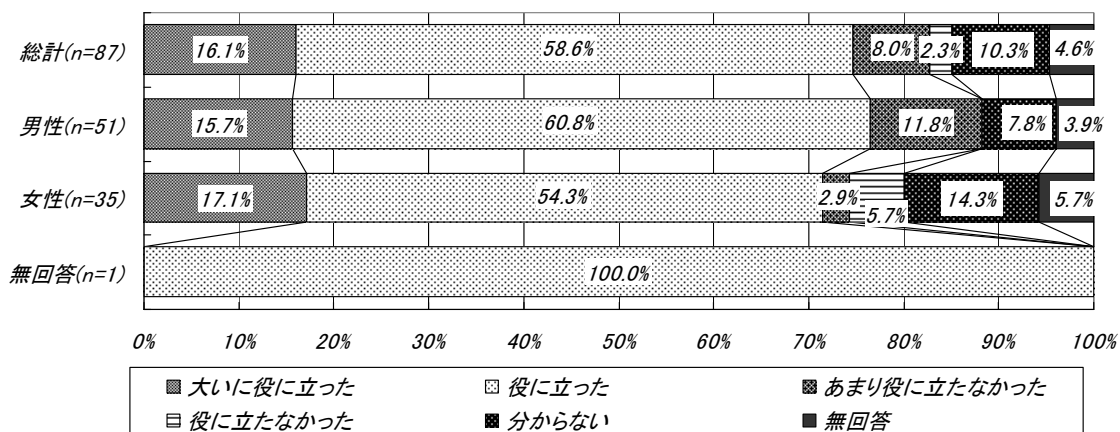
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 大いに役に立った	14	16.1%
(2) 役に立った	51	58.6%
(3) あまり役に立たなかった	7	8.0%
(4) 役に立たなかった	2	2.3%
(5) 分からない	9	10.3%
無回答	4	4.6%
計	87	100.0%

全体では「役に立った」が58.6%、次いで「大いに役に立った」が16.1%となっており、両者を合わせると『役に立った』という回答は74.7%となっている。

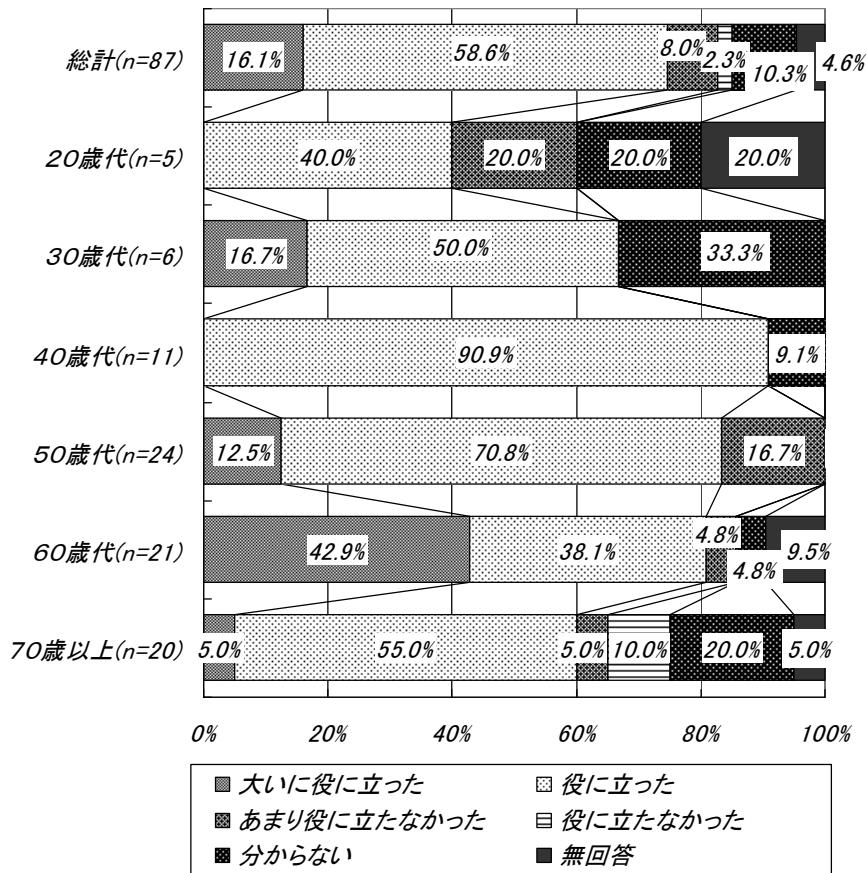
**男女別集計**



男女別の状況を見ると、女性のほうがやや「大いに役に立った」の回答が多く17.1%が回答。男性では「あまり役に立たなかった」の回答が女性よりも多く11.8%となっている。



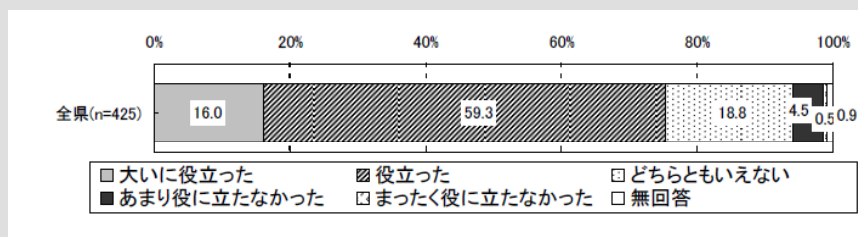
### 年代別集計



年代別の状況を見ると、回答数が少ないために判断が難しいが、60歳代で「大いに役に立った」の回答が多くなっており42.9%が回答している。また40歳代についても90.9%が「役に立った」と回答している。一方で、「役に立たなかった」の回答はほとんどないが、「あまり役に立たなかった」については20歳代で20.0%が回答している。

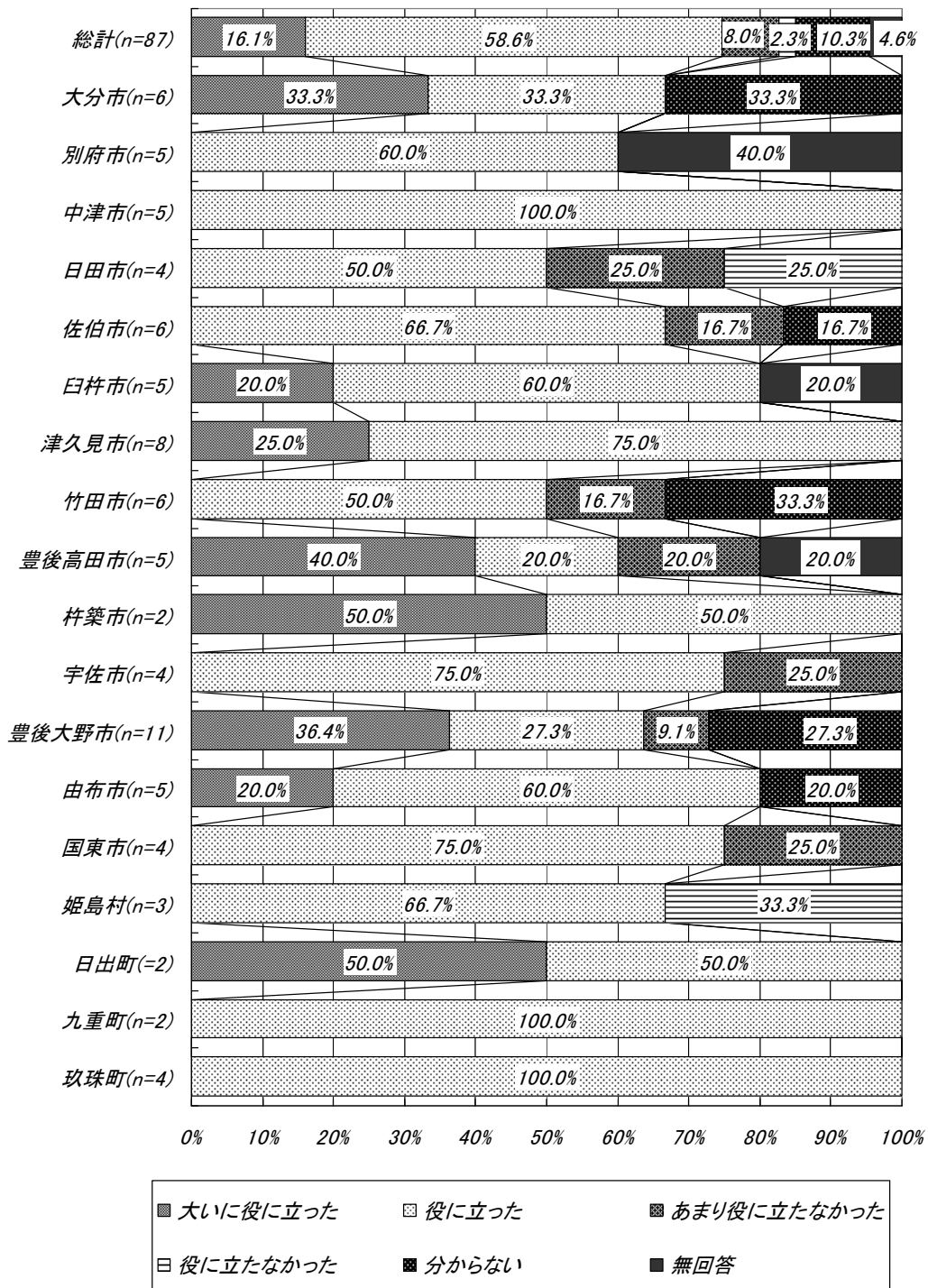
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 防災講演会へ参加したことは、防災意識の向上に役立ちましたか。



三重県調査をみると、「大いに役立った」「役立った」の回答はそれぞれ16.0%、59.3%。大分県も同じような回答結果となっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、各市町村での回答者数が少ないために判断が難しいが、大分市・豊後高田市・豊後大野市などでは「大いに役に立った」との回答が多くなっている。また、中津市・九重町・玖珠町では100%が「役に立った」と回答。一方で、日田市・姫島村などでは「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」の回答が多くなっている。

6 - (5)

**【問32】**

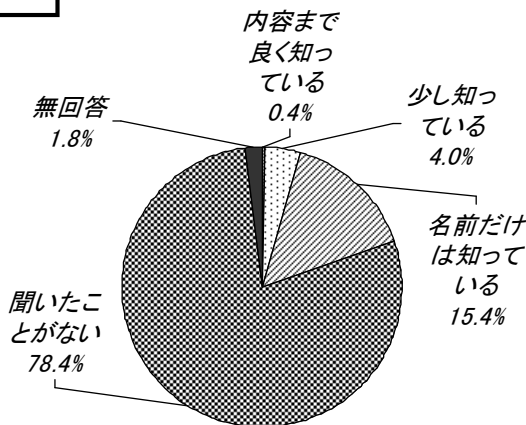
**◎大分県減災社会づくりのための県民条例について**

大分県の減災社会づくりに向け、「自助」、「共助」、「公助」を基本理念とする県民運動を展開するための条例が平成21年4月から施行されています。

この条例についてご存じですか？（〇はひとつ）

1. 内容まで良く知っている      2. 少し知っている      3. 名前だけは知っている  
4. 聞いたことがない

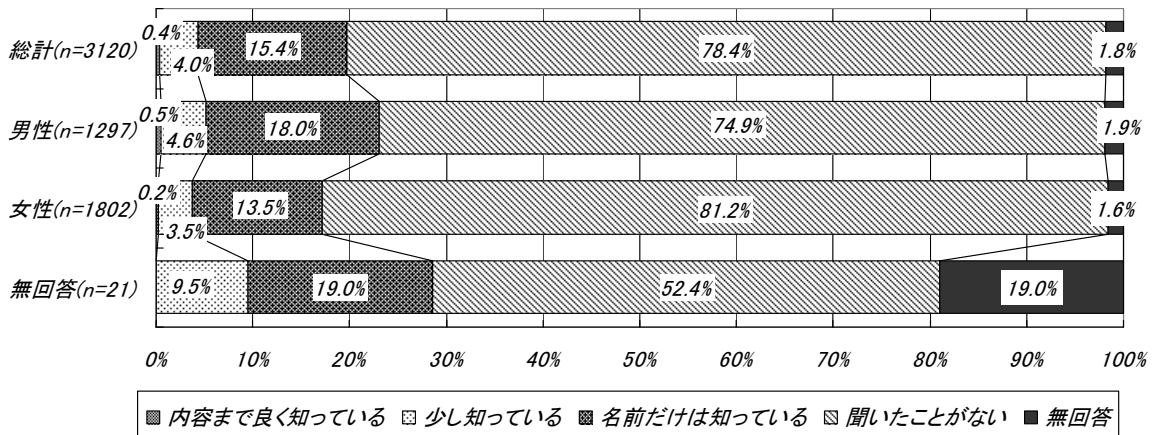
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 内容まで良く知っている	11	0.4%
(2) 少し知っている	125	4.0%
(3) 名前だけは知っている	480	15.4%
(4) 聞いたことがない	2,447	78.4%
無回答	57	1.8%
計	3,120	100.0%

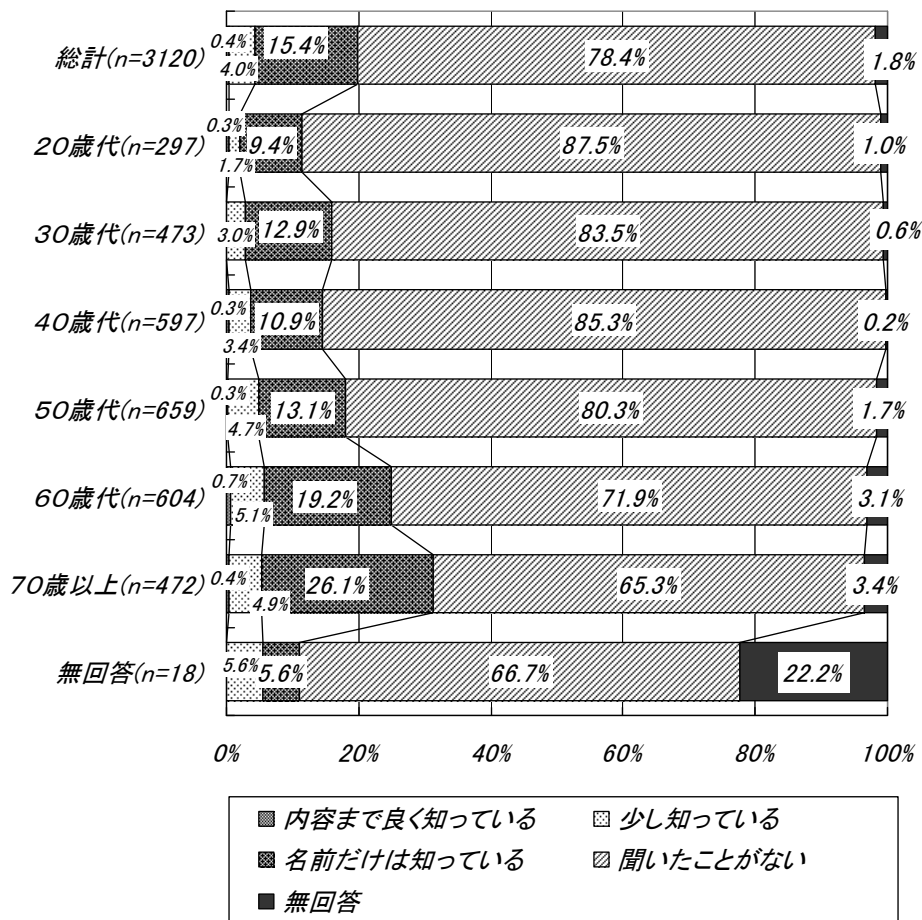
全体では「聞いたことがない」が最も多く78.4%が回答。「名前だけは知っている」は15.4%、「少し知っている」は4.0%となっており、「内容まで良く知っている」は0.4%となっている。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男性のほうが「名前だけは知っている」の回答がやや多く18.0%の回答となっている。一方で女性では「聞いたことがない」という回答が男性よりもやや多く81.2%が回答している。

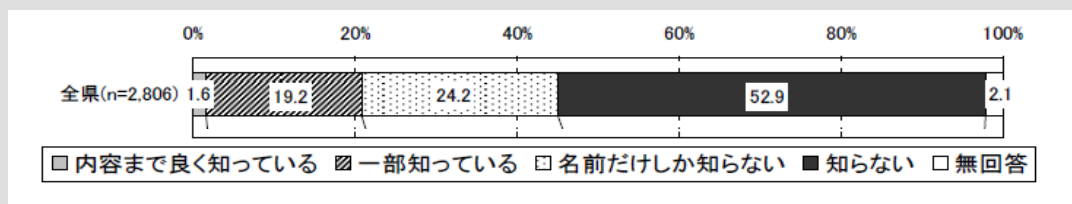
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、年齢が高くなるにつれて「少し知っている」「名前だけは知っている」の回答が多くなっており、70歳以上では26.1%が「名前だけは知っている」と回答している。

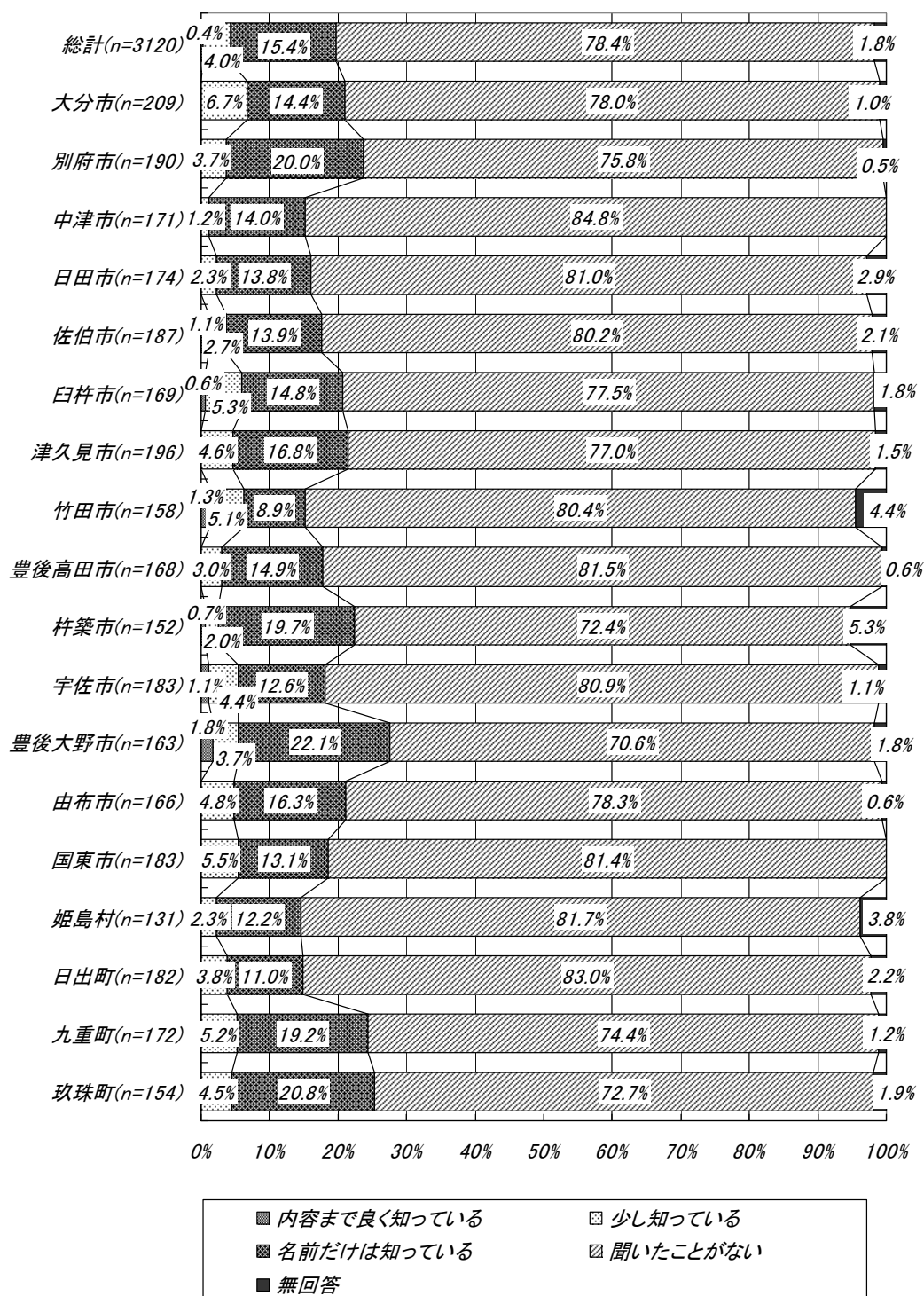
## ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 県では、平成16年に「三重県地震対策推進条例」を制定しています。条例では、自らの命は自ら守る「自助」、地域のことは皆で守る「共助」、行政が担う「公助」の考え方を基本に、県、県民及び事業者の果たすべき責務を明確にするとともに、市町、県民及び事業者等とともに災害に強い三重県づくりを推進することを目標としています。あなたは、この条例のことをどの程度知っていますか。



三重県における、大分県と同じような条例についての認知状況の結果を見ると、「知らない」が52.9%。「知らない」の割合が大分県よりも低くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、「内容まで良く知っている」とした回答は各市町村少ないが、「少し知っている」については、大分市・臼杵市・国東市などで若干多くなっている。また、「名前だけは知っている」については別府市・豊後大野市・玖珠町などで多くなっている。一方で「聞いたことがない」の回答が多いのは、中津市や日出町などとなっている。

6- (6)

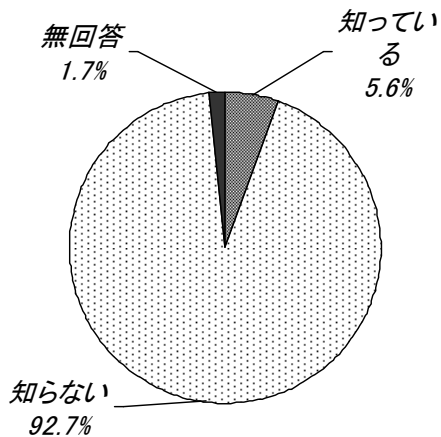
**【問33】**

**◎県民減災社会づくりの日について**

この条例では、毎月1日を「県民減災社会づくりの日」と定めています。  
この日をご存じですか？（〇はひとつ）

1. 知っている                      2. 知らない

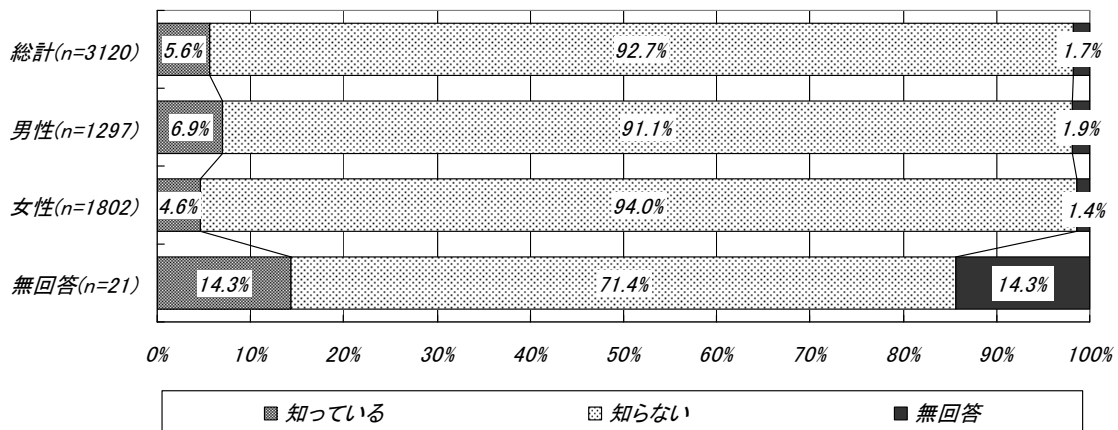
**全体集計**



項目	回答数	構成比
(1) 知っている	176	5.6%
(2) 知らない	2,891	92.7%
無回答	53	1.7%
計	3,120	100.0%

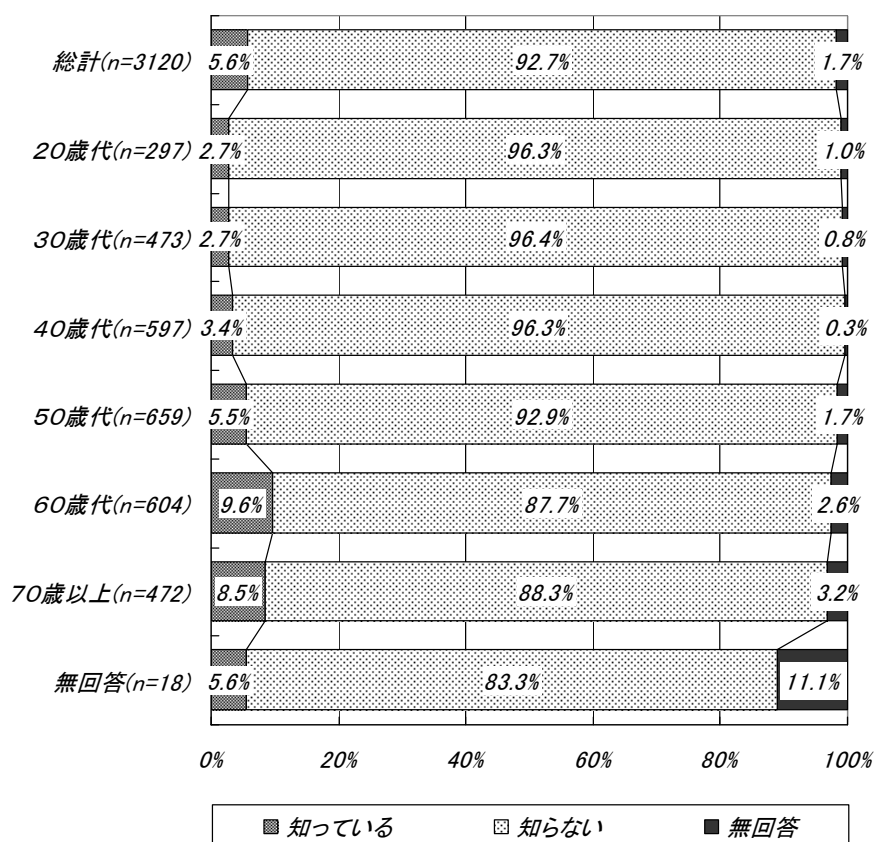
全体では「知らない」が多く 92.7%が回答。「知っている」と回答したのは 5.6%に留まっている。

**男女別集計**



男女別の状況を見ると、男性のほうが若干「知っている」の回答が多く 6.9%が回答している。

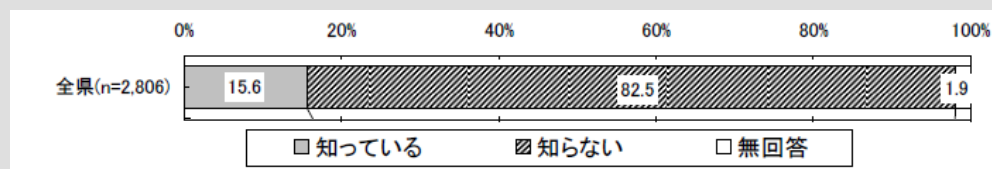
## 年代別集計



年代別の状況を見ると、中心は「知らない」であるが、60～70歳代以上で「知っている」という回答が多くなっており、8.5～9.6%が回答。20～40歳代では96%程度が「知らない」と回答している。

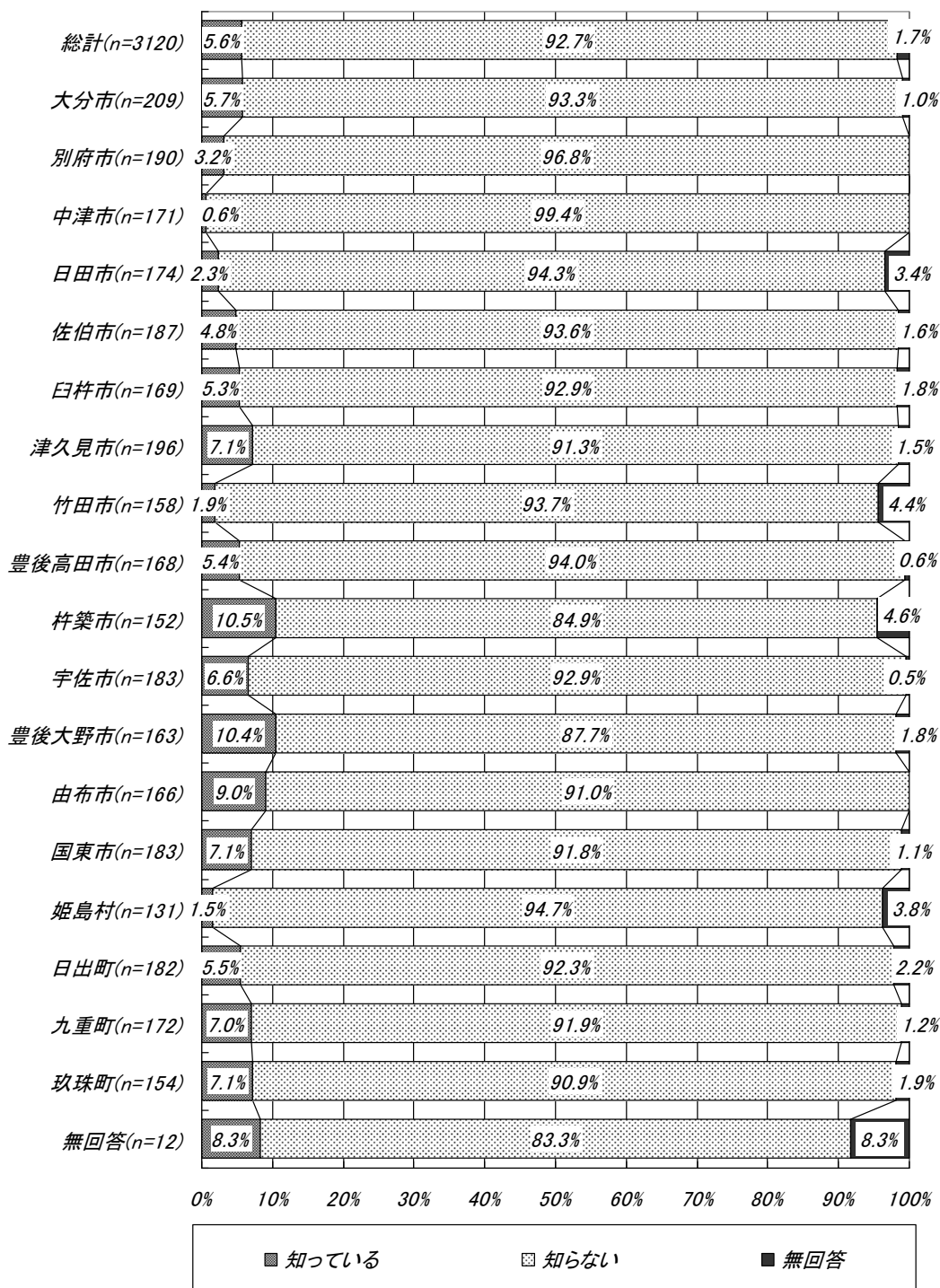
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 県では、県内に大きな被害をもたらした、昭和19年の東南海地震の発生日である、12月7日を「みえ地震防災の日」に制定しています。あなたは、このことを知っていますか。



三重県調査における、大分県と同じような防災の日についての認知状況の結果を見ると、「知らない」が82.5%となっている。「知らない」の割合が低くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況を見ると、中心は「知らない」であるが、その中で「知っている」の回答が多くなっているのは、杵築市・豊後大野市・由布市などとなっている。一方で「知らない」の回答が特に多いのは、別府市・中津市・姫島村などとなっている。



## 7. 今後の地震対策について

### 7-(1)

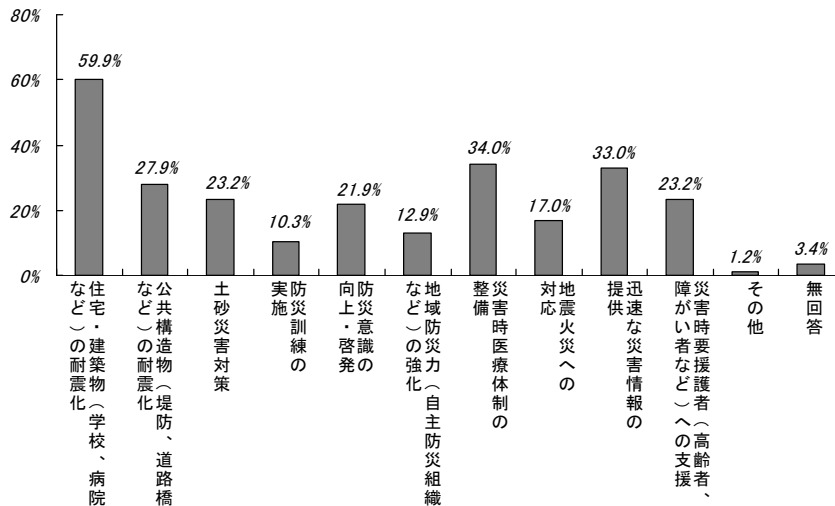
#### 【問34】

#### ◎地震対策について

あなたは、地震対策として特に力を入れるべき対策は何だと考えていますか？  
(○は3つまで)

1. 住宅・建築物（学校、病院など）の耐震化
2. 公共構造物（堤防、道路橋など）の耐震化
3. 土砂災害対策
4. 防災訓練の実施
5. 防災意識の向上・啓発
6. 地域防災力（自主防災組織など）の強化
7. 災害時医療体制の整備
8. 地震火災への対応
9. 迅速な災害情報の提供
10. 災害時要援護者（高齢者、障がい者など）への支援
11. その他（ ）

#### 全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 住宅・建築物の耐震化	1,870	59.9%
(2) 公共構造物の耐震化	872	27.9%
(3) 土砂災害対策	724	23.2%
(4) 防災訓練の実施	320	10.3%
(5) 防災意識の向上・啓発	683	21.9%
(6) 地域防災力の強化	403	12.9%
(7) 災害時医療体制の整備	1,062	34.0%
(8) 地震火災への対応	531	17.0%
(9) 迅速な災害情報の提供	1,029	33.0%
(10) 災害時要援護者への支援	723	23.2%
(11) その他	36	1.2%
無回答	107	3.4%
計	8,360	267.9%

全体では「住宅・建築物（学校、病院など）の耐震化」が最も多く 59.9%が回答。次いで「災害時医療体制の整備」が 34.0%、さらに「迅速な災害情報の提供」が 33.0%と続いている。

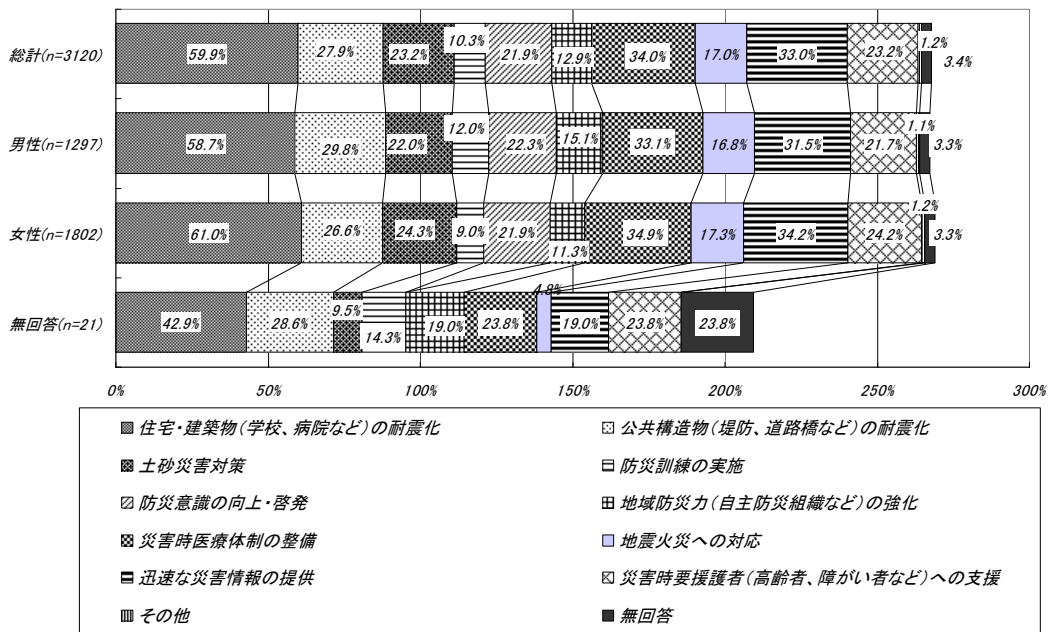
最も回答が少なかったのは「防災訓練の実施」で 10.3%となっている。

その他回答では、「ライフラインの確保」「地震発生後の対応の強化」などがみられた。

その他回答（無回答は除く）

項目	回答数	項目	回答数
ライフラインの確保。	8	子供の安全。	2
地震発生後の対応の強化。	4	金銭面の補助。	2
地震に強い街づくり。	3	被害者への迅速な支援、仮設住宅の建設など。	1
緊急道路の確保。	3	わからない。	1
津波対策。	2	ペットの避難場所の確保。	1
すべて必要。	2	地域の自主性の確保。	1
地震対策への啓蒙活動。	3	個人の自律心を養う。	1

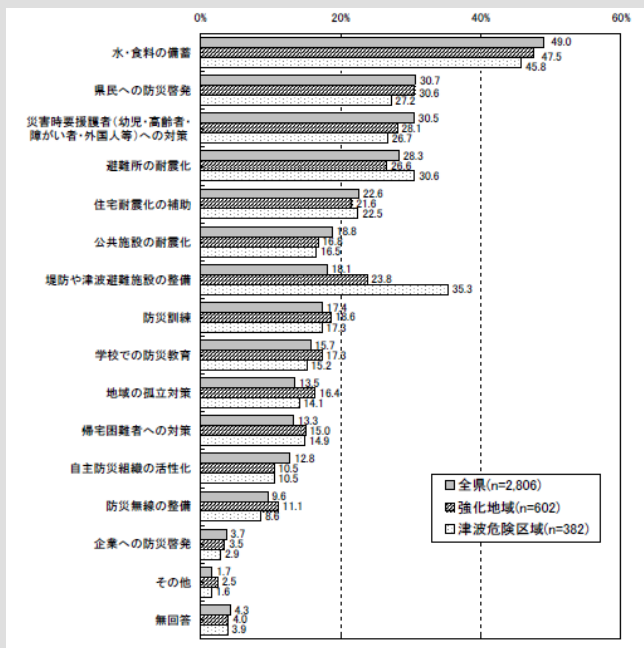
## 男女別集計



男女別についてみると、女性では「住宅・建築物（学校、病院など）の耐震化」「迅速な災害情報の提供」「災害時要援護者（高齢者、障がい者など）への支援」などが多い。一方、男性では、「公共構造物（堤防、道路橋など）の耐震化」「地域防災力（自主防災組織など）の強化」などの回答が女性と比較して多くなっている。

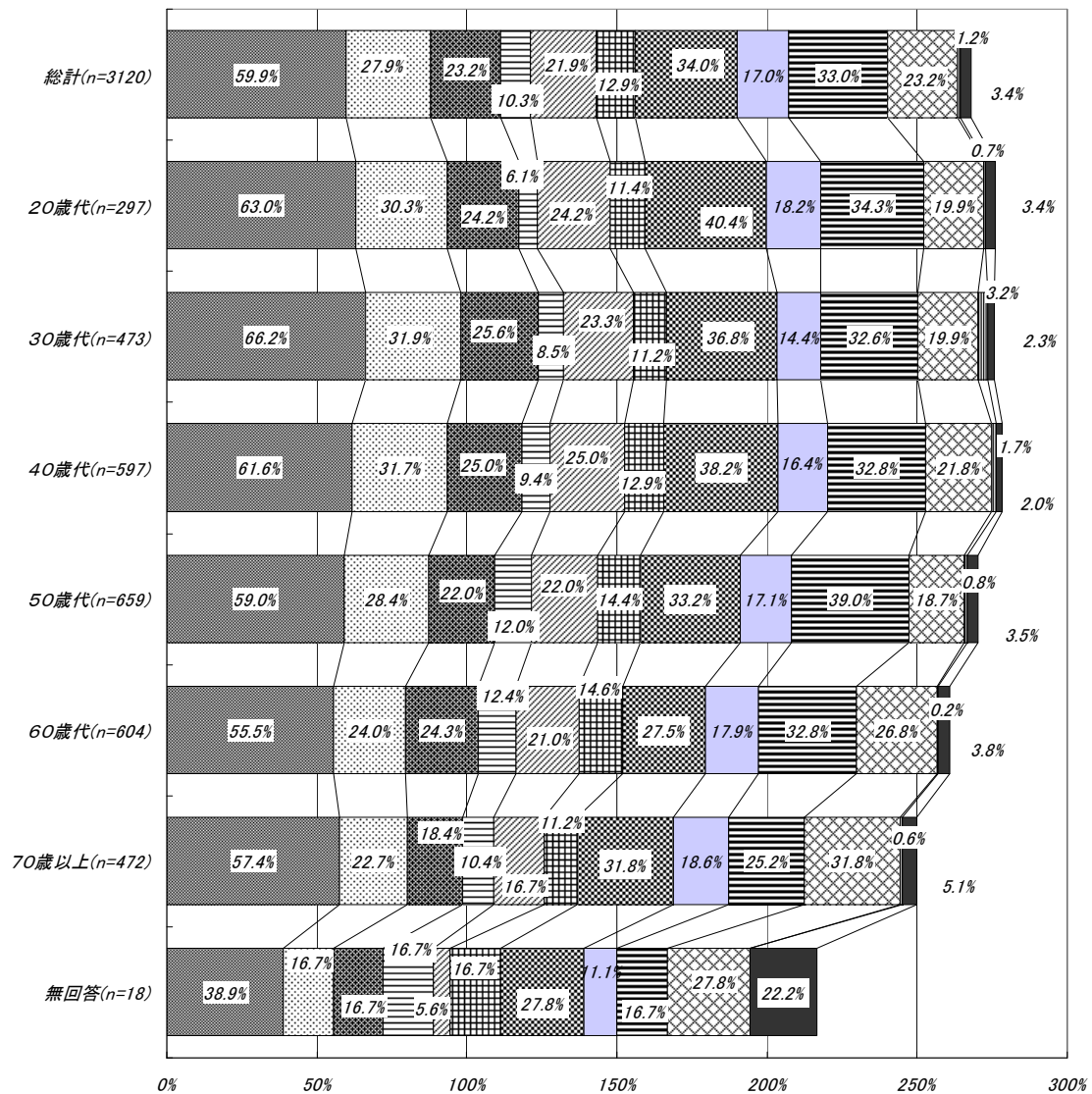
## ◆ 参考データ（三重県「平成 20 年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、行政が行う地震対策として、特に力を入れていくべきことは何だと思いませんか。（3つまで○）



三重県調査をみると、最も回答が多いのは「水・食料の備蓄」。次いで「県民への防災啓発」、さらに「災害時要援護者（幼児・高齢者・障がい者・外国人等）への対策」と続いている。

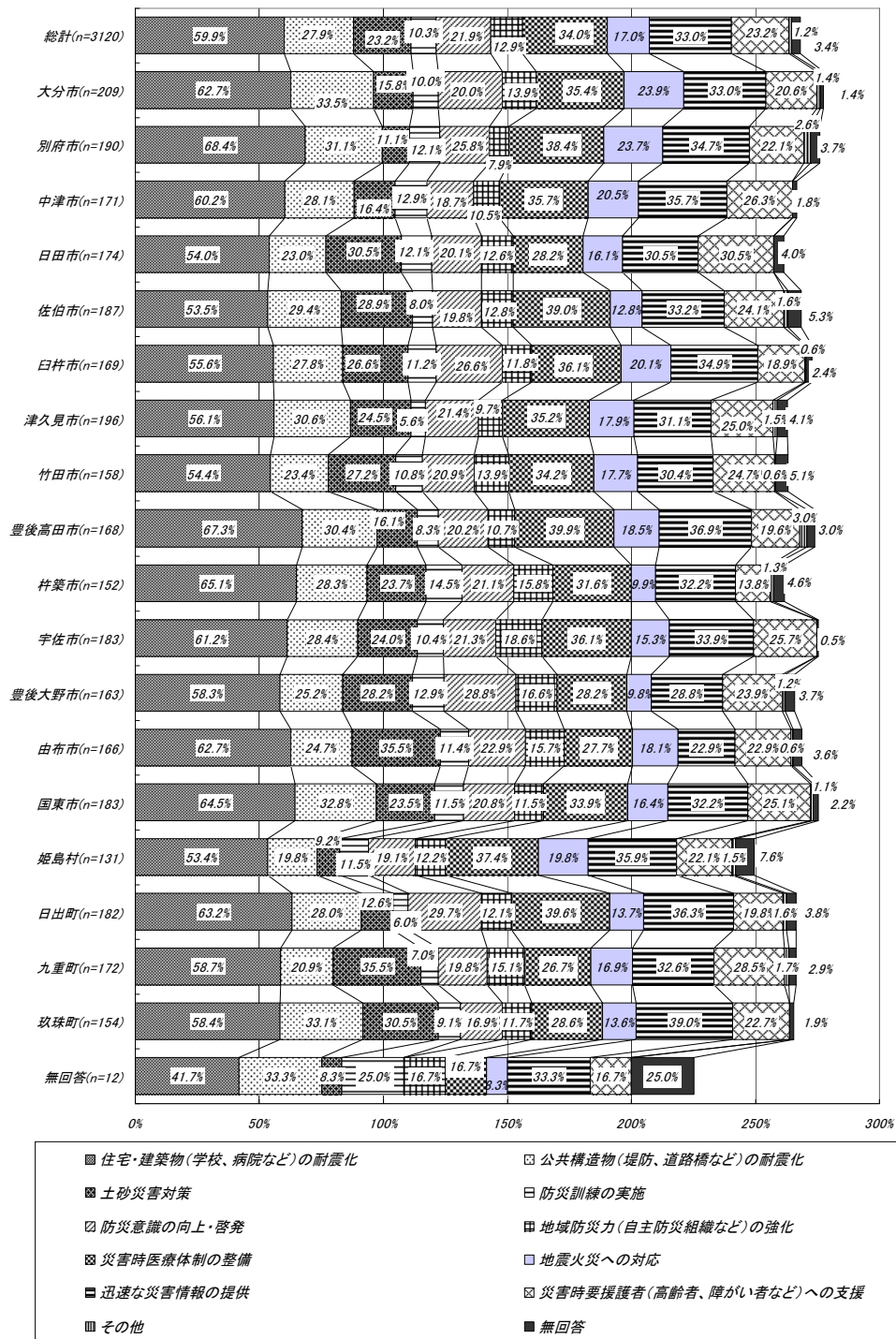
## 年代別集計



- 住宅・建築物(学校、病院など)の耐震化
- 公共構造物(堤防、道路橋など)の耐震化
- 土砂災害対策
- 防災意識の向上・啓発
- 災害時医療体制の整備
- 迅速な災害情報の提供
- その他
- 防災訓練の実施
- 地域防災力(自主防災組織など)の強化
- 地震火災への対応
- 災害時要援護者(高齢者、障がい者など)への支援
- 無回答

年代別の状況を見ると、中心は「住宅・建築物（学校、病院など）の耐震化」であるが、その中で、20～40歳代では「公共構造物（堤防、道路橋など）の耐震化」「災害時医療体制の整備」などの回答が多くなっている。また、50歳代については全体平均と同じような回答の傾向となっているが、60～70歳代以上では「災害時要援護者（高齢者、障がい者など）への支援」の回答が多くなっている。

## 市町村別集計



市町村別の状況をみると、各市町村で回答の中心は「住宅・建築物（学校、病院など）の耐震化」であるが、その他相対的に市町村別の回答状況をみていくと、大分市では「公共構造物（堤防、道路橋など）の耐震化」「地震火災への対応」が多い。

さらに日田市・由布市・九重町などでは「土砂災害対策」が多くなっている。日田市や九重町では「災害時要援護者（高齢者、障がい者など）への支援」も回答が多い。その他、「防災意識の向上・啓発」について、豊後大野市・日出町などで多くなっている。「災害時医療体制の整備」では、豊後高田市・日出町での回答が多い。さらに「迅速な災害情報の提供」については玖珠町などで多くなっている。

7-(2)

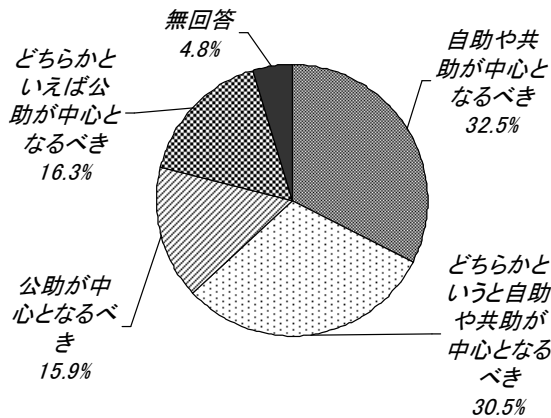
【問35】

◎自助、共助、公助の役割分担について

あなたは、地震対策における「自助（個人、家庭等）」、「共助（地域）」、「公助（行政）」の役割分担について、どの考え方に近いですか？（○はひとつ）

- 1. 自助や共助が中心となるべき
- 2. どちらかという自助や共助が中心となるべき
- 3. 公助が中心となるべき
- 4. どちらかといえば公助が中心となるべき

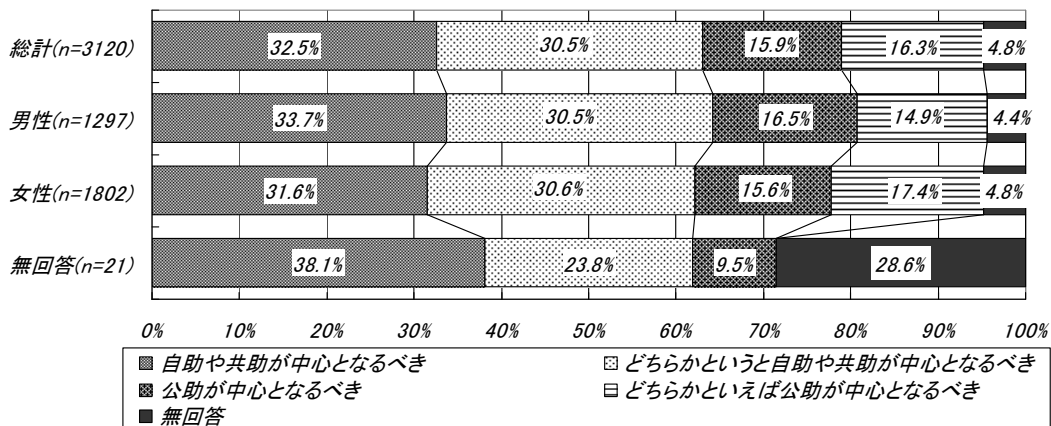
全体集計



項目	回答数	構成比
(1) 自助や共助が中心となるべき	1,014	32.5%
(2) どちらかという自助や共助が中心となるべき	953	30.5%
(3) 公助が中心となるべき	497	15.9%
(4) どちらかといえば公助が中心となるべき	507	16.3%
無回答	149	4.8%
計	3,120	100.0%

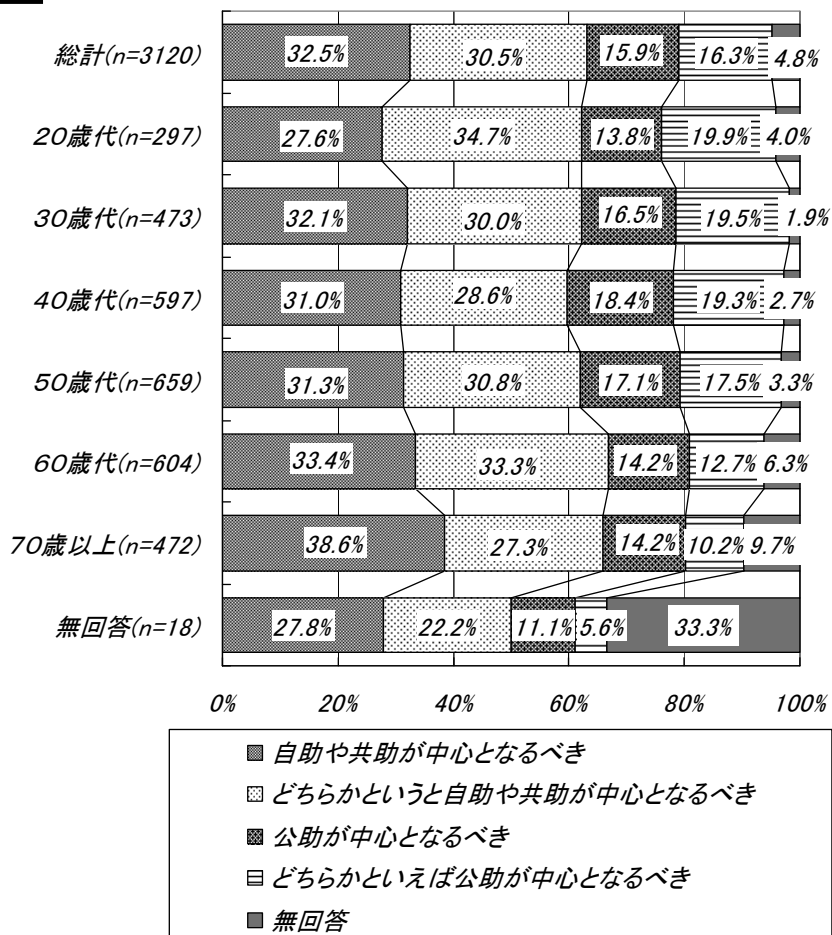
回答については、バラツキがみられるが最も回答が多かったのは「自助や共助が中心となるべき」で32.5%。次いで「どちらかという自助や共助が中心となるべき」が30.5%となった。最も回答が少なかったのは「公助が中心となるべき」という意見で15.9%となっている。

男女別集計



男女別では、男性のほうが「自助や共助が中心となるべき」「どちらかという自助や共助が中心となるべき」を合わせた回答が女性よりも若干多く64.2%となっている。女性では「どちらかといえば公助が中心となるべき」の回答が男性と比較して多く15.6%となっている。

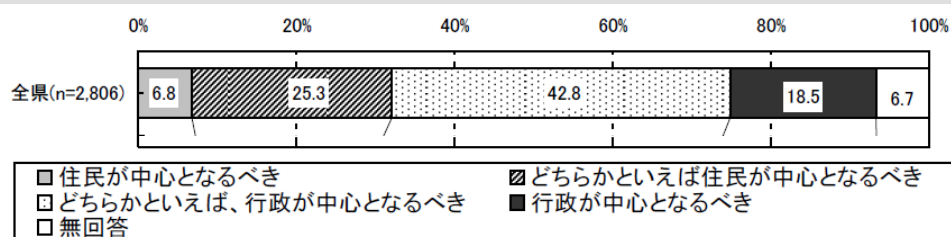
### 年代別集計



年代別の状況を見ると、「自助や共助が中心となるべき」の回答が多いのは70歳以上。「どちらかという自助や共助が中心となるべき」との両者を合わせた回答についてはどの年代も6割以上が回答している。一方で、「公助が中心となるべき」の回答が多いのは40歳代。また、年齢が若くなるにつれて「どちらかといえば公助が中心となるべき」との回答が多くなっている。

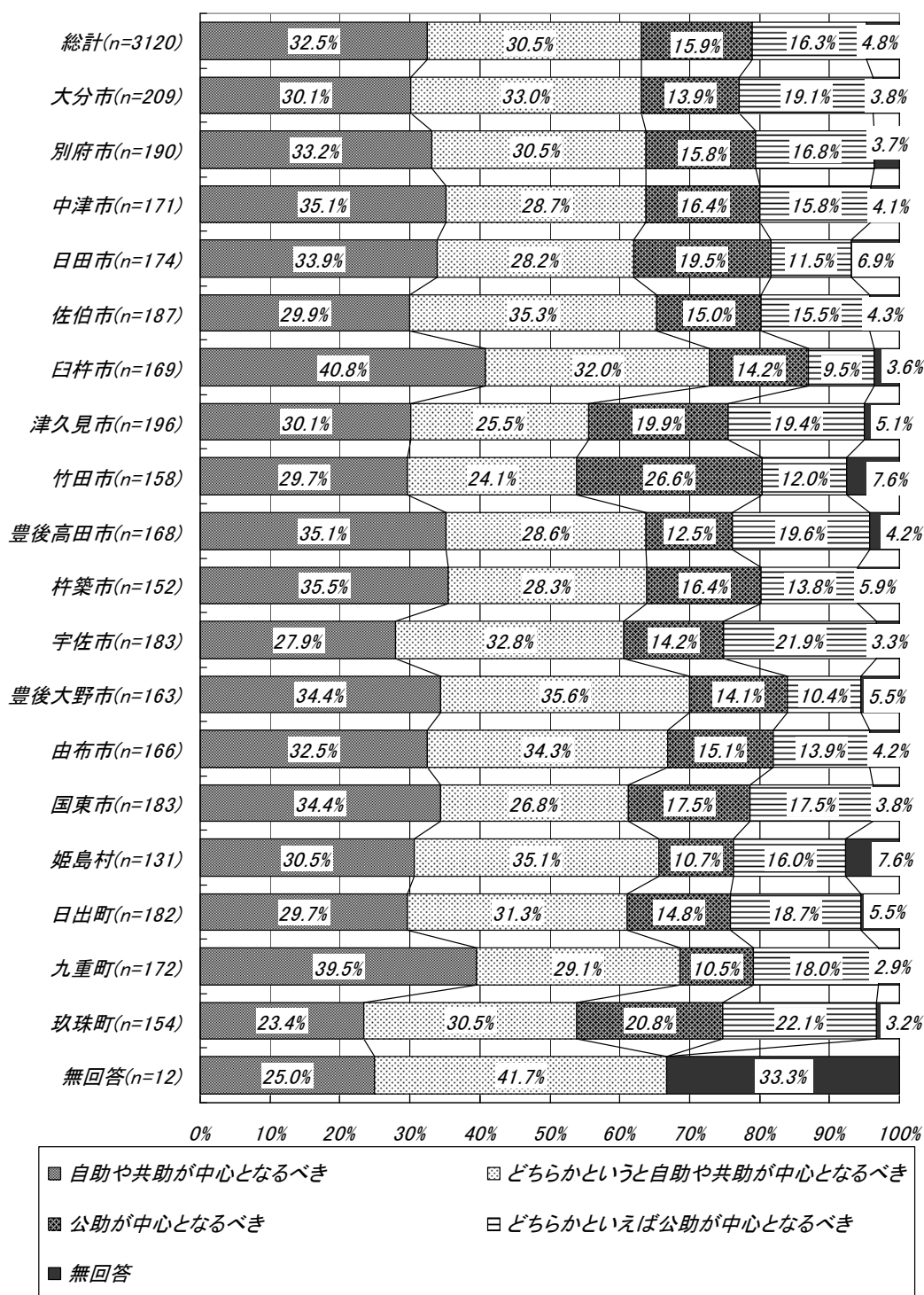
### ◆ 参考データ（三重県「平成20年度 防災に関する県民意識調査」より）

問 あなたは、地震対策における住民と行政の役割分担について、次のどの考えに近いですか。



三重県調査をみると、最も回答が多いのは「どちらかといえば、行政が中心となるべき」で42.8%となっており、次いで「どちらかといえば住民が中心となるべき」となっている。

## 市町村別集計



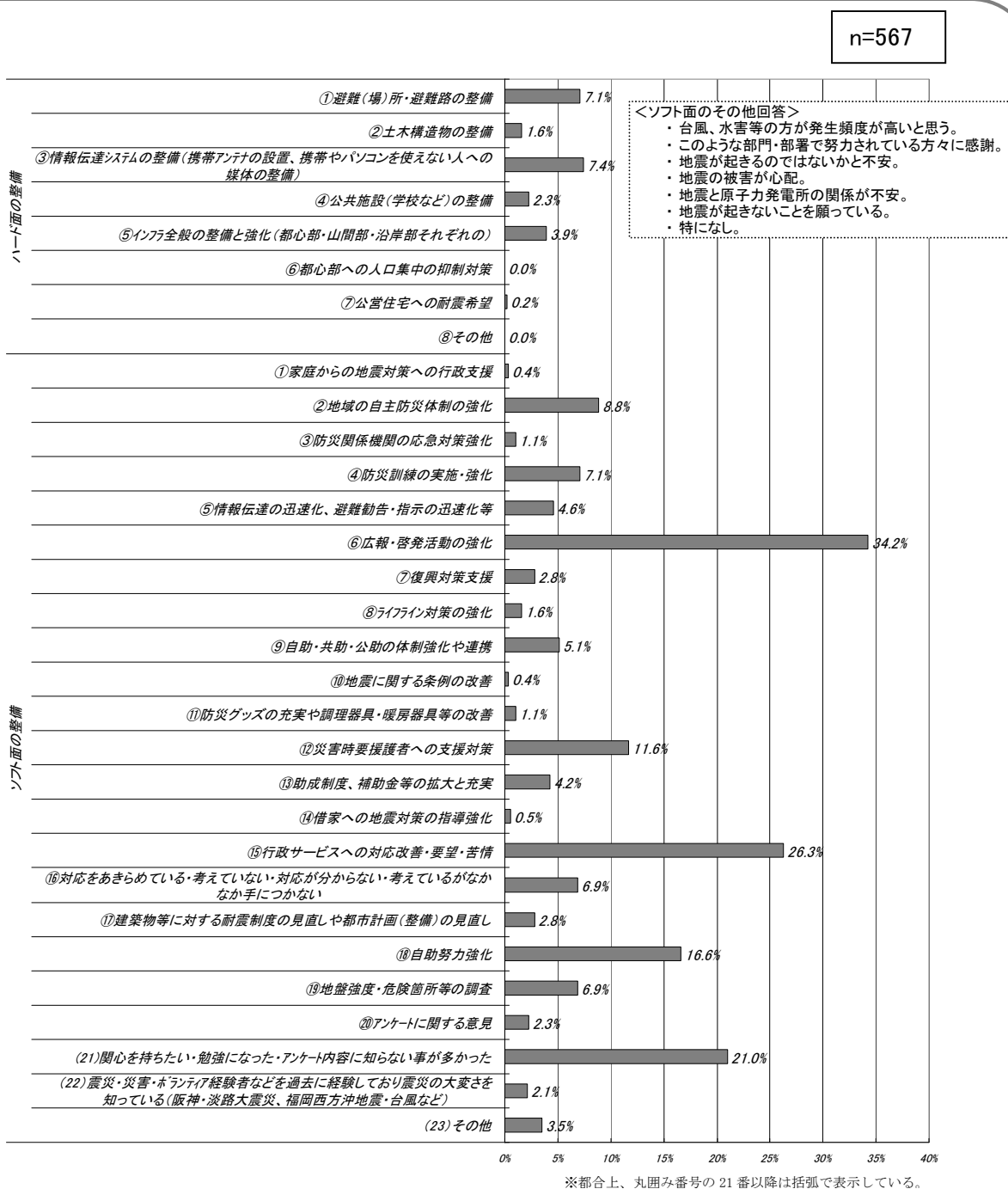
市町村別の状況を見ると、「自助や共助が中心となるべき」の回答が多いのは臼杵市や九重町。また、「どちらかという自助や共助が中心となるべき」との両者を合わせた回答が多いのは臼杵市・豊後大野市・九重町などとなっている。

一方で、「公助が中心となるべき」との回答が多いのは竹田市・玖珠町など。「どちらかといえば公助が中心となるべき」と合わせた回答が多いのも、津久見市・竹田市・玖珠町などとなっている。

## 【自由要望・意見】

大分県の地震対策へのご要望、ご意見等がありましたら、ご自由に記入してください。

ここでは、設問 16 と同じように、記入があった自由回答を、まずハード面とソフト面に区分し、その後それぞれの項目において、回答をベースにいくつかの要望項目に区分し、地震対策に関する要望・意見を整理した。



回答で多かった項目を見ていくと「広報・啓発活動の強化」「行政サービスへの対応改善・要望・苦情」「関心を持ちたい・勉強になった・アンケート内容に知らない事が多かった」の回答が多くなった。



## 自由要望・意見の回答内容

ここでは、自由要望・意見について、回答が多かった各テーマについて、内容を整理のうえ一部掲載する。

### <広報・啓発活動の強化>

- 地震対策等については県民に大げさな位で伝えるべき。多くの人は大分県は安全だと思っていると思われる。安心メールについては、大分県には高齢者が多いために当てはまらない。もっと県民全体が安全に理解できる方法をコストをかけずに考えてほしい。
- 災害意識は高いがあまりよく情報がわからない。何があるのかわからないのもっとわかりやすいように教えてもらいたい。
- 自分の住んでいる地域は災害の少ない地域なので、自然災害に対する意識がどうしても低いようである。しかし、長い間には必ず来るであろう自然災害に対する意識の向上のためのイベントを定期的に行うべきと思う。
- 県民条例で減災の日を定めることより、耐震診断についてももっとPRをすべき、予算をかけるべきである。これらの制度について、家族誰も知らなかった。一方で、食料の備蓄や緊急地震速報についてはラジオテレビでよく耳にするので知っていた。
- この調査の対象とならなければ知らないことも多かったと思う。県や市町村が中心となって地域に発信してもらいたい。さっそく安心メールに登録した。
- 大分県が実施している行政サービスについて全く伝わってこない。このアンケートによって知ったことが多い。新聞やTVなどでもっとPRをしてほしい。とくに災害については後で知っても役に立たないことが多いので強く望む。
- 子供たち（学校現場）にもっと関心を持たせる働きかけが必要だと思う。訓練（年一回程度）は形式的なもので行われているようだ。
- 平成7年に阪神大震災を体験し、大分に帰郷した。都会では近所付き合いも薄く、通常が便利過ぎており、一度ストップすると皆がパニック状態だった。体験談をTVなどで定期的に（例えば、何か月に一回）流し、まずは目から防災の大切さを知ってもらいたい。意識改革は本当に必要かと思う。
- 地球温暖化の影響、プレートの変動により、大地震が発生する可能性が高くなっているのではないだろうか。これらを予防するには、事前に適切な情報公開と、計測機器の設置、教育の徹底、事態に対応した訓練の実施などを重ねていくしかない。

### <行政サービスへの対応改善・要望・苦情>

- 自分が住んでいる地域は限界集落で携帯電話も通じない。テレビやラジオの通信も大きな台風が来た場合では途切れてしまうこともある。
- 安心メールに登録したが、今住んでいる地域は電波が届かない。先日アンテナが立つ予定であったが中止になった。大分県でも田舎は切り捨てられるのか。いつも不安だ。
- 何年か前は、調査に一年に一度来ていたとのことだが、町からは何の話もない。危険地域になっているとの事だが、分からない。
- 県レベルでのこのような意識調査は大変結構であるが、一方で市町村レベルでは具体的な取り組みがなされておらず、自治会への指導等も文章による伝達だけであり、こういった点を改善することを希望する。
- 市町村への指導強化。一体的な自主防災意識の向上。
- 弱者の立場に立てる「大分県」であってほしい。
- 土砂災害の点検を常にしてもらいたい。
- 耐震についてどこに相談すれば安心することができるか。できれば行政が無料相談を実施してほしい。いつくるかわからない地震には高いお金は支払えない。
- 人口が減少していく中、独り暮らしの老人が私の周りも多く、また、若い世代も少なく、小集落がメインで生活している中、共助も考えるなら、小集落規模での地震に対するアドバイスしてくれる方を派遣してもらい、地形や家屋等を見学してもらい、危険箇所等の指摘、指導から対策等を住民と一緒に考える場を是非つくって頂きたい。（集落規模より大きく町単位と大きくなると、関心が薄くなるように思う）。
- 耐震補強の施工マニュアルがあいまいでもっとしっかりしたものにしてほしい。補強金具の規格など何度も変わり統一性がない。
- 地域で防災意識に差があると思う。「公」が積極的に指導してもらいたい。
- 地震に限らず、全ての事（出来事）が起こってしまった後の対応を、如何に早く的確に処理できるかが組織（自治体）の評価につながる。
- 防災メールに登録しているが、インフルエンザ情報が来る程度。何かの時には、防災メールが役に立つことを期待している。

### <関心を持ちたい・勉強になった・アンケート内容に知らない事が多かった>

- よく知らないことが多いと、今回のアンケートで改めて思った。
- アンケートに回答してみて、あらためて行政の地震に対する制度を知らないことを実感した。また、家族で自分の住居の耐震度合いを確認すること、食料の備蓄、避難場所の確認など身の回りことから対策を始めたと思う。テレビを見て他人事のように感じていたが、もっと意識を高めていかなければと思った。
- 回答をしていくうちに分かったつもり部分但实际上には分からなかったりと、災害に対する無知を感じた。アンケートによって改めて知ることができたので母親としてもよかったと思う。他の人にも配布したらよいと思う。
- このような部門・部署で努力されている方々に感謝する。限られた予算の中で、頑張っているのが伝わっている。今後とも、頑張ってもらいたい。私も考えを見直すきっかけとなった。
- 知っているようで知らないことがたくさんあると思う。誰もがわかるように説明してくれると助かる。日ごろから地震等に備えて食料を備えておけばよいが、なんとなく思っているばかりで用意していない。できれば早急に用意しておこうと思う。またアンケートに協力したい。

### <自助努力強化>

- 日頃の備え。食糧・飲料水等の備蓄。避難場所の確認。非常持ち出し袋の用意点検等。地震保険加入。近所づきあいを困った時、助け合ったり相談できるようにしておく。
- 今の私達は便利な生活に慣れすぎて、災害時、何も手に入らなくなった時に生きて行く力がとても乏しいと思う。火のおこし方から食料の調達法、調理法、水の入手法、生き抜く為に必要な事を、いざとなった時に知っているのと知らないのでは大きな違いだ。国や地域の援助すら届かなくなってしまった時に頼れるのは自分自身、そして自然の力だ。
- 地震は自然災害であるため、どんな対策をしても100%安全ではない。行政だけに頼るのではなく、個人や地域の意識で今後考えて対策をしていかなければと考えた。都市に比べて田舎であるほうがその点、地域との繋がりが深いようにも思える。
- まずは我が家の耐震化！家族が無事なら率先して対外的援助に向かう。各戸がその取組みを広げれば、と思うが、それだと、「ウチさえよければ」になるのかなと考えたりして、中々我が家のことにも着手できない部分もある。
- 地震が必ずくるという気持ちを1人1人が持つ事が大事な事だと思う。
- 意識向上のために、啓発活動の進め方等関心を持てる制度を今後期待している。自分たちも参加型として県政を支えたい。

### <災害時要援護者への支援対策>

- 一人暮らしの老人や老人夫婦で避難することができない方を助けてほしい。
- 当該地区の高齢化率は70~80%である。地震発生時に高齢者の誘導をどのようにするかが課題点であると思われる。
- 地震の怖さは十分知っているが、高齢になるとパソコンや携帯電話が使用できない。高齢者への対応もお願いしたい。
- 高齢者や障害者への支援ばかりではなく、乳幼児や妊婦がいる世帯への援助も考えてほしい。
- 私は家で犬を飼っている。家族はもちろん、犬と離れることなく避難できるよう災害対策をとっていただきたいと思う。耳が不自由な為、家族が留守の時、被災するのが一番恐ろしい。

### <地域の自主防災体制の強化>

- 小地域での防災は自治会のみで、対応には、人材・機械・ノウハウ等、様々な面で不十分であり、近隣の2~3の自治会が「助け合いブロック」を組織し、かつ定期的に意見交換したり、ブロック内の危険予測箇所のマップづくりや、救助・避難などのリーダーを養成するなどして、減災意識の向上に取り組む等、諸施策が必要である。
- 私達の地域では、自主防災組織の存在すら知ってない、昔ながらの組織が結成当時そのままであり組織を再整備する必要がある。防災対応は、組織や自治会がリードすることになると思う。行政からも自治会加入に英知を貸してもらいたい。
- 自主防災組織があるが、訓練をしたことがない。形式だけでは、本番に起こったときには役立たないと思う。
- 私の住んでいる日田市では、内陸部にあり津波の心配はないが、毎日平穏な日々が多く、個人的には特に防災や地震に対しての意識が低いので、現実感が伴わない。まして、近所には高齢の方や障害を持たれた方も多いため、日頃の意識向上と防災訓練が特に大切だと思う。自助、地域での活動が特に必要ではないかと思う。

### <情報伝達システムの整備（携帯アンテナの設置、携帯やパソコンを使えない人への媒体の整備）>

- 安心メールについては、大分県には高齢者が多いために当てはまらない。もっと県民全体が安全に理解できる方法をコストをかけずに考えてほしい。
- 携帯や PC を持っている人は情報が取れたりできるが、高齢者や携帯等を持っていない人達の広報活動もお願いしたい。「地震体験車」「講演会」等についても離島である私たちには馴染みがないので「離島」「僻地」の地域にも活動して欲しい。特に離島の場合は津波情報は一番重視して欲しい情報源だ。
- テレビやラジオを常時つけている訳でもないのに、災害を地域の放送やサイレン等で伝えられるのだろうかかと心配である。緊急な時は、ヘリコプターで放送するとか、とにかく、一刻も早く情報を伝えて欲しいと思う。
- 地震等の速報はNHK・民放 TV だけではなく、地域 CATV でも詳しく知らせたい。
- 県下に居住する警察OB、消防職員OB等、公安職OBを利用し、各地区の情報収集ネットワークを整備すればよい。無線塔でずいぶん収集可能になるのではないと思う。
- どんな地域へも災害情報が届くシステム（無線）等の充実が必要だと思う。大分県においては自衛隊が常駐している。国の指示なくても、市や県の要請に応じて災害時は自由に行動をとれるシステムを作っておく。

### <避難（場）所・避難路の整備>

- 実際に地震が起こった場合では避難場所までの交通手段もない。高齢者も多い。限界集落についてももう少しインフラの整備をお願いしたい。
- 山間部なので市の中央に出るのに、道路が一番だと思う。行政は山間部に住んでいる住民のことをもう少し考えてもらいたい。
- 指定避難所（公民館）が危険区域に入っている為、非常時どうすればいいのか不安がある。
- 住んでいる家・集落は岩山であり地震や大雨では土砂崩れが心配である。避難場所の指定は岩の下にあるため避難場所とは言えない場所だ。
- 近くに避難所がない。
- 避難場所は地域の人以外にも誰にでもわかるように明示する。

### <防災訓練の実施・強化>

- 地震訓練については実際の場面を想定したものでないと意味がない。
- 避難訓練を日ごろからしなくてはと思い、職場で話したが、なかなか実際に行うのは難しい。なにか簡単に参加できる会が近くにあれば行くが、やはり住んでいる場所での訓練が一番だと思う。
- 自治会で地域防災会を組織し、防災勉強会や避難訓練を行う。
- 各市町村で定期的に避難訓練を実施してほしい。

### <対応をあきらめている・考えていない・対応が分からない・考えているがなかなか手につかない>

- 地震については常に不安であるが、耐震化などは、経済面やまだ将来のことと楽観視していることもあり対応ができていない。
- 景気の低迷で毎日の生活が必死であり、防災が大切とはわかっていても後回しになる状況である。
- 災害に対して備えをすることが重要だと思っても実行していない。高齢者、障害者を抱えており、近所の方に対してもしもの時にはお願いしますとも言にくく対応をしていない。行政のほうから共助の呼びかけを実施してもらいたい。
- その時にならないとどうしたらよいかわからない。

### <地盤強度・危険箇所等の調査>

- 家の裏山の安全性を調査に来て欲しい。
- 山の植林をしてもらいたい。山の間伐をしなければ山の水があふれ出し民家への被害がでる恐れがある。道路も大切であるが、山のほうにも力を入れてほしい。
- 県内全域を総点検してほしい。
- 私は山間地に住んでいるので道路の整備、特に危険箇所の整備を早く行ってほしい。
- 私どもは、川のそばに住んでいる。地震の事も心配であるが、10年くらい前から河川工事を要望しているが、今だに何の返事もなし。
- 家の前は海である。堤防の高さも低く、また、城下海岸の堤防がずれていて大きな地震や津波がくるとすごく怖い。